平成 23 年度サロベツ自然再生事業推進業務

報　告　書

平成 24 年 3 月

環境省　北海道地方環境事務所

株式会社　環境調査技術研究所
北海道技術事務所

目　次

1. 業務概要 1
2. 業務目的 1
3. 業務内容 1
4. 打合せ 2
5. 成果品等 3
6. 工程計画 4
7. 連絡体制等 4
8. その他 4
9. 業務成果 5
9.1 自然再生事業地の活用方法の検討 5
9.1.1　自然再生事業地の活用に際しての課題と対策の整理及び利用ルールの作成 5
9.1.2　自然再生事業を解りやすく説明した小冊子の原稿作成 17
9.2「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂作業の補助・印刷等 24
9.2.1「第２次上サロベツ自然再生普及行動計画」(案)の作成 24
(1) 第１回 WG 26
(2) 農業と湿原の座談会 66
(3) 第 2 回 WG 73
(4) 第 3 回 WG 105
(5) 第 4 回 WG 117
(6) 第 5 回 WG 134
(7)「上サロベツ自然再生普及行動計画」【改訂案】 153
9.2.2　「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動報告書等の作成・印刷 166
10.　資料編 173

1. 業務概要

業務名：平成 23 年度サロベツ自然再生事業推進業務

業務期間：平成 23 年 10 月 21 日から平成 24 年 3 月 30 日

履行場所：北海道天塩郡豊富町

発注者：環境省北海道地方環境事務所

受注者：株式会社　環境調査技術研究所　北海道技術事務所

2. 業務目的

サロベツは湿原と農業が共生する地域であり、湿原環境の保全と地域の持続的な発展のためにも、サロベツ湿原の保全、再生が望まれており、平成21年7月に策定された実施計画書に基づきサロベツ川放水路南側湿原の乾燥化対策、泥炭採掘跡地の植生回復等が進められている。また、同実施計画書においては、事業の実施にあたり、事業地を新たな環境学習の場として提供・活用していくとともに、事業の効果を調べるための調査の一部について、一般市民の参加を募り、自然再生の意義や難しさを考える機会を提供することが必要とされている。

これらのことから、本業務では、これまでに自然再生事業が行われた事業地の環境学習の場として活用方法について検討するとともに、「上サロベツ自然再生普及行動計画」（平成 19 年 5 月策定）改訂のための作業等を行った。

3. 業務内容

（1） 自然再生事業地の活用方法の検討

自然再生事業の管理用施設として整備された下記に示す施設について、自然再生の現場に直接触れることができる施設として有効活用する必要性に配慮して、施設仕様・構造等の確認、現地踏査等に基づき施設を安全に利用するための課題及びその対策を整理し、利用のルールを作成した。また、自然再生の効果や意義だけではなく地域の自然についても学べるよう調査体験型及び作業体験型学習等において使用する事を前提とした下記 3 箇所における自然再生事業を解りやすく説明した小冊子の原稿を作成した。

＜対象施設＞

① サロベツ原生花園園地跡地及び同調査木道
② 落合地区調査用木道
③ 泥炭採掘跡地調査用木道（整備予定）

（2）「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂作業の補助・印刷等

①「上サロベツ自然再生普及行動計画」について、現計画の課題を整理するとともに「第2次上サロベツ自然再生普及行動計画」の案を作成した。

再生普及行動計画案の作成に際しては、前項の結果を踏まえるとともに、普及行動計画改訂ワーキンググループおよび座談会（計６回）にて関係者と現計画の課題、改訂の内容について合意形成を図り、第二次上サロベツ自然再生普及行動計画討議に係る会議の資料作成を行った。また、進行補助作業としてワーキンググループにおいて会議資料の説明等を行った。ほか、議事要旨を作成した。ワーキング運営に当たり、アドバイザーの参画による助言を得た（平成 23 年 11 月 25 日および 12 月 23 日の 2 回）。

②普及活動支援ワーキンググループにおいて取り組んでいる「サロベツ・エコモー・プロジェクト」について、平成 23 年度の活動報告書電子データおよび既往の報告書電子データの提供を受けて、さらに、活動実施者に対するヒヤリングにより情報を追加して活動報告を編集し報告書を作成・印刷した。また、平成 24 年度の活動募集に向けたパンフレットを作成・印刷した。さらに、平成 17 年度策定した「上サロベツ自然再生全体構想」について、提供された補正情報に基づき、修正を行った冊子を増刷した。

4. 打合せ

打合せは、①業務着手時に 1 回、②最終報告時 1 回のほか、③自然再生事業地の活用方法の検討2回、④普及行動計画改訂ワーキンググループ6回、計 10 回程度を現地（稚内市及び豊富町、札幌市）で行った。打合せ日程と内容を下記に示す。

表-4.1 打合せ協議日程

回数	打合せ日程	打合せ内容等	打合せ内容の区分				打合せ場所
			①	②	③	④	
1	平成 23 年 11 月 2 日	着手時打合せ 業務内容(作業計画)について	○				稚内
2	平成 23 年 11 月 11 日	自然再生事業地の活用方法及び作業スケジュール			○		豊富
3	平成 23 年 11 月 25 日	自然再生事業地の活用方法及び普及行動計画改訂について 改訂 WG の進め方、スケジュール		○	○		札幌
4	平成 23 年 11 月 25 日	第1回 WG 準備について アンケートについて		○			札幌
5	平成 23 年 12 月 8 日	第 2 回 WG 準備について 座談会準備について		○			豊富
6	平成 24 年 1 月 6 日	第 2 回 WG 及び今後の WG の進め方、印刷物の内容について		○			豊富
7	平成 24 年 1 月 13 日	第 3 回 WG 準備について エコモー活動報告書、募集パンフ等について		○			豊富
8	平成 24 年 1 月 27 日	第 4 回 WG 準備について 自然再生事業地活用方法について 印刷物等の規格等について		○	○		稚内
9	平成 24 年 2 月 17 日	第 5 回 WG 準備について 自然再生事業地活用方法について エコモー活動報告書、募集パンフ等について 業務報告書について		○	○		稚内
10	平成 24 年 2 月 23 日	普及行動計画(改訂案)について 自然再生事業地活用方法について エコモー活動報告書、募集パンフ等について 業務報告書について		○	○		札幌
11	平成 24 年 3 月 9 日	最終報告				○	札幌
延べ回数			1	8	5	1	

5. 成果品等

成果品は表-5.1 に示す通り。

表-5.1 成果品一覧表

項　　目	規　格	部数		備　考
		電子媒体	紙媒体	
自然再生事業地の活用方法の検討及び「上サロベツ自然再生普及及び行動計画」の改訂作業の補助	A4 版 カラー両面印刷 187 ページ	3	20	業務報告書 無線綴じ
ホームページ用データ	CD-ROM	2	-	
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動報告集	B5 版 カラー両面印刷 30 ページ	3	1,000	無線綴じ
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動募集パンフレット	A4 版 カラー両面印刷 4 ページ	3	1,000	活動募集チラシを折込む
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動応募用紙	A4 版 白黒片面印刷 1 ページ	（上記に含む）	1,000	
「上サロベツ自然再生全体構想」	A4 版 カラー両面印刷 29 ページ	3	500	中綴じ

6. 工程計画

業務工程は表-6.1 に示す通り。

表-6.1 業務工程表

履 行 期 間 :平成23年10月21日 から 平成24年3月30日 まで

種 別	細 別	10月 10 20	11月 10 20	12月 10 20	1月 10 20	2月 10 20	3月 10 20	摘要
計画準備	計画準備							
自然再生事業地の活用方法の検討	施設利用の課題・対策の整理							
	利用ルールの策定							
	体験型プログラムの検討・作成							
普及行動計画改訂作業補助	ワーキング補助			○ ○座談会	○ ○	○	○	ワーキング5回、座談会1回
	計画案の作成							
報告書作成	報告書作成							
打合せ協議	打合せ協議		● ● ●	●	● ● ●●	●●	●	11回

7. 連絡体制等

(1)発注者

環境省 北海道地方環境事務所 稚内自然保護官事務所 自然保護官 中島 信人
〒097-8527 稚内市末広 5-6-1 稚内地方合同庁舎
TEL:0162-33-1100 FAX:33-1101 携帯電話:080-1880-0017
Mail:nobuto_nakajima@env.go.jp

(2)請負者

株式会社 環境調査技術研究所 北海道技術事務所 所長 角本(かくもと) 正明
〒001-0020 札幌市北区北 20 条西 3 丁目 1-34 コシダテックビル 3 階
TEL:011-757-7553 FAX:011-757-7555 携帯電話:090-2235-4606
Mail:hokkaidou@eiti.co,jp

8. その他

成果品の仕様は、平成 13 年 2 月閣議決定「国等による環境物品等の調達の推進に関する基本方針」の「印刷」の判断基準を満たすものとした。 また、裏表紙には基本方針の「印刷」に係る判断基準のうち該当するリサイクル適正を明記するとともに、リサイクル適正を確認するための「資材確認票」を提出した。

9. 業務成果

9.1 自然再生事業地の活用方法の検討

自然再生事業の管理用施設として整備された「①サロベツ原生花園園地跡地及び同調査用木道」、「②落合地区調査用木道」及び「③泥炭採掘跡地調査用木道（整備予定）」について、自然再生の現場に直接触れることができる施設として有効活用する必要性に配慮して、施設仕様・構造等の確認、現地踏査等に基づき施設を安全に利用するための課題及びその対策を整理し、利用ルールを作成した。また、自然再生の効果や意義だけではなく地域の自然についても学べるよう調査体験型及び作業体験型学習等において使用する事を前提とした自然再生事業を解りやすく説明した小冊子(マップ)の原稿を作成した。

9.1.1 自然再生事業地の活用に際しての課題と対策の整理及び利用ルールの作成

1） 既往検討

自然再生事業の管理用施設として整備された木道等施設について、自然再生の現場に直接触れることができる施設として有効活用する必要性に配慮して、平成20年度には「上サロベツ自然再生施設利用方策検討調査等業務」、平成 21 年度には「上サロベツ自然再生施設整備・管理方策検討調査等業務」において検討が進められ、下記に示すように、平成23年4月28日付けで「上サロベツ自然再生施設使用規定」が定められている。また、施設使用申込書の様式も定められている。 そこで、本検討においては、自然再生の現場に直接触れることができる施設として有効活用する際の具体的な課題と対策の整理およびルールを策定した。

上サロベツ自然再生施設使用規程

1. 目的

自然再生施設とは、「損なわれた自然環境について、当該自然環境への負荷を低減するための施設及び良好な自然環境を創出するための施設が一体的に整備されたもの（自然再生の対象地を含む）」と定義されており、管理用木道も自然再生施設の一つに位置付けられる。湿原の再生を目指す上サロベツ湿原では、特に管理用木道の役割は大きく、既存、新設を含め効果的な設置とその適切な使用が求められている。このような役割を持つ管理用木道の適切な使用を図ることを目的に、使用規程を定める。

2. 使用対象者

使用できる者は、上サロベツ自然再生全体構想に基づき自然再生に関する活動を行う行政機関、研究機関、関係団体、及び上サロベツ自然再生協議会に係わる個人とする。

なお、この管理用木道を使用する場合は、次の使用目的に合致したものでなくてはならない。

1）自然再生事業に資する調査、試験、研究
2）自然再生事業の実施及び施設の維持管理
3）自然再生の普及啓発に係る環境教育
4）その他、北海道地方環境事務所長（以下、所長）が認めた活動

3. 事前申込

上記の者が管理用木道を使用しようとする場合は、所長あて「上サロベツ自然再生施設使用申込書」を事前に稚内自然保護官事務所またはサロベツ湿原センター事務室に提出し、稚内自然保護官事務所自然保護官の承認を受けた上で、施設を使用できる。

施設使用の際は、腕章などをつけて、一般の国立公園利用者との違いを明確にすること。

4. 環境への配慮事項

施設使用に当たっては、自然公園法等を遵守し、自然環境の保全に十分配慮すること。

5. 現場での安全確保

現場での安全は各自の判断で行い、自己責任を原則とすること。

6. 周辺農家等への配慮

湿原への立ち入りに関して、周辺農家の敷地をみだりに横断することや指定された場所以外での駐車は行わないこと。

平成 23 年 4 月 28 日
北海道地方環境事務所長

上サロベツ自然再生施設使用申込書

平成　　年　　月　　日

北海道地方環境事務所長　　殿

申込者　住所：
氏名：
（記名・押印又は署名）

電話：
FAX：

次のとおり、上サロベツ自然再生施設を使用したいため、申し込みます。

記

1．使用場所（レ印を付けること）
□　落合管理用木道
□　サロベツ原生花園管理用木道
□

2．使用期間：
平成　　年　　月　　日（　　）　　時　　分　から
平成　　年　　月　　日（　　）　　時　　分　まで

3．使用目的：　　使用人数：　　人

施設使用申込み確認欄

上記の使用を承認する。　　平成　　年　　月　　日

北海道地方環境事務所

稚内自然保護官事務所　自然保護官　　印

2) 木道等施設を利用する際の課題と対策の整理

自然再生事業の管理用施設として整備された木道等施設について、施設仕様・構造等の確認、現地踏査結果、木道等の管理を請け負っている NPO 法人への聞き取り結果等に基づき施設を安全に利用する際の課題及びその対策を整理した。

(1)施設仕様・構造等の確認

下記に示す各地区の木道施設等の設計図面等の貸与を受け、調査用木道の仕様及び構造等を確認した。

表-9.1 収集資料一覧

番号	報 告 書 名
1	平成 22 年度 サロベツ原生花園自然再生工事等設計 実施設計図書(落合地区木道) (平成 22 年 11 月)
2	平成 22 年度 サロベツ原生花園自然再生工事等設計業務 基盤整備工事設計書(木道・コンクリート構造物・敷地造成等)工事費算出書 数量計算書 図面
3	平成 23 年度 上サロベツ地区木道維持管理業務報告書

木道はその構造から「構造型」と「敷板型」に大別されており、下図に示すように、くい丸太の有無が大きな違いであり、「構造型」の方が沈下しにくく、接地面に対する負荷が小さい構造となっていることから水たまりや湿原に、「敷板型木道」は湿原以外の湿地等に配置されることが多い。

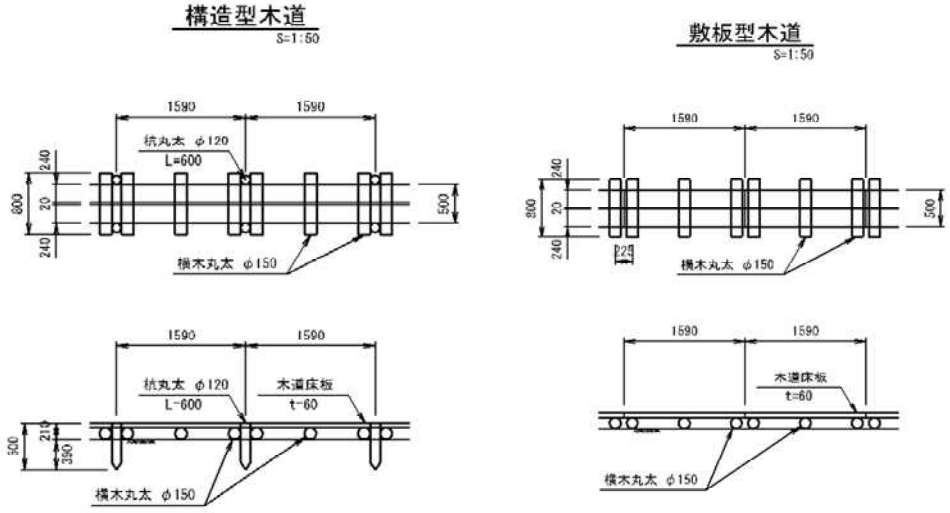


図-9.1 木道の構造図 (サロベツ原生花園園地跡地の事例)

木道の仕様を落合地区調査用木道の事例で以下に示す。部材の仕様は、多湿・腐食耐性の仕様となっている。

表-9.2 木道の部材仕様

部位名称	仕　様	備　考
木材	カラ松材	道産材、プレーナー加工
ボルト・ナット	ステンレス製	
木ねじ類	ステンレス製	
かすがい	溶融亜鉛メッキ処理	

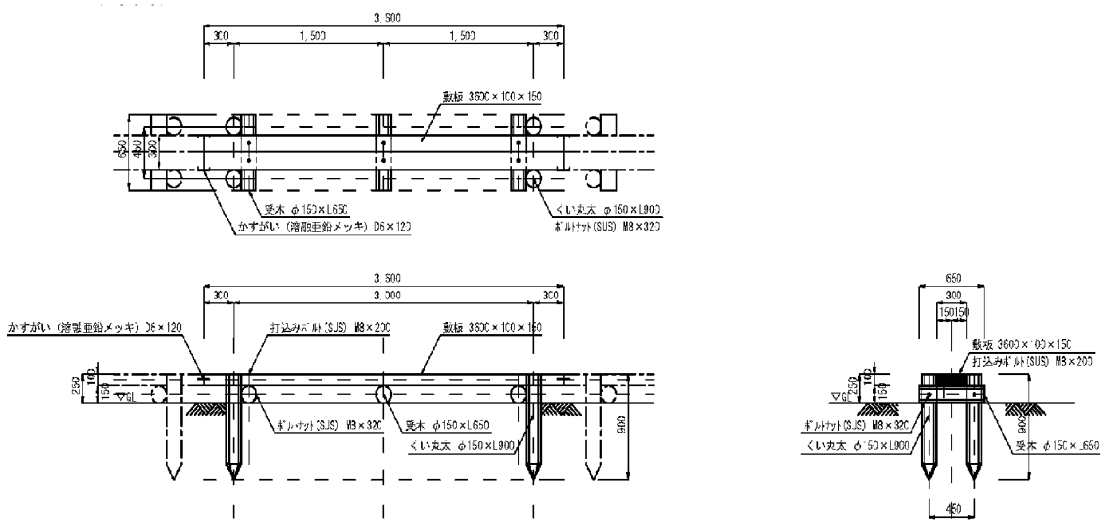
また、構造図は次頁に示すとおりである。木道の延長等の諸元値を下表に示す。

表-9.3 木道の延長等の諸元

地区名	構　造	幅員(m)	延長(m)	整備年度	備　考
サロベツ原生花園園地跡地	構造型	1.8	710	H10	H22年度の撤去工事後の数量
	構造型	0.5	146	H22	H22年度に撤去工事後に復旧
	敷板型	0.5	71	H22	
	(小計)	-	927	-	
落合地区	構造型	0.3	2,235	H18	
	構造型	0.3	832	H22	
	敷板型	0.3	83	H22	
	構造型	0.3	944	H23 施工予定	
	敷板型	0.3	25	H23 施工予定	
	(小計)	-	4,119	-	
泥炭採掘跡地	(計画中)	-	732	-	

注) 木道延長の端数は四捨五入して集計した。

構造型木道



敷板型木道

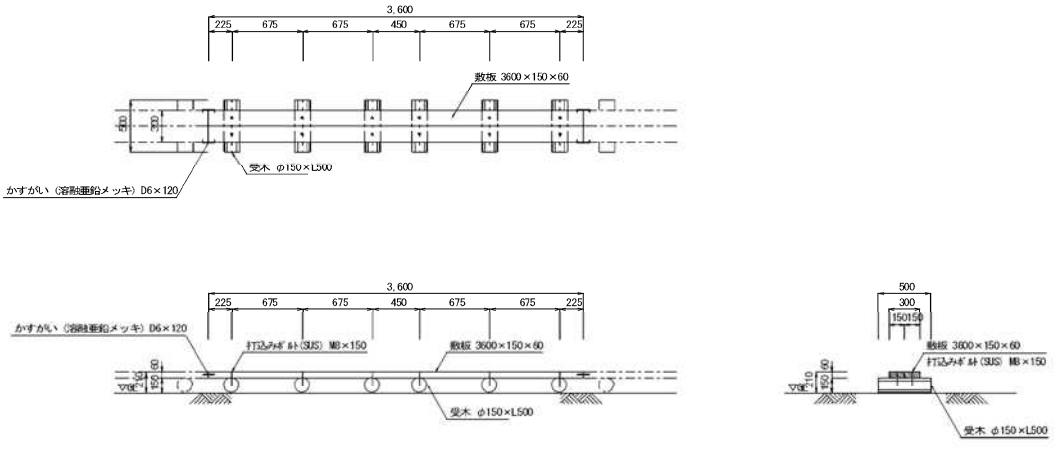


図-9.2 木道の構造(落合地区の事例)

(2) 現地踏査

現地踏査は下記の日程で、サロベツ原生花園園地跡地及び同調査木道、落合地区調査用木道及び泥炭採掘跡地調査用木道(整備予定)を対象に2回実施した。

表-9.4 現地踏査実施状況

回数	現地踏査実施日	踏査場所	参加者
1	平成 23 年 11 月 3 日	・サロベツ原生花園園地跡 ・落合地区調査用木道	高嶋、角本、内匠
2	平成 23 年 11 月 11 日	・サロベツ原生花園園地跡及び同調査木道 ・落合地区調査用木道 ・泥炭採掘跡地調査用木道(整備予定)	中島自然保護官 中野アクティブレンジャー 角本、内匠 櫻井、佐藤





サロベツ原生花園園地跡及び同調査木道





落合地区調査用木道




泥炭採掘跡地調査用木道（整備予定）

(3) NPO 法人への聞き取り

調査用木道等の維持管理を環境省より請け負っている NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワークを対象に、自然再生事業地の調査用木道等施設の有効活用に配慮した場合の安全利用の課題等についてヒヤリングを行った。ヒヤリング日程は下記に示す通りである。

表-9.5 ヒヤリング日程

回　数	日　　程	ヒヤリング内容等
1	平成 24 年 1 月 14 日	・ヒヤリング目的と内容の説明 ・主に落合地区に関するヒヤリング ・その他
2	平成 24 年 1 月 26 日	・3地区についてのヒヤリング

NPO に対するヒヤリングの結果で明らかとなった課題としては下記事項がある。

表-9.6 木道活用時の課題(NPO ヒヤリング結果)

地区名	課題	説明等
落合	ウルシ、ツタウルシによる「かぶれ」の予防。	入口から木道に至る林内にウルシ、ツタウルシが多く分布しており、「かぶれ」に注意する必要がある。
原生花園跡地	仮設橋の重量と強度	車掲が可能で軽量かつ強度が望まれる。
	既存木道の腐朽箇所への配慮	腐朽箇所については、補修を行うようにしているが、木道の傷みが激しい箇所もある。
落合 原生花園跡地 泥炭掘削跡地	クマ・ハチ等による怪我等の予防	木道活用時にクマ・ハチに襲われないように、情報を把握しておく必要がある。

(4) 木道施設を安全に利用するための課題及びその対策の整理

自然再生の現場に直接触れることができる施設として有効活用する必要性に配慮して、施設仕様・構造等の確認、現地踏査等に基づき施設を安全に利用するための課題及びその対策を整理した。整理に際しては、木道区間以外等の付帯事項についても取り扱った。結果を下表に示す。

表-9.7(1) 木道施設を安全に利用するための課題と対策(落合地区)

番号	課　題	説 明 等	対　策	備 考
1	林内部分の悪路	入口から木道の間の林内において、部分的に木材を置いて移動通路を確保しているが、未設置区間で、深くぬかるむ箇所が存在する。年配者や若年者の場合には、歩行が困難	説明員の他に、安全通行を確保する為の誘導員も随行する 誘導者による注意喚起等	プログム参加者に事前に足回りや服装についての注意事項を配布する
2	林内のウルシ	林内に、ウルシ、ツタウルシが多く分布する	説明員による事前注意喚起 現地または湿原センターで危険回避の説明を行う	湿原センターで説明会を事前に開催することが望ましい
3	法面の存在	林内出口付近にある法面は急傾斜の悪路となっている。上り下りを考えると、年配者や若年者の場合には、歩行が困難となっている	説明員の他に、安全通行を確保する為の誘導員も随行する 誘導員の補助等により危険を回避する	
4	落合沼迄の距離	自然再生事業のシンボリックな箇所である落合沼迄の距離が3km程度と遠いこと	説明員が、休憩を兼ねた途中説明を行う 誘因材料(花の開花期等)に配慮した時期にプログラムを実施	落合地区の花の分布と開花時期をチェック 天候が良いと、湿原越しの利尻山も観賞できる
5	自然再生事業地の明確化	丸山道路からの入口がわかりにくい	自然再生事業の認知度向上を期待して看板の設置を検討する 無許可侵入者を防止するために入口部分に侵入防止柵の設置を検討する	事故防止を目的とした侵入防止柵
6	木道幅が狭い	木道幅は30cmと狭く、雨後などには木道からの落下が懸念される	説明員が随行する 説明員の他に、安全通行を確保する為の誘導員も随行する また、説明員(誘導員)は事前の天候に配慮する	
7	ヒグマ・ハチによる怪我等	クマ・ハチに襲われないように、事前に情報を把握しておく必要がある	説明員による事前注意喚起 説明員は事前にヒグマ等の情報を収集する	湿原センターで説明会を事前に開催することが望ましい

表-9.7(2) 木道施設を安全に利用するための課題と対策(原生花園跡地地区)

番号	課　題	説 明 等	対　策	備　考
1	説明スペース等の確保	駐車スペース及び説明を実施するスペースが狭い	移動用車両はプログラム参加者を降ろした後に安全な場所に移動し、入り口部分か木道上で説明を行う	可能であれば、湿原センターで説明会を事前に開催
2	側溝部分の安全な通行	入り口部分の側溝は深く、幅も大きいので、参加者の安全な通行を確保する必要がある	側溝部分に車掲可能な仮橋脚を準備	仮橋の設置により通行可能となることから、参加者が特別の経験であることを認識することが期待できる 仮橋は作業性から軽量が好ましい
3	自然再生事業の理解度向上	プログラムに参加すると魅力的な風景を体感できるなどの付加価値をプログラムに与え、自然再生事業へ興味を持ってもらう ササ前線の拡大を解りやすく表示して、自然再生事業の必要性を現場で体感する	エゾカンゾウ等の開花期にプログラムを設定する 木道上にササ前線の経年的移動の軌跡が解るようにマーク表示を行う	旧ビジターセンターにおいては、木道上からのエゾカンゾウおよび利尻山鑑賞のリピーターが多く存在
4	仮設橋から木道までの移動	木道上を説明場所とする場合、仮設橋から木道迄の間には深ぼれ部分が存在することから、移動の安全確保が必要	仮設橋から木道迄の安全確保のために、説明員(誘導員)の引率が必要 通路は木材の仮置きなどの工夫を行う	旧ビジターセンター駐車場跡の自然再生事業成果の詳細を木道上から認識するのは困難
5	仮設橋から自然再生事業地までの移動	仮設橋から自然再生事業地周辺への移動の安全確保が必要	安全確保のために説明員(誘導員)の引率が必要 通路は木材の仮置きなどの工夫を行う	
6	既設木道の腐朽	腐朽箇所については、補修が行われているが、木道の傷みが激しい箇所もある	安全確保のために説明員(誘導員)の引率が必要	説明員(誘導員)は木道の痛みのある部分を事前に把握し、回避する
7	ヒグマ・ハチによる怪我等	クマ・ハチに襲われないように、事前に情報を把握しておく必要がある	説明員による事前注意喚起 説明員は事前にヒグマ等の情報を収集する	湿原センターで説明会を事前に開催することが望ましい

表-9.7(2) 木道施設を安全に利用するための課題と対策(泥炭掘削跡地地区)

番号	課　題	説 明 等	対　策	備 考
1	事業地までの距離	自然再生事業地と湿原センター迄の距離が比較的ある	説明員が、休憩を兼ねた途中説明を行う 花の開花期、野鳥の観察時期等に配慮した時期にプログラムを実施する	花の分布と開花時期、野鳥の観察時期を確認 天候が良いと、利尻山も観賞できる
2	自然再生事業の理解度向上	プログラムに参加したメンバーの事業への理解度を高める資料の配布	説明資料の作成	可能であれば、湿原センターで説明会を事前に開催する
3	木道幅が狭い	調査用木道で有る為に、木道幅が狭く、雨後などには木道からの落下が懸念される	説明員が随行する 説明員の他に、安全通行を確保する為の誘導員も随行する また、説明員(誘導員)は事前の天候に配慮する	開催期間を限定する
4	泥炭の感触体験	自然再生事業地は泥炭が堆積した部分であり、その上に乗った感触を経験し、自然再生事業への興味を誘導する	説明内容に泥炭形成及び採掘の歴史と泥炭の利用等について説明し、自然再生事業への興味を誘導する説明を実施	
5	ヒグマ・ハチによる怪我等	クマ・ハチに襲われないように、事前に情報を把握しておく必要がある	説明員による事前注意喚起 説明員は事前にヒグマ等の情報を収集する	湿原センターで説明会を事前に開催することが望ましい

2) 木道等施設を安全に利用するための利用ルールの検討

(1) 調査用木道の位置づけ

調査用木道は、自然再生事業の管理用施設として整備されていることから、基本的に一般の利用は想定されていない。しかし、自然再生の現場に直接触れることのできる施設として、自然再生普及活動や環境教育への有効活用が期待される。そのため木道を安全に利用するためには、利用にあたっての基本的な考え方を整理する必要がある。

表-9.8 木道の利用区分(案)

利用目的	利用者	利用時期・頻度	優先順位	備 考
自然再生事業	行政機関	通年、適宜	◎	
自然再生のための調査研究	大学、研究機関の研究者など	通年、適宜	◎	
自然再生普及活動 (普及活動) (環境教育)	エコモー・プロジェクト NPO 等関係団体 小中学校、高等学校	通年、適宜	○	

(2) 調査木道の利用における基本的考え方

調査用木道は、自然再生事業の施設として管理されており、その管理はあくまで限定的な利用を前提にしている。したがって、利用に当っては自己責任が原則となる。一方で、自然再生の現場に直接触れることができる施設として有効活用する必要性に配慮して、施設を安全に利用する際の具体的な課題に配慮する必要がある。そこで、下記に調査用木道の利用における基本的な考え方を示す。

調査用木道の利用における基本的考え方

- 調査用木道の利用に当っては、「上サロベツ自然再生施設使用規定」の遵守を前提とする。
- 木道は一般使用を前提としていないので、体験型等のプログラム参加者の安全確保に考慮して、説明員(誘導員)による引率形式が望ましい。
- 体験型等のプログラムの募集に際しては、パンプレット等の宣伝媒体に推奨する服装(図-9.3参照)や準備品物等を記載するなど、主催者が安全対策に配慮する。さらに、必要に応じて主催者が安全器具等を準備する。
- 体験型等のプログラム開始に際して、説明員(誘導員)による安全教育を行い、クマや蜂等からの怪我を防止するように努める。
- 体験型等のプログラム参加者に、湿原の自然やその大切さ、自然再生事業への理解を深めてもらうには、訓練された説明員による解説が重要で、パンフレット等を用いた方法が効果的である。
- さらに、将来的には、説明員(誘導員)の人材教育等の場面で、サロベツ湿原センターの役割が重要になると考えられる。



図-9.3 自然観察の服装例
(自然体験マップ・環境省より抜粋)

9.1.2　自然再生事業を解りやすく説明した小冊子の原稿作成

自然再生事業の効果や意義だけではなく地域の自然についても学べるよう調査体験型及び作業体験型学習等において使用する事を前提とした自然再生事業を解りやすく説明した小冊子の原稿を、「①サロベツ原生花園園地跡地及び同調査用木道」、「②落合地区調査用木道」及び「③泥炭採掘跡地調査用木道（整備予定）」について作成した。なお、小冊子における地区名称は「上サロベツ自然再生事業実施計画書」に合わせて下記に示すように記載した。また、小冊子は調査体験型及び作業体験型学習等に参加する一般の方々を対象と想定し、携帯性、掲載情報量を考慮して A3 版両面印刷を前提とし、折りたたんだ場合に A3 の 1/8 サイズになるように工夫した。

表-9.9　地区名称の整合表

仕様書における名称	小冊子における名称	備考
サロベツ原生花園園地跡地及び同調査用木道	サロベツ原生花園園地跡地周辺	
落合地区調査用木道	サロベツ川放水路南側湿原周辺	
泥炭採掘跡地調査用木道	泥炭採掘跡地	木道は、整備を予定

1 サロベツ川放水路南側湿原周辺 ポイント地点

現存する高層湿原の保全を図るため、サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策を行っています。



＊ご利用に際してのご注意＊

この木道は、調査用の木道です。この木道の通行には、環境省稚内自然保護官事務所への事前の申込み が必要です。

この地域での動植物の捕獲・採取は禁止されています。

地理院タイル：GSI Cookbook Copyright 2010 Geodyne

◆発行・お問い合わせ先◆
稚内自然保護官事務所
〒097-8627 北海道稚内市末広5-6-1 稚内地方合同庁舎
TEL 0162-33-1100 FAX 0162-33-1101



1 サロベツ川放水路南側湿原周辺

上サロベツ自然再生事業マップ

自然再生事業とは

過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、関係機関、地域住民、NPO、専門家などの地域の多様な主体が参加して、自然環境の保全、再生、創出等を行うことを目的としています。

【具体的な事業】
・直線化された河川の蛇行化による湿原の回復
・海岸地帯における干潟の再生や森づくりなど



上サロベツにおける自然再生の取組み

かつては約15,000haにも及んだサロベツ湿原は、昭和40年代後半の大規模開発により減少し、今ではかつての半分以下の約7,000haとなっています。また、残された湿原も乾燥化などの課題を抱えています。
こうした問題に取り組み、湿原と人が共生する地域づくりを進めるため、サロベツでは関係機関、地域住民、NPO、専門家など多様な主体が参加、連携する自然再生事業が進められています。



環境省の取組み

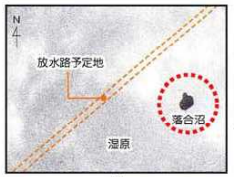
環境省では、「上サロベツ自然再生全体構想」において自然再生の目標を達成するための取組みに掲げられている、上サロベツ湿原の乾燥化対策、泥炭採掘跡地等の再生、地域の自然・資源の活用及び情報発信を行っています。具体的には、「上サロベツ自然再生事業実施計画書」に基づき、以下の事業に取組んでいます。

- **サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策**
- **ササの侵入抑制対策**
- **サロベツ原生花園園地跡地の修復**
- **泥炭採掘跡地等の再生**
- **環境学習の推進**

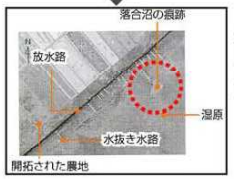


サロベツ川放水路南側湿原周辺の歴史

サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策



1947年当時のサロベツ川放水路周辺の航空写真。右側に落合沼の水面が見える。

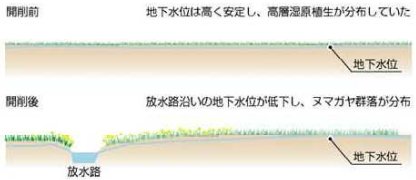


2000年のサロベツ川放水路周辺の航空写真。落合沼は干上がっている。

第二次大戦後の開拓が始まって以来、サロベツ川の氾濫は開発の大きな妨げとなっていました。このため、緊急度の高いサロベツ川上流部の氾濫防止のため、1961年度からサロベツ川放水路掘削工事が行われました。

サロベツ川放水路南側湿原周辺では次のことが問題になっています

サロベツ川放水路周辺は、放水路の開削によって地下水が流出するようになり、湿原の地下水位の低下が生じました。かつてはミズゴケやツルコケモモ等が主に生育する高層湿原植生でしたが、乾燥化によってササやヌマガヤが生育しやすい植生に変化しました。



放水路の開削による放水路付近の地下水位の低下

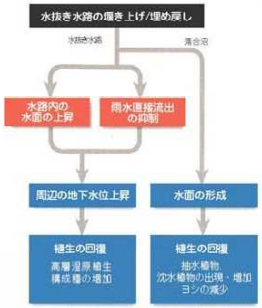
サロベツ川放水路南側湿原周辺では次のことを目指しています

サロベツ川放水路の開削時に設置された水抜き水路からの地下水の流出を防ぎ、背後の高層湿原植生の劣化を防ぐことを目的として、水抜き水路への止水堰の設置または泥炭による埋め戻しを行っています。

↓このことにより

低下していた地下水位を上昇させ、湿原植生の回復を図ります。

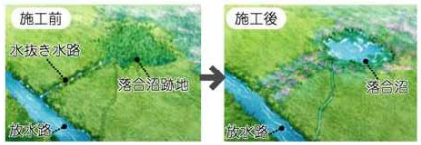
■回復のメカニズム



次のことに取組んでいます-1

■水抜き水路の堰き止め

落合沼では、水抜き水路への堰の設置または埋め戻しを行い、落合沼跡の窪地及び水路に湛水面を形成させ、周囲の地下水位の低下を抑制しています。また、落合沼以外の水抜き水路も埋戻しによる堰き止めを行います。放水路への地下水の流出を防ぐことによって、背後の高層湿原植生を維持します。また、乾燥化により変質している周辺の植生を本来の高層湿原植生に近づけます。

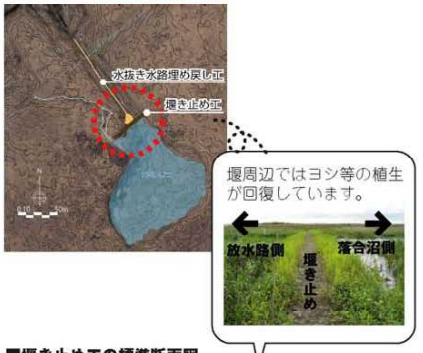


水抜き水路堰き止めイメージ

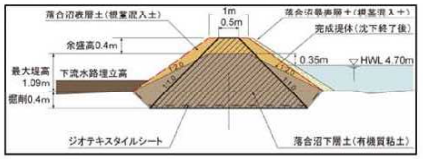


次のことに取組んでいます-2

■落合沼の堰止め



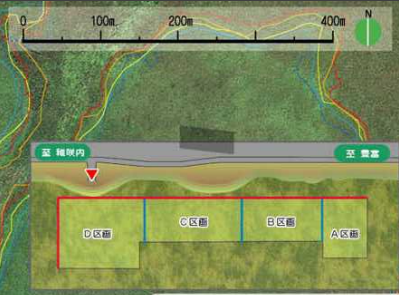
■堰き止め工の標準断面図



施設撤去後に残る敷地の現状回復を目的とし、サロベツ原生花園園地跡地の修復を行っています。

2 サロベツ原生花園園地跡地 ポイント地点





A区画からD区画では、泥炭を敷きならす厚さを変えて、植生の回復状況をモニタリングしています



この一帯は、イソツツジやエゾリンドウ、サワラン、ガンコウランやツルコケモモ、タチギボウシなど様々な高層湿原の植生が残されています

豊富方面

丸山道路

サロベツ
原生花園園地跡地



6月～7月にはエゾカンゾウと利尻山の美しい景色を眺めることができます

稚咲内方面

風により倒れかかったシラカンバ
サロベツ湿原の風の強さを見ることができます

木道



サロベツ湿原の広大な広がりを眺められます
春～夏にかけては、蜃気楼が見えるときも

稚咲内方面は水分量が少なく乾燥化が進んでいるため、ササの生育が良く、草丈が高くなっています



タテヤマリンドウを見ることができます





近年は、エゾシカによるエゾカンゾウの食害が問題になっています

高層湿原
ササ前線
ササ地

凡例
2010年ササ前線
2000年
1988年
1977年
1964年

花カレンダー

	5月 上中下	6月 上中下	7月 上中下	8月 上中下	9月 上中下
カンコウラン					
タテヤマリンドウ					
エゾカンゾウ					
ツルコケモモ					
タチギボウシ					

撮影：2010年8月

サロベツ原生花園園地跡地はササの前線部に位置しています。
ササの生育地の拡大は、広域的な湿原の乾燥化の影響や自然の遷移が関係していると考えられています。

◆発行・お問い合わせ先◆
稚内自然保護官事務所
〒097-8627 北海道稚内市末広5-6-1 稚内地方合同庁舎
TEL 0162-33-1100 FAX 0162-33-1101

衛星写真：ISI GeoEye Copyright 2010 GeoEye

＊ご利用に際してのご注意＊

この木道は、調査用の木道です。この木道の通行には、環境省稚内自然保護官事務所への事前の申込みが必要です。

この地域での動植物の捕獲・採取は禁止されています。



2
サロベツ
原生花園園地
跡地

上サロベツ自然再生事業マップ

自然再生事業とは

過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、関係機関、地域住民、ＮＰＯ、専門家などの地域の多様な主体が参加して、自然環境の保全、再生、創出等を行うことを目的としています。

【具体的な事業】
・直線化された河川の蛇行化による湿原の回復
・海岸地帯における干潟の再生や森づくりなど



上サロベツにおける自然再生の取組み

かつては約15,000haにも及んだサロベツ湿原は、昭和40年代後半の大規模開発により減少し、今ではかつての半分以下の約7,000haとなっています。また、残された湿原も乾燥化などの課題を抱えています。
こうした問題に取り組み、湿原と人が共生する地域づくりを進めるため、サロベツでは関係機関、地域住民、ＮＰＯ、専門家など多様な主体が参加、連携する自然再生事業が進められています。



環境省の取組み

環境省では、「上サロベツ自然再生全体構想」において自然再生の目標を達成するための取組みに掲げられている、上サロベツ湿原の乾燥化対策、泥炭採掘跡地等の再生、地域の自然・資源の活用及び情報発信を行っています。具体的には、「上サロベツ自然再生事業実施計画書」に基づき、以下の事業に取組んでいます。

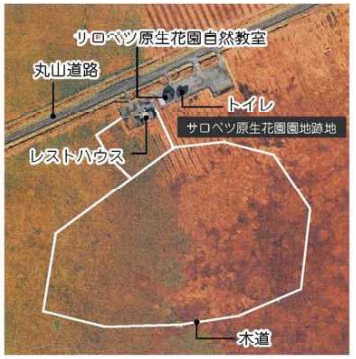
- **サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策**
- **ササの侵入抑制対策**
- **サロベツ原生花園園地跡地の修復**
- **泥炭採掘跡地等の再生**
- **環境学習の推進**



サロベツ原生花園園地の歴史

サロベツ原生花園園地跡地の修復

この場所にかつてあった「サロベツ原生花園園地」は昭和50年から木道やレストハウス、サロベツ原生花園自然教室が整備され、多くの人に親しまれてきました。しかし、湿原の上に盛土して整備されたため、施設の重さなどで地下水位が低下し、湿原の乾燥化を招くなど周辺の自然環境への影響が懸念されていました。このため、平成23年4月に「サロベツ原生花園自然教室」の機能を「サロベツ湿原センター」に移転し、施設を撤去しました。

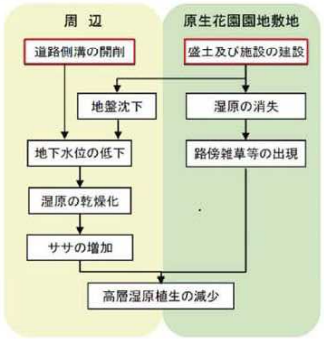


サロベツ原生花園園地跡地では次のことが問題になっています

- **盛土及び施設の建設により湿原が消失**
- **盛土による地盤沈下と道路側溝への排水により、湿原の乾燥化と植生の変化が発生**

これらが組み合わさることによって、本来の高層湿原植生の面積が減少しています。

■湿原植生減少のメカニズム



サロベツ原生花園園地跡地では次のことを目指しています

サロベツ原生花園園地跡地では、周辺の湿原と調和する植生を回復させることが課題となります。回復させる植生は、本来ある湿性植物で構成される植物群落とすることを目標としています。



*湿性植生イメージ

次のことに取組んでいます-1

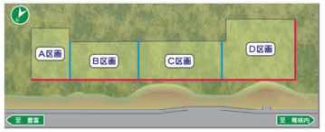
施設の撤去跡地では、表土をはぎ取って泥炭を敷きならし、湿原の植生に戻していきます。



次のことに取組んでいます-2

■モニタリングの実施

Ａ区画からＤ区画では、泥炭の敷きならす厚さを変えて、植生の回復状況をモニタリングしています。



・A、C、D区画（表土掘削）



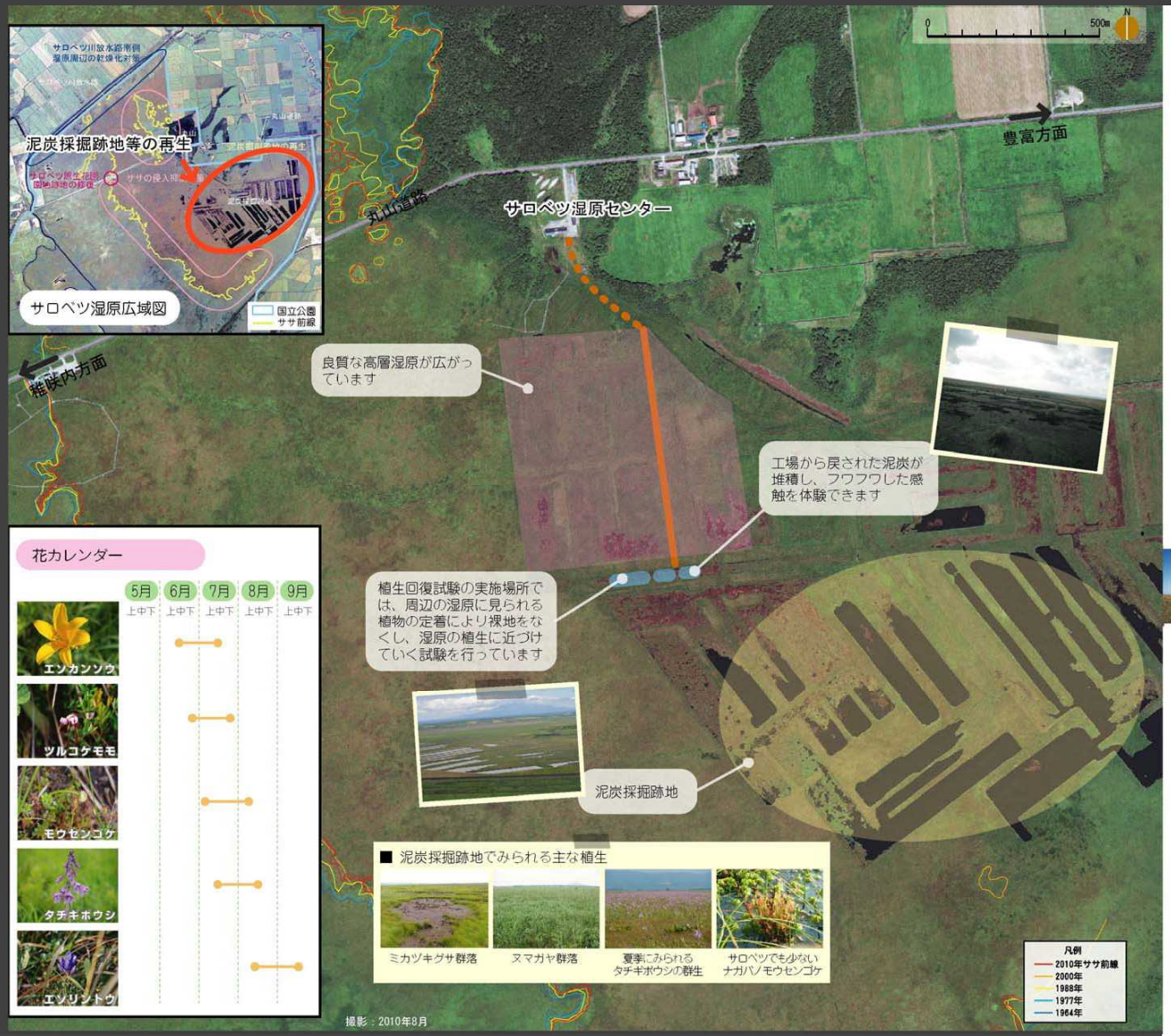
※写真は、C区画

・B区画（表土掘削、泥炭埋戻し）



現存する高層湿原の保全を図るため、泥炭採掘跡地等の再生を行っています。

3 泥炭採掘跡地等 ポイント地点





3 泥炭採掘跡地

上サロベツ自然再生事業マップ

ご利用に際してのご注意

この木道は、調査用の木道です。この木道の通行には、環境省稚内自然保護官事務所への事前の申込みが必要です。

この地域での動植物の捕獲・採取は禁止されています。

◆雨天・お問い合わせ先◆
稚内自然保護事務所
〒097-8627 北海道稚内市末広5-6-1 稚内地方合同庁舎
TEL 0162-33-1100 FAX 0162-33-1101

地理空間：JSI Geo3jv Copyright 2010 Geo3jv

自然再生事業とは

過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、関係機関、地域住民、NPO、専門家などの地域の多様な主体が参加して、自然環境の保全、再生、創出等を行うことを目的としています。

【具体的な事業】
・直線化された河川の蛇行化による湿原の回復
・海岸地帯における干潟の再生や森づくりなど



上サロベツにおける自然再生の取組み

かつては約15,000haにも及んだサロベツ湿原は、昭和40年代後半の大規模開発により減少し、今ではかつての半分以下の約7,000haとなっています。また、残された湿原も乾燥化などの課題を抱えています。
こうした問題に取り組み、湿原と人が共生する地域づくりを進めるため、サロベツでは関係機関、地域住民、NPO、専門家など多様な主体が参加、連携する自然再生事業が進められています。



環境省の取組み

環境省では、「上サロベツ自然再生全体構想」において自然再生の目標を達成するための取組みに掲げられている、上サロベツ湿原の乾燥化対策、泥炭採掘跡地等の再生、地域の自然・資源の活用及び情報発信を行っています。具体的には、「上サロベツ自然再生事業実施計画書」に基づき、以下の事業に取組んでいます。

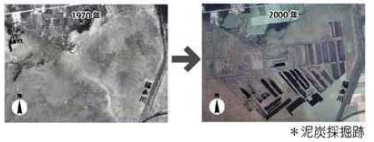
- **サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策**
- **ササの侵入抑制対策**
- **サロベツ原生花園園地跡地の修復**
- **泥炭採掘跡地等の再生**
- **環境学習の推進**



泥炭採掘跡地の歴史

泥炭採掘跡地等の再生

泥炭には、土壌改良剤、脱臭剤、燃料など様々な工業的利用価値があります。サロベツでは、これらの価値が注目され、昭和45年（1970年）から平成14年（2002年）まで円山南部で泥炭採掘が行われました。泥炭採掘は約30年間で高層湿原域を中心に150haあまりの範囲に及びました。これは、採掘開始時の高層湿原面積の約16%に相当します。空中写真で見ると、現在でも丸山南部には泥炭採掘跡が開放水面等として残っていることがわかります。



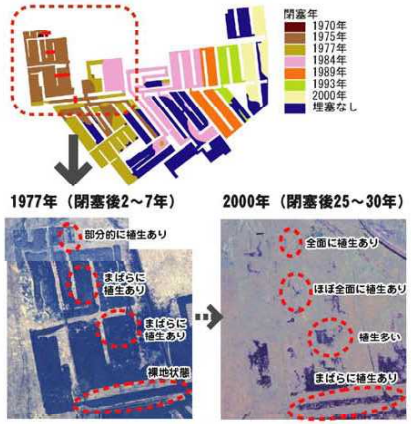
＊泥炭採掘跡


＊採掘作業の様子

泥炭採掘跡地では次のことが問題になっています

泥炭採掘跡地では、依然として植生が定着しない場所（裸地）が見られます。

■植生の変遷



泥炭採掘跡地では次のことを目指しています

植物の定着が見られない裸地において、降雨による浸食や乾燥などを緩和することにより、植物の定着を促します。

■裸地部表層の環境条件

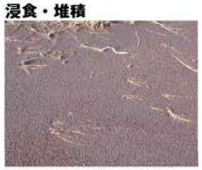
表層の剥離



乾燥による表層の剥離
↓
植物の発芽は困難であり、発芽しても生育し続けるのは難しい

表層の剥離によって植物が枯れてしまいます

浸食・堆積



降雨後の表層の撹乱
↓
裸地の表層は流水によって強い撹乱を受け、植物が倒れ、定着が難しい

植物が倒れ定着できません

次のことに取組んでいます-1

■乾燥化の防止や表土の保全

マルチングによる表土の保護や溝の造成を行い、乾燥化の防止や表土の保全を行っています。

①ネットの設置-マルチングによる表土の保護



生育している植物の生育を妨げずに新たに種子が定着するよう促しています。

【目合い3パターン】


15cm　3~5cm　2cm

次のことに取組んでいます-2

②溝の造成-乾燥化の防止

溝を作ることによって水が溜まる箇所をつくり、乾燥を抑えます。



多様な水分条件を創出することによって、植物の定着を促します。

【深さ2パターン】


20cm　10cm

9.2「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂作業の補助・印刷等

自然再生普及行動計画の改訂作業に際しては、再生普及行動計画改訂ワーキンググループの討議に係る資料作成および進行補助作業(会議資料説明、議事要旨作成)を行った。また、「サロベツ・エコモー・プロジェクト」の平成 23 年度活動報告書の作成・印刷、平成 24 年度の活動募集に向けたパンフレットを作成・印刷、さらに、「上サロベツ自然再生全体構想」について構成を修正した冊子を増刷した。

9.2.1「第２次上サロベツ自然再生普及行動計画」（案）の作成

「上サロベツ自然再生普及行動計画」について、現計画の課題を整理するとともに「第2次上サロベツ自然再生普及行動計画」の案を作成した。

自然再生普及行動計画案の作成に際しては、普及行動計画改訂ワーキンググループ（全6回、表-9.4 参照）にて関係者と現計画の課題、改訂の内容について合意形成を図り、第 2 次上サロベツ自然再生普及行動計画討議に係る会議の資料作成を行った。また、進行補助作業としてワーキンググループにおける会議資料の説明、議事要旨を作成等した。なお、ワーキンググループ運営に当たり、アドバイザーとして辻井再生普及部会座長の参画による助言を得た。

ワーキンググループによる検討の進め方は、図-9.4 に示すとおりである。

表-9.10 普及行動計画改訂ワーキンググループの開催日程と内容

回数	実施日	プログラム内容	開催場所	備考
1	平成23年12月8日	・普及行動計画の内容の確認 ・これまでの活動の振り返り ・今後の改訂作業の進め方	豊富町民センター 2階研修室	・WG参加者は公募した15個人・団体 ・WGは豊富町で開催 ・12月19日～28日にかけて課題抽出を目的としたアンケートを実施
2	平成23年12月23日	・農業と湿原の座談会	サロベツ湿原センター	
3	平成24年1月13日	・アンケート及び座談会の結果の確認 ・普及行動計画の課題と解決策についての意見交換	豊富町民センター 1階小会議室	
4	平成24年1月26日	・改訂の方向性の確認 ・課題に対する対策や改訂点の検討	豊富町民センター 1階小会議室	
5	平成24年2月16日	・普及行動計画(改訂素案)について意見交換	豊富町民センター 1階小会議室	
6	平成24年3月6日	・これまでの振り返り ・普及行動計画(改訂案)について意見交換 ・普及行動計画(改訂案)の確認	豊富町民センター 1階小会議室	

注）「農業と湿原の座談会」は再生普及部会座長である辻井先生参画の座談会

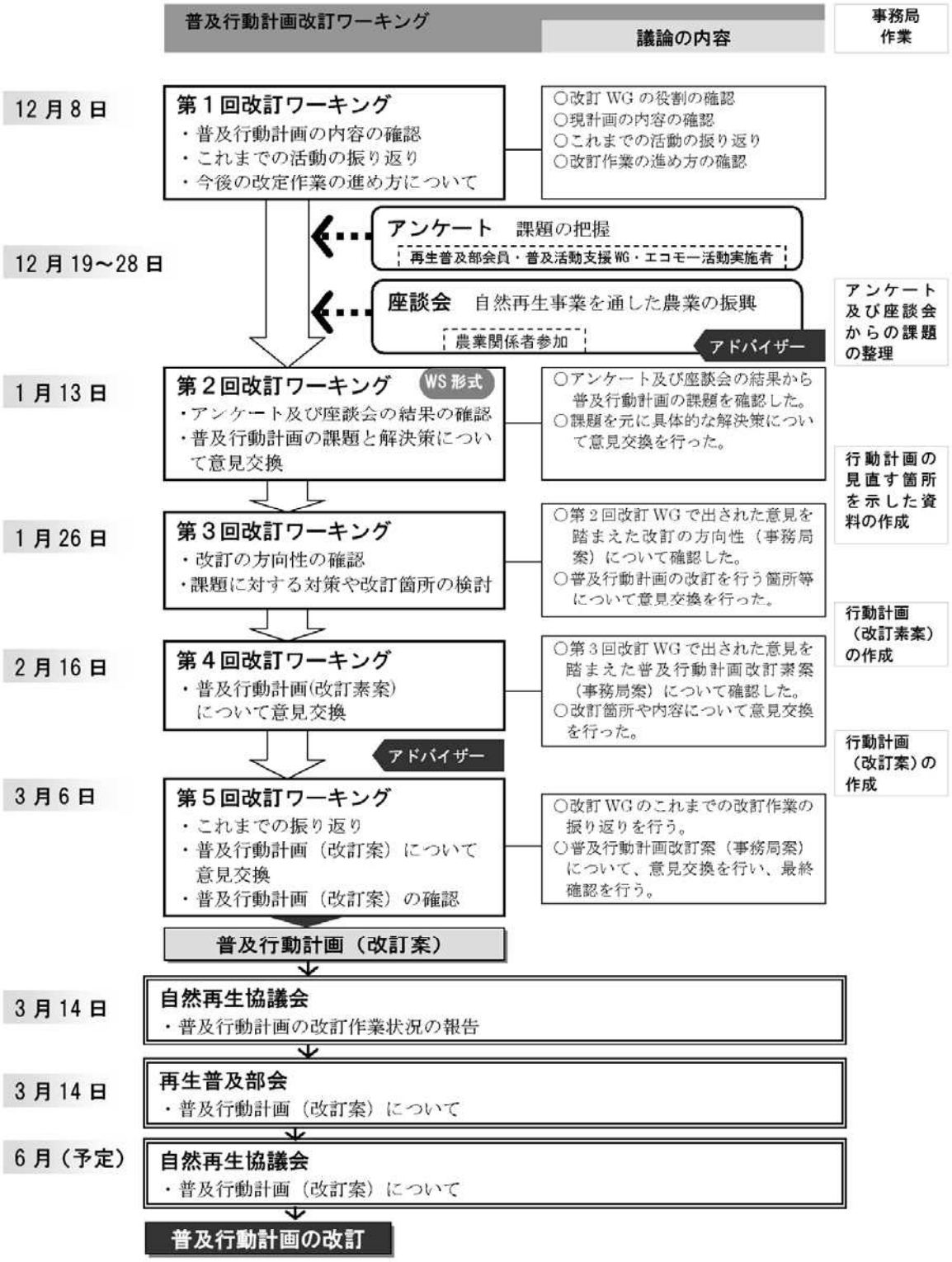


図-9.4　ワーキンググループによる検討の進め方

(1) 第１回 WG

第1回 WG は、「これまでの普及活動の振り返りと、普及行動計画の改訂について」をテーマに、平成 23 年 12 月 8 日に豊富町民センターにて開催された。出席者名簿、配布資料、議事概要を以下に示す。

表-9.11 第1回 WG 出席者

No.	氏名又は団体名（敬称略）	担当者名（敬称略）
1	田中　美佐保	
2	西島　今朝悟	
3	村元　正己	
4	谷垣　　重遠	
5	北海道森林管理局　宗谷森林管理署 豊富森林事務所	森林官　田中　香緒莉
6	宗谷総合振興局　保健環境部	環境生活課　自然環境係長　後藤　茂徳
7	北海道開発局　稚内開発建設部	農業開発課　上席農業環境調査専門官　野地　正昭
8	豊富町	商工観光課　主幹兼林業水産係長　吉村　穣滋
		農政課　農村整備係　佐々木　仁
9	NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	事務局長　嶋崎　暁啓
10	北海道地方環境事務所 稚内自然保護官事務所	自然保護官　中島 信人
11		自然保護官　永野　雄大
12		自然保護官補佐 中野 雄介
13		自然保護官補佐 山上 佳祐





第１回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
プログラム

日　時：平成 23 年 12 月 8 日（木）9：30～11：30　（※2 時間）
場　所：豊富町民センター　2 階研修室

テーマ
これまでの普及活動の振り返りと、普及行動計画の改訂について

時間	内容	配布資料
9：30～9：40 （10 分）	1. はじめに ・挨拶、自己紹介 ・改訂ワーキンググループの役割について	 資料 1 資料 2
9：40～10：00 （20 分）	2. 普及行動計画の内容の確認 ・自然再生全体構想について ・普及行動計画について	 資料 3 資料 4
10：00～10：30 （30 分）	3. これまでの活動の振り返り ・普及行動計画の策定経緯 ・サロベツ・エコモープロジェクトについて ・普及活動支援ワーキンググループについて ・自然再生普及部会について	 資料 5 資料 6 資料 7 資料 8
10：30～11：00 （30 分）	4.　今後の改訂作業の進め方について ・アンケートの実施について ・座談会の開催について ・改訂ワーキンググループの開催スケジュールについて	 資料 9 資料 10 資料 11
11：00～11：20 （20 分）	5. 意見交換	
11：20～11：30 （10 分）	6. 本日のまとめ	

資料 1: 普及行動計画改訂ワーキンググループ構成員
資料 2: 改訂ワーキンググループの役割について
資料 3: サロベツ自然再生全体構想について(普及活動に関する抜粋)
資料 4:「上サロベツ自然再生　普及行動計画」(パンフレット)
資料 5: 普及行動計画の策定経緯
資料 6: サロベツ・エコモー・プロジェクトについて
資料 7: 普及活動支援ワーキンググループについて
資料 8: 自然再生普及部会(第 1 回～第 11 回)について
資料 9: アンケート案
資料 10:「農業と湿原の座談会」の開催について
資料 11: 改訂ワーキンググループのスケジュール(案)

第１回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
議事概要

(1) はじめに

〇挨拶、自己紹介

・中島自然保護官より開会の挨拶を行い、その後出席者全員が自己紹介を行った。

〇改訂ワーキンググループの役割について

・上サロベツ自然再生普及行動計画の策定経緯及び普及行動計画の仕組み、行動計画改訂の手順や改訂 WG の位置づけ等について確認（質問なし）。

(2) 普及行動計画の内容の確認

・上サロベツ自然再生全体構想について、普及活動に関する内容を確認（質問なし）。

・普及行動計画の内容について確認（質問なし）。

(3) これまでの活動の振り返り

・普及行動計画の策定からこれまでの活動等について、平成 18 年に進められた計画づくりの経緯や、計画策定後に実施されたサロベツ・エコモー・プロジェクトの活動状況について確認（質問なし）。

・計画策定後に実施された普及活動支援 WG の開催履歴、討議内容及び第 1 期～第 3 期までの構成員の変遷について確認するとともに、普及部会（第 1 回～第 11 回）の開催履歴、討議内容を確認（質問なし）。

(4) 今後の改訂作業の進め方について

〇アンケートの実施について

・普及行動計画の改訂にあたり、これまでの活動についての課題や問題点を明らかにするためにアンケートを実施することを説明。

・アンケートの対象をエコモープロジェクト実施者、普及活動支援 WG メンバー、普及部会員の 3 属性とし、それぞれに応じた設問や内容の 3 種類のアンケートを作成することになった。

・アンケートの実施に向けては、改訂 WG 当日に出された意見を踏まえ稚内自然保護官事務所から改訂 WG メンバーに修正案送り、意見を取りまとめ、最終案を再度改訂 WG メンバーに確認した上で発送することとした。

〇座談会の開催について

・普及部会の座長である辻井先生から普及行動計画の改訂にあたっては農家の方々と懇談し、ご意見を聞く場を設けることが望ましいとの指摘があり、12/23 に座談会を計画していることを説明。

・今回の座談会は試験的な取り組みとなることから、少人数で実施することとし、今後の普及活動の中で地区ごとに懇談の場を作ることを検討することとなった。

〇改訂ワーキングの開催スケジュールについて

・今年度の普及活動支援 WG、エコモー活動の報告等を行うため 3 月に普及部会を開催する必要があることから、改訂 WG のスケジュールは前倒しで進めるべきとの意見が出された。

・改訂作業が完了した際は、改訂した計画を広く共有するため活動実施者や地域住民の勉強会なども開催したほうがよいとの意見が出された。

・人事異動等による改訂 WG メンバーの変更が予想されるために、年度内に改訂計画の骨子や素案を作り、一度、部会で揉んでもらったほうがよいとの意見が出された。

資料1

普及行動計画改訂ワーキンググループ構成員

No.	氏名又は団体名（敬称略）	担当者名（敬称略）
1	高橋　英紀	
2	田中　美佐保	
3	西島　今朝悟	
4	村元　正己	
5	谷垣　　重遠	
6	山形　　雅弘	
7	NPO法人 EnVision環境保全事務所	田中　克佳
8	株式会社　日興ジオテック	常務取締役　山口　利幸
9	利尻礼文サロベツ国立公園 パークボランティアの会	「豊富部会」担当　佐藤　吉一
10	北海道森林管理局 宗谷森林管理署	流域管理調整官　安藤　健一
11	宗谷総合振興局　保健環境部	環境生活課　自然環境係長　後藤　茂徳
12	北海道開発局　稚内開発建設部	農業開発課　上席農業環境調査専門官　野地　正昭
13	北海道地方環境事務所 稚内自然保護官事務所	自然保護官　中島 信人
14	豊富町	商工観光課　主幹兼林業水産係長　吉村　穣滋 農政課　農村整備係長　大須賀　浩
15	NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	事務局長　嶋崎　暁啓

資料2

改訂ワーキンググループの役割について

1. 上サロベツ自然再生普及行動計画について



【策定の経緯】

第３回再生普及部会（H18.11.27）
- 上サロベツ自然再生普及行動計画の策定について
- 行動計画策定ワーキンググループの設置

第４回再生普及部会（H19. 2.20）
- 上サロベツ自然再生普及行動計画の協議

第７回自然再生協議会（H19.5.17）
- 上サロベツ普及行動計画の策定

第５回再生普及部会（H19. 5.17）
- 普及活動支援ワーキンググループ（以下、支援 WG）の設置

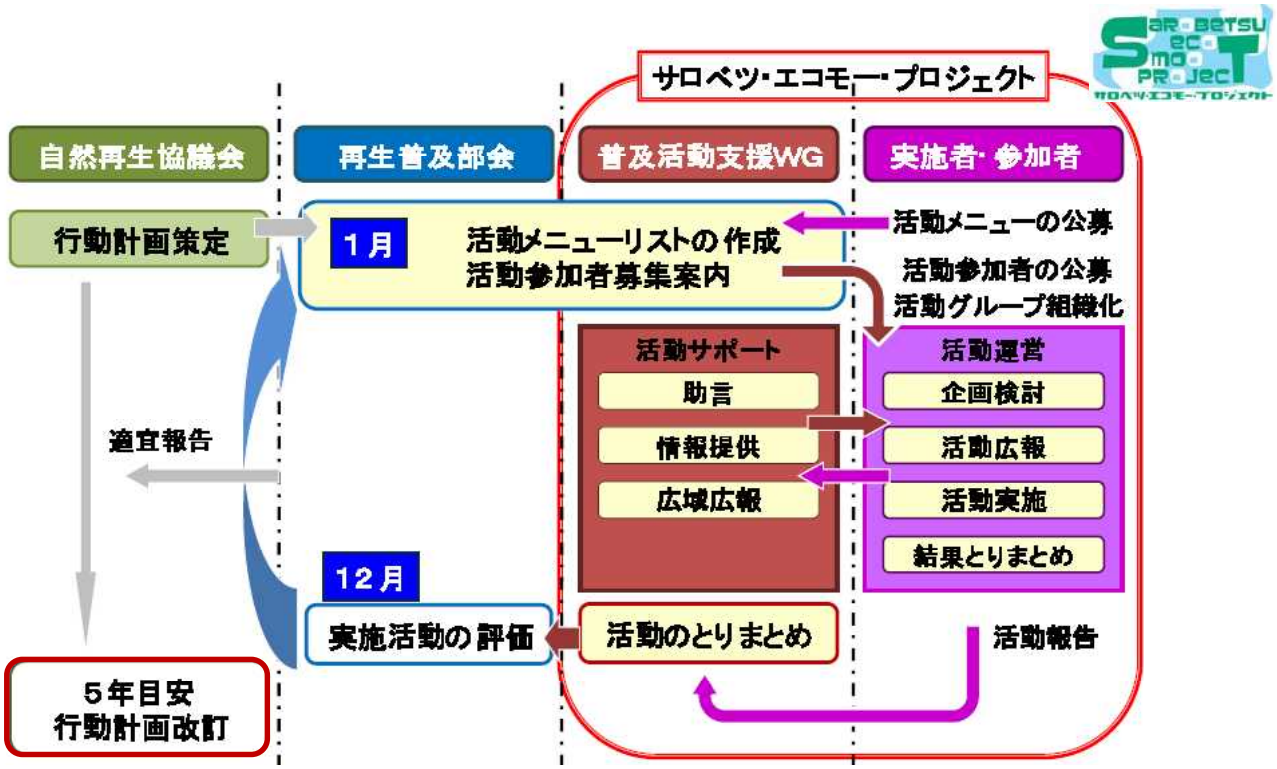
2. 普及行動計画の仕組みについて

支援ＷＧはサロベツ・エコモー・プロジェクトにより普及活動を公募する。

応募した活動実施者は自ら普及活動の運営を行い、支援ＷＧはその活動をサポートするとともに、活動のとりまとめを行う。

再生普及部会ではとりまとめられた活動について活動の評価を行う。その結果をもとに普及部会及び支援ＷＧで次期のエコモープロジェクト実施の検討作業を行う。

自然再生協議会では、活動状況について適宜報告を受けるとともに、**５年を目安に**普及活動の進め方などの行動計画の見直しを行う。



3. 行動計画改訂の手順

平成 18 年度の行動計画策定にあたっては、再生普及部会よりメンバーを募り、行動計画策定のためのワーキンググループを組織し、策定作業を行った。

今回の改訂にあたっても、「行動計画改訂ワーキンググループ（行動計画改訂WG）」を立ち上げ、策定時と同様の手順でメンバーを募り、計画の見直し（改訂作業）を行う。

4.「行動計画改訂WG」の位置づけ

「上サロベツ自然再生普及行動計画」の見直しを再生普及部会で審議する上で、その案を作成する場・組織とする。このWGは、再生普及部会で議論が必要な行動計画の改訂作業に特化したWGであり、行動計画改訂版の策定後は解散する。

5. 行動計画改訂WGの構成員

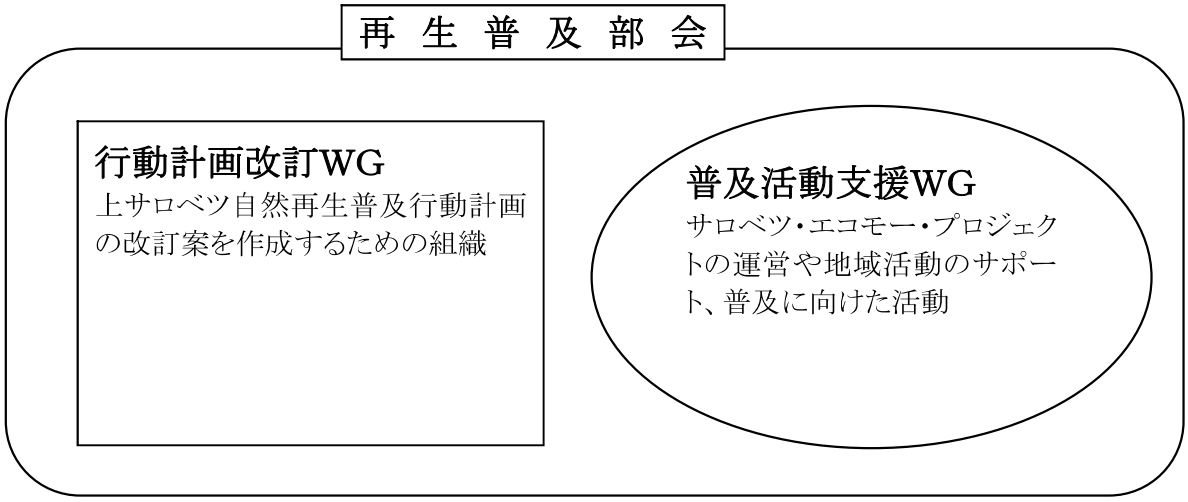
行動計画改訂案を効率的に作成するため、再生普及部会の構成員より参加を募り、個人・団体・関係機関の有志の参加により構成する。

6. 外部協力者の参加

行動計画改訂案の作成に際して、多種多様なアイデアが必要となるため、必要に応じて外部の専門家等の協力が得られるような体制とする。

7. 普及部会・支援WG・行動計画改訂WGの関係

普及活動支援WGと行動計画改訂WGは別組織であるが、いずれも普及部会構成員より参加を募る。



上サロベツ自然再生全体構想について（普及活動に関する抜粋）

資料３

1．上サロベツ自然再生の目標

第１節　上サロベツ湿原の自然再生目標　※省略

第２節　農業の振興に係る目標

泥炭農地について、泥炭地の特性を考慮しつつ農地や排水路の再整備を行い、湿原と共生する酪農地帯としての農業の振興を目指す。

自然と共生した農業の振興という地域の取り組みが、「国立公園の自然と共存するおいしくて安心な豊富牛乳、農産物」というサロベツブランドの確立に繋がることを目指す。

第３節　地域づくりに係る目標

上サロベツ湿原で行われる自然再生の過程に触れること等を通じて、地域の自然環境の特性やしくみについて、学び体験する場所として活用する。また、農地・農村においては、開拓の歴史や農業等の人の生業と自然との関わりを学び、かつ楽しむ場として活用するとともに、国民保養温泉地に指定されている豊富温泉を滞在拠点として活用していく。

国立公園や農地等に対する整備と、地域住民の活動と連携して、地域の自然資源等の利活用による自然とのふれあい、エコツーリズムと地域農業を活かした特産品の開発や、ルーラルツアーを推進し、サロベツブランドの確立を図る。

2．目標を達成するための取り組み（抜粋）

第５節　地域の自然・資源の活用及び情報発信（※第１節～第４節は省略）

1．地域の自然・資源の活用

地域住民及び関係機関が連携し、地域の自然や資源を活かした環境教育、自然や農村の観光や体験などへの活用を図る。また、近隣市町村等との情報交換なども含め、周辺地域も視野に入れた自然や資源の活用を図る。また、自然と共生した農業の振興を通じた取り組みから、安全・安心な牛乳、農産物等のブランド化を推進する。

2．多様な主体がアクセス出来る共通情報基盤の構築

連携する関係機関の協力も得つつ、事業において収集したデータ等を集積し、データベースの構築、ならびにインターネットや地域住民への広報活動等を活用した情報の公開を促進する。

3．ビジターセンター等の活用推進

現在の豊富ビジターセンター及び原生花園園地（湿原探勝歩道）の機能を丸山地区に移設する。ビジターセンターを拠点として、周辺の自然や観光資源を広域的に活用するための多角的な検討を行う。さらに自然と切り離せない開拓や泥炭の利用の歴史など、人の営為と自然との共生を学ぶ場としての利用も図る。

さらに、サロベツ原生花園を訪れる人々に上サロベツ湿原の素晴らしさを的確に伝えるためのインタープリテーション機能を充実させる。

3．自然再生の推進に必要な事項（抜粋）　（※2、4、7は省略）

1．地域住民等多様な主体の参画による自然再生情報の発信とフィードバック

サロベツ再生通信やホームページを通じた情報公開により、地域住民等多様な主体が社会的及び科学的・技術的情報を共有し、自然再生に関する透明性を確保する。ワークショップやワーキンググループなどにおける議論、聞き取り調査などを通じて、多様な主体の意見を反映させ、地域の合意形成を図るものとする。

3．地域としての取り組み

上サロベツ自然再生は、地域住民及び関係者の地道な活動によって支えられる。これらの行為に対して地域全体が協力して支え合う必要がある。

5．環境教育の視点

自然環境の賢明な利用に向けた環境教育には、開拓期から現在までの歴史軸の視点と、人間生活と自然環境の関係で成立する生態系のつながりという空間軸の視点が不可欠である。開拓期の歴史的遺産を収集、整理するとともに、地域の自然情報についても収集、整理を行い、地域や世代を越えた多くの人々の理解を深めるための情報を提供する取り組みが必要である。

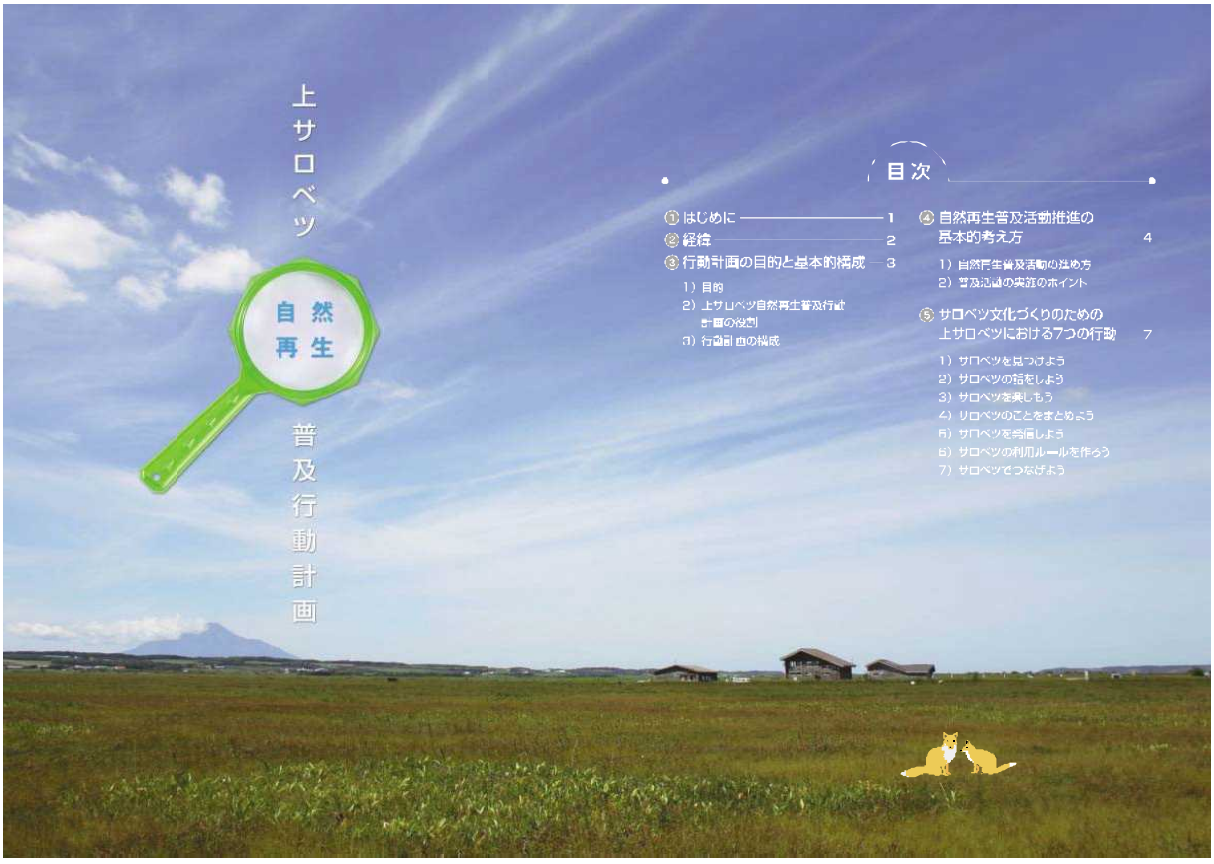
6．自然環境と調和した地域産業の持続的発展のあり方

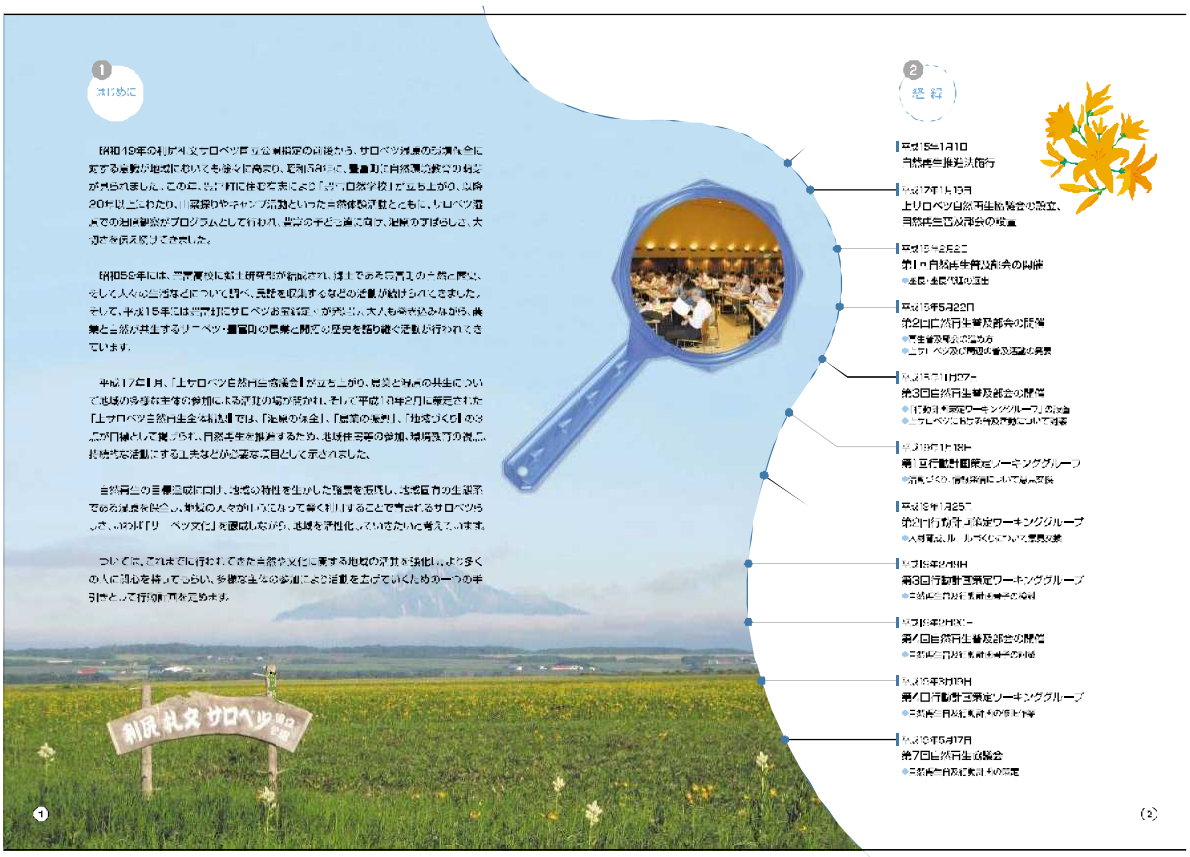
自然再生の実践が、地域住民と地域外の人々に豊かな自然の恵みを提供しながら、かつ地域の経済や雇用に健全な形で持続的に貢献するよう、多面的・継続的に検討する取り組みが必要である。地域として自然再生へ持続的に取り組むには、地域産業の再生・発展のための取り組みも重要である。

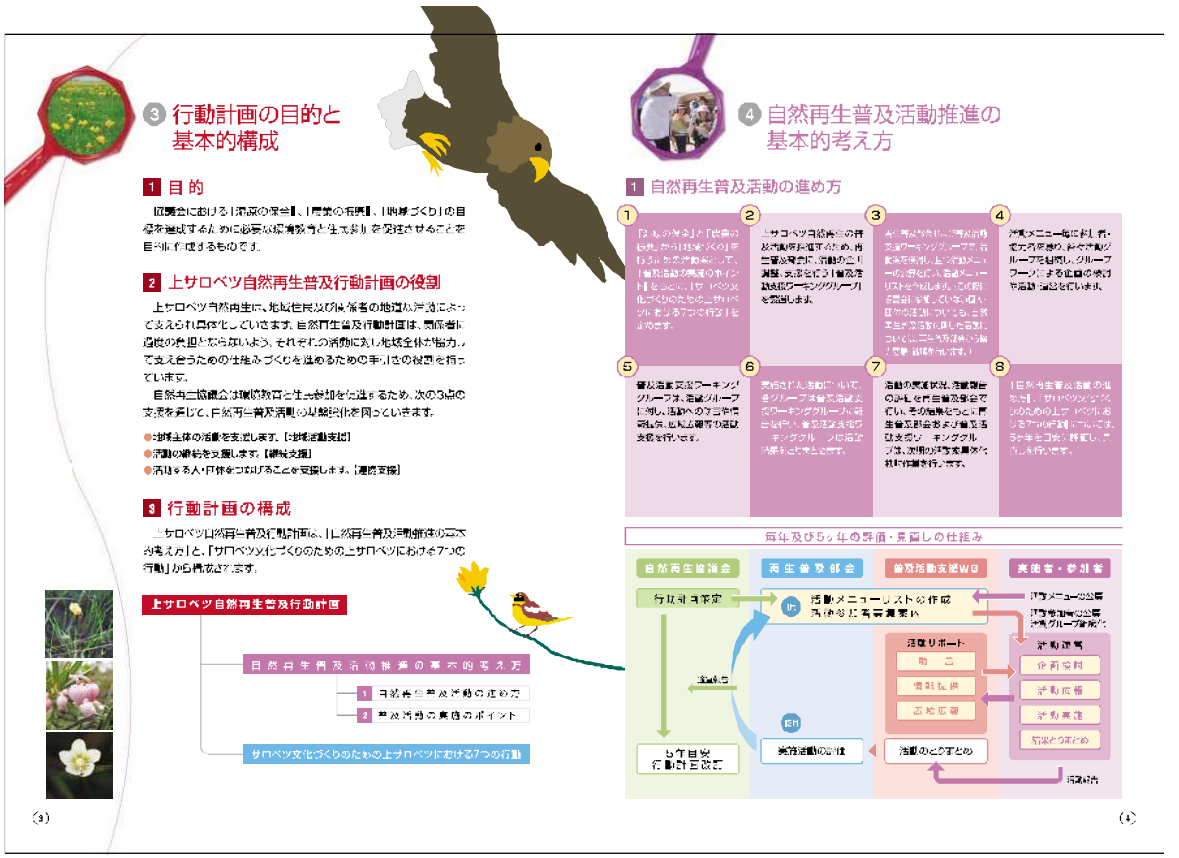
8．自然再生への取り組みを持続的なものにする工夫

自然再生への取り組みを持続的なものとするにあたって、関係者に過度の負担とならないよう留意しつつ、学習的、レクリエーション的な興味と感興を呼び起こすよう工夫する。例えば、自然環境に配慮した地域の農産物についてサロベツブランド化を図ることや、農業・酪農体験とエコツーリズムとの融合を図ることなど、サロベツ再生への取り組みを、あらゆる場面で「特徴ある地域づくり」に繋げるような工夫が必要である。自然再生に関係する施設は、その維持管理が持続可能なものになるような配慮も重要である。


資料 4
上サロベツ
自然再生
普及行動計画
自然再生に関する情報発信ホームページ
http://www.town.toyotomi.hokkaido.jp/
http://sarobetsu.env.gr.jp/
問合わせ先
上サロベツ自然再生協議会　事務局
TEL.0162-82-3950 FAX.0162-82-3950
TEL.0162-82-1001 FAX.0162-82-2806
TEL.011-251-8703 FAX.011-219-7072
TEL.0162-33-1000 FAX.0162-33-1046
TEL.0162-33-2516 FAX.0162-32-3490
平成19年3月
上サロベツ自然再生協議会


上サロベツ
自然再生
普及行動計画
目次
① はじめに 1
② 経緯 2
③ 行動計画の目的と基本的構成 3
1) 目的
2) 上サロベツ自然再生普及行動計画の役割
3) 行動計画の構成
④ 自然再生普及活動推進の基本的考え方 4
1) 自然再生普及活動の進め方
2) 普及活動の実施のポイント
⑤ サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動 7
1) サロベツを見つけよう
2) サロベツの話をしよう
3) サロベツを楽しもう
4) サロベツのことをまとめよう
5) サロベツを守ろう
6) サロベツの利用ルールを作ろう
7) サロベツでつなげよう


1 はじめに
昭和19年の利尻礼文サロベツ国立公園指定の頃から、サロベツ湿原の豊かな自然を含む周辺の景観が地域にとどまらず広く高まり、昭和58年には、豊富町が自然環境保全の特定が見られました。この年、豊富町に住む方々による「サロベツ自然学校」が立ち上がり、以降20年以上にわたり、川探索やキャンプ活動といった自然体験活動とともに、サロベツ湿原での地域観察がプログラムとして行われ、豊富の子ども達に育ち、地域の方ばらしと、大切さを伝えてきました。
昭和58年には、豊富農協により酪農専門が創設され、地下である石狩川の上流に関心、そして人々の生活などについて調べ、先輩を取材するなどの活動が始められてきました。そして、平成15年には豊富町にサロベツお客様館、が完成し、大人も参加みながら、農業と自然が共生するリーベツ・豊富町の農業と酪農の歴史を語り継ぐ活動が行われてきています。
平成17年1月、「上サロベツ自然再生協議会」が立ち上がり、農業と湿原の共生について地域の多様な主体の参加による話し合の場が設けられ、そして平成19年2月に策定された「上サロベツ自然再生全体構想」では、「湿原の保全」、「農業の振興」、「地域づくり」の3つの目標として掲げられ、自然再生を推進するため、地域住民等の参加、積極的な活動にする上夫などが必要なこと目として示されました。
自然再生の目標達成に向け、地域の特性を生かした施策を展開し、地域固有の生態系であるお湿原を保全し、地域の人々が心になって築く「リ ベツ文化」を醸成しながら、地域を活性化していきたいと考えています。
これまでに、これまでに行われてきた自然や文化に関する地域の評価が強化し、より多くの人に関心を持ってもらい、多様な主体の参画により活動を広げていくための一つの手引きとして行動計画を定めます。
2 経緯
平成15年1月10日
自然再生推進活動
平成17年1月15日
上サロベツ自然再生協議会の設立、
自然再生区域会の設置
平成15年2月22日
第1回自然再生普及部会の開催
●組織・運営体制の確立
平成15年5月22日
第2回自然再生普及部会の開催
●普及啓発の進め方
●上サロベツの湿原の普及活動の展開
平成15年7月17日
第3回自然再生普及部会の開催
●行動計画策定ワーキンググループ」の設置
●ニアレベツにおける利用実態について報告
平成15年11月18日
第1回行動計画策定ワーキンググループ
●湿原などの「自然保護」について意見交換
平成16年1月25日
第2回行動計画策定ワーキンググループ
●人材育成ルールづくりについて意見交換
平成16年4月8日
第3回行動計画策定ワーキンググループ
●自然再生計画素案等の説明
平成16年4月26日
第4回自然再生普及部会の開催
●自然再生計画素案等の説明
平成16年10月8日
第4回行動計画策定ワーキンググループ
●自然再生計画素案等の修正等
平成16年5月17日
第7回自然再生協議会
●自然再生計画素案等の決定
1
(2)


3 行動計画の目的と基本的構成
1 目的
協議会における「湿原の保全」、「農業の振興」、「地域づくり」の目標を達成するために必要な環境教育や「生涯学習」を充実させることを目的に作成するものです。
2 上サロベツ自然再生普及行動計画の役割
上サロベツ自然再生に、地域住民及び関係者の地道な活動によって支えられ具体化していきます。自然再生普及行動計画は、関係者に過度の負担とならないよう、それぞれの活動に対し地域全体で協力して支え合うための仕組みづくりを進めるための手引きの役割を担っています。
自然再生協議会は環境教育と生涯学習を位置づけるため、次の3点の支援を通じて、上サロベツ自然再生活動の円滑化を図っていきます。
●地域全体の活動を支援します。【地域活動支援】
●活動の継続を支援します。【継続支援】
●活動する人・団体をつなげることを支援します。【連携支援】
3 行動計画の構成
上サロベツ自然再生普及行動計画は、「上自然再生普及活動体の基本的考え方」と、「サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動」から構成されます。
上サロベツ自然再生普及行動計画
自然再生普及活動推進の基本的考え方
1 自然再生普及活動の進め方
2 普及活動の展開のポイント
サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動
(3)
4 自然再生普及活動推進の基本的考え方
1 自然再生普及活動の進め方
1 「自然の保全」と「農業の振興」から「地域づくり」を行うための基本的考え方について、「普及活動の展開のポイント」をもとに、「サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動」を実施します。
2 上サロベツ自然再生の普及活動展開するため、自然再生普及活動ワーキンググループを設置し、上記のメニューの具体化に向け、活動メニューリストをもとに、この取り組みを行っていく。また、その活動について、自然再生普及活動に関した活動、ついに、ニアレベツ活動の調整・連絡を行います。
3 各種が実施に向け、普及活動ワーキンググループを設置し、上記のメニューの具体化に向け、活動メニューリストをもとに、この取り組みを行っていく。また、その活動について、自然再生普及活動に関した活動、ついに、ニアレベツ活動の調整・連絡を行います。
4 普及メニュー毎に、自然再生普及活動ワーキンググループを設置し、グループワークによる意見の受け付け活動・連絡を行います。
5 普及活動支援ワーキンググループは、連絡グループに対し、活動への下記情報提供、広報広報等の支援を行います。
6 普及された活動について、各グループを普及活動支援ワーキンググループは、連絡グループに対し、活動への下記情報提供、広報広報等の支援を行います。
7 活動の実施状況、活動課題の把握を行うため、普及啓発会議を開催し、その結果をもとに、自然再生普及部会および普及活動支援ワーキンググループは、次期の計画策定作業に反映作業を行います。
8 「自然再生普及活動の推進」、サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動」については、5ヶ年を目安に、評価し、見直しを行います。
毎年及び5ヶ年の評価・見直しの仕組み
自然再生協議会
再生普及部会
普及活動支援WG
実施者・参加者
行政計画策定
活動メニューリストの作成
再評価及び見直し
活動レポート
評価
5ヶ年目安
行動計画策定
実施活動の評価
活動のとりまとめ
(4)


2 普及活動の実施のポイント
サロベツやその周辺では、自然や農業・地域文化を対象とした活動が既に始められているものもあります。また、活動の機会を待っている、まだ実現したことのない楽しいアイデアもあることでしょう。
普及活動支援ワーキンググループでの活動メニューづくりや、活動グループが自ら企画・実行していく上で、自然再生普及活動が活性化するための重要なポイントをまとめました。
自然再生普及活動を始める4つのポイント
まずは始めてみよう
企画検討に際して
1 「知ること」から始めよう
サロベツ原野に住む人々はどんな花が咲くのだろう？鳥類の生息状況はどうなっているのだろう？地元の人々の自然や文化を知ることで、地域の魅力の発見につながります。まずは、地域を知ることに心がけ、また地域を知ることにより課題を明確にしましょう。
2 「地元」から始めよう
地域づくりは、そこに住む人、その土地を愛する人により行われます。まずは地元から始めてみましょう。
3 「楽しいこと」から始めよう
楽しくなければ続かない、楽しくなければ続かない、楽しい活動。楽しめる活動をサロベツから発信しましょう。
4 「つなげること」から始めよう
3人寄り合い文殊の知恵。「楽しい」を共感し、一緒に遊れるグループを作りましょう。人と人、団体と団体をつなげることから始めましょう。
自然再生普及活動を成長させる4つのポイント
互いに認め合いながら続けよう
活動実施に際して
1 企画アイデアを練ろう
グループワークでまとめを行ってきた活動実施にあたるアイデアを持ち寄り企画しましょう。「広報・情報の収集」、「利用ルールの設定」にも気を配りましょう。
2 積極的に実行しよう
自ら実行すること、体験することは、活動の理解を深めることにつながります。小さな活動からでもまず実行してみましょう。
3 活動結果をまとめよう
どんな結果が得られたか、活動したことを改めて振り返ってみましょう。だんだん成果が得られたかをまとめましょう。
4 活動を発展させながら継続しよう
活動に前向きに取り組むとともに、また新たなアイデアを持ち寄りつつ地域と関わっていきましょう。


5 サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動
1 サロベツを見つけよう
(1)-1 地元の自然について調べる・見つけよう
(1)-2 地域の文化・歴史について調べよう
2 サロベツの話をしよう
3 サロベツを楽しもう
4 サロベツのことをまとめよう
5 サロベツを発信しよう
6 サロベツの利用ルールを作ろう
7 サロベツでつなげよう
これらをヒントに、多様な主体の参加によって、地元からサロベツらしい様々な活動が生まれ育っていくことを期待しています。

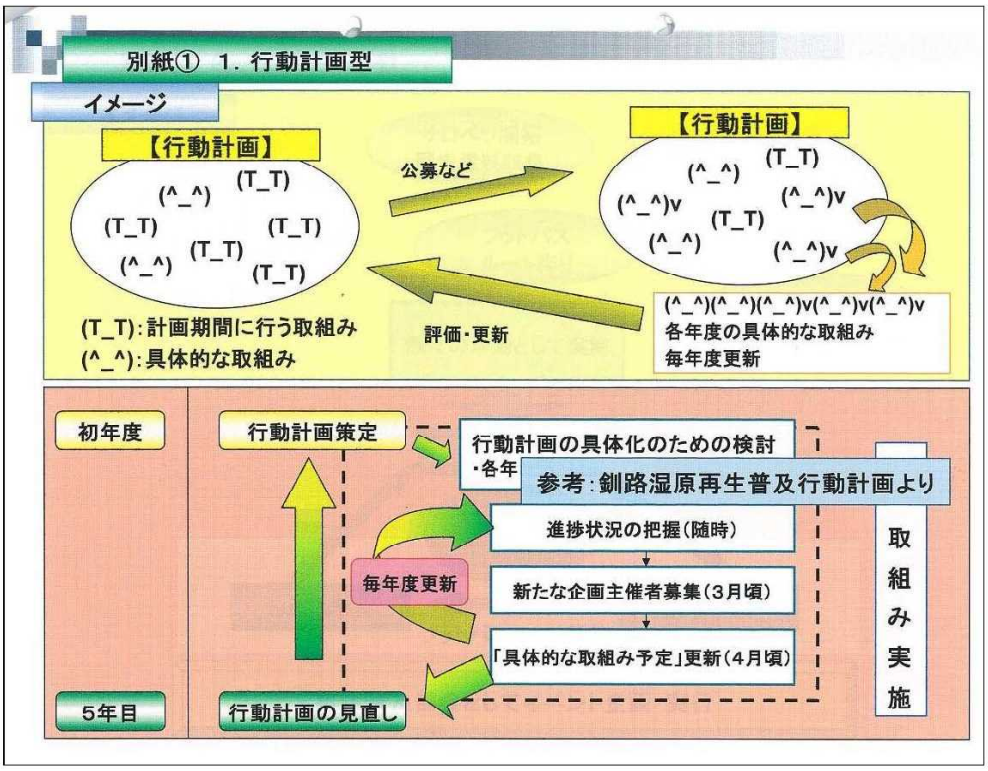
資料５

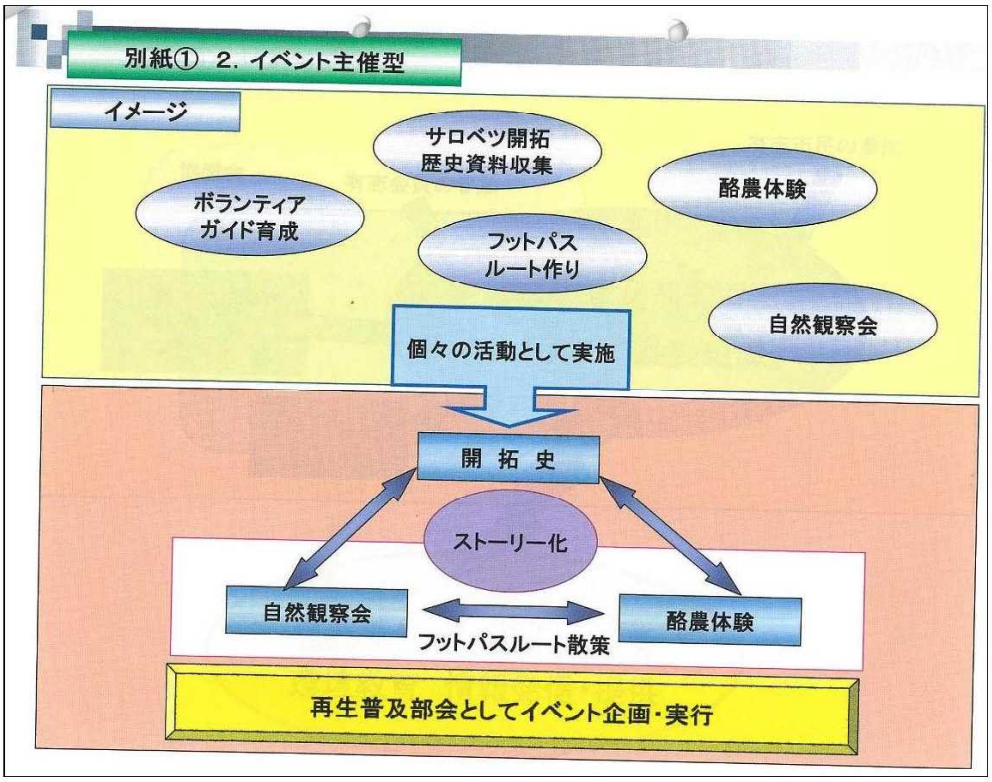
普及行動計画の策定経緯

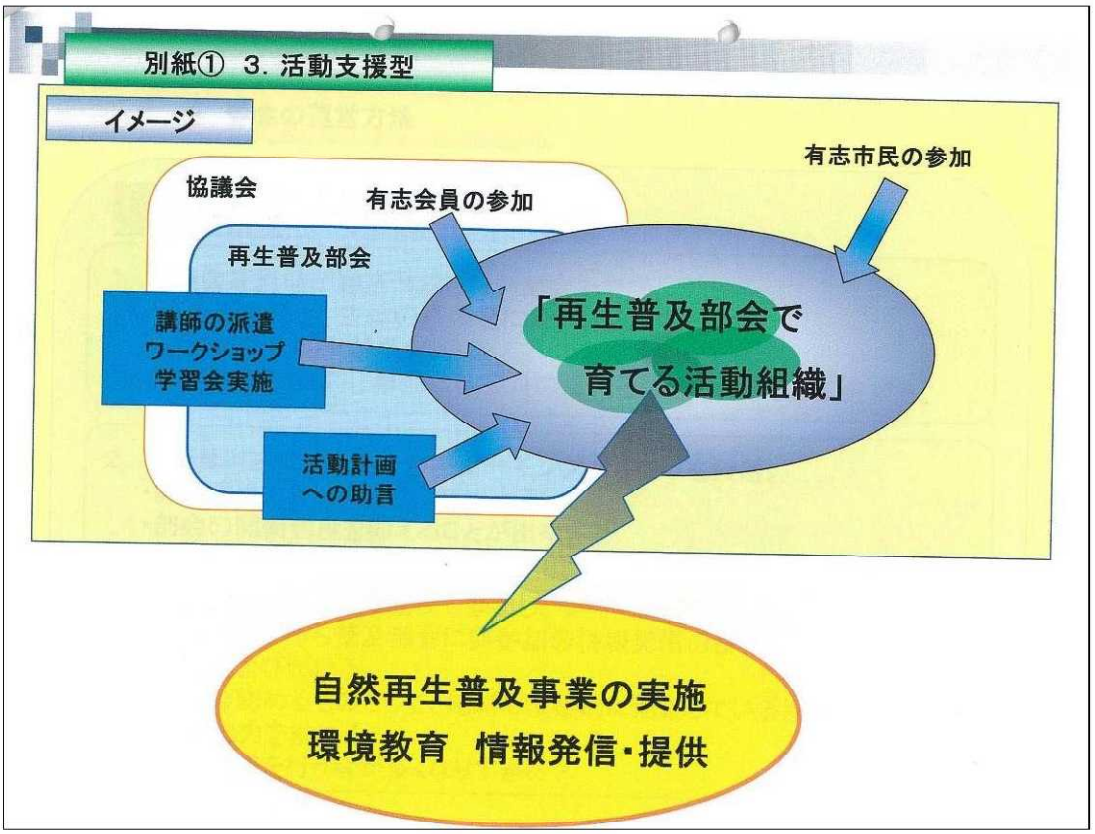
年月日	会議名	内容
平成 17 年１月 19 日	上サロベツ自然再生協議会 の設立、普及部会の設置	
平成 18 年２月２日	第１回自然再生普及部会	・普及部会の位置づけの確認 ・座長（辻井達一氏）、座長代理（商工会青年部長　佐藤雄示氏）の選出 ・釧路湿原自然再生協議会での普及活動について事例紹介
平成 18 年５月 22 日	第２回自然再生普及部会	・上サロベツ及び周辺の普及活動の発表（１個人・６団体） ・再生普及部会の進め方（行動計画の策定、普及部会の仕組みづくり①）
平成 18 年 10 月６日	再生普及部会プレＷＧ	・釧路湿原自然再生普及行動計画について事例紹介 ・ワークショップ形式での普及行動計画の骨子づくり②
平成 18 年 11 月 27 日	第３回自然再生普及部会	・行動計画策定ＷＧの設置 ・グループ討議による普及行動計画の骨子づくり③
平成 19 年１月 18 日	第１回行動計画策定ＷＧ （１個人・11 団体）	・代表（遠島幸吉氏）の選出 ・活動をどのように作るか（実施者の設定）、情報のまとめ役を誰が行うかを意見交換
平成 19 年１月 25 日	第２回行動計画策定ＷＧ	・人材育成、ルールづくりについて意見交換 ・町民・地域からの活動が重要であることを確認
平成 19 年２月９日	第３回行動計画策定ＷＧ	・自然再生普及行動計画骨子（文章）の作成、検討
平成 19 年２月 20 日	第４回自然再生普及部会	・座長（辻井達一氏）、座長代理（商工会青年部長　佐藤雄示氏）の選出 ・行動計画策定ＷＧからの報告 ・自然再生普及行動計画骨子の討議④
平成 19 年３月 19 日	第４回行動計画策定ＷＧ	・自然再生普及行動計画の修正作業
平成 19 年５月 17 日	第７回自然再生協議会 第５回自然再生普及部会	・自然再生普及行動計画の策定 ・支援ＷＧの設置（規約を設けないことの確認）

① 平成 18 年 5 月 22 日　第２回自然再生普及部会

再生普及部会の進め方（行動計画の策定、普及部会の仕組みづくり）



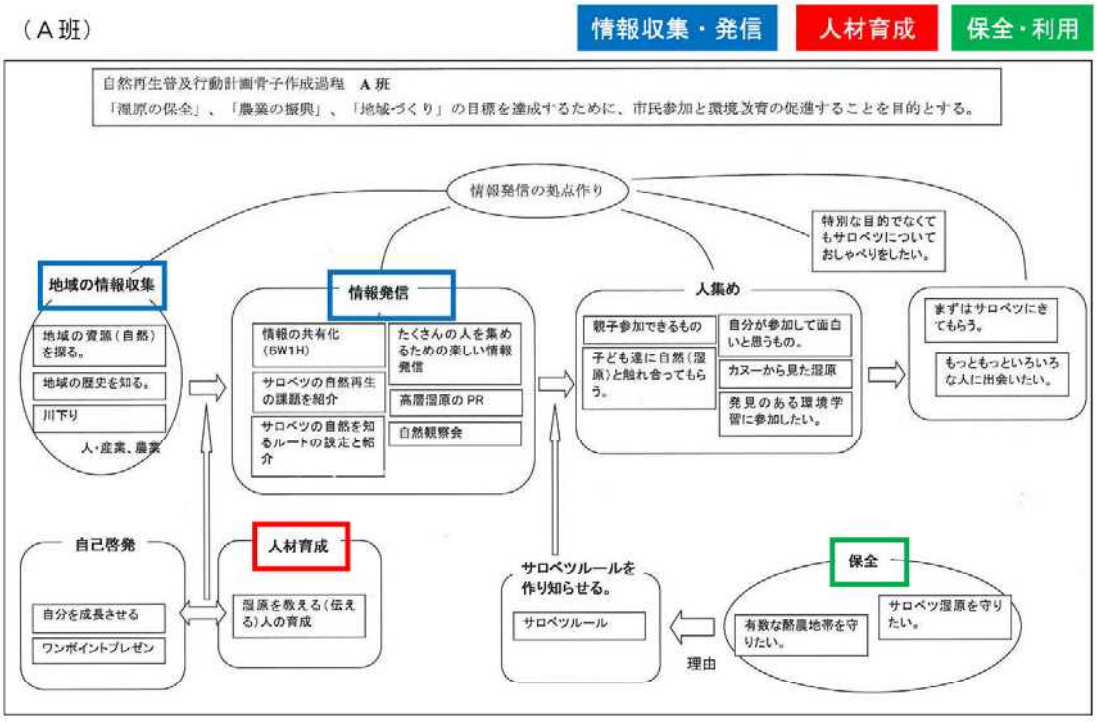



別紙① 3. 活動支援型
イメージ
協議会
有志会員の参加
有志市民の参加
再生普及部会
講師の派遣
ワークショップ
学習会実施
「再生普及部会で
育てる活動組織」
活動計画
への助言
自然再生普及事業の実施
環境教育 情報発信・提供

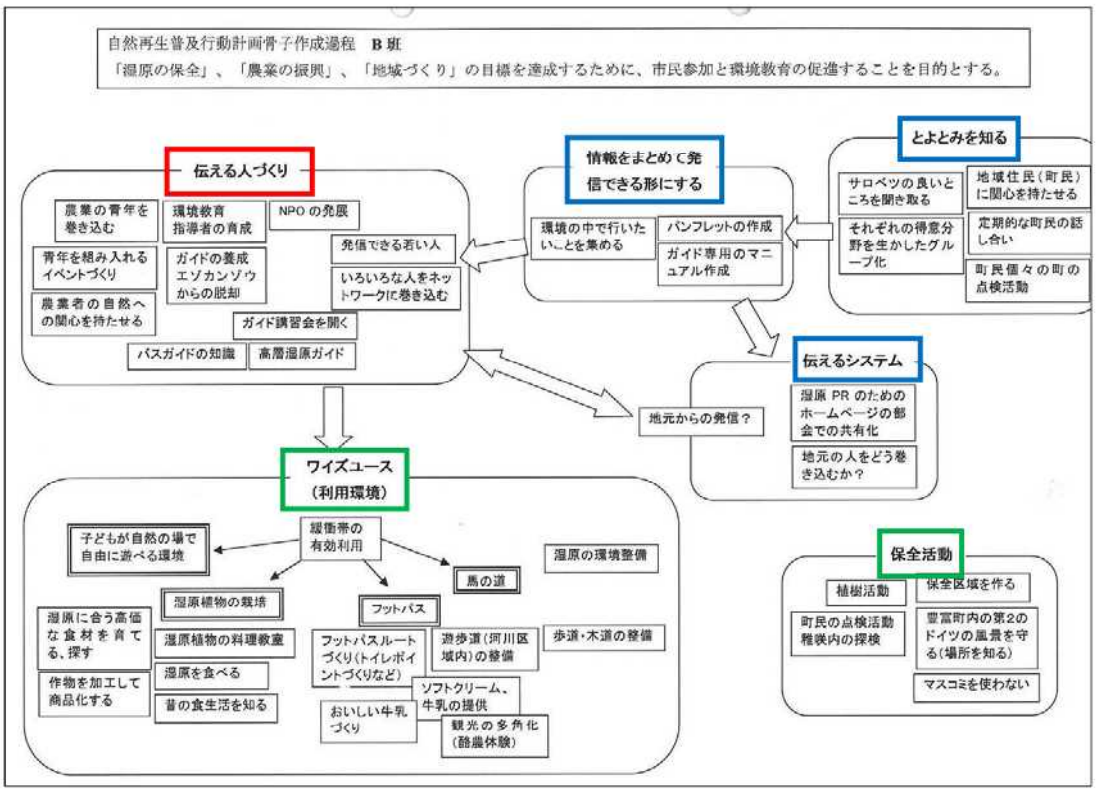
② 平成 18 年 10 月 6 日　再生普及部会プレWG

ワークショップ「自然再生の目標の実現に必要なこと」による普及行動計画の骨子づくり

（A 班）



（B 班）

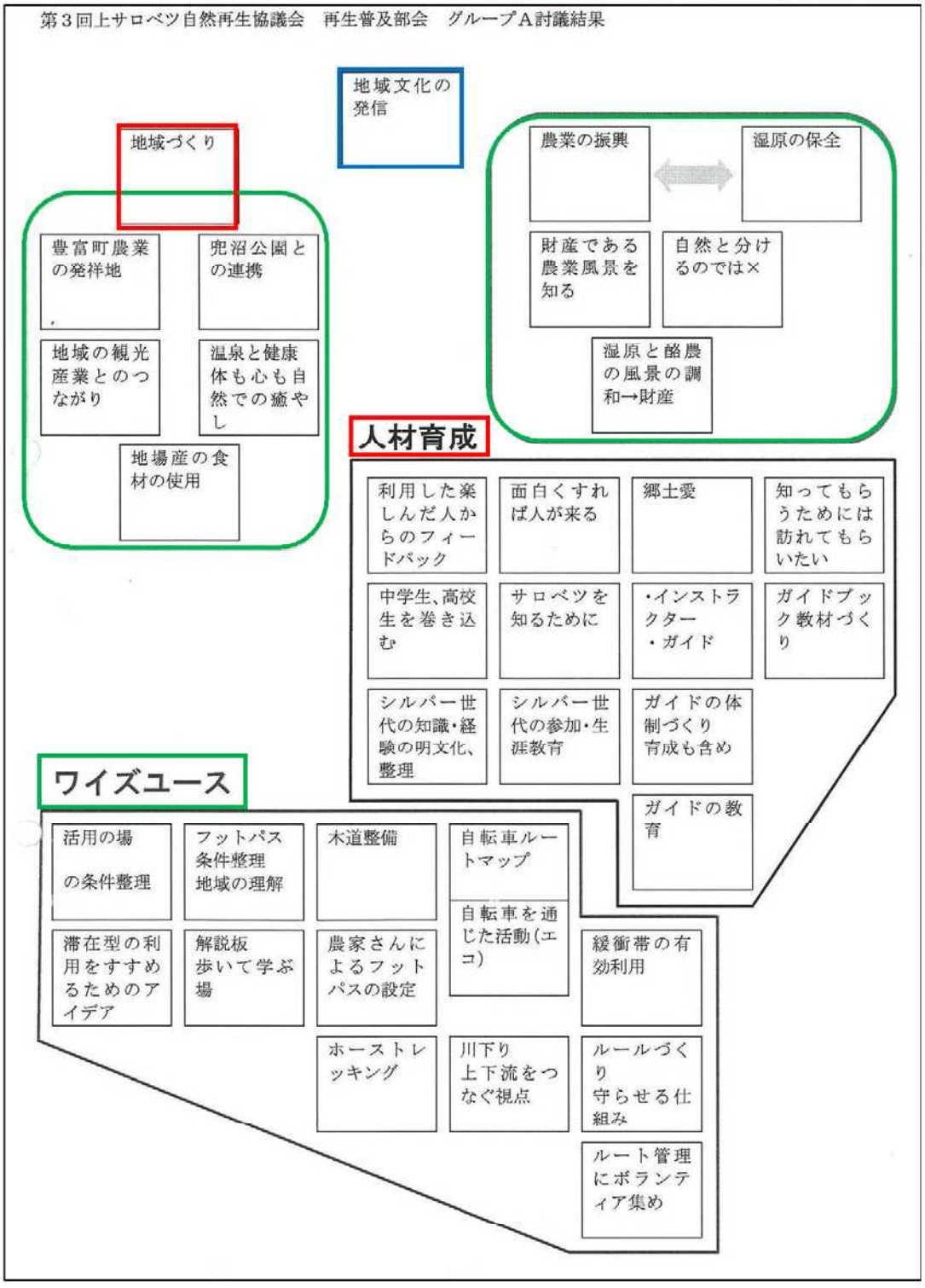


③ 平成 18 年 11 月 27 日　第３回自然再生普及部会

グループ討議「自然再生の目標の実現に必要なこと」による普及行動計画の骨子づくり

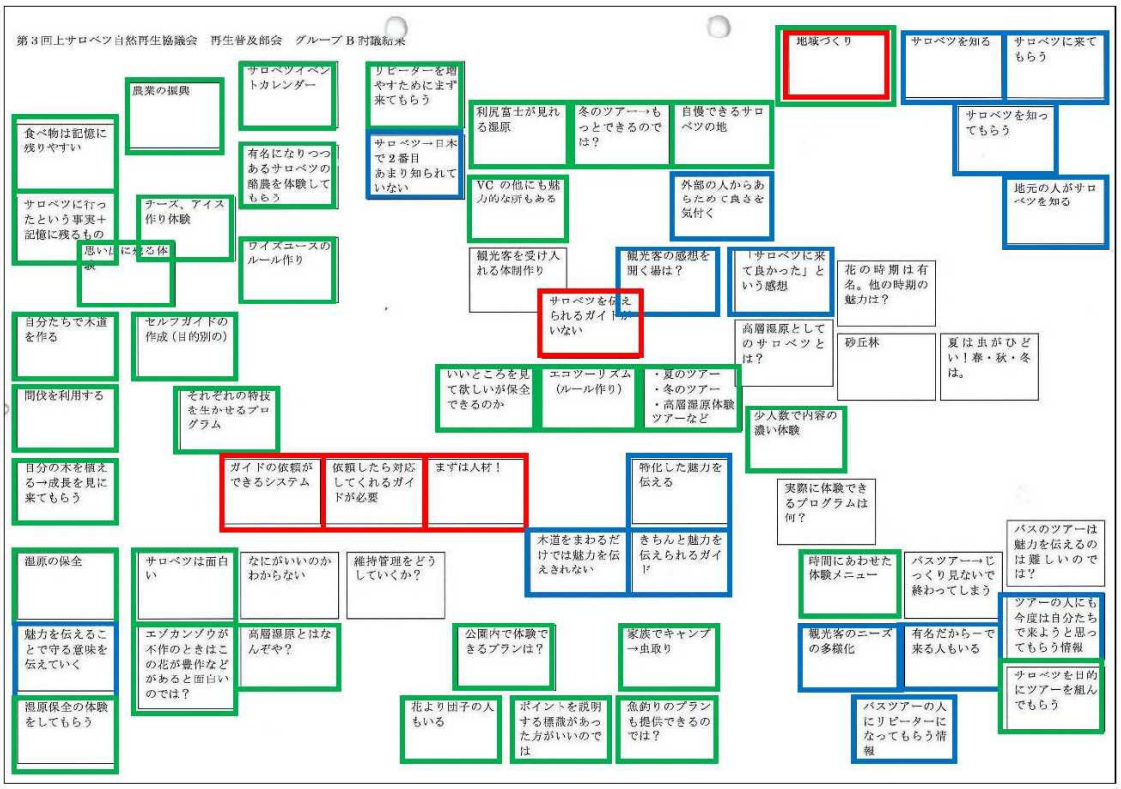
（Ａ班）

情報収集・発信　人材育成　保全・利用

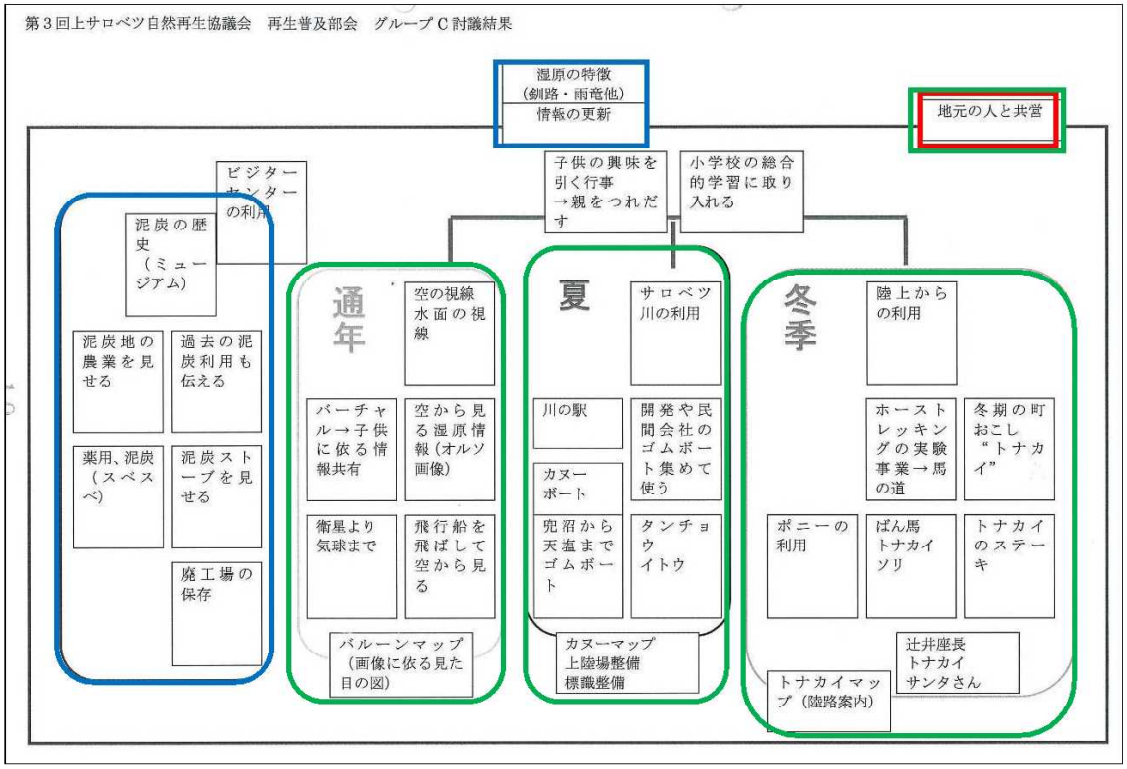


（Ｂ班）

情報収集・発信　人材育成　保全・利用



（Ｃ班）



④ 平成 19 年２月 20 日　第４回自然再生普及部会
自然再生普及行動計画骨子の討議

４．自然再生普及活動の基本的考え方

（１）自然再生普及活動の進め方

①「湿原の保全」と「農業の振興」から「地域づくり」を行うための活動案として、「普及活動の実施のポイント」をもとに、「サロベツ文化づくりのための７つの行動」を定めます。

②自然再生協議会の再生普及部会に「普及活動支援ワーキンググループ」を設置し、活動案の具体化について検討し、行動メニューを作成し、併せてメニューを公募します。（この際に協議会に参加していない個人・団体の活動についても、自然再生普及活動に則した活動については、再生普及部会から協力要請・勧誘を行います。）

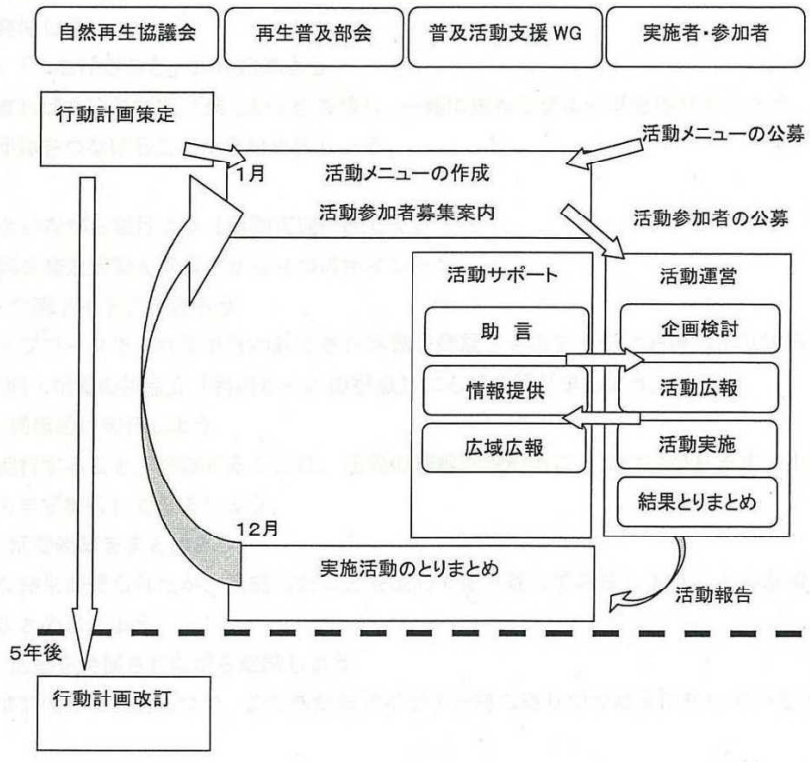
③行動メニュー毎に参加者・協力者を募り、自ら各メニューについてグループワークにより企画の検討や活動・運営を行います。

④実施された活動については、活動実施者から再生普及部会に活動報告を行います。

⑤活動の実施状況、活動報告のまとめを再生普及部会で行い、その結果をもとに次期の活動案具体化検討作業を行います。

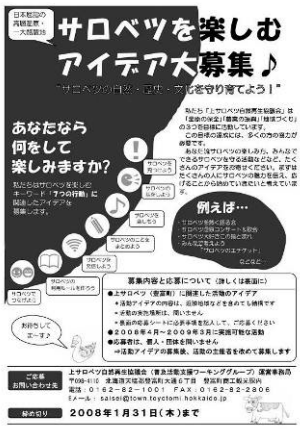
⑥「自然再生普及活動の進め方」、「サロベツ文化づくりのための７つの行動」については、５カ年毎に評価し、見直しを行います。

＜毎年及び５ヶ年の評価・見直しの仕組み＞



資料６

サロベツ・エコモー・プロジェクトについて

年	活動内容	結果
平成 19 年 	活動メニューアイディアの募集 ＜要件＞ ・公共の利益に反しないこと ・自然再生の理念に反しないこと	メニューリスト（51 件）の作成
平成 20 年 	4～5 月：活動企画書の提出 実施1ヶ月前：活動計画書の提出 ～12 月：活動のまとめ	企画書 23 件 計画書 7 件 実施 9 件（中止 19 件） （翌年からの改善点） ・活動の随時募集 ・手続きの簡素化
平成 21 年 	エコモーHP の開設 活動の随時募集 	実施 19 件 ヘルプシート提出 0 件 事後登録を可能とする 活動報告集パンフレット作成 （翌年からの改善点） ・記入様式の簡素化

平成 22 年 	活動の随時募集	実施 15 件 ヘルプシート提出 0 件
平成 23 年 	活動の随時募集	実施 20 件 ヘルプシート提出 0 件

エコモー活動登録数の推移

年度	活動数	活動実施者
H20	9	9
H21	19	11
H22	15	16
H23	22	19

平成19年活動メニューアイディア募集

※7つの行動アイコンは、各活動アイデアの内容をアイデア応募者がイメージしたものです。

① サロベツを見つけよう　② サロベツの話をしよう　③ サロベツを楽しもう　④ サロベツのことをまとめよう
⑤ サロベツを発信しよう　⑥ サロベツの利用ルールを作ろう　⑦ サロベツでつなげよう

番号	活動アイデア名	内　容	時期	7つの行動
1	見て楽しむサロベツツアー	サロベツ湿原をテーマとしたネイチャーツアー。（視覚障害者（ろう・難聴）も参加できる手話や文字情報によるガイド付き）視覚的な情報サポート（文字や写真を活用）した解説を行いながら、『見る』という視点でのサロベツの情報を参加者に伝える。	視覚的にわかりやすい夏期（活動に変化を持たせると四季で可能）	①③
2	サロベツエコツアー	サロベツ地域の成り立ちや生態系を学ぶ現地観察ツアー。	7～11月の間	①③
3	サロベツ原野 花いっぱい運動	サロベツ原野に咲いている花はなあ～に！ここにしかない花を見つけよう！！	花の美しい時期	①③④
4	サロベツオリエンテーリング	オリエンテーリングをしながら自然に親しむ。	春か秋	②③
5	フットパスルートを 活用しよう	サロベツの名所の再発見をめざす。ツアーを計画する。	通年（可能な時期に）	①③
6	流星群の夜に出かけよう！ サロベツ星空観察会	ペルセウス座流星群のピークの夜にスターウォッチングを行う。実施場所は大規模草地牧場。時間は夜19時頃より1時間程度。寒いのでシュラフに入って草の上に寝転びながら流れ星を見たり、天体の知識のある人から一般的な夏の星座についての解説を聞く。寒いので、ホットミルク、ホットコーヒーなどのドリンクを提供する。	ペルセウス座流星群の時期（8月中旬頃）	②③
7	サロベツ原野でキャンプをしよう！	キャンプをして、その地域に育っている植物の観察！自然と一体となれるように。	夏も良いが厳冬の中の体験もありかな	③
8	ぼくらは湿原保護官	【概要】豊富町の産業の一翼を担う「林業」を体験する。 （内容詳細については別紙①をご参照ください）	5月初旬～5月末 6月初旬～7月末	②③ ⑥⑦
9	冬の自然観察会	自然が豊富な宗谷管内においても、特に良好な自然が残る稚咲内海岸砂丘林において、積雪により立入が容易になる冬期に歩くスキーやスノーシューを使った自然観察会を実施し、身近にありながら普段触れる機会の少ない貴重な自然と接することで、地域への自然環境への理解を一層深める。	厳冬期（2月）	①④⑥
10	冬のいきものウォッチング	冬の活動する野生動物の観察会で、かんじきやスノーシューを履いて林の中などを歩いて雪上に残る足跡などから冬の野生動物の行動を想像したり、木々の冬芽観察（児童書「冬芽がっしょうだん」参考）をして、ひつじ星人を探したり、冬ならではの観察会を楽しむ。	冬（2月か3月）	①③
11	サロベツの河を楽しもう	サロベツ川・放水路をボート等を利用して下る。（川から見た原野・草地風景、水鳥・ヒシ等の水草の観察、つり、ボートレース）	春の増水時期 秋の水鳥が来る時期	①③
12	ゴートゥーノース ツールド蝦夷	【概要】小樽～宗谷岬370km2日間のサイクリングのイベントを考えています。もっと景色や走ること、そして地域との触れあいを楽しむ会があればと思っていました。 （内容詳細については別紙②をご参照ください）	2008年6月22日（日）	①③⑤⑦
13	熱気球でサロベツ湿原の 雄大な広さを感じよう	熱気球からサロベツ湿原の雄大な風景を風を感じながら見てもらう（有料）	6月～8月末	①③
14	風の音楽　ペルー・ボリビアの 民族音楽フォルクローレの調べ	風の音楽「フォルクローレ」をサロベツ湿原を会場に開催し、湿原の意味を共感してもらう。	6月～8月末	①③
15	空からサロベツを眺める ”パノラマ・ツアー”	飛行船（日本郵船関連）と熱気球で空からサロベツを優雅に眺める少数精鋭型ツアーを企画開催する。利尻礼文、猿払、稚内などを周遊して道北を満喫するのもいい。	記述なし	③
16	冬の風に乗って”新型乗り物 体験ツアー”づくり	原野を吹き抜ける冬の西風を利用しない手はない。ソーブ（人間大の風船に人が入り転がるのりもの）や、風で走るドーム型ゴムボート（雪上ラフティング）、パラセーリングならぬパラスキー、エアボートなどなど。一大挑戦イベントにするもよし、ヨセミテのエルキャピタンの如く世界からツワモノにチャレンジしてもらうもよし。	記述なし	③
17	夏のポニーの馬車と 冬の馬ソリ	ポニーを使って温泉街を中心とした豊富の観光案内や体験会をする。夏は、ポニーの幌馬車による観光案内、ポニーの乗馬体験会。冬は、馬そりによる観光案内をする。	夏と冬	③④⑦
18	一生に一度は行ってみたい ツアーの企画	一生に一度は行ってみたい極珠のツアーを作り出す。年間に参加できる人数はごく制限され、値段は高価、5年先まで予約がいっぱい・・。カヌーで巡るサロベツ川と砂丘林湖沼、ペンケ沼と砂丘林探検・・。地域の熟練したガイドとともに巡る極秘の”日本のラストワィルダネス”。自然への影響は限りなくゼロに。	特になし	③
19	農業農村整備事業 現場見学会	豊富町内の小学生を対象に、国営総合農地防災事業の現場見学や、農業用排水路での生き物調査などを行い、農業と湿原について学習する。	夏休み（7月～8月）	③
20	サロベツ☆工場見学。	サロベツでどんな産業が行われているか、皆で見てみる。酪農だけではなく、今も行われている泥炭採掘など、各産業の『現場』を見学して、地元の産業を知る。	通年	①④⑥
21	サロベツ自慢ツアー	サロベツはこういう良いところで、こんな再生事業をやっています、という地域紹介と再生事業の視察を兼ねたツアーを年1～2回開催。今後視察申し込みが増えると思うが、それを度々やるのではなく、時期を決めて「この機会にご参加ください」と全国にお知らせする。現地視察と地場のおいしいモノ、観光等をセットにしてコーディネートしてくれたら、全国の自然再生に関心のある人は大変うれしいのではないだろうか。またそのような人が集まることで情報交流・意見交換なども可能かと。サロベツを思いっきり自慢してください！※現地集合、現地解散。宿泊・移動費は参加者から徴収。ツアーのイメージとしては、霧多布のファンクラブ会員の方を案内するツアーです。	現地案内を実施しやすい時期	①③ ⑥⑦
22	サロベツ宝探しげ～む！	キーワードを与えて、何か面白いもの、他の発信したい情報を探し当ててもらう！	年間を通して！	①③
23	サロベツわらしべ長者	サロベツ発の”わら（？）”が、物々交換を繰り返しながら旅をします。わらから始まり、ついにはお城に！？旅のお供はデジカメと”旅ノート”。デジカメで移り変わっていくモノを撮影して実施者に送ってもらい（方法は未定）、専用ブログで公開。旅ノートには、表ページにサロベツの魅力や自然再生について書いておく。物々交換の際は「サロベツのことを伝える」をルールにします。	5月以降～2月頃を予定	⑦

番号	活動アイデア名	内　容	時期	7つの行動
24	サロベツ湿原　蛍をさがそう！	サロベツ湿原にホタルが生息していないか調べたり、勉強会を行う。	7月下旬～8月上旬	
25	サロベツ自然環境 体験学習会	サロベツ原野及び周囲の環境観察、調査を実施する。 サロベツ原野の海岸漂着物調査（例：(財)環日本海環境協力センター、クリーンアップ全国事務局による調査手法による。） 森林植生状況（必要に応じて植林の実施）	年4回テーマ毎に	
26	アイヌ語地名の景色を探そう	アイヌ語の地名は、地形や景観、生活関連など身近なことからつけられています。アイヌ語の地名が示す景色を、色々探してみませんか。	5月～9月	
27	「サロベツ総合調査開始50周年記念事業準備会」の結成	3年後の2011年に、1961年に自然および社会環境を包含したサロベツ総合調査が開始されてから50周年を迎える。当時収集された情報は、その後のサロベツ発展の基礎となった。それらの情報をあらためて収集し、将来につなげる。	5月中旬に準備会を結成し、方針を確定する。	
28	サロベツ地域の暮らしと農業パネル展	サロベツ地域は開拓等によって開発された地域で、現在は大規模な酪農地帯に成長し、自然環境との調和に努めながら営農を行っている。このサロベツ地域の農業・人々の暮らし・自然環境との共存に関するパネルや写真を集めて、イベント会場や役場等の機関において展示会を開催し、住民は元より一般住民に対しても広く、地域振興と自然環境への理解と協力を求めていく。	地域のイベントと連携したいので、その開催時期に併せて行いたい。	
29	サロベツを写そう！	サロベツの自然や動植物を写真に撮り、新しい発見をするとともに、展示会等により多くの方に知ってもらう。	花が咲く季節など	
30	空から眺めるサロベツの自然	サロベツ地域で撮影された空中写真を大判で印刷し、体育館等の床に展示します。地図の上に乗ったり、写真を貼ったりできます。主に小学校や中学校の地域学習や湿原を守るための啓蒙活動を想定しています。	2008年の夏休み時期	
31	郷土芸能の一つとして 「とよとみサロベツ太鼓」の復活	昭和49年、利尻礼文サロベツ国立公園誕生記念として生まれたサロベツ太鼓ですが、約15年後には継承する人材不足により現在は活動されていません。なんとかこの機会に郷土を愛する人達を集い、この太鼓を復活できれば…と考えています。	3月頃から始め、観光シーズンには活動できれば。	
32	テーマソングを作って 世界にサロベツを発信しよう！	内外の人々を巻き込んで話題性のあるテーマソングを完成させ、PR素材として活用してサロベツ自然再生への関心を集める。イメージとしては、 ① 歌詞を公募し、選考委員会等で歌詞を決定する。 ② 道職員で構成するアマチュアバンド（国境マングース）で作編曲・音源化を行い（3パターン程度）、そのうちいいものを選考委員会でテーマソングとして決定。 ③ お披露目やイベントでの出張演奏の他、各種PRで使用。 ④ PVは湿原内で制作し、大自然の素晴らしさを前面に押し出す内容とする。	特になし（制作期間が必要）	
33	サロベツ 光と音と虫との出逢い	サロベツを題した作詞、作曲を求め、夜間にかけて音楽祭をし、昆虫との出逢いを体験する。	6月下旬～7月一杯	
34	「サロベツ学会ーサロベツファンクラブー」の結成	サロベツに興味を持つ人が自由に自分の考えを話し、意見を述べ合う場をつくる。年会費は500円程度とし、1年に1年に1度サロベツに集まり、一人15分程度、自分の意見やアイデアを話す。それを小冊子にまとめて、会員に配布する。代表は地元の長老（民間）、運営は地元および外部の希望者。	毎年11月ころ	
35	サロベツ昔話を聞いてみよう	豊富開拓の歴史を町内の年長者などにお願いして開拓当時や開拓後の話をしてもらう。あれば写真なども見せてもらい、当時の様子について語り合う。	通年可能(比較的行事の入っていない冬期間が望ましいと思い	
36	サロベツを学び発信しよう	サロベツの自然景観農村景観や、動植物の観察調査研究を体験しながら、保全活動、啓蒙発信及び指導者、解説者ガイドの育成を図る。	四季を通して 4月から翌年3月まで	
37	サロベツマップ作り	サロベツの酪農体験（乳しぼり、バター作りほか）のマップを一目で分かりやすいようにつくる。	3～4月（農乾期）	
38	サロベツ名産品の本を作る	サロベツの名産品を調べて一冊の本を作る。	年間を通じて	
39	サロベツすごろく作り	サロベツ原野を主題に面白おかしく、尚かつ少々勉強して、サロベツ人になろう！！	通年（可能な時期に）	
40	行動計画ニックネーム &ロゴマーク大作戦	行動計画のニックネームとロゴマークを一般公募で募集する。選考は、WG、普及部会員に頼るほか、VC等での一般投票も行う。	いつでも	
41	押忍！ 我ら豊富町『カレー部』！！	豊富町名産のあんな品、こんな品。はたまたサロベツ原野で採れる意外な（？）食材を使って名物カレーを作っちゃおう！	夏場（屋外作業）	
42	イメージCDとイメージDVDの 作成と販売 そしてとことん流す	サロベツの四季の風景や空気をイメージした音楽CDと風景DVDを作成し、道北各所で販売するとともに、公共施設や公共空間で、あるいは観光バスや各種会議のBGMとして、多くの場所でこれを流し、常に空気を包み／作り、地域の人々や訪れた方々のイメージと感覚とを結び付け、ブランドイメージを創造する。	記述なし	
43	サロベツの自然と人々を紹介したDVDコレクションづくり	サロベツの①開拓の歴史、②まちの暮らしと生業、③自然と生き物、④サロベツの科学、⑤サロベツの楽しみ方、の教育と観光を狙いとしたDVDシリーズを作成し、地域の人々の学習に役立ててもらうとともに、通信販売でサロベツファンの予備軍を全国に広げていく。	記述なし	
44	おみやげにパソコン用 壁紙ソフトはいかが	サロベツの美しい湿原風景・田園風景が、毎日日替わりしてパソコンの壁紙に現われるソフトCDを作成してお土産として多くの人に利用してもらう。米国などでは観光みやげとして各地でよく売られており、とても使い心地がよい。サロベツのイメージづくりとPRに一役買うものと思う。	記述なし	
45	地域限定景品 サロベツフィギュアをつくる	湿原の向こうにそびえる利尻山、牧草ロールが点在する草地、エゾカンゾウとシマアオジ、乳牛と牛乳瓶、コモチカナヘビ、豊富温泉・・。海洋堂と提携してこれらのフィギュアを作り、地域化限定景品として、数箇所の施設を巡った人、○○円以上の買い物をした人、あるイベントに参加した人、リピーター、物産品宅配会員・・に提供するなど、プレミア化戦略を取ると面白い。	記述なし	
46	サロベツde手拭いづくり	サロベツの植物をひとつ使って、オリジナルデザインの手拭いを作ります。デザインはサロベツを感じさせるものなら自由。	手拭い作りの可能な時期ならいつでも	

番号	活動アイデア名	内　容	時期	7つの行動
47	サロベツブランドを またひとつ！	サロベツのピートをウイスキー醸造の材料としてメーカーに提供する。サロベツの名が商品名につけば格好の宣伝になるのでは？実際のところ、冷涼で海岸そばの泥炭はウイスキー造りに適しているらしく、期待ができる。	企業への売り込みだけなので、いつでも。	
48	自然本物シリーズ エゾ鹿と豚の合挽き肉のアントレ2種	欧米の病院・老人介護施設・会社等の給食に留まらず、ここ数年はわが国でも導入が進んで来た、クックチルシステム（安全な作りおきの調理生産システム）を利用した食品生産と販売活動とする。チルドで4週間、冷凍で数ヶ月間保管できる、主菜（アントレ）となる洋食の惣菜で、料理の種類は2種類限定とし、「エゾ鹿と豚の合挽き肉のクリームシチュー」および「エゾ鹿と豚の合挽き肉の煮込みハンバーグ」とする。鹿肉と豚肉のほか、前者には豊富町の牛乳が主要食材として使用され、後者には、たとえば羽幌町産のトマトが使用される。「自然本物シリーズ」と銘打って、2人分―10人分を単位とした袋詰め形態とし、インターネットを活用して販売する。クックチルシステムは、冷却法によって2種類に分類され、空冷法と水冷法があるが、ここでは導入コスト・冷却コストともに低く抑えられ、かつ保管期間が長い水冷法の一種、バックチル•システムを採用する。バックチル•システムを構成する機器は、袋詰め作業のためのパッカー、バックチラー、及び密封作業のためのシーラーである。	必要な食材や、調理・生産に必要な機器がすでに市場にあるため、すぐにでも着手可能と思われます。	
49	昭和の風情を偲ぶ	【概要】「兜沼キャンプ場」を組み込んだ兜沼市街地を「エコ・ミュージアム＝昭和の町」に見立て、多くの観光客が訪れる「キャンプ場営業期間」に「昭和の町並み」を再現する。 （内容詳細については別紙③をご参照ください）	キャンプ場営業期間。小学校の現地学習等は時期を選ばない。	
50	伝えていこう湿原の記憶 未来につなげるサロベツの 農地・湿地	条件不利な農地に遮水地機能をもたせ、農地⇔湿地の互換性を試験地を設定し、モニタリングする。町民参加によるモニタリングを通じ、サロベツ泥炭地の不思議さを体験する。あわせて、周辺整備をして美しいサロベツの地域づくりに寄与し、農村振興に役立つ活動内容を模索する。	通年	
51	ちょっと高見の見物 "キャノピー展望台"	湿原は平坦な地形なので、ちょっと視点を上げるだけで見える世界ががらりと変わる。遺産木材を使って丸山あたりに展望塔を作り、サロベツに一味違った宇宙を生み出してはどうだろうか。樹冠にキャノピートレイルを作るのも新鮮な風景の楽しみ方になる。	記述なし	

※各アイデアの実施にあたっては各種規制の遵守をお願いします。

サロベツ・エコモー・プロジェクト活動一覧（平成20年～平成23年）

No.	活動名称	実施者	活動概要	実施状況			
				平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
1	環境の日一 全国一斉河川水質調査	橘 治国（天北塾）	毎年6/8（環境の日）に行われる全国一斉水質調査を地元高校生の協力で実施。今後は「サロベツ学会」の関係者と連携して活動計画を進める予定。	○			
2	「サロベツ学会」の結成	高橋英紀ほか	サロベツに興味を持つ人が自由に意見を交換・発信し、地域の活性化に寄与することを目的に、6月から設立準備を行い、11/6に発起人6名で「サロベツ学会」が発足。現在、会員33名。募集方法等について検討中。	○			
3	上サロベツ農業情報マップ	稚内開発建設部農業開発課 ※豊富町（H20、21）	上サロベツ地域の農業情報を紹介する「上サロベツ農業情報マップ」を役場・観光情報センター等の公共施設と記事掲載団体に置き、町民や来町者等に情報提供を行います。	○	○	○	○
4	サロベツを守り育てる活動プロジェクト・ニックネーム募集	環境省稚内自然保護官事務所	11/5から、普及行動計画のニックネームを公募で募集。31件の応募があり、支援WGでの予備選考の上、再生普及部会の審査にて決定。	○			
5	伝えていこう湿原の記憶 未来につなげるサロベツの農地・湿地	サロベツの今を見直す100の声の会	4/13にハクチョウの旅立ちと白いミズバショウ、5/25に野の花フェスタ＆庭園見学と題して見学会を実施。	○			
6	上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展	稚内開発建設部農業開発課 ※豊富町（H20、21）	農業と自然との共生を目指す上サロベツ地域の取り組みや農業の振興に関する地域情報紹介するパネル展示を開催します。	○	○	○	○
7	サロベツを学び発信しよう	サロベツ学び舎天北塾	豊富駅前の情報センターで自然情報を発信。 6月～10月に植生調査を10回実施。7月に参加者を集めて湿原調査を実施した。今後は「サロベツ学会」の関係者と連携して活動計画を進める予定。	○			
8	スノーシュー観察会	宗谷支庁 豊富町 環境省稚内自然保護官事務所	2/28、豊富町稚咲内海岸砂丘林内とスノーシューで散策しながら自然観察を実施。	○			
9	サロベツの昔話を聞こう	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	サロベツ原野の開拓の歴史や、変化してきた自然の様子、町や生活の移り変わりなどを分かりやすくまとめたDVD（約30分）を、地元の学校に紹介し、授業などで活用してもらう。可能であれば、新たなインタビュー映像の収録や、地域の昔の人から話を聞く座談会についても検討する。	○	○		
10	チーム☆エコも～太	みさたろとゆかいな仲間たち	①「エコ」と「モー（牛）」をイメージして作られた？『エコも～太』とサロベツ・エコモー・プロジェクトロゴを取り入れたグッズの作成。 ②グッズを持ち歩くことでサロベツ・エコモー・プロジェクトをPRする。 ③エコも～太を利用したグッズ開発をしてくれる仲間を募集する。		○		
11	押忍！我ら豊富町『カレー部』！！	みさたろとゆかいな仲間たち	今年で3年目、カレー部の活動です。サロベツ産の食材を使用したカレーや、サロベツをイメージしたカレーを作ります。どんなカレーができるかはおたのしみに。		○		○
12	見て楽しむサロベツツアー	みさたろ	サロベツ湿原をテーマとしたネイチャーツアー。聴覚障害者も参加できる手話や文字情報によるガイド付きで実施できるよう、視覚的なサポート（文字や写真を活用）した解説を行う。視聴覚障害者だけでなく『見る』という視点でのサロベツ情報を参加者に伝えるプログラムを作る。今年はツアーの準備の年とし、教材作りと試験的ツアーの実施を目指す。		○		
13	フットパスルートを作ろう歩こう	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	道内でも盛んに取り組みが行われているフットパス（歩行者専用の小径）のコースづくりをサロベツでも推進するため、協力者を募集し、豊富の酪農景観を中心に自然、歴史、人といった地域資源をフットパスでつなげ、ゆっくりと楽しんでもらう活動を実施しています。今年度は豊富温泉と市街地を結ぶ約6キロのコースづくりに向けて、モニタリングツアーを開催しました。		○	○	
14	サロベツ自然語講座	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	平成19年度より継続して実施している自然語講座の活動を本年度も実施します。この講座のねらいは多くの方に、サロベツ原野の自然や歴史を身近に感じてもらおうと企画したものです。6月～11月までの期間において、異なるテーマを基にサロベツの自然の面白さを受講者の皆さまと学んでいく予定です。		○		○
15	「サロベツ人気UP作戦」	オバパワー倶楽部（疋田英子＆村山良子）	サロベツが好きな人、サロベツをもっと知りたい人、サロベツを通りかかった人…つまり誰でも参加OK！な自然観察の活動企画です。		○	○	○
16	サハリンへの風に乗れ！ ワシの渡り観察会	稚内自然保護官事務所	冬の間サロベツ原野を生息場所にしているワシたちが3月下旬から4月上旬にかけて宗谷岬からサハリンに向けて渡りをする様子を見る観察会を開く。サロベツ原野を含め、宗谷地方の自然がどれだけ豊かかを参加者に実感してもらう。		○		
17	サロベツ動物折り紙博物館	かせいじん	サロベツ原野に生息する様々な動物をモチーフとして創作折り紙を開発し、折り紙の背景にサロベツ原野の風景画、あるいは風景写真を合わせてジオラマチックに展示する。また、モチーフとなった動物の生態に詳しい地域の方に解説やサロベツの自然への想いを添えてもらう。		○		
18	サロベツに集まり自由に語り合いましょう	サロベツ学会会長 稲垣 紘順	サロベツが好きな人が年に1～2度集まり自由に自分の意見を述べ、アイデアを話し合いましょう。サロベツの研究調査の実施発表		○		
19	サロベツ・プチ自然観察会	稚内自然保護官事務所	年に数回、豊富町サロベツ原生花園自然教室において、サロベツ原野の草花の自然観察及び湿原の自然史などの解説を行う観察会を実施します。		○		

※活動名称、実施者、活動概要については、サロベツ・エコモー・プロジェクトのHPより引用。

サロベツ・エコモー・プロジェクト活動一覧（平成20年～平成23年）

No.	活動名称	実施者	活動概要	実施状況			
				平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
20	坂の下自然観察会	稚内自然保護官事務所	稚内市坂の下はサロベツ原野と近接する海岸砂丘帯の北側である。ここにおいて、海岸砂丘の自然観察及び漂着ごみや車両乗り入れによる植生荒廃について観察会を開き、参加者の人たちにサロベツ原野とその周辺の自然について理解を深めてもらう。		○		
21	サロベツ自然語講座＆宗谷支庁外来種防除研修会	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク・稚内自然保護官事務所・宗谷支庁環境生活課	現在、サロベツ原野で生息が確認され、生態系への影響が懸念されている外来種をテーマとし、一般住民、パークボランティア、NPO会員などを対象に、その防除法や実際どのような影響があるのかについて講義・野外活動を通した研修会を行う。		○		
22	サロベツサブレンジャー	北海道大学植物同好会 ※稚内自然保護官事務所（H21）	活動場所：サロベツ湿原センター 活動人数：大学生8人　高校生8人 北大植物同好会では以前より、毎年夏休みを利用してサロベツでサブレンジャー活動を行っています。今までは観光客向けの自然解説やビジターセンターでの展示物作成・清掃などを中心に活動してきましたが、今年からはビジターセンターの移転ということもあり、外来種駆除や木道維持活動などの機会が増え、今までとはまた違ったサブレンジャーの活動となりました。		○		○
23	木道ナイトハイク	稚内自然保護官事務所 ※利尻礼文サロベツPVの会、幌延町教育委員会（H23）	・参加者数71名（一般：61名、環境省：4名、パークボランティア：4名、幌延町教育委員会：2名） ・内容：法昌寺での夜の野鳥の鳴き声やホタルについてレクチャーと、パンケ沼の木道・小沼周辺で夕刻に鳴く野鳥やヘイケボタル、星空の観察を行いました。		○		○
24	秋の渡り鳥観察会	稚内自然保護官事務所 北海道野鳥の会道北支部 ※利尻礼文サロベツPVの会（H23）	・参加者数25名（一般：16名、環境省：2名、パークボランティア：2名、野鳥の会兼パークボランティア：3名、野鳥の会：2名） ・内容：スタッフの自己紹介とサロベツ原野に訪れる秋の渡り鳥について事前レクチャーをしました。その後牧草地帯へ移動し、採餌・休憩中のオオヒシクイやマガンなどの群れを観察しました。また、オオヒシクイのぬいぐるみによる重さ体験なども行いました。		○		○
25	空から眺めるサロベツの自然	NPO法人EnVision環境保全事務所	・大判空中写真の展示大判空中写真を展示し、サロベツの広さを実感してもらう。（自分の家を探そう、サロベツの瞳を探そう、牧草ロールを数えてみようなど） ・3Dで飛ぶサロベツ湿原デモ（サロベツ湿原の上空を3Dソフトを使って飛んでもらう） ・サロベツ湿原クイズ（サロベツ湿原に関するクイズを出題）		○		
26	ポニーの幌馬車・馬橇	東條信雄・恵太	夏は幌馬車、冬は馬ソリの体験乗車を行い、好評だった。 ・豊富温泉雪あかり　50人 ・遠別農業高校学校祭　100人 ・ホッキ祭り　170人			○	○
27	サロベツ花札をつくろう	まっちゃん	豊富町民文化祭会場（豊富町民センター）にて展示・実演町民文化祭で展示し、来場された方に遊んでいただいた。			○	○
28	世界湿地の日記念イベント雪のサロベツ原野を歩こう！	サロベツネイチャーゲームの会・環境省稚内自然保護官事務所	雪の原野をスキーで歩き冬のエベコロベツ川を見学。 室内では湿地の日のテーマのもとネイチャーゲームを楽しむ。 サロベツ湿原、泥炭に関するDVDを鑑賞し学びを深める。 昼食はエゾシカ肉カレー 。			○	
29	サロベツ水族館、サロベツ動物園に行こう	法昌寺とんこり堂・法昌寺日曜学校	サロベツ原野にある防風林の中で冬芽や樹木の形、雲の形などを動物や魚などに見立てて楽しみました。			○	
30	サロベツ学会 平成22年度役員会・総会	サロベツ学会	平成21年度事業報告・会計報告、平成22年度事業計画・予算案など。			○	
31	サロベツ学会主催市民参加型湿原保全活動（チームサロベツ）	サロベツ学会	サロベツ学会が主催し、北海道新聞野生生物基金の援助をえて、一般市民と協力のもと、サロベツ湿原保全活動を実施した。活動地域はNPO 法人北海道水文気候研究所が調査を開始したサロベツ湿原西部湿地溝発達域である。 参加者は札幌からのボランティア18名と地元から1名、サロベツ学会会員6名の合計25名で、7月3日午後、二人一組で地下水位測定と記帳を行い予定通り66本の地下水位観測を終了した。翌4日午前は雅峡内砂丘林内のウォーキングを行った。 札幌からの移動には野生生物基金でバスをチャーターし、参加費12,000 円で宿泊費・食費・サロベツ名産品の土産代にあてた。			○	
32	ほとり交流	とんこり堂 稲垣順子	パンケ沼のほとりで一芸を持ち寄り交流しました。			○	
33	サロベツの真ん中の音楽祭～さよならビジターセンター 今までありがとう～	主催：北大サブレンジャー有志、環境省 共催：NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク 協力：豊富町	地域の方々やサロベツにゆかりのある方を招いて、サロベツ原野の真ん中で音楽祭を開催ました。			○	
34	外来種からサロベツを守ろう！	NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク ※利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会、北大植物同好会（H22）	原生の自然が残るサロベツ原野にも、現在では多くの外来種が侵入してきています。代表的な外来種としては、植物ではオオハンゴウソウ、哺乳類ではアライグマやアメリカミンク、昆虫ではセイヨウオオハナマルバチが確認されています。この活動では、サロベツから少しでも外来種を減らすことを目標に、国立公園の各所で外来種除去作業を行っています。			○	○

サロベツ・エコモー・プロジェクト活動一覧（平成20年～平成23年）

No.	活動名称	実施者	活動概要	実施状況			
				平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
35	稚咲内砂丘林に樹木を取り戻そう	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク 豊富町・稚咲内町内会・宗谷総合振興局 環境省稚内自然保護官事務所	国立公園内の特別保護地区の森林において、無立木地化した約3haの森林再生に向けて、現砂丘林地帯と同植生のミズナラ・イタヤカエデの苗木を育て、今後20年間で13,000本を植樹するプロジェクトです。			○	○
36	探してみよう！サロベツの不思議な地形	NPO 法人 EnVision 環境保全事務所	サロベツは、地上から見ることは出来ませんが、上空から見ると自然や人間が刻んだ不思議な地形が数多く残っています。これらの不思議な地形を、大きな空中写真を使って探しました。またこれら地形のヒントとしてA3 版の地形写真集を試作しました。			○	
37	アイヌ文様の刺繍に挑戦！	オバパワ―倶楽部	冬だからこそ、みんなでサロベツに集まってお茶でも飲みながら、ゆっくりのんびり過ごしましょう。今回は、ちょっと文化的にアイヌ文様の刺繍にも挑戦！				○
38	顔出しパネル作成	JA北宗谷青年部	基幹産業である酪農を広め、牛乳消費拡大をPRするため、酪農や豊富サロベツに関するイラストを描いたパネルを作成し、観光客の記念に残るような顔出しパネルとする。				○
39	わが町再発見！遊覧ヘリ・係留気球で空の旅	サロベツ保全推進協議会	豊富・幌延両町民を対象とした無料のヘリコプター・係留気球の搭乗会を開催致します。遊覧ヘリ飛行は、豊富町のヘリポートからサロベツ湿原の外周を回り、海岸砂丘林を見ながら幌延町パンケ沼の上空を経由し、ヘリポートに戻る飛行ルートを予定しております。係留気球は、サロベツ川沿いの牧草地からペンケ沼や、日本一の浮島である「瞳沼」を30m上空より眺めていただくことで、サロベツの雄大な自然の素晴らしさを感じいていただきます。				○
40	サロベツ縄文人の見た風景	ノプの会	湿原の成り立ちに縄文海進関係しているといわれています。サロベツの古代人はどのような風景を見ていたのでしょう。早速、サロベツの古代へと出発！				○
41	サロベツの歌巡り	ノプの会	「ああ草千里」をはじめとし、最近では鳥羽一郎さんの「サロベツ原野」など、サロベツをテーマとした歌がいくつかある。それらを鑑賞し、今日に込められた思いを考え歌ってみる。				○
42	泥炭地での酪農の取り組みを探る	サロベツの今を見直す100の声の会	戦後入植以来、農家、関係機関、研究者などの絶え間ない努力により、かつての不毛の土地・サロベツ原野は有数の酪農地帯へと変わった。その歴史の証言を聞き取り、現地を見学し、これからのサロベツ酪農のあり方を一緒に探る。				○
43	サロベツ原野であそぼ！	とんこり堂・法昌寺日曜学校　稲垣順子	・法昌寺からリヤカーを使いサロベツ原野へ移動 ・環境ゲームやクイズ、ジェスチャーなどで遊ぶ ・参加人数～14名（小学生10名、スタッフ4名） ・広報　～　会員へは葉書郵送　WEB　口コミ ・協力者　～　1名有				○
44	見つけよう！湿原に咲く花・虫・鳥	幌延町立中央保育所 吉原京子	6/11～30日の事前研修 ・身近な自然の楽しみ方や子どもたちに興味や関心を持たせるポイントなどを学ぶ ・参加者7名 6/30～中央保育所4および5歳児40名　職員7名 ・周りに関心が向くよう、職員が子どもたちにその都度植物や周りの様子について伝えながら遊歩道を歩く。また、水鳥や虫などを見つけ、喜んで報告しあう。 ・展望台に上り、散策した長沼周辺の全体を見て、雄大さを実感する。				○
45	サロベツ学会　平成23年度総会および報告会、野鳥観察会	サロベツ学会	総　会：参加者12名（委任状3名） 広報方法：Eメールおよび書簡 審議内容：平成22年度事業報告・会計報告、平成23年度事業計画・予算案など 活動報告会： 1）地域ボランティアの活動状況について　　稲垣順子 2）インドネシアの湿原の子供たちとの交流について　高橋英紀 野鳥観察会：下沼から豊富にかけての牧草地で羽を休め、餌をついばむオオヒシクイを観察				○
46	サロベツ学会主催市民参加型湿原保全活動（チームサロベツ）	サロベツ学会	サロベツ学会が主催し、一般市民と協力のもと、サロベツ湿原保全活動を実施した。活動地域はNPO法人北海道水文気候研究所が調査を開始したサロベツ湿原西部湿地溝発達域である。サロベツ学会会員8名と稚内自然保護管事務所から1名の合計9名である。10月8日午前、二人一組で地下水位測定と記帳を行い予定通り66本の地下水位観測を終了した。参加者：9名 広報方法：Eメールおよび書簡 協力者：サロベツ学会会員				○
活動数合計				9	19	15	22

※は共催者を示す。（ ）は実施年を示す。

サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者一覧（平成20年～平成23年）

No.	実施者 活動団体	主な活動名称	実施状況			
			平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
1	橘 治国	環境の日一全国一斉河川水質調査	○			
2	サロベツ学び舎天北塾	サロベツを学び発信しよう	○			
3	稚内開発建設部農業開発課	上サロベツ農業情報マップ 上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展	○	○	○	○
4	豊富町	上サロベツ農業情報マップ 上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展 スノーシュー観察会 サロベツの真ん中の音楽祭～さよならビジターセンター 今までありがとう～ 稚咲内砂丘林に樹木を取り戻そう	○		○	
5	環境省稚内自然保護官事務所	サロベツを守り育てる活動プジェクト・ニックネーム募集 スノーシュー観察会 サハリンへの風に乗れ！ ワシの渡り観察会 サロベツ・プチ自然観察会 坂の下自然観察会 サロベツ自然語講座＆宗谷支庁外来種防除研修会 サロベツサブレンジャー 木道ナイトハイク 秋の渡り鳥観察会 世界湿地の日記念イベント雪のサロベツ原野を歩こう！ 稚咲内砂丘林に樹木を取り戻そう サロベツの真ん中の音楽祭～さよならビジターセンター 今までありがとう～	○	○	○	○
6	利尻礼文サロベツPVの会	木道ナイトハイク 秋の渡り鳥観察会 外来種からサロベツを守ろう！			○	○
7	北海道野鳥の会道北支部	秋の渡り鳥観察会		○		○
8	幌延町教育委員会	木道ナイトハイク				○
9	サロベツの今を見直す100の声の会	伝えていこう湿原の記憶 未来につなげるサロベツの農地・湿地 泥炭地での酪農の取り組みを探る	○			○
10	宗谷支庁（環境生活課） 宗谷総合振興局	スノーシュー観察会 サロベツ自然語講座＆宗谷支庁外来種防除研修会 稚咲内砂丘林に樹木を取り戻そう	○	○	○	
11	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	サロベツの昔話を聞こう！ フットパスルートを作ろう歩こう サロベツ自然語講座 サロベツ自然語講座＆宗谷支庁外来種防除研修会 サロベツの真ん中の音楽祭～さよならビジターセンター 今までありがとう～ 外来種からサロベツを守ろう！ 稚咲内砂丘林に樹木を取り戻そう 稚咲内砂丘林再生プロジェクト	○	○	○	○
12	稚咲内町内会	稚咲内砂丘林に樹木を取り戻そう			○	
13	みさたろとゆかいな仲間たち	チーム☆エコも～太 押忍！我ら豊富町『カレー部』！！ 見て楽しむサロベツツアー		○		○
14	サロベツクッキングクラブ	押忍！我ら豊富町『カレー部』！！				○
15	オバパワー倶楽部（疋田英子＆村山良子）	「サロベツ人気UP作戦」 アイヌ文様の刺繍に挑戦！		○	○	○
16	サロベツ学会 （稲垣 紘順、高橋英紀ほか）	「サロベツ学会」の結成 サロベツに集まり自由に語り合いましょう サロベツ学会 平成22年度役員会・総会 サロベツ学会主催市民参加型湿原保全活動（チームサロベツ） サロベツ学　平成23年度総会および報告会、野鳥観察会	○	○	○	○
17	法昌寺とんこり堂	サロベツ水族館、サロベツ動物園に行こう ほとり交流 サロベツ原野であそぼ！			○	○

サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者一覧（平成20年～平成23年）

No.	実施者 活動団体	主な活動名称	実施状況			
			平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
18	かせいじん	サロベツ動物折り紙博物館		○		
19	北海道大学植物同好会	サロベツサブレンジャー 外来種からサロベツを守ろう！		○	○	○
20	北大サブレンジャー有志	サロベツの真ん中の音楽祭～さよならビジターセンター 今までありがとう～			○	
21	NPO法人EnVision環境保全事務所	空から眺めるサロベツの自然 探してみよう！サロベツの不思議な地形		○	○	
22	東條信雄・恵太	ポニーの幌馬車・馬橇			○	○
23	まっちゃん	サロベツ花札をつくろう			○	○
24	サロベツネイチャーゲームの会	世界湿地の日記念イベント雪のサロベツ原野を歩こう！			○	
25	JA北宗谷青年部	顔出しパネル作成				○
26	サロベツ保全推進協議会	わが町再発見！遊覧ヘリ・係留気球で空の旅				○
27	ノプの会	サロベツ縄文人の見た風景 サロベツの歌巡り				○
28	幌延町立中央保育所（吉原京子）	見つけよう！湿原に咲く花・虫・鳥				○
活動団体数合計			9	11	16	19

資料7

普及活動支援ワーキンググループについて

構成員の変遷（第1期～第3期）

	No.	氏名又は団体名（敬称略）	参加状況		
			第1期	第2期	第3期
個人	1	鈴木　秀紀	○		
	2	高橋　英紀	○	○	○
	3	田中　美佐保	○	○	○
	4	村元　正己	○	○	○
	5	伊藤　輝之		○	
	6	進藤　哲		○	
	7	西島 今朝悟		○	○
	8	谷垣　　重遠			○
	9	山形　　雅弘			○
団体	10	アグリサポート宗谷	○	○	
	11	株式会社　日興ジオテック	○	○	○
	12	NPO法人　EnVision環境保全事務所	○	○	○
	13	NPO法人　サロベツ・エコ・ネットワーク	○	○	○
	14	豊富町商工会青年部	○	○	
	15	利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会	○	○	○
	16	とんこり堂		○	
関係行政機関	17	国土交通省　北海道開発局　稚内開発建設部	○	○	○
	18	環境省　北海道地方環境事務所　稚内自然保護官事務所	○	○	○
	19	林野庁　北海道森林管理局　宗谷森林管理署	○	○	○
	20	北海道　宗谷総合振興局稚内建設管理部	○	○	
	21	北海道　宗谷総合振興局　保健環境部	○	○	○
	22	豊富町	○	○	○

普及活動支援ワーキンググループ開催履歴

回　数	開催時期	討議等の内容
第 1 回	平成 19 年 8 月 2 日	・代表（田中美佐保氏）・副代表（村元正己氏）の選出 ・普及活動支援に向けた討議 ・日欧共同ワークショップ＆シンポジウムについて討議
第 2 回	平成 19 年 8 月 21 日	・普及活動支援に向けた既存活動の情報収集 ・活動メニュー募集に際して基準づくり等について討議 ・日欧共同ワークショップ＆シンポジウムへの支援について討議
第 3 回	平成 19 年 9 月 7 日	・普及活動支援に向けた既存活動の情報収集 ・活動メニューリスト作成のための作業フローとスケジュール、活動メニューの公募および広報について討議 ・日欧共同ワークショップ＆シンポジウムへの支援について討議
第 4 回	平成 19 年 9 月 18 日	・普及活動支援に向けた既存活動の情報収集 ・活動メニューリスト作成のフロー、公募、広報等について討議 ・日欧共同ワークショップ＆シンポジウムへの支援について討議
第 5 回	平成 19 年 11 月 2 日	・普及活動支援に向けた活動メニューリスト作成に際し、作業スケジュール、広報用チラシ等について討議
第 6 回	平成 19 年 11 月 26 日	・普及活動支援に向けた広報用チラシ、活動の公開方法、普及部会への活動報告等について討議
第 7 回	平成 19 年 12 月 21 日	・普及部会の報告 ・普及活動支援に向けた活動メニューリストの公開、活動参加者の募集等について討議
第 8 回	平成 20 年 1 月 10 日	・普及活動への応募状況の報告 ・活動実施者の募集に向けて公募チラシ作成作業の進め方と役割分担等について討議
第 9 回	平成 20 年 1 月 31 日	・普及活動の応募状況報告 ・活動の開始から報告のとりまとめまでの作業フロー、支援WGとしての支援のあり方について討議 ・活動実施者募集のためのチラシについて討議 ・研修会の開催について討議
第 10 回	平成 20 年 2 月 12 日	・普及活動メニューリストの作成について応募アイデアの精査、メニューリスト案について討議 ・活動実施者の募集について広報活動結果の報告、募集チラシ案等について討議 ・活動の開始から報告のとりまとめまでの作業フロー、支援WGとしての支援のあり方について討議 ・研修会開催要項の改訂案について討議
第 11 回	平成 20 年 2 月 26 日	・普及活動の開始と支援WGの支援について討議 ・活動実施者の募集について広報の進め方の確認 ・支援WGとしての支援のあり方について討議 ・研修会開催要項の改訂案について討議

回　数	開催時期	討議等の内容
第 12 回	平成 20 年 3 月 18 日	・普及活動実施者の応募状況について報告、追加応募の取り扱いについて討議 ・活動の開始に際した応募者への通知ついて討議 ・各メンバーの可能な支援について討議
第 13 回	平成 20 年 3 月 26 日	・普及活動の募集結果、実施者からの質問事項、広報の実施状況について報告、追加応募の取り扱いについて討議 ・活動実施者への通知と説明書について討議 ・支援のあり方と支援リストの作成について討議
第 14 回	平成 20 年 4 月 24 日	・各普及活動の企画書、計画書について報告と討議 ・支援のあり方と支援リストの作成について討議
第 15 回	平成 20 年 5 月 20 日	・各普及活動の企画書・計画書の提出状況等について報告と討議 ・活動提案者へのお知らせ、支援のあり方と支援リストの作成について討議
第 16 回	平成 20 年 11 月 14 日	・各普及活動の実施状況について担当窓口、実施者からの報告 ・活動のとりまとめ方法について討議 ・支援体制及び活動について、メニューリストの作成、実施者の募集、支援方法、個々の対応、全体の流れという観点から討議
第 17 回	平成 20 年 11 月 28 日	・活動実施状況の整理、活動の成果の確認 ・活動の評価と時期の改善方針について確認
第 18 回	平成 20 年 12 月 16 日	・普及部会での報告内容について確認 ・次期活動の具体的な進め方について活動アイデア及び活動実施者の募集、活動支援のしくみ、今期アイデアの取扱い等の討議 ・活動メニューリストの公開と活動参加者の募集について討議 ・ニックネームの選考について討議
第 19 回	平成 21 年 1 月 28 日	・普及活動募集チラシについて討議 ・活動実施説明書について討議 ・研修会について実施計画案の説明、講演会の内容に関する討議
第 20 回	平成 21 年 2 月 12 日	・活動募集広報の方法について討議 ・活動募集チラシの入稿日程、印刷、配布、web 掲載等について討議 ・活動のてびきの記載内容等について討議 ・研修会の日程、内容等について討議
第 21 回	平成 21 年 3 月 16 日	・活動・アイデアの募集について討議 ・普及活動支援 WG のメンバー募集について討議
第 22 回	平成 21 年 4 月 28 日	・代表（田中美佐保氏）、副代表（村元正己氏）の選出 ・平成 21 年度普及活動の募集状況と活動の受付・受付後の対応について討議 ・構成員の連絡体制について討議
第 23 回	平成 21 年 5 月 26 日	・ワーキンググループの経緯・役割についての説明 ・ワーキンググループの今後の支援活動について討議

回　数	開催時期	討議などの内容
第 24 回	平成 21 年 8 月 25 日	・今後のワーキンググループの進め方について討議 ・活動団体の実施状況の確認 ・メーリングリスト作成における、登録アドレスの確認
第 25 回	平成 21 年 10 月 5 日	・活動実施状況の確認 ・現地ワーキングの企画について討議 ・研修会の企画について討議 ・釧路湿原フィールドワークショップの出欠について討議
第 26 回	平成 21 年 10 月 16 日	・現地 WG の開催 （円山地区泥炭採掘跡地と周辺の高層湿原地帯の見学）
第 27 回	平成 21 年 11 月 4 日	・11 月 28 日の研修会について討議 ・今期の活動のまとめの報告と課題点、改善案について討議
第 28 回	平成 21 年 11 月 18 日	・11 月 28 日の研修会準備内容の確認 ・2009 年普及活動の課題と来年へ向けた改善策について討議
第 29 回	平成 21 年 12 月 1 日	・サロベツ・エコモー・プロジェクト 2009 活動報告・研修会について報告 ・H21 年の取り組み評価と今後の方針について討議 ・今後のスケジュールについて討議
第 30 回	平成 22 年 1 月 12 日	・活動募集チラシ案の検討、討議 ・活動の手引き案の検討、討議 ・広報の役割分担について討議
第 31 回	平成 22 年 2 月 9 日	・ワーキンググループの年間計画と役割分担の検討
第 32 回	平成 22 年 3 月 24 日	・エコモー・プロジェクト 2010 エントリー状況と流れの確認 ・NPO 作成報告書の活用法の検討、討議 ・各役割分担の今後の取り組みの検討、討議
第 33 回	平成 22 年 4 月 28 日	・エコモー・プロジェクト 2009 パンフレットの配布について報告 ・メンバーの役割分担と年間スケジュールについて討議
第 34 回	平成 22 年 6 月 8 日	・メンバーの役割分担と年間スケジュールについて討議
第 35 回	平成 22 年 7 月 7 日	・各グループ前回内容の報告と年間スケジュールについて報告 ・各グループごとに、活動の準備・討議
第 36 回	平成 22 年 8 月 4 日	・エコモー・プロジェクト 2010 応募状況について報告 ・第 35 回普及支援 WG の各グループ打ち合わせ内容の報告 ・年間スケジュールの変更と再確認 ・各グループごとに、活動の準備・打ち合わせ
第 37 回	平成 22 年 9 月 28 日	・エコモー・プロジェクト 2010 応募状況について報告 ・第 36 回普及支援 WG の各グループ打ち合わせ内容の報告 ・エコモー・プロジェクト活動報告会開催について討議 ・町民文化祭での紹介について討議

回　数	開催時期	討議などの内容
第 38 回	平成 22 年 11 月 2 日	・エコモー・プロジェクト応募者対応と来年の活動募集について報告 ・第 36 回普及支援 WG の各グループ打ち合わせ内容と今後のスケジュールの報告 ・エコモー・プロジェクト 2010 活動報告会開催について討議
第 39 回	平成 23 年 1 月 18 日	・エコモー活動報告会の実施報告と成果・課題について討議 ・2011 年エコモー・プロジェクトの募集について討議 ・WG 運営の成果と課題について討議 ・第 3 期普及活動支援WGの募集について討議 ・エコモー活動報告集作成の検討、討議
第 40 回	平成 23 年 2 月 14 日	・学校への働きかけと打合せ状況について報告 ・2010 年ワーキンググループの活動とりまとめについて討議 ・第 3 期支援WGメンバー募集チラシについて検討、討議 ・エコモー2011 活動募集チラシの配布について討議
第 41 回	平成 23 年 6 月 28 日	・代表（田中美佐保氏）・副代表（村元正己氏）の選出 ・2011 年ワーキンググループの活動の進め方について討議 ・改訂ワーキングの募集について討議
第 42 回	平成 23 年 7 月 13 日	・エコモー活動応募状況及び HP アクセス状況について報告 ・2011年ワーキンググループの担当分担と活動の重点について討議 ・ホッキ祭りでのエコモーPR 内容及び役割分担について討議
第 43 回	平成 23 年 8 月 31 日	・ホッキ祭りでのエコモーPR 開催報告 ・2011年ワーキンググループの活動目標と担当分担について討議 ・現地 WG 及び研修会(11月合同開催)について討議 ・町民文化祭(10 月)のエコモーPR 内容について討議 ・普及行動計画の改訂についての進捗状況報告
第 44 回	平成 23 年 10 月 26 日	・普及支援 WG 行事など進捗状況について報告 ・豊富町民文化祭におけるエコモーPR について討議 ・エコモー研修会＆報告会（案）について討議 ・プレ改訂 WG の開催
第 45 回	平成 23 年 12 月予定	・町民文化祭におけるエコモーPR 開催報告 ・エコモー研修会＆報告会の開催報告と、ワークショップ内容で提出された活動案の実施について討議 ・エコモー2011 の活動成果と課題について討議

資料８

自然再生普及部会（第１回～第 11 回）について

回　数	開催時期	討議等の内容
第１回	平成 18 年 2 月 2 日	・座長、座長代理の選出
第２回	平成 18 年 5 月 22 日	・再生普及部会の進め方 ・上サロベツ及び周辺の普及活動の発表
第３回	平成 18 年 11 月 27 日	・「行動計画策定ワーキンググループ」の設置 ・上サロベツにおける普及活動について討議
第４回	平成 19 年 2 月 20 日	・自然再生普及行動計画骨子の討議
第５回	平成 19 年 5 月 17 日	・普及活動支援ワーキンググループの設置
第６回	平成 19 年 12 月 12 日	・日欧共同ワークショップ、シンポジウムの報告 ・自然再生普及活動支援ワーキンググループの報告 ・活動メニューリストの作成について討議
第７回	平成 20 年 2 月 19 日	・普及行動計画に基づく活動メニューの募集の報告 ・活動メニューリストの作成について討議 ・活動参加者の募集について討議
第８回	平成 20 年 12 月 24 日	・平成 20 年普及活動の結果報告 ・平成 21 年普及活動の進め方について討議 ・ニックネームの選考について報告
第９回	平成 21 年 3 月 18 日	・平成 20 年普及活動の結果報告 ・第２期普及活動支援ワーキンググループのメンバー募集の報告 ・「サロベツ・エコモー・プロジェクト 2009」の実施状況の報告
第 10 回	平成 21 年 12 月 15 日	・平成 21 年普及活動の結果報告 ・平成 22 年普及活動の進め方について討議
第 11 回	平成 23 年 2 月 18 日	・座長、座長代理の選出 ・平成 22 年普及活動の結果報告 ・平成 23 年普及活動の進め方について討議 ・自然再生普及行動計画の改訂について討議

資料９

上サロベツ自然再生普及行動計画(サロベツ・エコモー・プロジェクト活動を含む)に関するアンケート

平成 19 年 5 月に策定された「上サロベツ自然再生普及行動計画」は 5 年を目処に改訂されることとなっており、今年度、計画の改訂について検討するため、「上サロベツ自然再生普及行動計画」に関して課題や改善点について広く意見を聞くアンケートを実施いたします。上サロベツ自然再生事業の普及活動がより効果的に行われるようアンケートにご協力をお願いします。

なお、アンケートは三つの章に分かれていますので、ご自身に当てはまる項目についてお答えください。

第１章　サロベツ・エコモー・プロジェクトについて

問１：サロベツ・エコモー・プロジェクトに活動を登録したことがありますか？

① 今年登録した
② 過去に登録していたが、今年は登録していない
③ 登録したことがない

問２：問１で①②と回答された方にお聞きします。どのような団体の活動を登録していますか（登録していましたか）。

（活動時期と団体名をご記入下さい。活動が複数ある方はすべてお書きください。）

（活動時期：平成　　年　　月頃～現在）	団体名：
	活動名：
（活動時期：平成　　年　　月頃～現在）	団体名：
	活動名：
（活動時期：平成　　年　　月頃～ 平成　　年　　月頃まで）	団体名：
	活動名：

問３：問１で①②と回答された方にお聞きします。サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録しようと思った理由を教えてください。（複数回答可）

① サロベツの自然に興味があったから
② 自然再生に興味があったから
③ 日ごろ行っている活動への支援がほしかったから
その他

（　　）

問４：問１で①②と回答された方にお聞きします。サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録してよかったと思う点はどんなところですか？（複数回答可）

① サロベツの自然と触れ合うことができた
② いろいろな人と知り合うことができた
③ 自然再生に貢献していると実感できた
その他

（　　）

問５：問１で①②と回答された方にお聞きします。サロベツ・エコモー・プロジェクトはサロベツの自然再生に貢献していると思いますか？

① 貢献している
② 少しは貢献している
③ あまり貢献していない
④ 貢献していない
⑤ どちらともいえない

問６：問１で②と回答された方にお聞きします。今年活動を登録しなかった理由を教えてください。（複数回答可）

① 多忙で活動する時間が取れなくなった
② 活動への支援が十分でなかった
③ 自然再生に貢献している実感が持てなかった
その他

（　　）

問７：問１で①②と回答された方にお聞きします。活動を継続していくためにどのような支援、または登録したことによる効果があればよいと思いますか？（複数回答可）

① 広域広報とＨＰなどによる活動の発信
② 的確なアドバイスと情報提供
③ 人的支援
その他

（　　）

問８：問１で③と回答された方にお聞きします。サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録していない理由を教えてください（複数回答可）

① 多忙で活動する時間が取れないから
② 活動にどのような支援が得られるかわからなかったから
③ 活動への支援が十分でなかったから
④ 自然再生に貢献している感じがあまりなさそうだから
その他

（　　）

問９：来年度のエコモー活動に登録したいと思いますか？

① 登録したい
② 登録したいと思わない
③ どちらともいえない

第２章　普及活動支援ＷＧについて

（現在 支援ＷＧのメンバーの方、または、過去に支援ＷＧメンバーだった方のみお答えください。）

問 10 支援ＷＧの開催について、月１回の開催は妥当だと思いますか？

① 妥当である
② もっと増やした方がよい
③ もっと減らした方がよい

問 11：問 10 で②③と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。

（　　）

問 12：支援ＷＧは活動実施者への支援を十分にできていると思いますか？

① できている
② あまりできていない
③ できていない

問 13：問 12 で②③と回答された方にお聞きします。どのような点で支援できていないと感じますか？

（　　）

問 14：サロベツ・エコモー・プロジェクトを活性化していくために支援ＷＧとして必要なことはどのようなことだと思いますか？（複数回答可）

① 広報の充実を図る
② エコモー活動に登録し自ら積極的に活動を行う
③ サロベツ･エコモー･プロジェクトに登録することによる効果を創出する。
その他

（　　）

問 15：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによる効果としてどのようなことが必要だと思いますか？

（　　）

第３章　「上サロベツ自然再生普及行動計画」について

問 16：「上サロベツ自然再生普及行動計画」をご存知ですか？
① 知っていた
② 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
③ 知らなかった

問 17：問 16 で①②と回答された方にお聞きします。この計画が「湿原の保全」「農業の振興」「地域づくり」を達成するために必要な環境教育と住民参加の促進を目的としていることはご存知ですか？
① 知っていた
② なんとなく知っていた
③ 知らなかった

問 18：問 16 で①②と回答された方にお聞きします。また、問 15 の目的を達成するため「地域活動支援」「継続支援」「連携支援」の 3 点の支援を掲げていることはご存知ですか？
① 知っていた
② なんとなく知っていた
③ 知らなかった

問 19：「上サロベツ自然再生普及行動計画」では自然再生普及活動を進めていく上で取り組みの手掛かりとなるものを「サロベツ文化づくりのための 7 つの行動」として整理していますが、以下のうち、日ごろから実践していることはありますか？（複数回答可）
① サロベツの自然・歴史・文化を見つける⑤サロベツをＨＰなどで発信する
② サロベツについて話をする　⑥サロベツの利用ルールを作る
③ サロベツの自然や文化を楽しむ　⑦サロベツで人や団体をつなげる
④ サロベツについて学び成果をまとめる

問 20：上記以外に日ごろから取り組んでいる行動やこれから取り組むべき行動がありましたらご自由にお書きください

〔　　〕

問 21：その他、上サロベツ自然再生普及行動計画やサロベツ・エコモー・プロジェクトに関するご意見があれば、ご自由にお書きください。

〔　　〕

ご協力ありがとうございました

平成 23 年 12 月5日

様

環境省　稚内自然保護官事務所

「農業と湿原の座談会」の開催について

農業と湿原の共生に向けた上サロベツ自然再生事業の実施については、日頃より格別のご協力をいただき誠にありがとうございます。

上サロベツ自然再生事業では、自然と共生した農業の振興という地域の取り組みが、「国立公園の自然と共存するおいしくて安心な豊富牛乳、農産物」というサロベツブランドの推進につながることを目指しています。

自然再生事業を通してサロベツブランドを推進するために農家の皆様からご意見をいただきたく、以下のとおり座談会を開催します。年末のお忙しい中大変恐れ入りますが、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 日　　時　平成 23 年 12 月 23 日(金)13 時 30 分～15 時 30 分

2. 場　　所　サロベツ湿原センター　会議室

3. 進　　行　①話題提供

サロベツ湿原のワイズユース(仮)

～自然再生事業を通したサロベツブランドの推進～

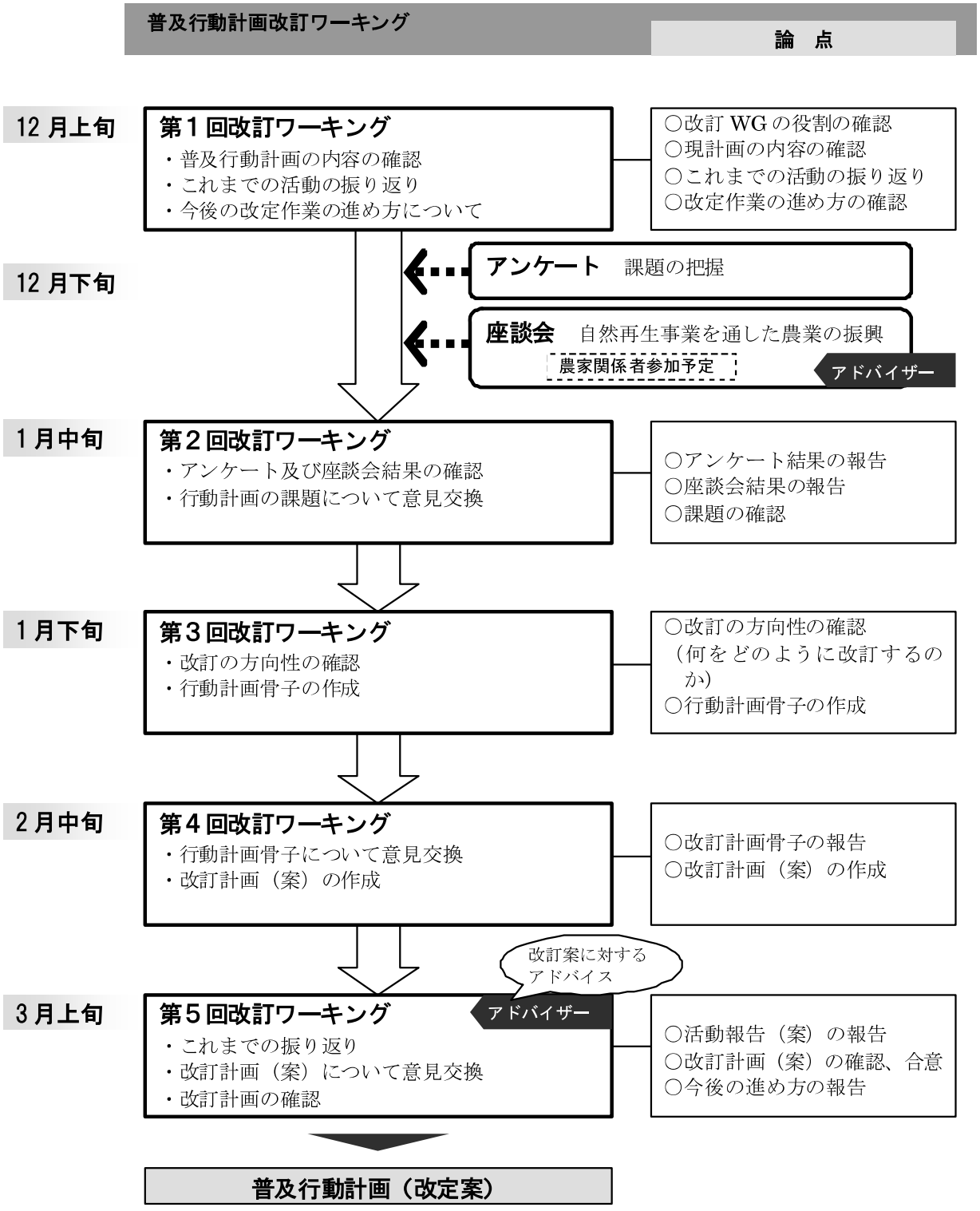
(財)北海道環境財団　辻井　達一　理事長

②意見交換

※連絡先　上サロベツ自然再生協議会 普及行動計画改訂ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ事務局
環境省稚内自然保護官事務所　中島　信人
〒097-8527　稚内市末広 5-6-1　稚内地方合同庁舎
TEL:0162-33-1100 FAX:33-1101　NOBUTO_NAKAJIMA@env.go.jp

資料 11

改訂ワーキンググループのスケジュール（案）



(2) 農業と湿原の座談会

座談会は、普及部会の座長である辻井先生から普及行動計画の改訂にあたっては農家の方々と懇談し、ご意見を聞く場を設けることが望ましいとの指摘を受け、平成 23 年 12 月 23 日にサロベツ湿原センターにて開催された。

出席者、議事次第、議事概要を以下に示す。また、WG 資料等は資料編に示す。

表-9.12 座談会出席者

所属	役職	氏名
(財) 北海道環境財団	理事長	辻井 達一
サロベツ農事連絡会議	議長	山本 寿昭
サロベツ農事連絡会議	監査	富樫 強
JA北宗谷	理事	八重沢 一男
JA北宗谷	理事	皆川 豊美
JA北宗谷青年部(豊富)	支部長	松田 賢
JA北宗谷青年部(豊富)	副支部長	小松 伸太郎
JA北宗谷女性部(豊富)	副支部長	白田 明美
JA北宗谷女性部(豊富)	副支部長	水戸部 美恵
北海道開発局 稚内開発建設部 農業開発課	課長	伊藤 定由
北海道開発局 稚内開発建設部 農業開発課	上席農業開発専門官	野地 正昭
北海道開発局 稚内開発建設部 第1工事課	課長	三田村 直樹
環境省 北海道地方環境事務所 国立公園・保全整備課	課長	廣瀬 勇二
環境省 稚内自然保護官事務所	自然保護官	中島 信人
豊富町 農政課	農村整備係長	大須賀 浩
豊富町 商工観光課	主幹	吉村 穣滋
NPO法人 ｻﾛﾍﾞﾂ・ｴｺ・ﾈｯﾄﾜｰｸ	理事	田中 美佐保





農業と湿原の座談会

平成 23 年 12 月 23 日（金）
13 時 30 分～15 時 30 分
サロベツ湿原センター

１　開会

２　出席者紹介

３　自然再生事業について

４　話題提供
『サロベツ湿原のワイズユース』

上サロベツ自然再生協議会　再生普及部会　座長
(財)北海道環境財団　辻井　達一　理事長

５　意見交換

６　閉会

農業と湿原の座談会　　議事概要

(1) 開会

・議事に先立ち、廣瀬課長より開会の挨拶を行った。

(2) 出席者紹介

・サロベツとのこれまでの関わりなどを含め、出席者全員が自己紹介を行った。

(3) 自然再生事業について

・中島自然保護官より、上サロベツ自然再生普及行動計画のうち特に農業の振興及び地域づくりに係わる箇所について説明を行った(質問なし)。

(4) 話題提供(サロベツ湿原のワイズユース:辻井理事長より)

・1950 年代からサロベツ湿原の保全に関わってきている。

・農業干拓地の自然再生事例として、イタリアの事例(コマッキオ)を紹介。

・ポー川の河口部に位置するコマッキオでは、バードウォッチングや釣り、狩猟などを楽しめる農村型リゾートとしての地域づくりが進められている。また、地場産品を扱う料理店なども多い。

・ベニスは外国人のための観光地であるのに対し、コマッキオはイタリア人のためのリゾート地として位置づけられている。

・サロベツ湿原においても食べられる植物などが多く生育しており、今後、食材として活用していくことが考えられる。

ツルコケモモ:クランベリーと呼ばれ、海外では各家庭においてソース作りに利用され、感謝祭などでは七面鳥などにかけて食す。アイヌ民族も同様にアザラシの肉などと一緒に食していたと聞いている。ビタミンCが豊富であり、世界的に共通して冬前に摂取することが多い。

マコモ:ワイルドライス(野生の米)と呼ばれ、北米では肉料理の付け合わせとして利用されており、1kg 当たり¥2,500 円程度で売買されている。最近、当別方面で栽培を始めた農家がいる。

ホロムイイチゴ:北欧などではジャムの原料として利用されており、農作物として認知されている。

エゾカンゾウ:中華料理では頻繁に利用される植物ており、しばしばメインの食材としても利用される。美味である。

ガマ:北米(インディアン)では、穂先の雄しべの花粉をたくさん集め、小麦粉と混ぜ合わせパンケーキを焼くそうである。

ウチダザリガニ:阿寒湖では食材としての利用が盛んになってきている。

・その他、昔のサロベツ湿原の写真も紹介していただいた。

(5) 意見交換

○農地と湿原の緩衝帯の利用について

・(伊藤課長)北海道開発局で進めている自然再生事業では、農家の協力の元で農地と湿原の間に 25m 幅の緩衝帯を設置しているが、今後の緩衝帯の利用方針は地元関係機関等とも協議のうえ検討中である。今回辻井先生からご紹介をいただいた緩衝帯で湿原植物を食材として栽培することについても、農用地利用計画上の問題もなく、有効な活用方法の1つだと思われるので、皆さんからの意見を伺いたい。

・(山本議長)現状での利用用途は農地となっているが、その利用方法や今後どのように管理していくかという問題がある。また、緩衝帯には圧密による止水効果を期待して、新排水路の掘削土を盛土するという工法がとられ、その効果も確認されているが、盛土の上での農地利用は難しいという課題もある。しかし、今後の利用用途については幅広く検討していただきたいと思

っている。
・（廣瀬課長）元々農地だった場所なので、緩衝帯を農地利用することについて自然公園法上の問題は生じない。
・（富樫監査）緩衝帯は元々農地であり、湿原植物が生育する適地になるか？　現状では牧草の類しか生育していないように思う。
・（辻井理事長）エゾカンゾウは園芸植物にもなっており、栽培は比較的容易である。緩衝帯の面積は把握できているので、湿原植物（エゾカンゾウ、ツルコケモモなど）の生産量を試算してみるなど、収益性などについて検討してみてはどうか？

〇湿原植物の食材利用について
・（田中理事）以前、「サロベツ湿原を食べてみよう」というイベントで、エゾカンゾウのシチューを作ったことがある。味は賛否両論であった。また、エコモープロジェクトの中では「カレー部」としてサロベツ産の食材を使用したカレーを作る活動もしている。湿原植物を採取することは難しいが、今後エゾカンゾウも使用したいと思っている。
・（辻井理事長）霧多布湿原でもエゾカンゾウを食べる特定のエゾシカの群れが確認されている。群れの中でエゾカンゾウが美味であることを学習しているようである。一方、釧路湿原ではエゾカンゾウを食べるエゾシカは確認されていない。
・（辻井理事長）ブルーベリーやクランベリーなどの湿原植物は、多くの国々において食材（ジャムなど）として利用されている。日本では米食が中心であったことから、これまであまり利用されてこなかったと思うが、米の消費減少（パン食の普及）、菓子やスィーツなどへの注目が高まってきていることから、今後、検討する価値はあると思われる。
・（伊藤課長）湿原植物の食材利用について、地元の「食文化の伝承会」などで話題になったものはないか？
・（水戸部副支部長）イタドリなどは昔から食用にしていた。エゾカンゾウでジャム作りをしている人もいるが、採取場所や作り方はなかなか教えてくれない。
・（富樫監査）コケモモは採取していい場所（国立公園外）に自生しているものなのか？
・（中島自然保護官）コケモモの酢漬けを入れたおにぎりを頂いたことがある。とても美味であったが、国立公園外で採取できる箇所は少ないと聞いている。
・（辻井理事長）来年の6月頃、エゾカンゾウの花の咲く頃に、花や蕾をみんなで食べてみてはどうか？（採取可能な場所のものを対象として）
・（八重沢理事）農家は繁忙期となるので、事前に日程調整が必要となる。

〇これまでの活動について
・（吉村主幹）JA北宗谷青年部では顔出しパネルを作成したが、反響はどうであったか？
・（松田支部長）直接的な消費拡大効果があったかはわからないが、作成過程で青年部内の連携が図れ、今後の活動のきっかけとしては良かったと思う。
・（中島自然保護官）ビジターセンターに来た中高生からは好評だった。湿原センター内には他にも豊富の農業を紹介するコーナーがあるので、このコーナーの展示の仕方についても今後、青年部の皆さんから協力をいただきたい。
・（山本議長）毎年、「上サロベツ農業情報マップ」（会場で配布）を作成し配布している。加工品の販売所や加工品作りを体験できる場所も案内しており、好評を得ている。

〇今後の活動について
・（野地専門官）湿原センターにおいて産地直売などのイベントを開催できないか？　年に 5 万

人程度の来訪者があるならば、一定の効果が期待できるのではないか。

・（吉村主幹）以前は、旧サロベツ原生花園でサロベツ花まつりを開催していたが、サロベツ湿原の静かなイメージや野生動物への影響を考え、開催場所を移した経緯がある。サロベツ湿原のイメージを壊さない内容であれば今後、検討する価値はあると思う。

・（中島自然保護官）他の国立公園においてもビジターセンター周辺でイベント、お祭りを開催している事例はある。サロベツの自然や自然再生事業の取り組みを踏まえて行われるイベントであれば、直売も含めた開催が可能だと思う。

・（山本議長）上サロベツ自然再生全体構想で掲げた 3 つの目標のうち、「湿原の保全」、「農業の振興」に関わる活動は国営総合農地防災事業が実施されることである程度進んできていると感じているが、「地域づくり」については進んでいないように思う。このような会合でいい意見も出ているが、次の具体的な取組みに繋がっていないので、今後、農家としては自治体やJAなどにも話を持ち掛け、具体策を模索したい。緩衝帯へのエゾカンゾウ栽培については、その効果確認を含めて試験を行っていくことを稚内開建とも連携して検討していきたい。

・（伊藤課長）了解した。

以上

資料１

上サロベツ自然再生全体構想・普及行動計画について

１．上サロベツ自然再生全体構想の概要

■上サロベツ自然再生の３つの目標

湿原の保全　　農業の振興　　地域づくり

農業の振興に係る目標
- 自然と共生した農業の振興という地域の取り組みが、「国立公園の自然と共存するおいしくて安心な豊富牛乳、農産物」というサロベツブランドの確立に繋がることを目指す。

地域づくりに係る目標
- 地域住民の活動と連携して、地域の自然資源等の利活用による自然とのふれあい、エコツーリズムと地域農業を活かした特産品の開発や、農村の地域生活を活かしたツアーを推進する。

■自然再生の推進に必要な事項

自然再生の推進に向けて必要な事項として、次のようなことがあげられています。

- 上サロベツ自然再生事業は、地域住民及び関係者の地道な活動によって支えられる。これらの行為に対して地域全体が協力して支え合う必要がある。

- 地域として自然再生へ持続的に取り組むには、地域産業の再生・発展のための取り組みも必要である。

- 自然環境に配慮した地域の農産物についてサロベツブランド化を図ることや、農業・酪農体験とエコツーリズムとの融合を図ることなど、自然再生への取り組みを、あらゆる場面で「特徴ある地域づくり」につなげるような工夫が必要である。

２．上サロベツ自然再生普及行動計画の概要

上サロベツ自然再生全体構想に基づき、「湿原の保全」「農業の振興」「地域づくり」の３つの目標に向けた環境教育と住民参加を促進させることを目的として、平成 19 年５月に「上サロベツ自然再生普及行動計画」が策定されました。



■普及行動計画の役割

- 地域主体の活動を支援する。
- 活動の継続を支援する。
- 活動する人・団体をつなげることを支援する。

⇒ 環境教育と住民参加の促進

■普及行動計画の改訂

策定５年目となる今年度、「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂に向けて検討を始めています。

資料２

サロベツ・エコモー・プロジェクト２０１１

ふりかえりシート（実施報告書）

記入上の注意事項

○活動の実施結果について、できるだけ具体的に記入してください。

○①～⑤の情報については、ホームページ等で公開する予定です。

項　目	内　容
①活動名（アイデア名）	顔出しパネル
②活動実施者名 （個人名・グループ名）	ＪＡ北宗谷青年部
③活動の日時・場所	作成：平成２３年４月２６日～５月６日 設置：平成２３年５月１４日　サロベツ湿原ビジターセンター
④活動内容 （活動規模、参加者数、配慮事項、広報方法、協力者の有無など）	豊富支部部員（総数５４名）により、顔出しパネルを作成 ビジターセンター内に設置 来場客の記念と、基幹産業である酪農のＰＲと牛乳の消費拡大を啓蒙する。 
⑤活動の成果や課題など	今回は設置のみだったが、今後はセンターで消費拡大授業などの取組を実施し、部員達による具体的な手応えを得る機会を設けたい

(3) 第 2 回 WG

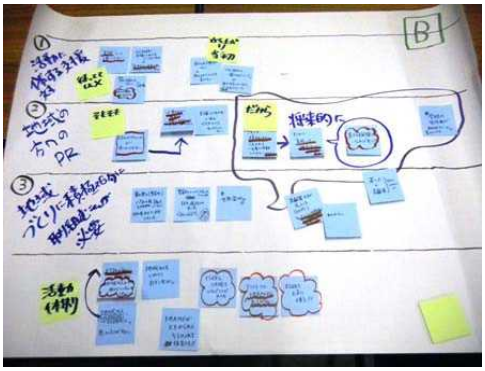
第 2 回 WG は、「普及行動計画の課題と解決策について」をテーマに、平成 24 年 1 月 13 日に豊富町民センターにて開催された。第 2 回 WG では、出来るだけ多くの参加者が発言できるように少人数のグループに分かれてワークショップ形式での討議を行った。出席者、配布資料、議事概要を以下に示す。

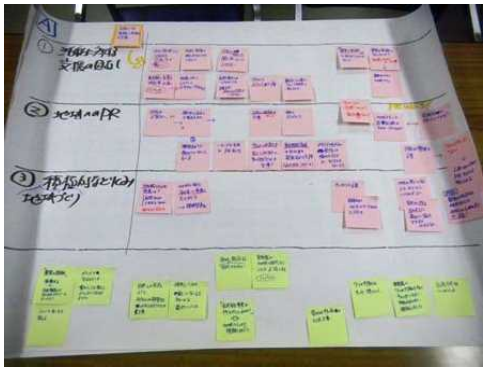
表-9.13 WS 討議の参加者

グループ	所属	出席者
A (6名)		田中　美佐保
		西島　今朝悟
		谷垣　重遠
	北海道宗谷総合振興局	後藤　茂徳
	北海道森林管理局　宗谷森林管理署	安藤　健一
	環境省稚内自然保護官事務所	中野　雄介
B (6名)		村元　正己
	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	森永　太一
	豊富町農政課	佐々木　仁
	北海道開発局稚内開発建設部	野地　正昭
	環境省稚内自然保護官事務所	永野　雄大
	環境省稚内自然保護官事務所	山上　佳祐









第 2 回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
プログラム

日　時：平成 24 年 1 月 13 日（金）13：30～15：30　（※約 2 時間）
場　所：豊富町民センター　1 階小会議室

テーマ
普及行動計画の課題と解決策について

時間	内容	配付資料
13：30～13：40 （10 分）	1. はじめに ・本日の進め方について ・前回のふりかえり ・今後の改訂 WG の進め方について	 資料 1 資料 2
13：40～14：00 （20 分）	2. アンケート及び座談会の結果報告 ・アンケートの結果について ・座談会の結果について ・普及行動計画の確認 ・普及行動計画の課題について	 資料 3 資料 4 資料 5 資料 6
14：00～15：00 （60 分）	3. グループに分かれた意見交換 普及行動計画の課題と解決策について ・グループ討議のテーマと進め方 ・意見交換	
15：00～15：15 （15 分）	4. グループごとの発表	
15：15～15：20 （5 分）	5. 全体のまとめ	

資料 1:第 1 回改訂 WG 議事概要（前項に掲載したので割愛）
資料 2:今後の改訂 WG の進め方について
資料 3:アンケート結果について
資料 4:座談会の結果について（前項に掲載したので割愛）
資料 5:普及行動計画の確認
資料 6:普及行動計画の課題ついて

第 2 回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
議事概要（案）

(1) はじめに

〇本日の進め方について

・中島自然保護官より本日の進め方について説明を行った。

〇前回のふりかえり

・第 1 回改訂 WG の概要について説明（質問なし）。

〇今後の改訂 WG の進め方について

・今後の改訂 WG の進め方及び、普及行動計画見直しに関する検討のプロセスについて説明（質問なし）。

(2) アンケート及び座談会の結果報告

〇アンケートの結果について

・「サロベツ・エコモー・プロジェクト実施者」及び「普及活動支援 WG メンバー」、「再生普及部会員」に実施した、アンケートの結果について説明。

・アンケートの結果ついて、協議会運営事務局を除く集計は可能かとの質問があった。事務局より、アンケートは無記名なので困難と回答し、了解された。

〇座談会の結果について

・昨年の 12 月 23 日に行った「農業と湿原の座談会」の結果について報告（質問なし）。

〇普及行動計画の確認

・「上サロベツ自然再生普及行動計画」の内容について確認（質問なし）。

〇普及行動計画の課題について

・アンケート及び座談会の結果から事務局で整理した普及行動計画の課題（「普及活動と自然再生のつながりがわかりにくい」、「課題①：活動に対する支援の見直しが必要」、「課題②：地域の方への活動の PR が必要」、「課題③：地域づくりに積極的に取り組むことが必要」、「普及活動支援 WG の現状の体制を踏まえた検討が必要」、「普及活動と自然再生のつながりを実感できる仕組みが必要」）について説明し、課題の着眼点や整理の方法について了解された。

・上記の「普及活動支援 WG の現状の体制を踏まえた検討が必要」について、そもそも現状の普及活動支援 WG の体制がいいのかという点まで掘り下げて検討した方がよいとの意見が出された。

・また、新たな行動計画として示す際には、行政的な表現を避け、やわらかい文言や身近な言葉を用いるなどの表現の検討が必要との意見が出された。

(3) グループに分かれた意見交換

・普及行動計画の課題と解決策について、できるだけ多くの参加者が発言していただく機会を設けるため、少人数でのグループに分かれて、普及行動計画の課題と、計画の見直しについて意見交換を行った。

※詳細は次ページに示す。

(4) グループごとの発表

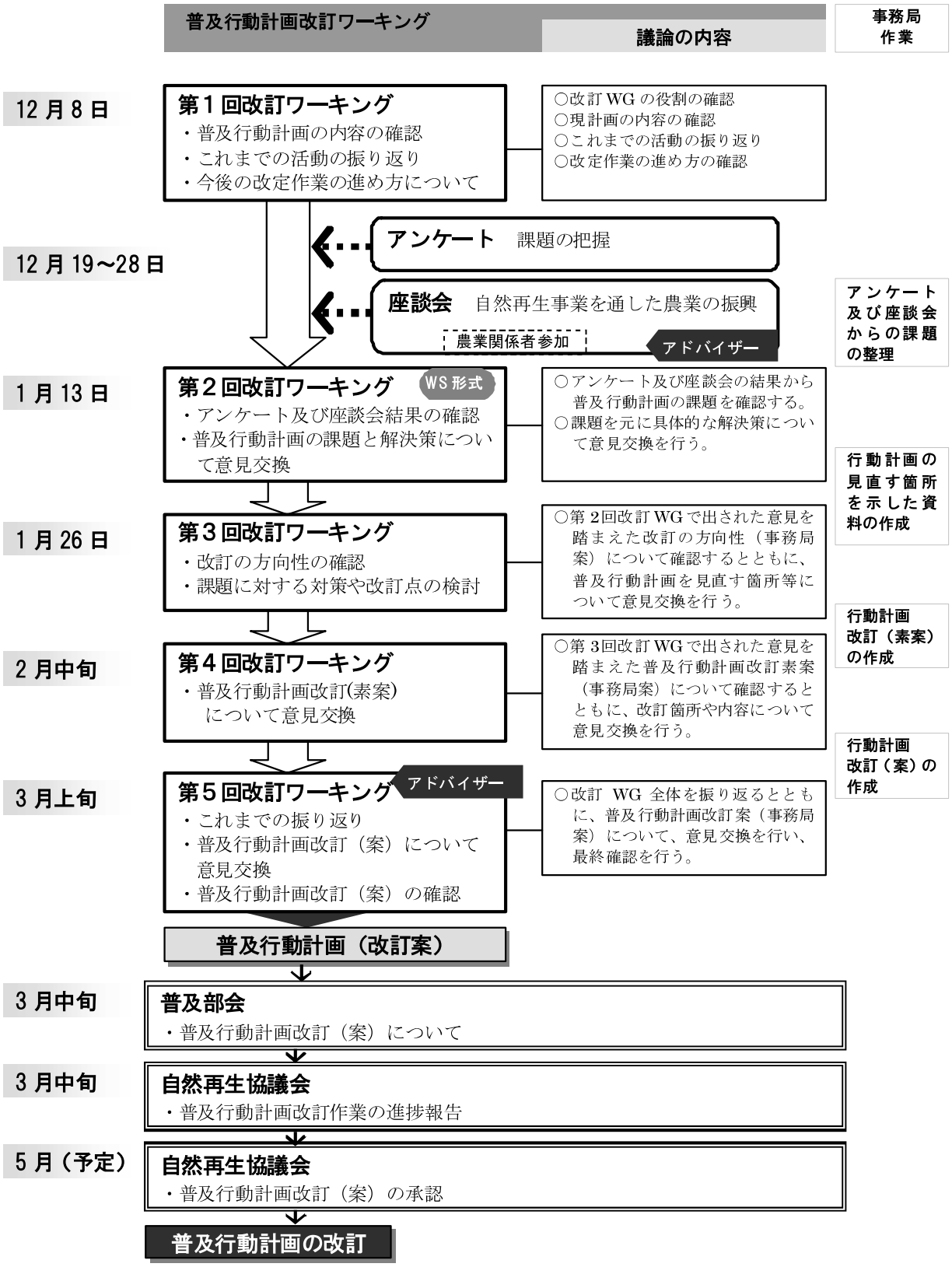
・議論終了後、グループごとの発表を行った。

(5) 全体のまとめ

・グループごとの発表を踏まえ、全体のまとめを行った。
・次回改訂 WG では今回のグループに分かれて行った意見交換を踏まえ、事務局が普及行動計画の改訂の方向性(改訂する箇所、内容)を示し、意見交換を行うこととなった。
・当初予定していた第 5 回改訂 WG ではなく、第 4 回改訂 WG にアドバイザーとして辻井座長にご出席いただくことについて説明し了解が得られた。

資料２

改訂ワーキンググループのスケジュール（見直し案）



資料3

上サロベツ自然再生普及行動計画に関するアンケート　結果

■アンケート対象者と回収率

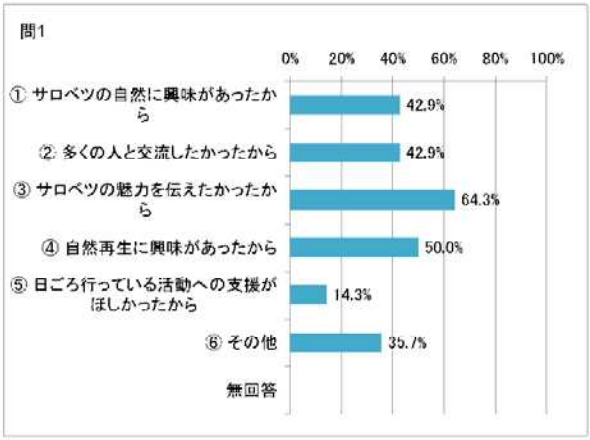
平成24年1月10日現在

対象	配布数	回答数	回収率
①サロベツ・エコモー・プロジェクト実施者	22	14	63.6%
②普及活動支援WGメンバー	22	14	63.6%
③再生普及部会員	43	27	62.8%
全体	87	55	63.2%

①サロベツ・エコモー・プロジェクト実施者アンケート結果

問1：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録しようと思った理由を教えてください。（複数回答可）

	回答数	割合
① サロベツの自然に興味があったから	6	42.9%
② 多くの人と交流したかったから	6	42.9%
③ サロベツの魅力を伝えたかったから	9	64.3%
④ 自然再生に興味があったから	7	50.0%
⑤ 日ごろ行っている活動への支援がほしかったから	2	14.3%
⑥ その他	5	35.7%
無回答	0	
回答者数	14	

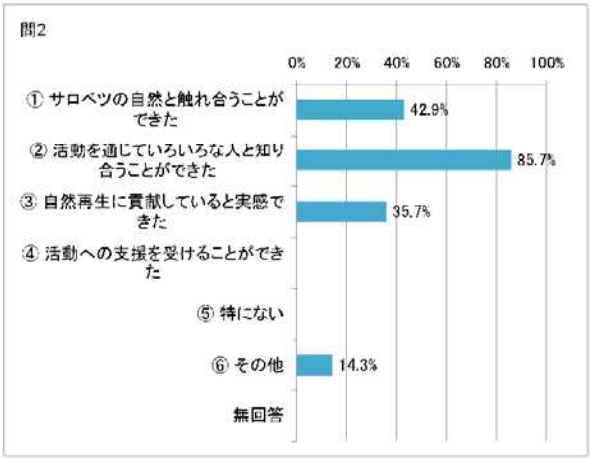


【その他の意見】

サロベツに足を運んでほしかったから。サロベツを、より印象付けたかったから。
活動を知ってほしいから
活動内容をエコモーのHPなどを通し広く知ってもらうため
支援WGの一員だったから
事務局

問2：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録してよかったと思う点はどんなところですか？（複数回答可）

	回答数	割合
① サロベツの自然と触れ合うことができ	6	42.9%
② 活動を通じていろいろな人と知り合うことができた	12	85.7%
③ 自然再生に貢献していると実感できた	5	35.7%
④ 活動への支援を受けることができた	0	
⑤ 特にない	0	
⑥ その他	2	14.3%
無回答	0	
回答者数	14	

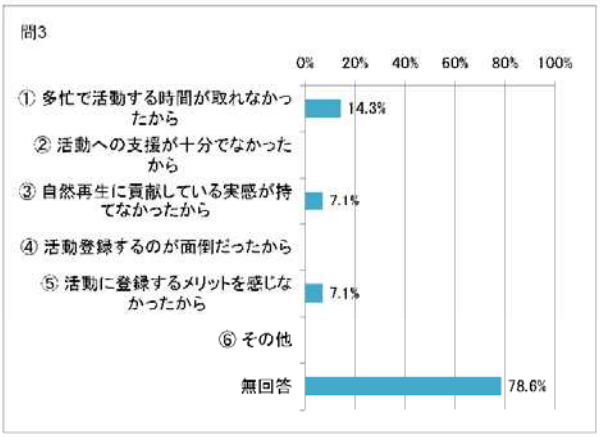


【その他の意見】

サロベツでの新たな楽しみ方を伝えることができ、発表を聞いてくださった方々から反響があったこと。サロベツに関心を持ってもらえたこと。
自分の活動を報告会で紹介することができた。

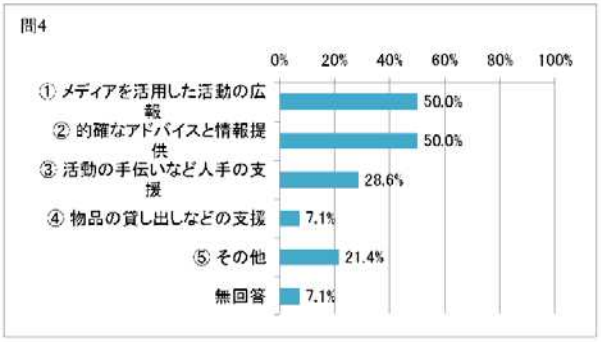
問3:今年も含め、過去に活動を登録しなかったことがある方にお聞きします。活動登録をしなかった理由を教えてください。（複数回答可）

	回答数	割合
① 多忙で活動する時間が取れなかった	2	14.3%
② 活動への支援が十分でなかったから	0	
③ 自然再生に貢献している実感が持てなかったから	1	7.1%
④ 活動登録するのが面倒だったから	0	
⑤ 活動に登録するメリットを感じなかっ	1	7.1%
⑥ その他	0	
無回答	11	78.6%
回答者数	14	



問4：活動を継続していくためにどのような支援があればよいと思いますか？（複数回答可）

	回答数	割合
① メディアを活用した活動の広報	7	50.0%
② 的確なアドバイスと情報提供	7	50.0%
③ 活動の手伝いなど人手の支援	4	28.6%
④ 物品の貸し出しなどの支援	1	7.1%
⑤ その他	3	21.4%
無回答	1	7.1%
回答者数	14	

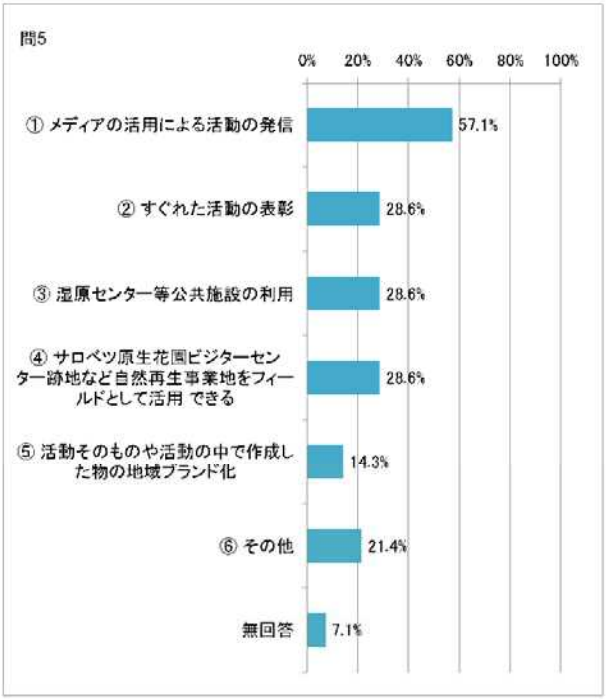


【その他の意見】

「私も登録してみよう」という気持ちにさせる仕掛けのようなものが必要。
活動の評価と社会的位置づけ
人とのつながり、つながるきっかけの場の提供

問5：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによってどのようなメリットがあればよいと思いますか？（複数回答可）

	回答数	割合
① メディアの活用による活動の発信	8	57.1%
② すぐれた活動の表彰	4	28.6%
③ 湿原センター等公共施設の利用	4	28.6%
④ サロベツ原生花園ビジターセンター跡地など自然再生事業地をフィールドとして活用 できる	4	28.6%
⑤ 活動そのものや活動の中で作成した物の地域ブランド化	2	14.3%
⑥ その他	3	21.4%
無回答	1	7.1%
回答者数	14	

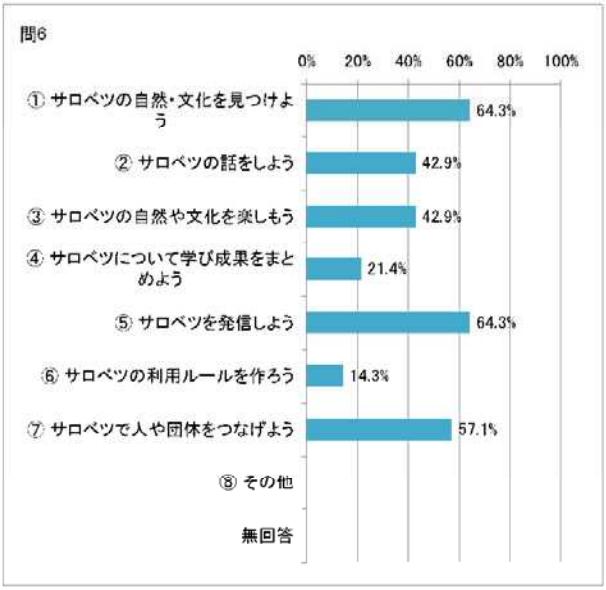


【その他の意見】

物を伝える側の質の向上と謙虚さを養うこと。そのための学びや研修ができること。
実施者自らが解るよう自然再生社会貢献表的な評価表を作成
それぞれの活動が地域活性や自然再生につながっていることを実感できるようなしくみ？場？意識づけ。

問6：「上サロベツ自然再生普及行動計画」では再生普及活動を進めていく活動として「サロベツ文化づくりのための7つの行動」を整理しています。あなたがこれまで行った活動は以下のうちどの項目に当てはまると思いますか？（複数回答可）

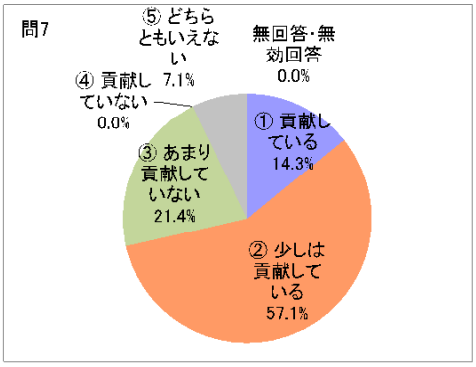
	回答数	割合
① サロベツの自然・文化を見つけよう	9	64.3%
② サロベツの話をしよう	6	42.9%
③ サロベツの自然や文化を楽しもう	6	42.9%
④ サロベツについて学び成果をまとめよ	3	21.4%
⑤ サロベツを発信しよう	9	64.3%
⑥ サロベツの利用ルールを作ろう	2	14.3%
⑦ サロベツで人や団体をつなげよう	8	57.1%
⑧ その他	0	
無回答	0	
回答者数	14	



①ｻﾛﾍﾞﾂ･ｴｺﾓｰ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実施者用集計

問7：サロベツ・エコモー・プロジェクトはサロベツの自然再生に貢献していると思いますか？

	人数	割合
① 貢献している	2	14.3%
② 少しは貢献している	8	57.1%
③ あまり貢献していない	3	21.4%
④ 貢献していない	0	
⑤ どちらともいえない	1	7.1%
無回答・無効回答	0	
合計	14	100.0%
無回答	0	
無効回答	0	



①サロベツ・エコモー・プロジェクト実施者

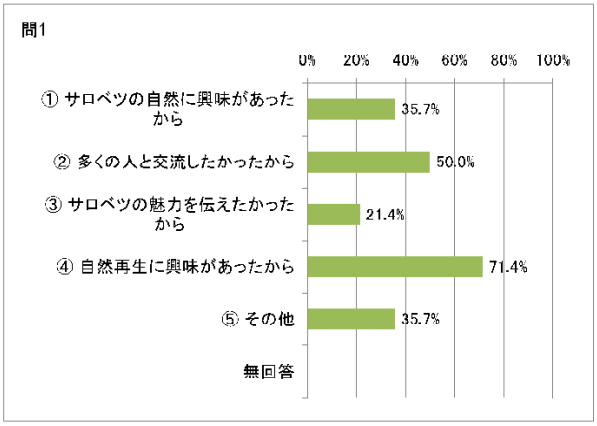
問8自由回答

エコモープロジェクトはぜひ続けていくべき。ただし、もっと気軽に参加できるようにするなり、仕組みの改善が必要（事前エントリー、活動の自動更新など）を廃止し、基本的にはやったことを報告するスタイルで良いのではないか？
当方サロベツ圏外からの応援組です。この数年、家庭の事情で参加が思うように出来ずにおり、今後も、介護生活の可能性を含み疎遠も考えられる状況です。 地方の方のさらなる熱い発信ができることが最終的な希望です。それまでどの程度お手伝いできるか不安です。
活動の指針となる評価表の作成
「エコモープロジェクト」と「自然再生」のつながりが今は、皆薄いと感じてます。別物だと思っている人が多い。 そこに何か工夫が必要と思います。

②普及活動支援 WG メンバーアンケート結果

問1：普及活動支援WGに参加した理由を教えてください。（複数回答可）

	回答数	割合
① サロベツの自然に興味があったから	5	35.7%
② 多くの人と交流したかったから	7	50.0%
③ サロベツの魅力を伝えたかったから	3	21.4%
④ 自然再生に興味があったから	10	71.4%
⑤ その他	5	35.7%
無回答	0	
回答者数	14	

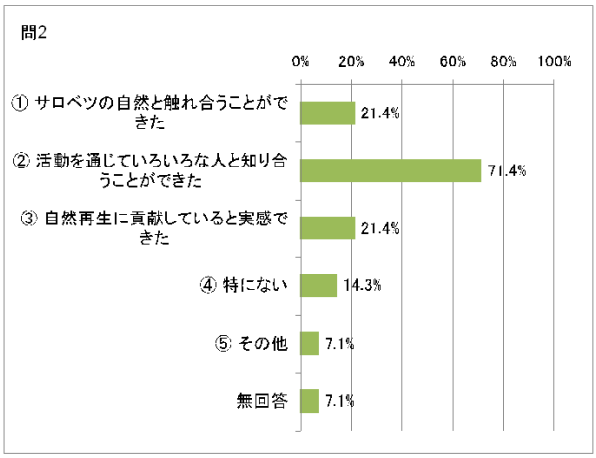


【その他の意見】

一部区域が国有林となっており、業務としての関わりがあったから。
運営事務局として、支援WGの活動を支えるため。
事務局
泥炭地を利用した酪農に対して土壌とミネラル、栽培されたものが牧草になるのだが、牛乳の栄養に関連するのではないか？
行動する必要があると思えたから。

問2：普及活動支援WGに参加してよかったと思うところはどんなところですか？（複数回答可）

	回答数	割合
① サロベツの自然と触れ合うことができ	3	21.4%
② 活動を通じていろいろな人と知り合うことができた	10	71.4%
③ 自然再生に貢献していると実感できた	3	21.4%
④ 特にない	2	14.3%
⑤ その他	1	7.1%
無回答	1	7.1%
回答者数	14	

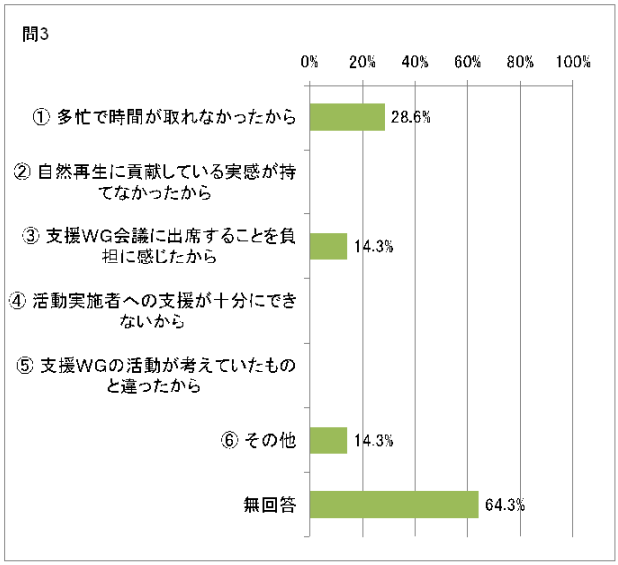


【その他の意見】

個人として小さな緩やかな解決方法を探って、知って、自然に回帰する手助けができると思ったから。
再生事業の内容を知ることができた。

問3：以前、普及活動支援WGに参加していた方にお聞きします。普及活動支援WGをお辞めになった理由を教えてください。

	回答数	割合
① 多忙で時間が取れなかったから	4	28.6%
② 自然再生に貢献している実感が持てなかったから	0	
③ 支援WG会議に出席することを負担に感じたから	2	14.3%
④ 活動実施者への支援が十分にできないから	0	
⑤ 支援WGの活動が考えていたものと違ったから	0	
⑥ その他	2	14.3%
無回答	9	64.3%
回答者数	14	

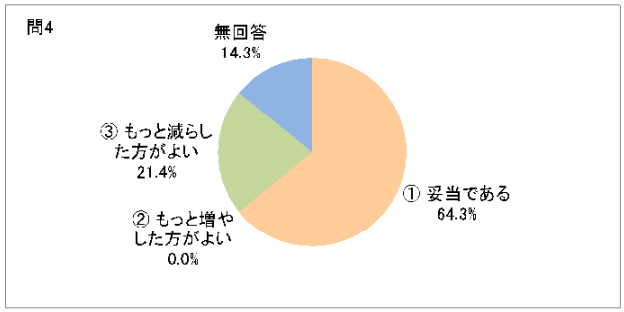


【その他の意見】

支援WGの活動の目指すところがよく分からなくなってきた。
健康上の理由です。自分の体と相談して頑張ります。

問4：普及活動支援WGの開催について、月1回の開催は妥当だと思いますか？

	人数	割合
① 妥当である	9	64.3%
② もっと増やした方がよい	0	
③ もっと減らした方がよい	3	21.4%
無回答	2	14.3%
合計	14	100.0%
無回答	2	
無効回答	0	

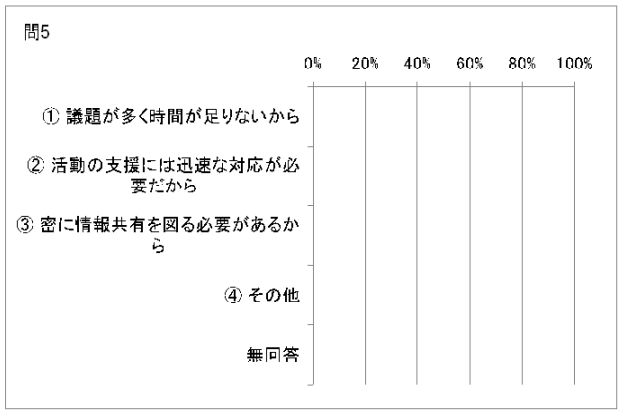


【その他の意見】

内容による。
妥当であるが、会議以外の場でいろんな作業が必要だと思います。

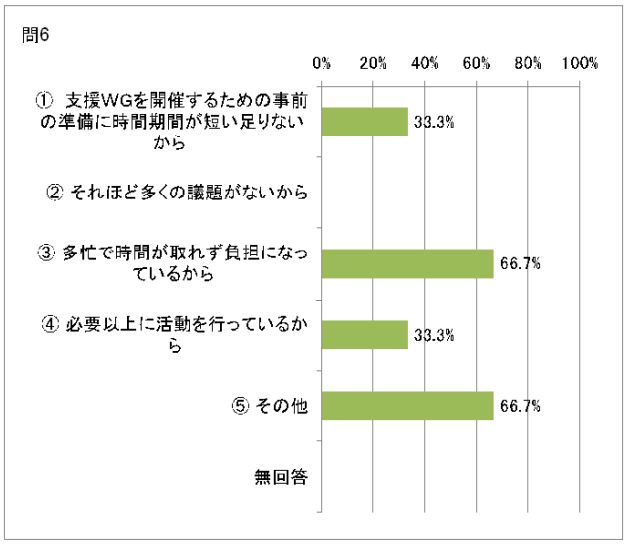
問5：問4で②と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。（複数回答可）

	回答数	割合
① 議題が多く時間が足りないから	0	
② 活動の支援には迅速な対応が必要だから	0	
③ 密に情報共有を図る必要があるから	0	
④ その他	0	
無回答	0	
回答者数	0	
該当外	14	
合計	14	



問6：問4で③と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。（複数回答可）

	回答数	割合
① 支援WGを開催するための事前の準備に時間期間が短い足りないから	1	33.3%
② それほど多くの議題がないから	0	
③ 多忙で時間が取れず負担になっているから	2	66.7%
④ 必要以上に活動を行っているから	1	33.3%
⑤ その他	2	66.7%
無回答	0	
回答者数	3	
該当外	11	
合計	14	

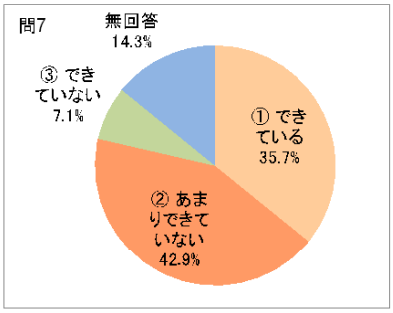


【その他の意見】

発言者がごくわずか（限られた人間）であり、参加者全員が何を思い、何を目的にしているのかよく分からない。そもそも思いがあるのかもわからなかった。感じられなかった。声の大きな人間の発言で、事が流れ、進んでいく。「巻き込まれ」感が大きかった。
一部のメンバーに負担が集中しているから

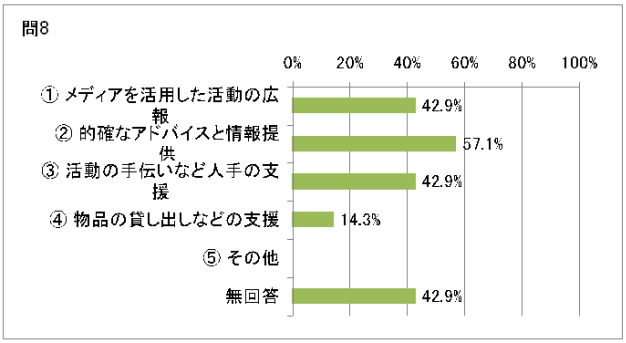
問7：普及活動支援WGは活動実施者への支援を十分にできていると思いますか？

	人数	割合
① できている	5	35.7%
② あまりできていない	6	42.9%
③ できていない	1	7.1%
無回答	2	14.3%
合計	14	100.0%
無回答	2	
無効回答	0	



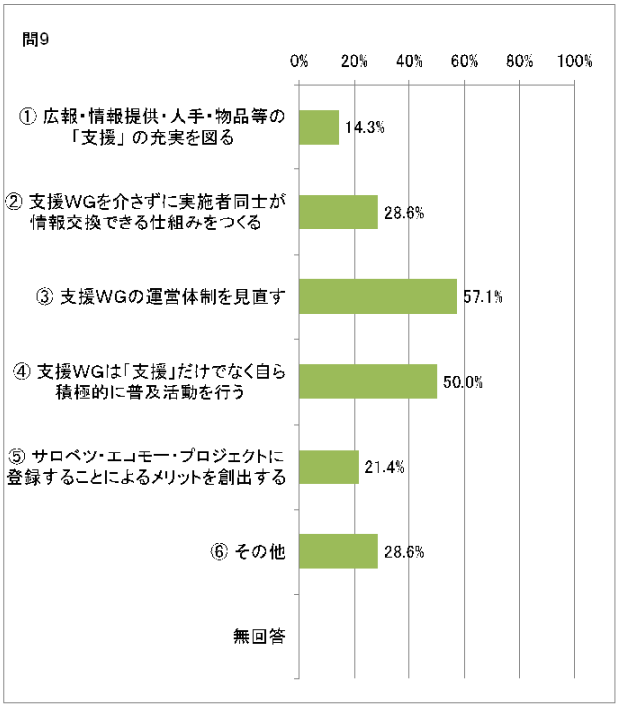
問8：問7で②③と回答された方にお聞きします。どのような点で支援できていないと感じますか？（複数回答可）

	回答数	割合
① メディアを活用した活動の広報	3	42.9%
② 的確なアドバイスと情報提供	4	57.1%
③ 活動の手伝いなど人手の支援	3	42.9%
④ 物品の貸し出しなどの支援	1	14.3%
⑤ その他	0	
無回答	3	42.9%
回答者数	7	
該当外	7	
合計	14	



問9：サロベツ・エコモー・プロジェクトを活性化していくために普及活動支援WGとして必要なことはどのようなことだと思いますか？（複数回答可）

	回答数	割合
① 広報・情報提供・人手・物品等の「支援」の充実を図る	2	14.3%
② 支援WGを介さずに実施者同士が情報交換できる仕組みをつくる	4	28.6%
③ 支援WGの運営体制を見直す	8	57.1%
④ 支援WGは「支援」だけでなく自ら積極的に普及活動を行う	7	50.0%
⑤ サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによるメリットを創出する	3	21.4%
⑥ その他	4	28.6%
無回答	0	
回答者数	14	

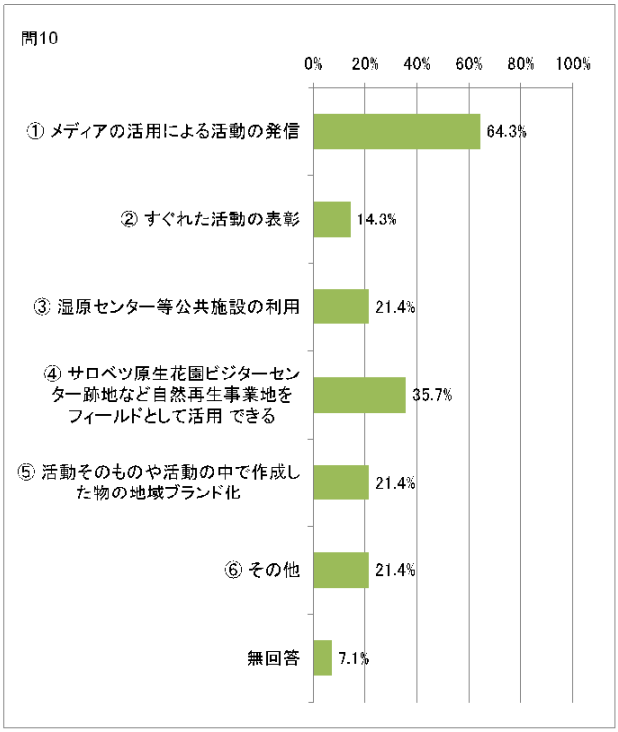


【その他の意見】

「普及活動」「支援」これはだれが主役なのか。これに限らずWGメンバーで使用する言葉の共有理解が必要だと思う。
支援WGの活動内容を見直し、目標を持って活動ができるようにする。
実施者の活動が社会的に評価されるシステムの構築
それぞれの活動が地域活性や自然再生につながっていることを実感できるようなしくみ？場？意識づけ。

問10：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによるメリットとしてどのようなことが必要だと思いますか？

	人数	割合
① メディアの活用による活動の発信	9	64.3%
② すぐれた活動の表彰	2	14.3%
③ 湿原センター等公共施設の利用	3	21.4%
④ サロベツ原生花園ビジターセンター跡地など自然再生事業地をフィールドとして活用 できる	5	35.7%
⑤ 活動そのものや活動の中で作成した物の地域ブランド化	3	21.4%
⑥ その他	3	21.4%
無回答	1	7.1%
回答者数	14	



【その他の意見】

活動が自然再生にどのように貢献しているか実感できること。
実施者の活動が自然再生に貢献していると解るよう、社会貢献表（案）的な評価表を作成する。
それぞれの活動が地域活性や自然再生につながっていることを実感できるようなしくみ？場？意識づけ。

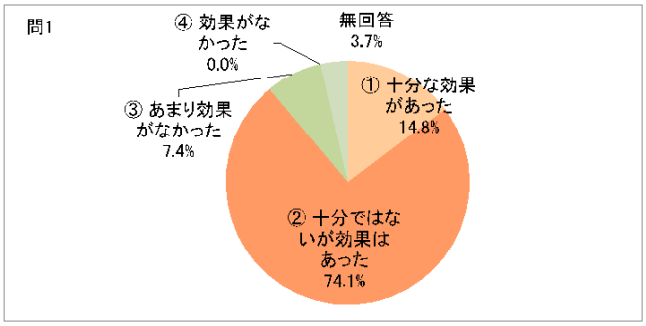
問11自由回答

WGやエコモーなどはボランティアですので、表彰などいらないと思います。
支援WGメンバーはもちろん、誰にでも分かりやすく、現実のサロベツの環境、運営体制にあった形の計画にしたほうが良い。
1．地域の方が「あたりまえ」「常識じゃないの」と分かる言葉、内容で地域の人々が自然を保護、保全しないといけないのではないか！！という、子供から大人の人達に、他の地域と違う自然環境の地区に生活し、生活をしているのだ！という地域のブランド化を言葉として表記する。 2．隣では環境破壊、紙単衣、緩衝帯を挟んで自然再生、自然保護という矛盾を含みすぎの、広場での活動。 セレモニーで終わっているのではないかという自問が常に頭を過ぎっているので、自然再生の理念を一番初めに持ってきてほしい。
エコモープロジェクトを通して活動実施者を募り、サロベツの魅力を伝える活動、実施者を結びつける普及活動支援WGは、今後ともおこなっていくべきと思う。 また、再生技術部会で協議している内容などを地域住民にもわかりやすく紹介していくことも必要だと思う。
サロベツ原野を多く持つ地域の町、村では、自然再生とその土地〈泥炭地〉を利用して作物や牛の飼料をつくるのでありますが、その部分を深く追及すると大変難しい問題です。
①普及部会の現状と課題、当面の具体的な目標を作る。②WGを支援から自主活動ができるよう、ある程度独立性を持たせる。③実施者の指針となるよう、7つの活動に評価表を作る。

②再生普及部会員アンケート結果

問1：「上サロベツ自然再生普及行動計画」は、「湿原の保全」「農業の振興」「地域づくり」の目標を達成するために必要な環境教育と住民参加を促進させることを目的に作成されました。これまで実施してきた「サロベツ・エコモー・プロジェクト」や「普及活動支援ワーキンググループ」の活動は、上記の目的の達成に向けて効果があったと思いますか？

	人数	割合
① 十分な効果があった	4	14.8%
② 十分ではないが効果はあった	20	74.1%
③ あまり効果がなかった	2	7.4%
④ 効果がなかった	0	
無回答	1	3.7%
合計	27	100.0%
無回答	1	
無効回答	0	

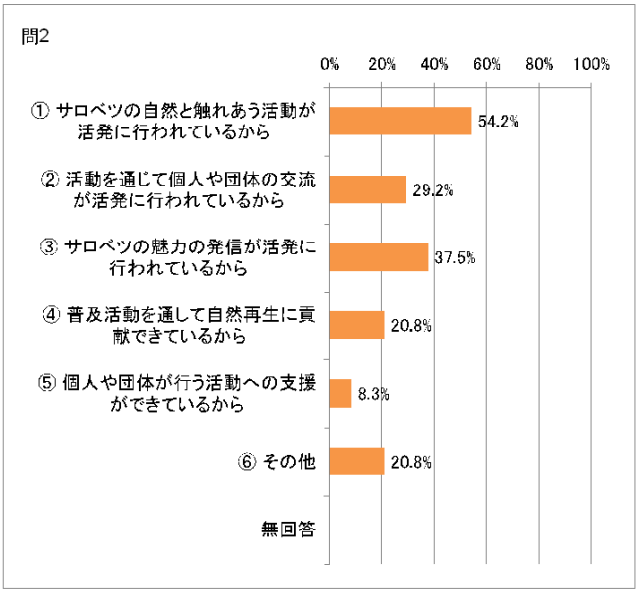


【その他の意見】

活動の項目は資料で確認できますが、参加した人の様子、スタッフの印象、地域の人の印象などが分からないので判断できません。

問2：問1で①②と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。（複数回答可）

	回答数	割合
① サロベツの自然と触れあう活動が活発に行われているから	13	54.2%
② 活動を通じて個人や団体の交流が活発に行われているから	7	29.2%
③ サロベツの魅力の発信が活発に行われているから	9	37.5%
④ 普及活動を通して自然再生に貢献できているから	5	20.8%
⑤ 個人や団体が行う活動への支援ができているから	2	8.3%
⑥ その他	5	20.8%
無回答	0	
回答者数	24	
該当外	3	
合計	27	

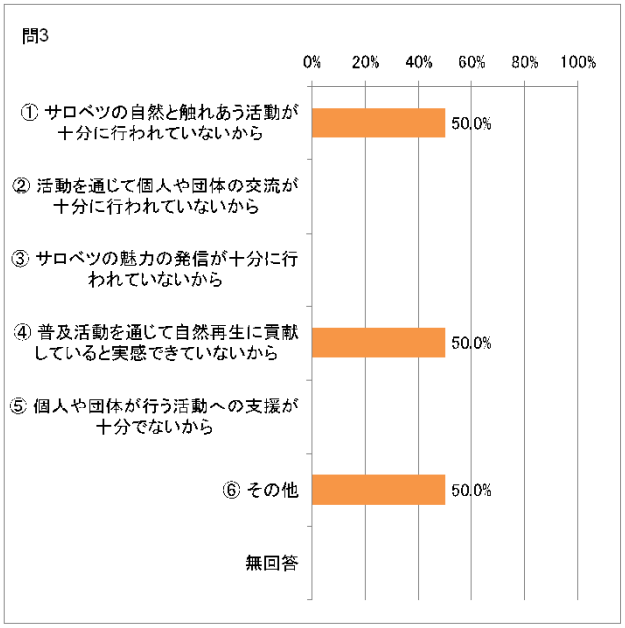


【その他の意見】

埋もれている活動の掘り起こしにつながった。ただし新しい活動は限定的だと感じた。
「地域づくり」という面で少なからず効果があったと思う。エコモープロジェクトでサロベツに住む住民という意識が高まった人が少なくないので。
エコモープロジェクトの活動では、20を超える団体が参加し、サロベツ湿原と係わる活動を行っている。
存在の意味が大きい。今後に期待したい。
サロベツに関わる人や団体の交流の機会をつくることができているがまだ十分ではない

問3：問1で③④と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。（複数回答可）

	回答数	割合
① サロベツの自然と触れあう活動が十分に行われていないから	1	50.0%
② 活動を通じて個人や団体の交流が十分に行われていないから	0	
③ サロベツの魅力の発信が十分に行われていないから	0	
④ 普及活動を通じて自然再生に貢献していると実感できていないから	1	50.0%
⑤ 個人や団体が行う活動への支援が十分でないから	0	
⑥ その他	1	50.0%
無回答	0	
回答者数	2	
該当外	25	
合計	27	

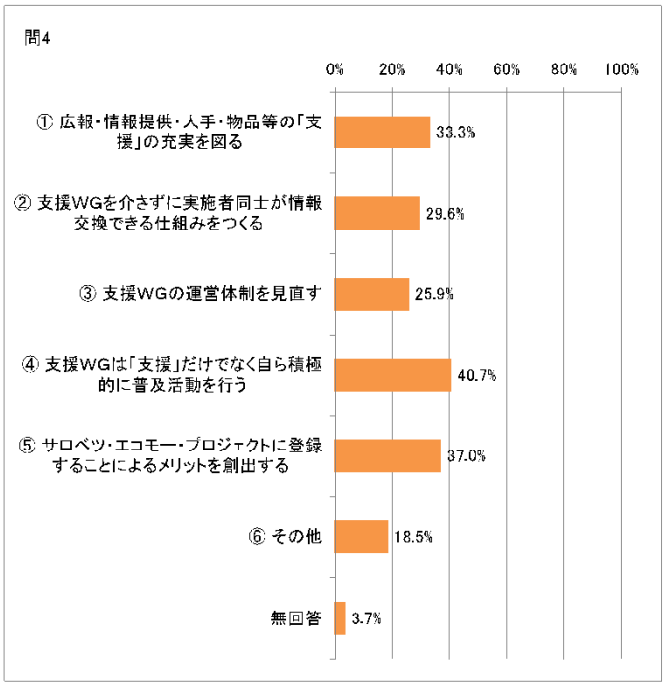


【その他の意見】

活動が一部の方々のみとなっている。

問4：サロベツ・エコモー・プロジェクトについてお聞きします。サロベツ・エコモー・プロジェクトを活性化していくために必要なことはどのようなことだと思いますか？（複数回答可）

	回答数	割合
① 広報・情報提供・人手・物品等の「支援」の充実を図る	9	33.3%
② 支援WGを介さずに実施者同士が情報交換できる仕組みをつくる	8	29.6%
③ 支援WGの運営体制を見直す	7	25.9%
④ 支援WGは「支援」だけでなく自ら積極的に普及活動を行う	11	40.7%
⑤ サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによるメリットを創出す	10	37.0%
⑥ その他	5	18.5%
無回答	1	3.7%
回答者数	27	

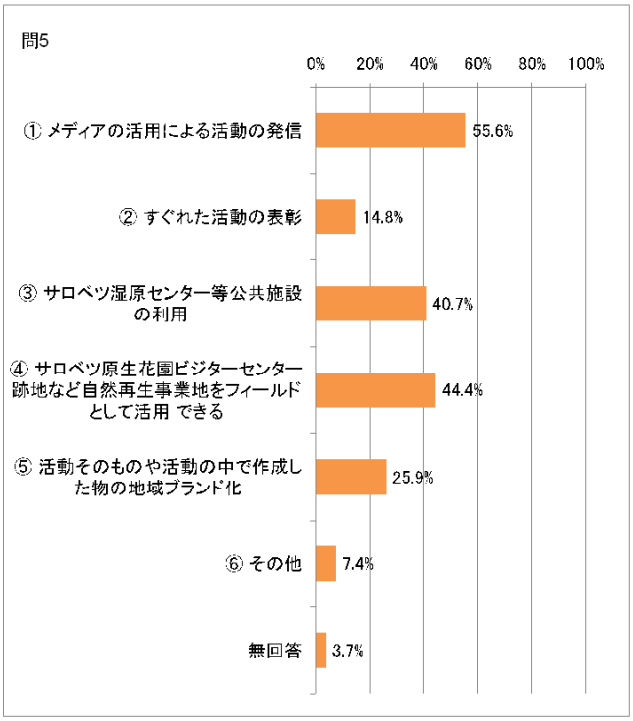


【その他の意見】

個人、団体が本当に支援WGの支援を受けたいのか確認し、支援を受けたい実施者に対してのみ軽く支援をする方法を協議する。
参加者の満足度、参加者数、メディアの注目度などの評価を明確にし、支援の充実、スタッフのやる気充実につなげる。
WGメンバーはエコモープロジェクトに参加登録してもらえることが「支援されてる自分たち」であることに気が付くべきだと思う。 「支援」という言葉はどうかすると上から目線になるので難しいと思う。むしろ、登録者と、もっとフラットな関係であることをPRした方がいいかも（小さな町だから）
活動を行っている方々の行動を広く把握する方向性を作る。
行動計画の中での『支援』には、地域の活動が広がることを支援する、という地域を盛り上げる役割があるので、そのような意味で積極的な活動を展開していくことが必要だと思います。

問5：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによるメリットとしてどのようなことが必要だと思いますか？（複数回答可）

	回答数	割合
① メディアの活用による活動の発信	15	55.6%
② すぐれた活動の表彰	4	14.8%
③ サロベツ湿原センター等公共施設の利用	11	40.7%
④ サロベツ原生花園ビジターセンター跡地など自然再生事業地をフィールドとして活用 できる	12	44.4%
⑤ 活動そのものや活動の中で作成した物の地域ブランド化	7	25.9%
⑥ その他	2	7.4%
無回答	1	3.7%
回答者数	27	

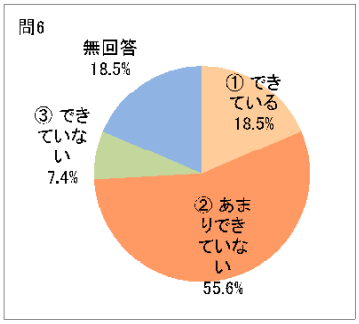


【その他の意見】

部会として、実施者の貢献評価をする。
それぞれの活動が地域活性や自然再生につながっていることを実感できるようなしくみ？場？意識づけ。

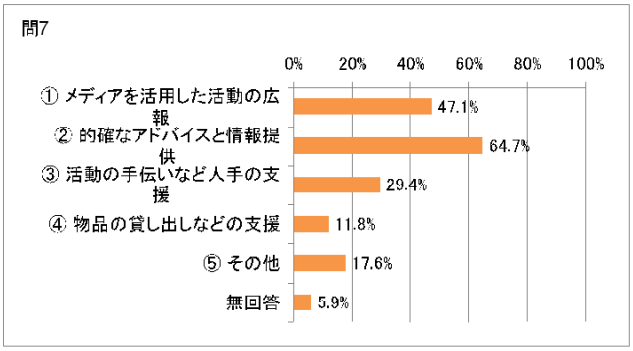
問6：普及活動支援WGについてお聞きします。普及活動支援WGは活動実施者への支援を十分にできていると思いますか？

	人数	割合
① できている	5	18.5%
② あまりできていない	15	55.6%
③ できていない	2	7.4%
無回答	5	18.5%
合計	27	100.0%
無回答	5	
無効回答	0	



問7：問6で②③と回答された方にお聞きします。どのような点で支援できていないと感じますか？（複数回答可）

	回答数	割合
① メディアを活用した活動の広報	8	47.1%
② 的確なアドバイスと情報提供	11	64.7%
③ 活動の手伝いなど人手の支援	5	29.4%
④ 物品の貸し出しなどの支援	2	11.8%
⑤ その他	3	17.6%
無回答	1	5.9%
回答者数	17	
該当外	10	
合計	27	



【その他の意見】

何を支援してほしいのか分からない。どのような角度で、どのような方法で接触していくのか、アプローチの方法が示されていない。
判断できません。
金銭的なバックアップが即効的な支援となるかと思うが。
支援ではなく、連携、協力などの活動をした方がいい。

問8自由回答

「農業の振興」という深くて重い言葉に対して、WGはどのように対応し、行動出来るのか。ある意味では広く解釈して「地域づくり」に包括して良いのではないでしょうか。 荷が重過ぎるし、方向性を見失う可能性（環境の保全・保護）があると思います。
過去の活動で、広く参加者を募る類のものか、それ以外かを分類し、広く参加者を募るものであれば、より柔軟で迅速な情報発信体制をとったほうが良いではないかと思われる。
広報活動の更なる充実を望みます。
今後とも、継続した活動が大切と思います。
普及部会会員は、サロベツ湿原の良さや素晴らしさを、もっと勉強し、話し合うことが必要。そういう方を中心となって、若い中・高生に語り、心からの湿原を愛する気持ちを彼らに育てる。直接参加したこともなく、勝手なことを言ってすみません。他の再生協議会講演会に参加して感じました。もっと、地元な活発な意見や動きが欲しいな。それを育てるエコモー。
活動する側の本当に必要とすることの理解。活動する側は報告などの煩わしさがあり、メディア広報まで必要としていないかも。
支援WGのスタッフが動きやすい計画となることが大切と思います。サロベツ周辺の人口やNPO等民間の活動状況を考慮すれば、支援という間接的な取り組みのほか、直接支援WGが活動して関心者を広げることも必要と思います。
①WGが自ら活動できるようにする。②部会自体の行動も明示する。③活動者が活動の指針にできるように評価表を作る。
なかなか主体的な活動や支援がおよばず申し訳なく思っています。 何か起爆剤になるような取り組みができるとよいのですが。
部会その他に参加し、一年振り返って考えますと、事業運営実施等になかなか追いついていけず、苦労の連続です。 自分自身よく分かっていないような気がします。
当時、天塩川流域で森林管理の立場でお役に立てればと思い、協議会に参加させていただきましたが、やはり遠方でもあり、力及ばず、途中で失礼していました。 再生計画、普及行動計画とも進捗を把握しておらず、恥ずかしい限りです。 地域主導で人が育つ取り組みとして続けて頂けますよう願っております。

資料５





3 行動計画の目的と基本的構成



1 目的

協議会における「湿原の保全」、「農業の振興」、「地域づくり」の目標を達成するために必要な環境教育と住民参加を促進させることを目的に作成するものです。

2 上サロベツ自然再生普及行動計画の役割

上サロベツ自然再生は、地域住民及び関係者の地道な活動によって支えられ具体化していきます。自然再生普及行動計画は、関係者に過度の負担とならないよう、それぞれの活動に対し地域全体が協力して支え合うための仕組みづくりを進めるための手引きの役割を持っています。

自然再生協議会は環境教育と住民参加を促進するため、次の3点の支援を通じて、自然再生普及活動の基盤強化を図っていきます。

- 地域主体の活動を支援します。【地域活動支援】
- 活動の継続を支援します。【継続支援】
- 活動する人・団体をつなげることを支援します。【連携支援】

3 行動計画の構成

上サロベツ自然再生普及行動計画は、「自然再生普及活動推進の基本的考え方」と、「サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動」から構成されます。





上サロベツ自然再生普及行動計画

- 自然再生普及活動推進の基本的考え方
  - 1 自然再生普及活動の進め方
  - 2 普及活動の実施のポイント
- サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動

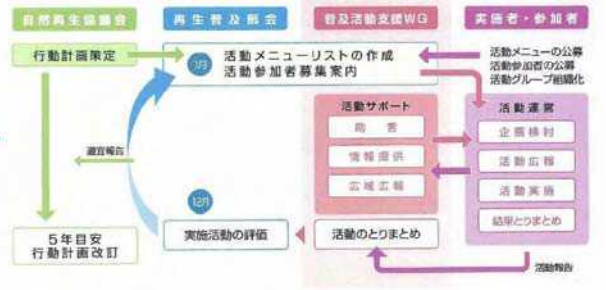


4 自然再生普及活動推進の基本的考え方

1 自然再生普及活動の進め方

1. 「湿原の保全」と「農業の振興」から「地域づくり」を行うための活動案として、「普及活動の実施のポイント」をもとに、「サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動」を定めます。
2. 上サロベツ自然再生の普及活動を推進するため、再生普及部会に、活動の企画調整、支援を行う「普及活動支援ワーキンググループ」を設置します。
3. 再生普及部会および普及活動支援ワーキンググループで、活動年種別、自己活動メニューの公募を行い、活動メニューリストを作成します。（その際に協議会に参加していない個人・団体の活動についても、自然再生普及活動に即した活動については、再生普及部会から個人等に働きかけます。）
4. 活動メニュー毎に参加者・協力者を募り、各々活動グループを組織し、グループワークによる企画の検討や活動・運営を行います。
5. 普及活動支援ワーキンググループは、活動グループに対し、活動への助言や情報提供、広域広報等の活動支援を行います。
6. 実施された活動について、各グループは普及活動支援ワーキンググループに報告を行い、普及活動支援ワーキンググループは活動結果をとりまとめます。
7. 活動の実施状況、活動報告の評価を再生普及部会で行い、その結果をもとに再生普及部会および普及活動支援ワーキンググループは、次期の活動案具体化検討作業を行います。
8. 「自然再生普及活動の進め方」、「サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動」については、5ヶ年を目安に評価し、見直しを行います。

毎年及び5ヶ年の評価・見直しの仕組み





5 サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動

前述の普及活動実施のポイントと、再生普及部会及び行動計画策定ワーキンググループでの議論をもとに、これから自然再生普及活動を進めていくにあたっての具体的な取り組みの手がかりとなるものを「サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける7つの行動」として整理しています。

1 サロベツを見つけよう

(1)-1 地域の特徴について調べよう見つけよう

- サロベツ湿原の仕組みを調べよう
- サロベツに流れる川を調べよう
- サロベツに息づく生き物を調べよう
- サロベツの景色を調べよう（自然風景、農業風景、朝から、川から、空から）

(1)-2 地域の文化・歴史について調べよう

- 地元の人の視点でサロベツを見つけよう
- サロベツのおいしいものを見つけよう
- サロベツの癒し・健康効果を見つけよう
- 歴史を調べよう
- 古い写真を集めよう



2 サロベツの話をしよう

- 町の古老と話そう
- 町の子ども達と話そう
- サロベツを訪れる旅人と話そう



3 サロベツを楽しもう

- 自然観察会を開こう
- 自転車で楽しもう
- カメーで楽しもう
- フットパスルートを歩こう
- ホーストレッキングを楽しもう
- 湿原植物を育てよう
- 湿原植物を食べよう
- サロベツを楽しむルートで遊ぼう
- 地場産のソフトクリームを食べよう、牛乳を飲もう
- サロベツの四季を楽しもう
- サロベツの香りを楽しもう
- サロベツをきれいにしよう





4 サロベツのことをまとめよう

- サロベツ紹介パンフレットを作ろう
- サロベツの教材や副読本をつくろう
- サロベツガイド専用マニュアルを作ろう
- バスガイドさん用サロベツマニュアルを作ろう
- 解説板を作ろう
- 宍道公園や豊富温泉など近くの楽しいもの、直行ことをまとめよう



5 サロベツを発信しよう

- 高層湿原をPRしよう
- ホームページを活用しよう
- 新聞、ラジオなどメディアを活用しよう
- 掲示板で発表しよう



6 サロベツの利用ルールを作ろう

- 利用の条件を考えよう
- 活用の場の条件を考えよう
- サロベツカントリーコードを作ろう
- ルールを運用する仕組みを考えよう



7 サロベツでつなげよう

- 親子で参加しよう
- 町のおじいちゃん、おばあちゃんと参加しよう
- 農業青年と活動しよう
- 町民同士で定期的な話し合いの機会を持とう
- サロベツで多くの人と会おう
- サロベツガイド（自然、文化、地域、活動）を育成しよう
- 環境教育指導者を育成しよう
- 講習会、講演会を開こう

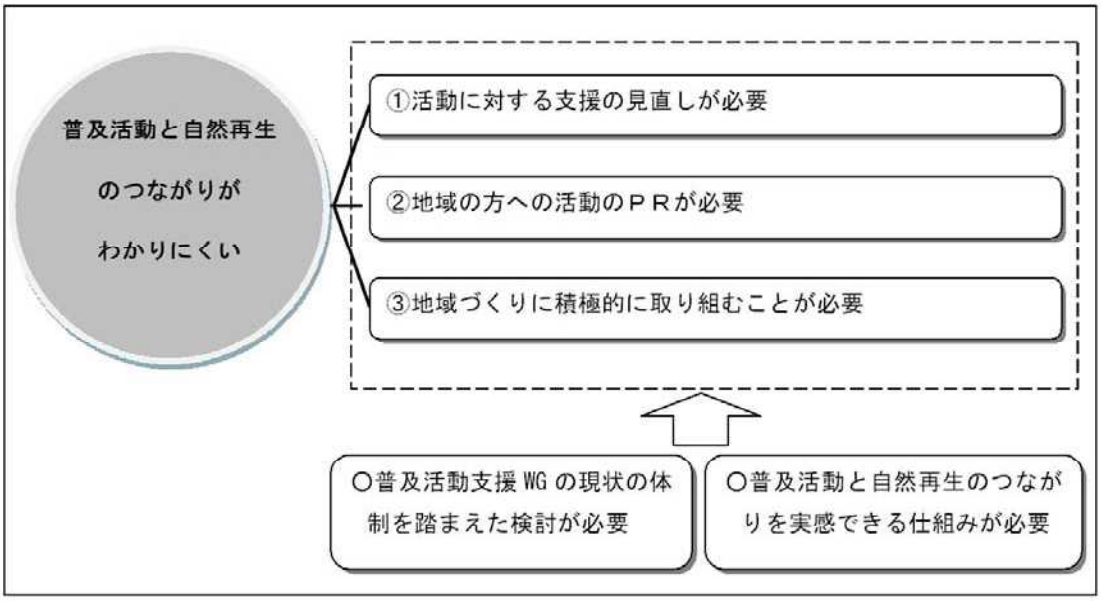


これらをヒントに、多様な主体の参加によって、地元からサロベツらしい様々な活動が生まれ育っていくことを期待しています。



資料６

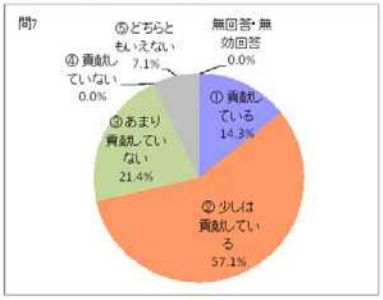
上サロベツ自然再生普及行動計画の課題（事務局案）
（アンケート及び座談会の結果から）



普及活動と自然再生のつながりがわかりにくい

エコモープロジェクト実施者用のアンケート結果を見ると、エコモープロジェクトの自然再生への貢献について、14.3%の方が「貢献している」と感じているものの、「少しは貢献している 57.1%」「あまり貢献していない 21.4%」とあり、十分に貢献していると感じている人は少ない。

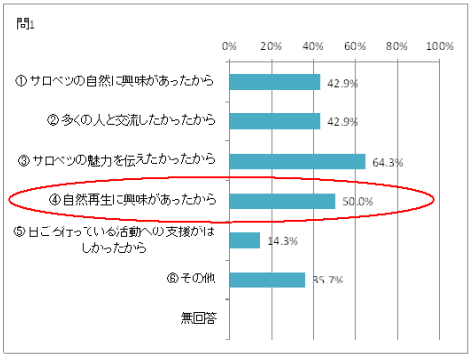
エコモープロジェクトの自然再生への貢献
（エコモー実施者用）



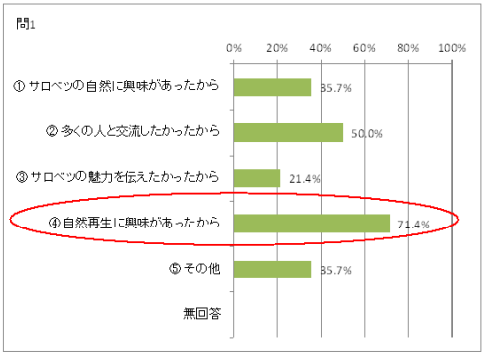
また、エコモープロジェクトや普及活動支援 WG に参加した理由を見ると、「自然再生に興味があったから」との回答がエコモープロジェクト実施者で 50%、普及活動支援 WG メンバーで 71.4%と高い割合となっているにも関わらず、エコモープロジェクトや普及活動支援 WG に参加して良かった点を見ると、「自然再生に貢献している実感」を挙げる方は、エコモープロジェクト登録者で 35.7%、普及活動支援 WG メンバーで 21.4%と低い割合になっている。自由意見でも「‘エコモープロジェクト’と‘自然再生’のつながりが今は皆薄いと感じている。何か工夫が必要」、「支援WGの活動の目指すところがよく分からなくなってきた」「エコモープロジェクトに登録することのメリットとして、活動が自然再生にどのように貢献しているか実感できることが必要」との意見もある。

このような結果は、エコモープロジェクトなどの「普及活動」と「自然再生」の関係やつながりがわかりにくいことを反映しているためと思われる。

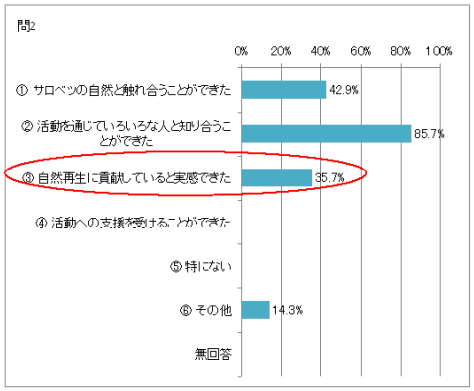
エコモープロジェクトに登録しようと思った理由
（エコモー実施者用）



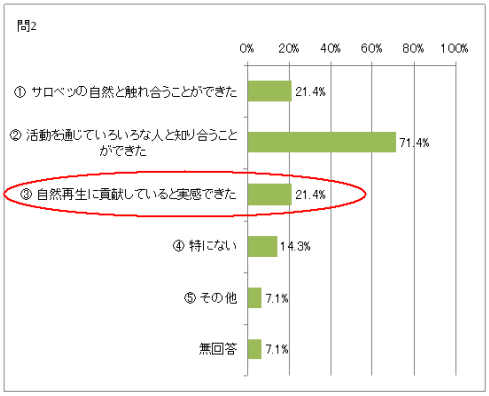
普及活動支援 WG に参加しようと思った理由
（普及活動支援 WG メンバー用）



エコモープロジェクトに登録してよかった点
（エコモー実施者用）



普及活動支援 WG に参加してよかった点
（普及活動支援 WG メンバー用）

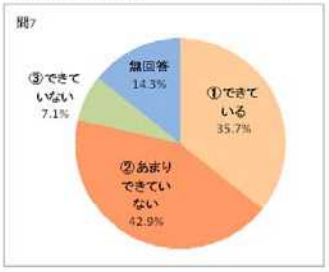


①活動に対する支援の見直しが必要

普及活動支援 WG メンバー用、再生普及部会員用のアンケート結果を見ると、活動実施者に対する支援について、半数が「支援できていない」と感じているとともに、エコモープロジェクトの活性化のためには、支援の充実を図ることよりも、普及活動支援 WG の運営体制の見直しが求められている。また、再生普及部会員用のアンケートの中では、「‘支援’という言葉はどうかすると上から目線になってしまうので難しいと思う」、「支援ではなく、連携、協力などの活動をした方がよい」との意見もあり、今後の改訂作業に当たっては、活動に対する支援について見直すことが求められている。

一方、エコモープロジェクト実施者用、普及活動支援 WG メンバー用のアンケートの中では、活動に参加してよかったと思う点として、「活動を通じていろいろな人と知り合うことができた」を挙げる方がともに最も多く、今後の見直しに当たっては、活動に対する支援よりも活動を通した人や団体とのつながりを重視することも必要である。

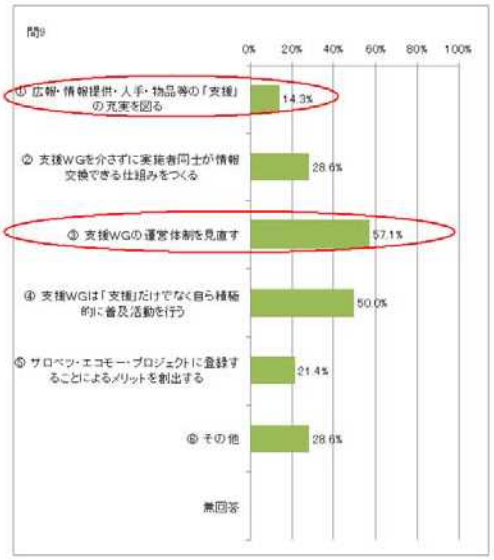
支援 WG の活動実施者への支援
（普及活動支援 WG メンバー用）



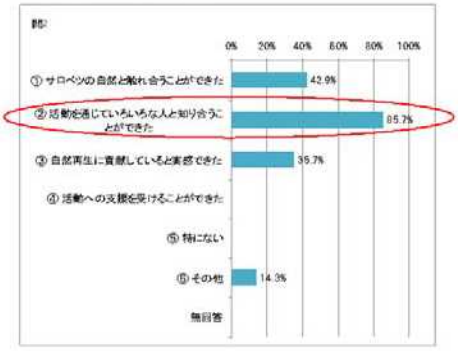
支援 WG の活動実施者への支援
（再生普及部会用）



活動活性化のために支援 WG として必要なこと
（普及活動支援 WG メンバー用）



エコモープロジェクトに登録してよかった点
（エコモー実施者用）



エコモープロジェクトに登録してよかった点
（普及活動支援 WG メンバー用）

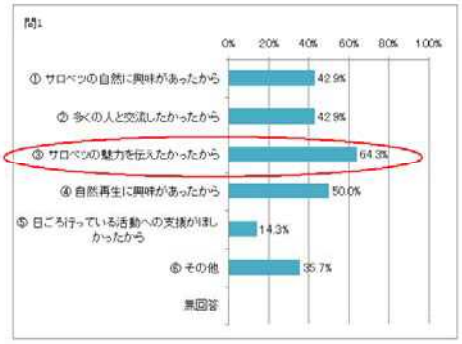


②地域の方への活動のＰＲが必要

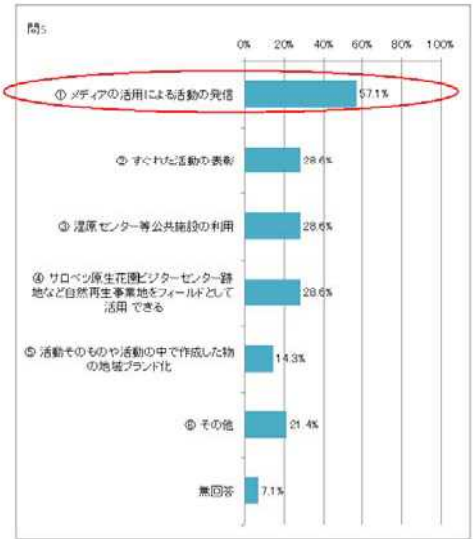
エコモープロジェクト実施者用のアンケート結果を見ると、活動実施者がエコモー活動に登録した理由として、「サロベツの魅力を伝えたい（64.3%）」が多く挙げられているほか、登録のメリットとしては「メディアの活用による活動の発信（57.1%）」が求められている。この傾向は普及活動支援WGや再生普及部会でも同様であり、エコモープロジェクトに登録することのメリットとしては、「メディアの活用による活動の発信」が最も多く求められている。

また、自由意見の中には「再生技術部会で協議している内容などを地域住民にも分かりやすく紹介していくことも必要だと思う」といった意見や「広報活動の更なる充実を望む」といった意見も挙げられており、再生技術部会で協議している内容や普及活動の PR をより進めていく必要がある。

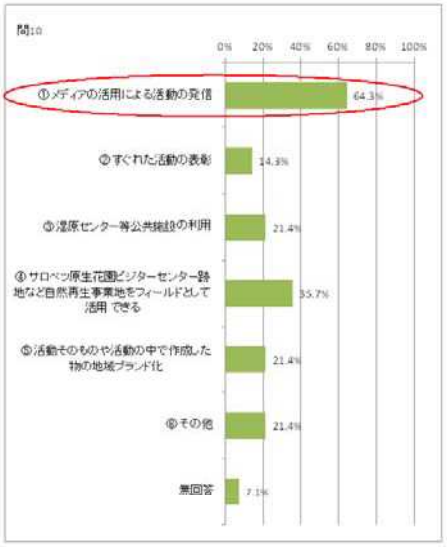
エコモープロジェクトへの登録理由
（エコモー実施者用）



エコモープロジェクト登録に求められるメリット
（エコモー実施者用）



エコモープロジェクトに登録することによるメリット
（普及活動支援 WG メンバー用）



エコモープロジェクトに登録することによるメリット
（再生普及部会用）

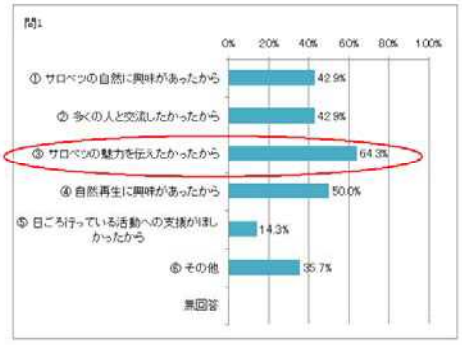


②地域の方への活動のＰＲが必要

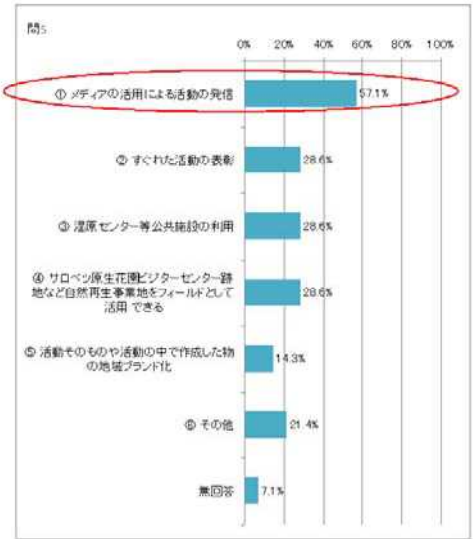
エコモープロジェクト実施者用のアンケート結果を見ると、活動実施者がエコモー活動に登録した理由として、「サロベツの魅力を伝えたい（64.3%）」が多く挙げられているほか、登録のメリットとしては「メディアの活用による活動の発信（57.1%）」が求められている。この傾向は普及活動支援WGや再生普及部会でも同様であり、エコモープロジェクトに登録することのメリットとしては、「メディアの活用による活動の発信」が最も多く求められている。

また、自由意見の中には「再生技術部会で協議している内容などを地域住民にも分かりやすく紹介していくことも必要だと思う」といった意見や「広報活動の更なる充実を望む」といった意見も挙げられており、再生技術部会で協議している内容や普及活動の PR をより進めていく必要がある。

エコモープロジェクトへの登録理由
（エコモー実施者用）



エコモープロジェクト登録に求められるメリット
（エコモー実施者用）



エコモープロジェクトに登録することによるメリット
（普及活動支援 WG メンバー用）



エコモープロジェクトに登録することによるメリット
（再生普及部会用）



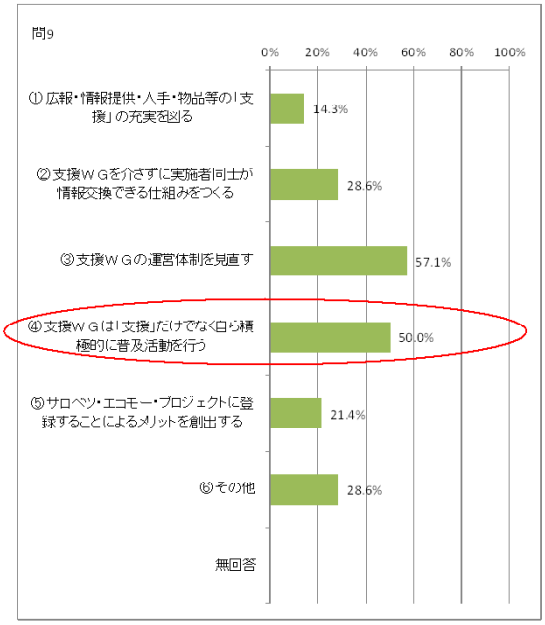
③地域づくりに積極的に取り組むことが必要

普及活動支援 WG メンバー用、再生普及部会員用のアンケート結果を見ると、エコモープロジェクトを活性化していくために必要なこととして、「支援 WG は‘支援’だけでなく自ら積極的に普及活動を行う」ことが高い割合で求められている。

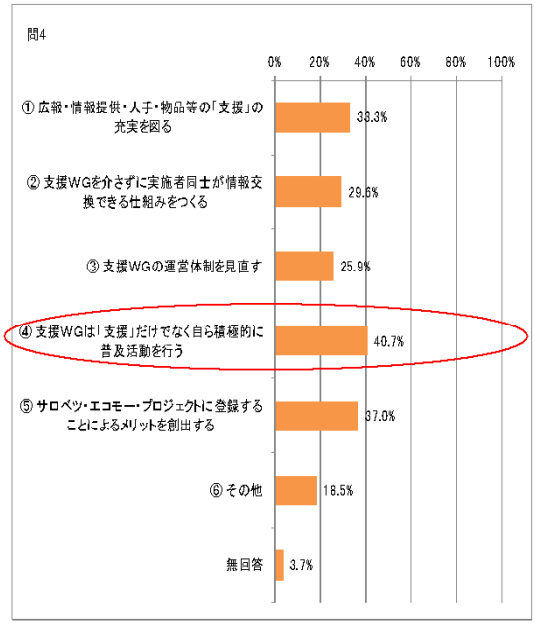
また、座談会では、上サロベツ自然再生全体構想で掲げた「湿原の保全」「農業の振興」「地域づくり」の３つの目標のうち「地域づくり」が進んでいないという意見があり、その解決策の１つとして、湿原植物の食材利用などを通し、湿原という地域性を活かして地域づくりを進められないか意見交換がなされた。

このことから、サロベツの湿原や酪農といった地域性を活かした地域づくりへの取り組みを積極的に進めることが必要となっている。

活動活性化のために支援 WG として必要なこと
（普及活動支援 WG メンバー用）



活動活性化のために支援 WG として必要なこと
（再生普及部会用）



座談会での主な意見

・湿原植物の食材利用などを通した地域づくりの推進

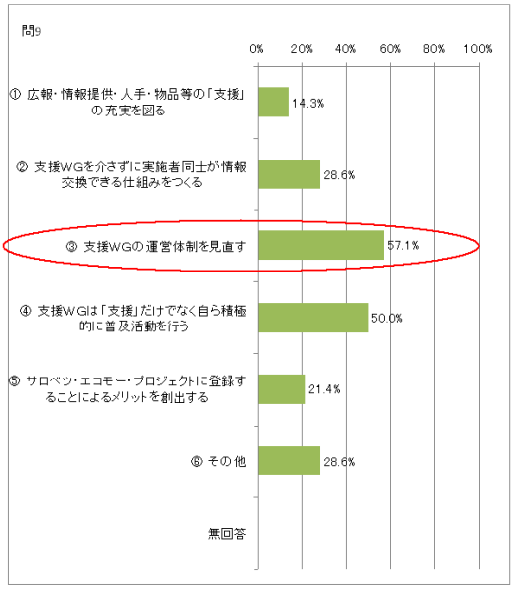
・サロベツ湿原センターにおける産地直売も含めたイベントの開催

○普及活動支援 WG の現状の体制を踏まえた検討が必要

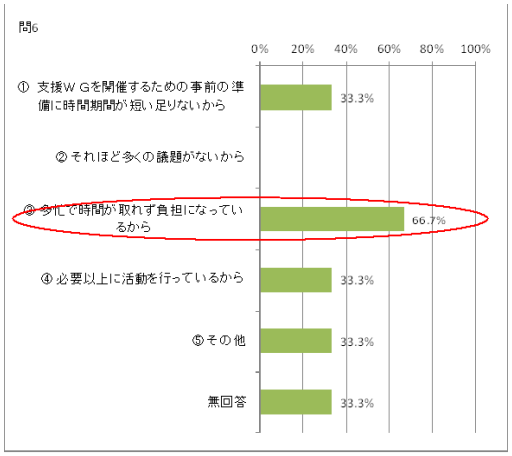
普及活動支援 WG メンバー用のアンケート結果を見ると、普及活動支援 WG に必要なこととして「運営体制の見直し」が最も高い割合で求められており、また、「多忙で時間が取れず負担になっている」「一部のメンバーに負担が集中している」といった意見や、普及活動支援 WG を辞めた理由として「多忙で時間が取れなかった」「支援 WG 会議に出席することを負担に感じた」と、活動を負担に感じている意見も挙げられている。

自由意見の中には「支援 WG のスタッフが動きやすい(行動)計画となることが大切」という意見もあり、今後の改訂作業に当たっては、普及活動支援 WG の現状の体制を踏まえた検討が必要である。

活動活性化のために支援 WG として必要なこと
（普及活動支援 WG メンバー用）



支援ＷＧの開催を減らした方が良いと答えた理由
（普及活動支援 WG メンバー用）



○普及活動と自然再生のつながりを実感できる仕組みが必要

前述のとおり今回のアンケート結果から、エコモープロジェクトなどの「普及活動」と「自然再生」の関係やつながりがわかりにくいことが示された他、自由意見などからは、活動を評価することを求める意見もあり、普及活動と自然再生のつながりを実感できる仕組みが必要とされている。

主な意見（自由意見、設問その他意見）
- 活動が自然再生にどのように貢献している実感できることが重要。
- 実施者の活動が社会的に評価されるシステムの構築が必要。
- 実施者の指針となるよう、７つの活動に評価表を作る。
- 活動者が活動の指針にできるように評価表を作る。　など

A グループ意見まとめ

①活動に対する支援の見直しが必要

【意識の問題】

- 普及活動支援 WG が、普及活動の主体としての意識や気持ちを高めることが大事である。
- 現状では、地域特性として排他的な傾向があり、他の団体へのつながりやそのアプローチが難しい状況である。
- また、自然再生の活動と、酪農家等の生業の時間帯のミスマッチから、つながりをつくることが難しい面もある。
- 酪農家とのつながりのきっかけやアプローチとしては、過去に実施した古老の話を聞く会などは入りやすい。
- しかし、その次にさらにつながりを広めたり深めたりする場合には、その段階ごとにアプローチをしていかなければならない。
- 自然再生とのつながりを誰かがしっかり伝えていかないといけない。
- また、自然再生の普及活動として酪農家の方などとつながりをつくるためには、酪農家にとって何かしらのメリットが必要である。
- メリットとしては、観光との連携による体験なども考えられるのではないか。

【農業の振興について】

- 「農業の振興」は普及行動計画として、またワーキンググループで議論することとしては重すぎる。
- 農業の振興とは、どのようなことなのかがはっきりしていないことが課題である。
- 普及行動計画から「農業の振興」は割愛した方が良いのではないか。または、農業の振興だけでなく、地域づくりとして捉えたほうがいいのではないか。

②地域の方への活動の PR が必要

【PR の目的と必要性】

- この取組は、興味がある人が集まってボランティア的に行うものであるため、広く PR することは必要ないのではないか。
- 逆に、現状では、興味があるが参加していない人もいると思われる。また、サロベツの良さを広くいろいろな人へ知ってもらうことが大事である。そのためには、いろいろな方法で PR すべきではないか。
- PR は、地域の人への自然再生に対する再認識のための PR なのか、広域的に広く PR することなのか、はっきりしていない。
- どちらへの PR なのか明確にすることが必要であり、そのためには役割の整理をすることが必要である。
- しかし、誰がやるのかという役割になると、マンパワーがないことが課題となる。

【PR の方法や内容】

- PR する場合には、その時期やタイミングが重要である。
- 再生技術部会の取り組みを、分かりやすい言葉で発信することも必要である。
- アンケート結果でニーズが高い「メディア活用による発信」は、発信の頻度を増やすことだけではないことも考えられる。頻度だけでなく、内容やターゲット、方法が求められることもあるのではないか。
- マンパワーがないという課題に対して、人を集めるために PR することも考えられる。

【活動を支える人集めと PR】

・ 将来的に、地元に対して思いのある人を取り込んでいくことができればよい。
・ 行政は数年ごとに異動があるため、継続性を持たせるためにも、地元の人の思いが必要である。
・ 現状では、何かやりたくても、自分の何を生かして、どのようなことに参加・協力できるのかがわからない。
・ そのため、きっかけとしても、活動の中で具体的にどんなことができるかを PR することが必要ではないか。

③地域づくりに積極的に取り組むことが必要
・ 地域づくりの意義は、どのようなことなのか。自然なのか、人材育成なのか。
・ 大きく捉えると、町をよくすることである。
・ 地域のこれからを担う子どもに、地域に対して愛着をもってもらう視点も重要である。そのために環境教育などが必要である。

●上サロベツ自然再生普及行動計画の見直しについて
【目的における「農業の振興」】
・ 「農業の振興」を割愛する、もしくは、言葉や言い方を変えたほうがよい。
・ 「農業の振興」は、現状自然再生全体構想からそのままスライドされているがよいのか。
・ 「農業の振興」は、酪農家等へのメリットとなるのではないか。そのため、書きぶりを変えて、メリットにつながるようにしたほうがいいのではないか。
【自然再生事業に対する理解の向上と PR】
・ 自然との共存として、モラルの根拠を分かってもらうことが大事である。
・ 活動実施者それぞれが、実施する活動と自然再生事業との関わりについて、地域に紹介することを必須（ノルマ化）とすると、PR されるのではないか。
・ 「自然再生事業は何をやっているのか？」について地域へしっかり理解してもらう。
【活動の仕組み】
・ 現行の体制や仕組みの図には、実際に行っている取組でも載っていないことも多いので、載せていってはどうか。
【7 つの行動】
・ 昔からの伝承はとても大事である。
・ 7 つの行動について、これまであまり活用していなかったが、今後はもっと使っていく。
・ 実施者に 7 つの行動をもとに自らの活動をチェックしてもらい、評価・確認してもらうとともに、自然再生とのつながりについて理解してもらうようにする。
・ 普及行動計画の中での見せ方として、見た人が考えてもらうようにクイズや回答方式で記載してもいいのではないか。

B グループ意見まとめ

①活動に対する支援の見直しが必要

【表現の仕方】

- 「支援」という表現は合わない。
- 「支援する」という言い方は上から目線に聞こえるため、「お手伝いします、相談に乗ります」という言い方の方が良い。

【支援の方法】

- 普及活動支援 WG が手伝える部分は限られている。例えば、PR 活動に協力してほしいなどの依頼等があれば、答えることができる。
- 支援を求められることを待っていては駄目である。一緒に協力して何かやろうという投げかけが必要である。

【活動の経過】

- エコモープロジェクトができた当初は、町民もプレスも盛り上がっていたが、年が経つにつれて熱気は下がっている。

②地域の方への活動の PR が必要

【活動の呼びかけ】

- 豊富町のホッキ祭りや町民文化祭で、エコモープロジェクトのパネルや活動の展示を行い、地域の人へ PR する場は設けている。
- そもそも何かやりたい人が見つけられない。
- 活動に必要性があれば、一緒に何かしようと思うのではないか。
- 普及活動支援 WG で何か支援できるというわけでもない。
- 普及活動支援 WG のメンバーが積極的に、地域の人に一緒に活動しようと呼びかけることが大切である。

③地域づくりに積極的に取り組むことが必要

【普及活動支援 WG の将来のあり方】

- 将来的に、普及活動支援 WG のメンバーが地域の人を育成して、独立していくような、育てる機関になれば良いと思う。

【地域の人を交えた地域づくり】

- 60 代くらいの高齢者の手は余っていると思う。そういう人が、地域への恩返しだと思って、サロベツのために積極的に活動に関わってもらえるようになると良い。
- 若い人は体力があり、高齢者は知恵を持っている。若い人と高齢者が一緒になって、何か活動は出来ないだろうか。

【豊富町の地域づくり】

- 豊富町とインドネシアの同じ泥炭地の地域で、子ども達同士の交流会を行い、次につながる地域づくりを行う企画を行ったことがある。

【その他―活動体制】

- 地域の人は、エコモープロジェクトや普及活動支援 WG を行政が中心になって行っているものだと思っている。
- エコモープロジェクトに関わっている人達は、地域の人が中心となって活動していってほしいと思う。
- アイディアは地元の人から出てきてほしい。

・ 地域の人を、如何にしてエコモープロジェクトに引き込むかが課題である。
・ 行政と地域をつなぐことが大切である。
・ 地域の人は、行政をもっと上手に使えば良い。

●上サロベツ自然再生普及行動計画の見直しについて

【行動計画の目的と基本的構成】
・ 目的と役割、行動計画の構成については、分かりやすく示した方が良い。

【自然再生普及活動推進の基本的考え方】
・「自然再生普及活動の進め方」については①と⑧以外は、現在の活動内容と合っていない。この進め方を見ても、初めて参加する人は進め方が分からないと思う。この内容だと、評価の仕様がないと思う。
・ 本日の WG の中で出された、普及活動支援 WG が積極的に関わって PR していくことが大切などの内容を入れた方が良い。
・ 普及活動支援 WG には事務局がない。続けられる進め方を示す。

【サロベツ文化づくりのための上サロベツにおける 7 つの行動】
・ 普及活動支援 WG の仕組みについて、エコモープロジェクトの実態にあったものにする。流れは変わらない。
・ 7 つの活動を一度整理すべきである。
・ 7 つの行動にとらわれずに、活動内容を考えても良いのではないか。
・ 7 つの行動の「⑥サロベツの利用ルールを作ろう」は、普及活動支援 WG の中で考えることなのか。
・ そもそもエコモーの本来の目的は何か分からなくなってきている。

(4) 第 3 回 WG

第 3 回 WG は、「普及行動計画改訂の方向性について」をテーマに、平成 24 年 1 月 26 日に豊富町民センターにて開催された。

出席者、配布資料、議事概要を以下に示す。

表-9.14 第 3 回 WG 出席者

No.	氏名又は団体名（敬称略）	担当者名（敬称略）
1	田中　美佐保	
2	西島　今朝悟	
3	村元　正己	
4	谷垣　　重遠	
5	山形　　雅弘	
6	北海道森林管理局　宗谷森林管理署 豊富森林事務所	森林官　田中　香緒莉
7	宗谷総合振興局　保健環境部	環境生活課　自然環境係長　後藤　茂徳
8	豊富町	農政課　農村整備係　佐々木　仁
9	NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	事務局長　嶋崎　暁啓
10	北海道地方環境事務所 稚内自然保護官事務所	自然保護官　中島 信人
11		自然保護官　永野　雄大
12		自然保護官補佐 中野 雄介
13		自然保護官補佐 山上 佳祐





第 3 回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
プログラム

日　時：平成 24 年 1 月 26 日（木）18：00～20：00　（※約 2 時間）
場　所：豊富町民センター　1 階小会議室

テーマ

普及行動計画改訂の方向性について

時間	内容	配付資料
18：00～18：05 （5 分）	1. はじめに ・本日の進め方について	
18：05～18：15 （15 分）	2. 普及行動計画改訂の課題と意見の確認 ・第 2 回改訂 WG のふりかえり	資料 1
18：15～18：35 （20 分）	3. 普及行動計画改訂の方向性について ・普及行動計画改訂の方向性(事務局案)について説明	資料 2
18：35～19：50 （75 分）	4. 意見交換 ・普及行動計画改訂の方向性について	
19：50～20：00 （10 分）	5. 本日のまとめ ・今後の改訂 WG の進め方について	資料 3

資料 1:第 2 回改訂 WG 議事概要(WS 討議結果を含む)（前項に掲載したので割愛）
資料 2:普及行動計画改訂の方向性について
資料 3:改訂 WG のスケジュール(見直し)

第 3 回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
議事概要

(1) はじめに
〇本日の進め方について
・本日の進め方について説明(質問なし)。

(2) 普及行動計画改訂の課題と意見の確認
〇第 2 回改訂 WG のふりかえり
・第 2 回改訂 WG の概要について説明(質問なし)。

(3) 普及行動計画改訂の方向性について
〇普及行動計画改訂の方向性(事務局案)について説明
・資料 2 をもとに、現行の普及行動計画の各項目(はじめに～7 つの行動まで)に沿って、普及行動計画の改訂の方向性(事務局案)について説明。

(4) 意見交換
・普及行動計画改訂の方向性(事務局案)について意見交換を行い、各項目について以下のとおり確認された。

〇はじめに
・改訂 WG のメンバーで文章を作成し、辻井座長に確認をいただく。なお、文章は事務局が案を作成する。

〇経緯
・現計画策定までの経緯については、整理を行い、簡略化する。
・現計画策定以降の経緯として、支援 WG の発足、現在までの普及活動の概要を追記する。
・改訂に関する検討経緯(改訂 WG、普及部会、協議会)について追記する。

〇目的
・「農業の振興」は全体構想の目標の 1 つであることから、地域づくりとして大きく捉えることで普及行動計画の目的にも含むこととする。

〇普及行動計画の役割
・普及行動計画の役割を「①自然再生を伝える」「②人や団体のつながりをつくる」「③地域への思いを育てる」の 3 項目に整理する。

〇普及行動計画の位置づけ
・普及行動計画は全体構想の 3 つの目標の推進のために位置づけられることを図化して掲載する。
・普及行動計画は、再生普及部会としての普及行動の方針として位置づけられる。

〇普及活動の進め方
・協議会と再生普及部会、再生技術部会、支援 WG、活動実施者、それぞれの役割や行うことを具体的に記載することとし、評価・見直しの仕組みの改訂に応じて記載内容を変更する。

〇評価・見直しの仕組み
・再生普及部会の役割と支援 WG(旧称)の役割が区別できるよう記載する。
・サロベツに関わる人として、地域の人だけではなく地域外の人が含まれるよう記載する。
・エコモー・プロジェクトの範囲をサロベツに関わる人、活動実施者、支援 WG(旧称)とし、図中に分かるように記載する。

・エコモー・プロジェクトの説明を記載する。
・支援 WG（旧称）の名称は、実態を考慮して変更する。「サポート」という言葉が実態に最も合っている。
・支援 WG（旧称）の役割として、エコモー・プロジェクトの輪を広げること（参加を呼びかけること）を追加する。
・「人や団体のつながりをつくる」は、支援 WG（旧称）が活動の主体となり、再生普及部会とサロベツに関わる地域の人、地域外の人をつなぐことも担う。

〇実施のポイントについて

・普及活動の実施のポイントは、活動実施者に向けた指針となっていることから、改訂後は削除する。
・ただし、普及行動計画の「役割」の内容としては合致する部分もあるため、合致する部分については「役割」に内容を盛り込むこととする。

〇7 つの行動について

・7 つの行動の項目のうち、以下については改訂後も同様に残す。
「1：サロベツを見つけよう」「2：サロベツの話をしよう」「3：サロベツを楽しもう」
「4：サロベツのことをまとめよう」「7：サロベツでつなげよう」
・「5：サロベツを発信しよう」については、発信の目的や手段にとらわれないように「サロベツのことを伝えよう」に名称を変更する。
・現行の 7 つの行動では、保全活動について包含する項目がないことも踏まえ、「6：サロベツの利用ルールを作ろう」は、「サロベツをまもろう」に名称を変更し、ルールづくりのことも含めることとする。
・7 つの行動は「サロベツに関わる全ての人（みんな）」が主語となる。

（5） 本日のまとめ（今後の改訂 WG の進め方について）

・今回の討議結果に基づき次回の改訂 WG までに行動計画改訂素案を事務局が用意する。
・次回の第 4 回改訂 WG は、再生普及部会座長の辻井先生にもご参加いただき、2/16(木)に開催する。

資料２



改定の方向性

改訂イメージ
事務局（案）

目次



- 各項目等の内容や構成の改訂に応じて修正

はじめに



- 普及行動計画策定から現在までの普及活動の成果も追記
- 改訂WGのメンバーで文章を作成し、辻井座長に確認をいただく

経緯



- 支援WGの発足について追記
- 普及行動計画策定から現在までの普及活動の概要を追記
- 改訂に関する検討経緯を追記
  - 改訂WG
  - 普及部会
  - 自然再生協議会

目的



「農業の振興」について

出された意見

- 地域経済や農家の方の利益に関わる内容であり、自然再生事業の普及活動としては荷が重いことから、割愛、または言い方を変えたほうがよい。
- 酪農家へのメリットにつながるようにしたほうがよい。
- 「地域づくり」として捉えた方がいいのではないか。

- 上サロベツ自然再生全体構想には以下のように記載されており、普及行動計画としてもその役割の一端を担うべき。

「自然再生へ持続的に取り組むためには、地域産業の再生・発展のための取り組みも重要」

「自然環境に配慮した地域の農産物についてサロベツブランド化を図ることや、農業・酪農体験とエコツーリズムとの融合を図ることなど、自然再生への取り組みを、あらゆる場面で特徴ある地域づくりにつなげる工夫が必要」

- 「農業振興」を「地域づくり」として捉え、書き方を工夫して記載する。

「わかりやすさ」について

出された意見

- 目的と役割、行動計画の構成を分かりやすく示めしたほうがよい。

- 分かりやすい言葉（やわらかい文言や身近な言葉）で、具体的に記載する。

普及行動計画の役割と構成-1



「役割」について

出された意見

◆自然再生を伝える

- 自然再生とのつながりを地域に伝えていかないといけない。
- 再生技術部会の取り組みを、わかりやすい言葉で発信することも必要。

◆‘自然再生を通して’人や団体のつながりをつくる

- 若い人と高齢者が一緒になって何か活動できないだろうか。
- 行政と地域をつなぐことが大切である。

◆‘自然再生を通して’地域への思いを育てる

- 地域のこれからを担う子どもに地域に対して愛着を持ってもらう視点も重要であり、そのために環境教育などが必要。
- 将来的に、地域に想いのある地元の人を取り込んでいくことができればよい。

- 上サロベツ自然再生全体構想にも以下のように記載されており、‘自然再生を伝えること’自然再生事業を通した‘人や団体のつながりをつくること’‘地域へ思いを育てること’が重要

「地域住民及び関係者の地道な活動に対して地域全体が協力して支え合うことが必要」

「自然環境の賢明な利用に向けた環境教育には、地域や世代を越えた多くの人々の理解を深めるための取り組みが必要」

普及行動計画の役割と構成-2



「普及行動計画の位置づけ」について

事務局から見た改善点

- 自然再生事業及び全体構想における、普及行動計画の位置づけが明確ではない。そのため、自然再生とのつながりや進め方などがわかりにくい。

- 普及行動計画の役割において、その位置づけも記載する。

上サロベツ自然再生全体構想

【目標】 1 湿原の保全　2 農業の振興　3 地域づくり

【自然再生の推進に必要な事項】

- 地域住民等多様な主体の参画による自然再生情報の発信とフィードバック
- 地域としての取り組み
- 環境教育の視点
- 自然環境と調和した地域産業の持続的発展のあり方
- 自然再生への取り組みを持続的なものにする工夫

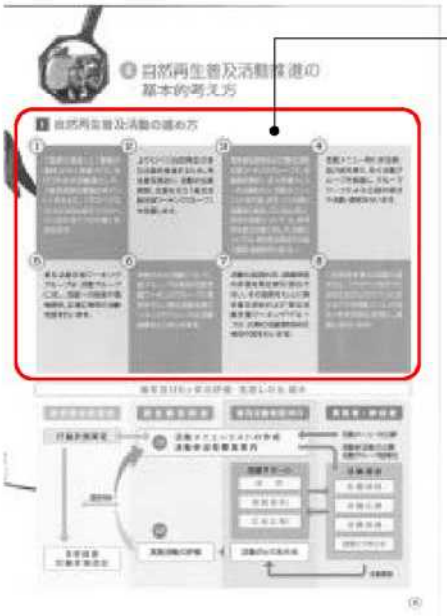
普及行動計画

【普及行動計画の役割】
◆自然再生を伝える
◆人や団体のつながりをつくる
◆地域への思いを育てる

「行動計画の構成」について

- 他の項目の改訂に応じて変更

普及活動の進め方



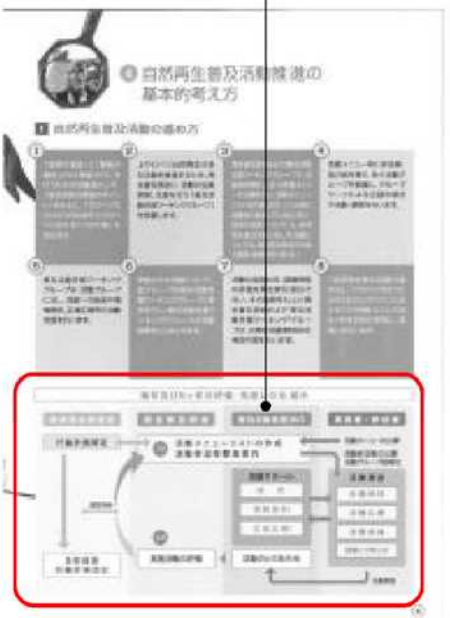
「普及活動の進め方」について

出された意見

- 「①7つの行動を定める」と「⑧5ヶ年が目安の評価・見直し」以外は、現在の活動と合っていない。
- 実際に行っている取り組みでも載っていないことも多いので載せていってはどうか（活動を通して人や団体のつながりを作ることができていること等）。
- 活動の評価ができていないため、内容の見直しが必要。
- 実施者には7つの行動をもとに自ら活動を確認してもらうとともに、自然再生とのつながりについて理解してもらうようにする。

- 協議会と再生普及部会、再生技術部会、支援WG、活動実施者、それぞれの役割や行うことを具体的に記載する。
- 「評価・見直しの仕組み」の改訂に応じて変更する。

毎年及び5ヶ年の評価・見直しの仕組み-1



支援WGの役割について

出された意見

- 支援WGが手伝えることは限られている、また、何か支援できるわけではない。「支援」という表現は合わない。
- 支援WGが積極的に地域の人に一緒に活動しようと呼びかけることが大切。
- 支援WGが地域の人を育成して育てる機関になればよいと思う。
- 行政と地域をつなぐことが大切。
- 自然再生とのつながりを地域へ伝えていかないといけない。
- 現在、支援WGには事務局がない。継続的に進められる進め方を示した方がよい。

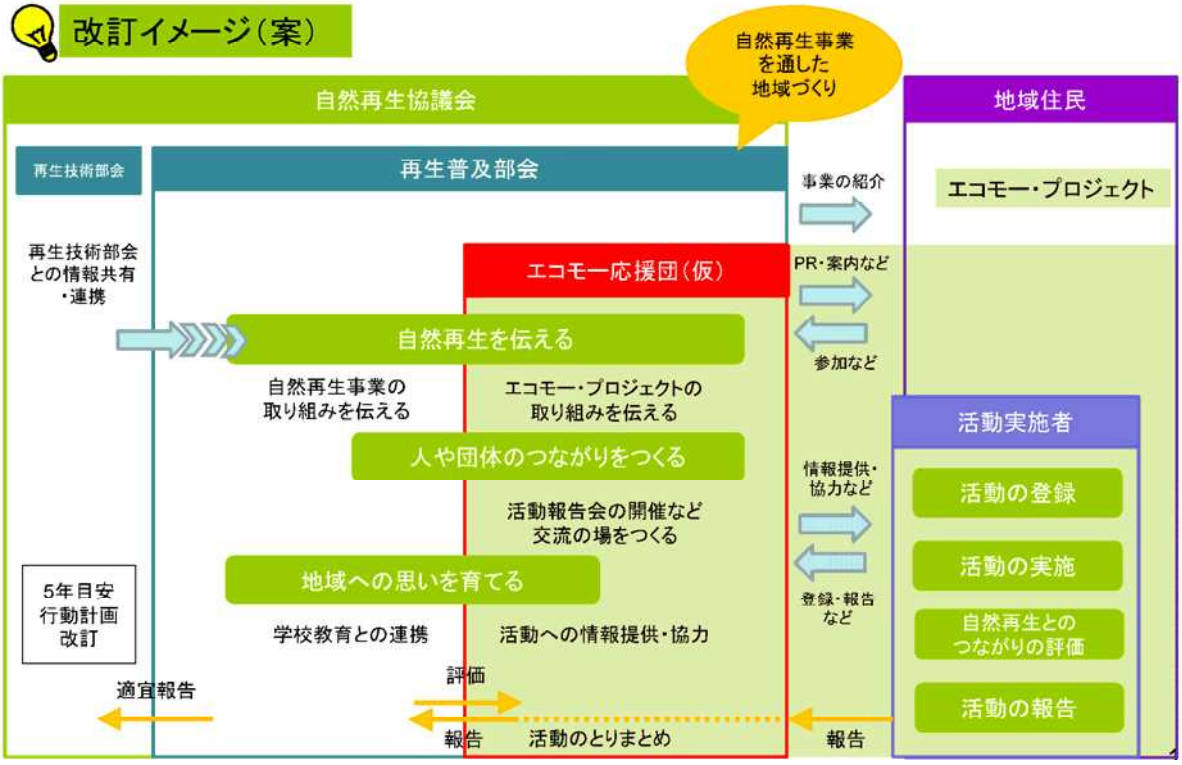
- 支援WGのこれまでの「支援」という役割を見直して、自然再生事業を通した以下を主な役割とする。
  - ◆自然再生を伝える
  - ◆人や団体のつながりをつくる
  - ◆地域への思いを育てる

自然再生事業を通した地域づくり

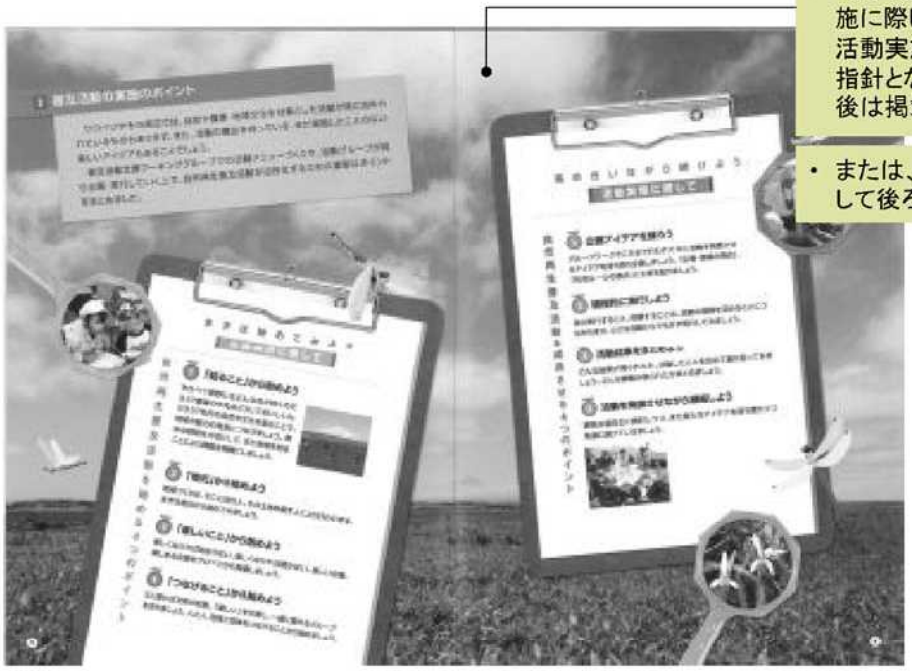
- 「支援WG」の名称を、「サポートする「お手伝いする」」などの実態に合った表現に変更する。
- 支援WG（旧称）の事務局を明確にする。

毎年及び5ヶ年の評価・見直しの仕組み-2

改訂イメージ（案）



普及活動の実施のポイント



- 「企画検討に際して」「活動実施に際して」のポイントとして活動実施者のみに向けての指針となっているため、改訂後は掲載しない。
- または、扱いを別とし、参考として後ろに記載する。

上サロベツにおける7つの行動-1



「1：サロベツを見つけよう」について

「3：サロベツを楽しもう」について

- 改訂後も記載する。

内容の整理と今後の活用方法について

出された意見

- 7つの行動を一度整理すべきである。
- 7つの行動にとらわれず活動内容を考えてもいいのではないか。
- エコモー・プロジェクトの本来の目的がわからなくなっている。
- 実施者には7つの行動をもとに自ら活動を確認してもらうとともに、自然再生とのつながりについて理解してもらうようにする。
- 7つの行動はこれまであまり活用していなかったが、今後はもっと使っていく。

- 支援WG（旧称）や実施者が自然再生事業とのつながりや、自然再生への貢献を実感できるための評価（活動のふりかえり）の仕組みとして7つの行動を整理し、今後活用する。

「2：サロベツの話をしよう」について

出された意見

- 昔からの伝承はとても大事。
- 若い人と高齢者が一緒になって何か活動はできないだろうか。

- 改訂後も記載する。

上サロベツにおける7つの行動-2



「4：サロベツのことをまとめよう」について

- 改訂後も記載する。

「5：サロベツを発信しよう」について

出された意見

- 自然再生とのつながりを地域に伝えていかないといけない。
- 興味がある人のボランティアなのでPRの必要はない。
- サロベツの良さを知ってもらうことが大切で色々な方法でPRすべき。
- 「メディアの活用による発信」のニーズ（アンケート結果より）は、頻度だけでなく、内容やターゲット、方法が求められているのではないか。
- 再生技術部会の取り組みを、わかりやすい言葉で発信することも必要。
- 支援WGとしては、ホッキ祭や町民文化祭でエコモープロジェクトを紹介している。

- 発信の頻度を増やすのではなく、目的に合わせて効果的な方法で発信することが必要。
- 既存の取り組みも含め、内容を整理して記載する。
- 「発信」ではなく「サロベツのことを伝えよう」と修正し、発信の目的や手段にとらわれない書き方にしてはどうか。

上サロベツにおける7つの行動-3



「6：サロベツの利用ルールを作ろう」について

出された意見

- 支援WG（旧称）の中で検討することなのか。

- 今後、自然再生事業地をフィールドとして活用する場合等、ルールが必要になることが考えられる。
- 7つの行動は支援WG（旧称）の行動だけを記載するものではないので、改訂後も記載してはどうか。

「7：サロベツでつなげよう」について

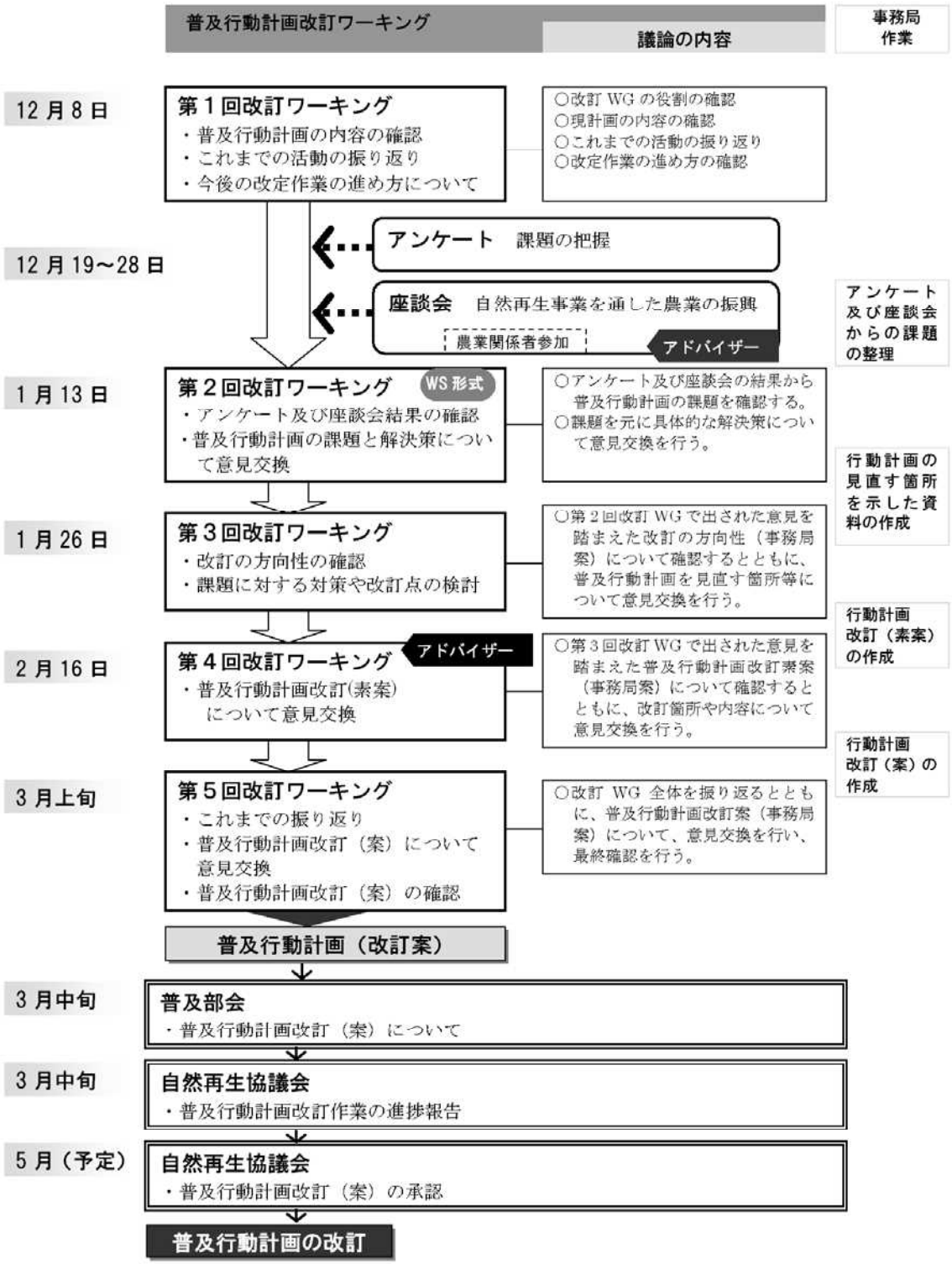
出された意見

- 若い人と高齢者が一緒になって何か活動できないだろうか。
- 行政と地域をつなぐことが大切である。
- 豊富町とインドネシアの同じ泥炭地の地域で子ども達同士の交流会を行ったことがある。

- 支援WG（旧称）の今後の役割の一つでもある
- 改訂後も記載する。

資料３

改訂ワーキンググループのスケジュール



(5) 第 4 回 WG

第 4 回 WG は、「普及行動計画改訂(素案)について」をテーマに、平成 24 年 2 月 16 日に豊富町民センターにて開催された。

出席者、配布資料、議事概要を以下に示す。

表-9.15 第 4 回 WG 出席者

No.	氏名又は団体名（敬称略）	担当者名（敬称略）
1	村元　正己	
2	北海道森林管理局 宗谷森林管理署	流域管理調整官　安藤　健一
3	宗谷総合振興局　保健環境部	環境生活課　主任　斎藤　諭
4	豊富町	商工観光課　主幹兼林業水産係長　吉村　穣滋
5	北海道開発局　稚内開発建設部	農業開発課　上席農業環境調査専門官　野地　正昭
6	NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	事務局長　嶋崎　暁啓
7	北海道地方環境事務所 稚内自然保護官事務所	自然保護官　中島 信人
8		自然保護官補佐 中野 雄介
9		自然保護官補佐 山上 佳祐





第 4 回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
プログラム

日　時：平成 24 年 2 月 16 日（木）14：30～16：30　（※約 2 時間）
場　所：豊富町民センター　1 階小会議室

テーマ
普及行動計画（改訂素案）について

時間	内容	配付資料
14：30～14：40 （10 分）	1. はじめに ・挨拶（再生普及部会　辻井座長） ・本日の進め方について	
14：40～14：50 （10 分）	2. 普及行動計画改訂の方向性と意見の確認 ・第 3 回改訂 WG のふりかえり	資料 1,2
14：50～15：10 （20 分）	3. 普及行動計画（改訂素案)について ・普及行動計画（改訂素案)について説明	資料 3
15：10～16：20 （70 分）	4. 意見交換 ・普及行動計画（改訂素案)について	
16：20～16：30 （10 分）	5. 本日のまとめ ・改訂素案へのアドバイス（再生普及部会　辻井座長） ・次回の改訂 WG について	資料 4

資料 1:第 3 回改訂 WG 議事概要（前項に掲載したので割愛）
資料 2:自然再生普及行動計画改訂の方向性について（第 3 回 WG 資料 2 と同一なので割愛）
資料 3:自然再生普及行動計画(改訂素案)
資料 4:改訂 WG のスケジュール

第 4 回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
議事概要

(1) はじめに

〇辻井座長の欠席について

・本日、アドバイザーとして出席予定だった辻井普及部会座長は、JR の運休により欠席となった。座長には本日の資料をお送りし、次回 WG までにご意見をいただくこととしたい。

(2) 前回のふりかえり

・「サロベツ文化づくりのための7つの行動」は、活動実施者の評価の指針になるものかとの質問があった。
「評価」という表現が適当であるか検討する必要はあるが、サロベツにかかわるすべての人が自然再生とのつながりを評価するための手がかりにするものとして了承された。

(3) 普及行動計画（改訂素案）について

・普及行動計画(改訂素案)について意見交換を行い、各項目について以下のとおり確認された。

〇目次

・目次は、構成に合わせて変えており、全体を通して意見交換した後に改めて検討する。

〇経緯

・1 行目については「協議会が設立された」というセンテンスで区切る方が読みやすい。

・4 行目の「この自然再生普及行動計画をひとつの手引きとして～」よりも、「～この自然再生普及行動計画に基づいて～」とした方が、文章の意味として良い。

・文章下の経緯部分では、平成 17 年 1 月 19 日は、再生普及部会だけでなく、再生技術部会も設置されているので、併記する。

・「平成 18 年 2 月～」のような表記の場合、現在も続いているのか、終了しているのか分かりにくいので、「平成 18 年 2 月～平成 19 年 5 月」あるいは「平成 19 年 8 月～現在」といように表記する。

・「平成 20 年 4 月～」の自然再生普及活動の内容については、これまで取り組んできたことを明確に示すべきと考えられるので、平成 20 年から昨年まで、「募集」「活動の実施」「報告会の開催」を毎年記載し、「活動」には活動団体数を記載する。上記を踏まえ掲載量を減らす必要がある場合は、平成 18 年2月～の項目の、再生普及部会や行動計画策定 WG の開催の記載を割愛しても良い。

〇自然再生普及行動計画の基本的な考え方

・(1)位置づけと目的の文中、6 行目「～に基づき、これらを推進することを目的としています。」の文章には、主語として「再生普及部会」を入れる。ただし、後述する「(3)自然再生普及行動計画の構成」をこの項(P3)の前に移動させ、計画の構成を変えればこのままでも良い。

〇(2)自然再生普及行動計画の役割

・「上サロベツ」という言い方と「サロベツ」という言い方が混在するのは分かりにくいので、自然再生

事業の名詞として「上サロベツ」を用い、それ以外は「サロベツ」で統一する。
・説明文章は基本的に良いが、文章がくどくならないように装飾語を削るなど、文章を簡潔にする。

○(3)自然再生普及行動計画の構成

・「(3)自然再生普及行動計画の構成」は、計画書の構成として、P3「3．自然再生普及行動計画の基本的な考え方」の前に置く方が計画を説明する上で分かりやすい。移動させ、番号を順次繰り下げる。
・「サロベツの文化づくりのための7つの行動」の下の文章は、「～すべての人が地域活動を通し、上サロベツ自然再生とのつながりを感じることができるよう～」というように「地域活動」という言葉を入れる。

○(1)自然再生普及活動の進め方

・P7 のイメージ図について、「エコモー☆サポーター」には、協議会のメンバー以外も参加しているので、「エコモー☆サポーター」の枠を協議会の枠の外側に拡大して表現する。
・P7 のイメージ図の再生普及部会、再生技術部会、エコモー☆サポーターの取り組みに関する記載は、活動を拘束することのないように、図中には記載しない。
・P7 のイメージ図の「自然再生を伝える」「人や団体のつながりをつくる」「地域への思いを育てる」の 3 つは、再生普及部会とエコモー☆サポーター双方の中央に揃えて表記する。
・再生普及部会の取り組み事項については、具体的に書きすぎて活動を拘束しないように注意して記載する。なお、具体的な事項は、再生普及部会の場で話し合うことが望ましい。
・P6 の2つめのパラグラフの「学校教育との連携」は、より広い取組みができるように「環境教育」に変更する。

○(2)自然再生普及行動計画の評価・見直しの仕組み

・前項 P7 の意見に合わせて、活動を拘束しないように「再生普及部会員」の枠は削除する。
・前項 P7 の意見に合わせて、図中の文章を簡略化する。

(5) 本日のまとめと次回 WG について

・本日の WG では時間内に全体を網羅できなかったことと欠席者が多かったことから、2 月 22 日までに、WG メンバーからメール等で意見をいただき、案の作成に反映させる。
・次回第 5 回改訂 WG は 3 月 6 日 13 時から開催する。
・3 月 14 日に再生普及部会を開催する予定であり、普及行動計画の改訂を審議する自然再生協議会は 6 月頃に開催することになる見通し。

資料３

上サロベツ
自然再生
普及行動計画

【改訂素案】

平成２４年●月

上サロベツ自然再生協議会

上サロベツ自然再生普及行動計画

目　　次

１．はじめに 1

２．経緯 2

３．自然再生普及行動計画の基本的考え方 3
（１）自然再生普及行動計画の位置づけと目的
（２）自然再生普及行動計画の役割
（３）自然再生普及行動計画の構成

４．自然再生普及活動の進め方 6
（１）自然再生普及活動の進め方
（２）自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み

５．サロベツ文化づくりのための７つの行動 9
（１）サロベツを見つけよう
（２）サロベツの話をしよう
（３）サロベツを楽しもう
（４）サロベツのことをまとめよう
（５）サロベツのことを伝えよう
（６）サロベツをまもろう
（７）サロベツでつなげよう

１．はじめに

農業と湿原が共生するサロベツ。豊富町の農業と開拓の歴史は、サロベツの自然環境と切っても切れない深い関係にあります。明治 36 年（1903 年）に兜沼地区に岐阜団体が入植してから今年で 109 年、昭和 36 年（1961 年）にサロベツ原野の農業開発や各種の開発事業に向けた総合調査が始められてから今年で 51 年目を迎えています。

その間には、豊富町に入植した先人の方々が目の前に広がる広大な自然の中から、生活や人生を切り開いてきた「開拓への思い」、この地域を日本でも指折りの酪農地域として築き上げてきた方々の「おいしい牛乳を届けようとする思い」、その一方で、開発の足を止め、サロベツ湿原の広大な景観や、湿原に可憐に咲く花々、訪れる野鳥たちを大切に見守ってきた方々の「サロベツの自然を愛する思い」がありました。

この地域には、豊富牛乳や、サロベツ湿原の自然だけではなく、サロベツという地で育まれた大切な「思い」があります。私たちは、この思いを引き継ぎ、伝えていくことが大切な役割だと思います。

平成 17 年（2005 年）、「上サロベツ自然再生協議会」が立ち上がり、農業と湿原の共生について地域の多様な主体が参加し活動する場が開かれ、そして平成 18 年（2006 年）に策定された「上サロベツ自然再生全体構想」では、「湿原の自然再生」、「農業の振興」、「地域づくり」の3つの，目標が掲げられました。また、地域全体での協力した取り組みや環境教育の視点、地域産業の再生・発展のための取り組み、そして、これらの取り組みを持続的なものにし上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めることなどが、自然再生の推進に必要なこととして示されました。

自然再生の目標達成に向け、サロベツの農業と湿原の共生を学び、また、多くの方が活動できる機会や交流できる場をつくりながら、一緒に語り合い取り組むことで、サロベツで育まれた「思い」を引き継ぎ、また、私たち自身の「思い」として育んでいくために、自然再生普及行動計画を定めます。

2．経緯

平成 17 年 1 月に上サロベツ自然再生協議会が設立され、再生普及部会や行動計画策定ワーキンググループでの検討を経て、平成 19 年 5 月に「上サロベツ自然再生普及行動計画」が策定されました。

その後、この自然再生普及行動計画を一つの手引きとして、普及活動支援ワーキンググループが設置され、また、上サロベツ自然再生にかかわる活動を「サロベツ・エコモー・プロジェクト」と位置づけ、自然再生普及活動が行われてきました。

そして、この程「上サロベツ自然再生普及行動計画」が策定後 5 年目を迎えたことから、これまでの自然再生普及活動を振り返り、より効果的な活動を進めるため、平成 24 年●月に「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂を行いました。

平成 15 年 1 月 1 日　自然再生推進法施行

平成 17 年 1 月 19 日 上サロベツ自然再生協議会の設立、再生普及部会の設置

平成 18 年 2 月　　再生普及部会の進め方、普及行動計画の策定検討
- 再生普及部会の開催（5 回）
- 行動計画策定ワーキンググループの開催（4 回）

平成 19 年 5 月 17 日第 7 回上サロベツ自然再生協議会　―自然再生普及行動計画の策定

平成 19 年 8 月～　　普及活動支援ワーキンググループの設置・開催
- 自然再生普及活動の募集、支援
- 報告会や研修会を随時実施

平成 20 年 4 月～　　サロベツ・エコモー・プロジェクト始動（名称は平成 20 年 12 月に決定）
- 平成 20 年 9 活動、平成 21 年 19 活動、平成 22 年 15 活動、平成 23 年 22 活動

平成 23 年 12 月～　普及行動計画改訂ワーキング設置・開催
- 第 1 回普及行動計画改訂ワーキング（平成 23 年 12 月 8 日）
- 第 2 回普及行動計画改訂ワーキング（平成 24 年 1 月 13 日）
- 第 3 回普及行動計画改訂ワーキング（平成 24 年 1 月 26 日）
- 第 4 回普及行動計画改訂ワーキング（平成 24 年 2 月 16 日）
- 第 5 回普及行動計画改訂ワーキング（平成 24 年 3 月●日）

平成 24 年●月●日　再生普及部会　―自然再生普及行動計画の改訂検討

平成 24 年●月●日　自然再生協議会　―自然再生普及行動計画の改訂

3．自然再生普及行動計画の基本的考え方

（1）位置づけと目的

平成 18 年 2 月に策定された「上サロベツ自然再生全体構想」には、「湿原の自然再生」、「農業の振興」、「地域づくり」の 3 つの目標が掲げられています。また、自然再生の推進に必要なこととして、地域全体での協力した取り組みや環境教育の視点、地域産業の再生・発展のための取り組み、そして、これらの取り組みを持続的なものにし上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めることなどが示されています。

自然再生普及行動計画は、「上サロベツ自然再生全体構想」に基づき、これらを推進することを目的としています。

上サロベツ自然再生全体構想（平成 18 年 2 月策定）

【目標】

湿原の自然再生	農業の振興	地域づくり

【自然再生の推進に必要なこと】※自然再生の普及に関する部分を抜粋

地域住民等多様な主体の参画による自然再生情報の発信とフィードバッ
地域としての取り組み
環境教育の視点
自然環境と調和した地域産業の持続的発展のあり方
地域の視点とグローバルな視点
自然再生への取り組みを持続的なものにする工夫

推進

上サロベツ自然再生普及行動計画

●自然再生を伝える
●人や団体のつながりをつくる
●地域への思いを育てる





（２）自然再生普及行動計画の役割

上サロベツ自然再生は、地域に暮らす人をはじめ上サロベツにかかわる人の地道な活動によって支えられています。自然再生普及行動計画は、これらの地道な活動に対して地域全体が協力して支え合い、上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めるために、次の 3 つの役割があります。

自然再生普及行動計画の３つの役割

1 自然再生を伝える

サロベツ湿原にはすばらしい自然があり、その背景には農業と湿原の共生や、人々の生活があります。また、このサロベツの自然をこれからも大切にするために、湿原の保全など自然再生事業も進められています。それらのすばらしさや大切さを知ってもらうことが、湿原の保全や自然再生につながります。

そのためには、自然再生について「伝える」ことがはじめの一歩となります。サロベツの自然や文化を知り、自然再生事業に触れることで、地域の魅力を発見することもできます。自然再生普及行動計画は、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、そして活動する人達に、上サロベツの自然再生について伝えることが役割です。

2 人や団体のつながりをつくる

地域づくりは、そこに暮らす人、その土地を愛する人によって育まれます。そのような人たちが一人でも多くなり、つながりを持つことで地域づくりがもっと進んでいきます。

3 人寄れば文殊の知恵。上サロベツにかかわる人たちが「楽しい」を共感し、一緒に語り合い、取り組むためのつながりをつくることが大切です。

自然再生普及行動計画は、多くの人が活動できる機会や交流できる場をつくりながら、人と人、団体と団体をつなげることが役割です。

3 地域への思いを育てる

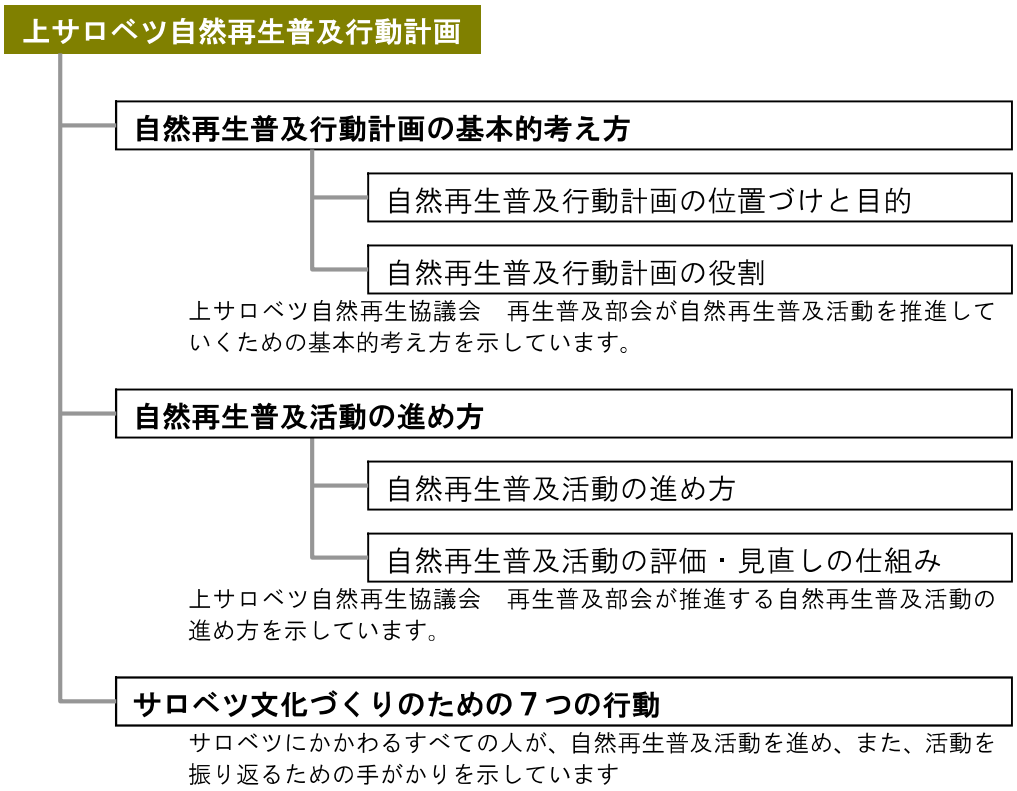
自然再生への取り組みを持続的なものにするためには、地域を愛し、地元に根付いた地道な活動が必要です。そのために、自然再生を伝え、また、人や団体のつながりをつくることで、上サロベツへの思いの芽を紡ぎ、育てていくことが大切になります。

自然再生普及行動計画は、子ども達への環境教育や、上サロベツをフィールドとした地域活動などを通して、地域への愛着を深め、思いを育てることも役割です。

（３）自然再生普及行動計画の構成

自然再生普及行動計画は、「自然再生普及行動計画の基本的考え方」「自然再生普及行動活動の進め方」、そして、「サロベツ文化づくりのための 7 つの行動」から構成されます。

自然再生普及行動計画の構成



4．自然再生普及活動の進め方

（1）自然再生普及活動の進め方

1 「自然再生を伝える」「人や団体のつながりをつくる」「地域への思いを育てる」の 3 つの役割をもとに、再生普及部会やエコモー☆サポーター(仮)、活動実施者（チーム★エコモー(仮)）が連携して自然再生普及活動を進めます。

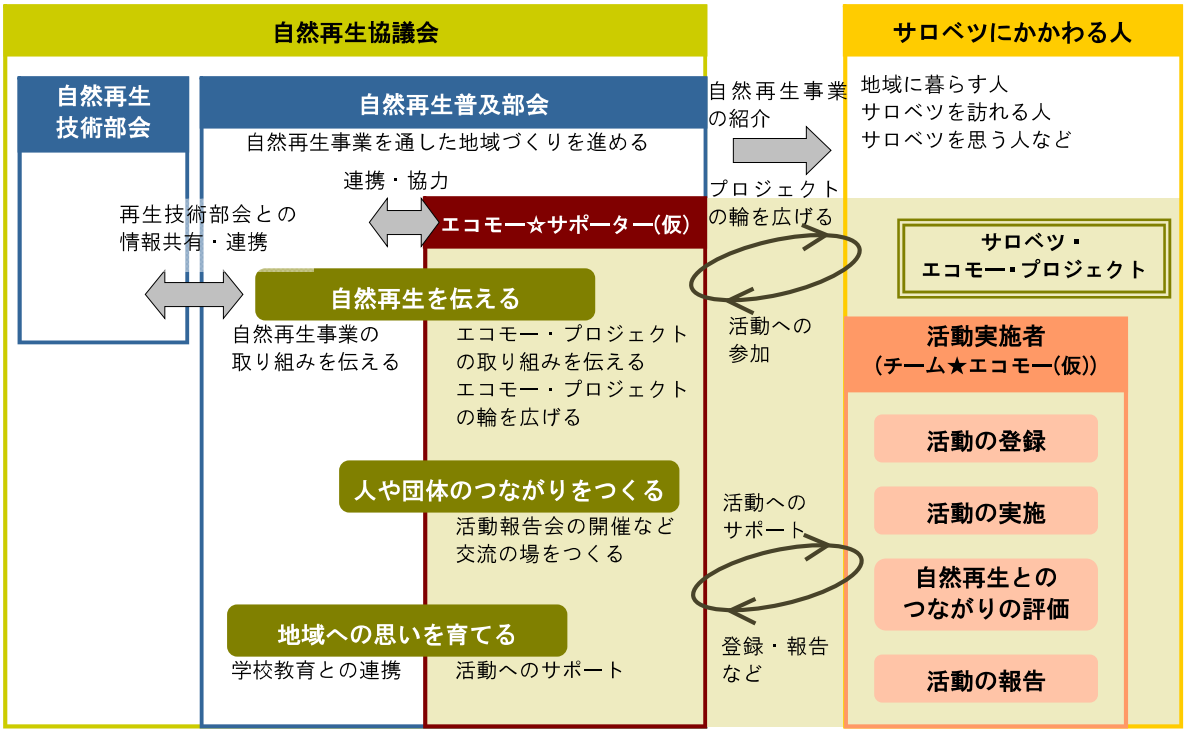
2 再生普及部会は、再生技術部会との情報共有や連携を図りながら、自然再生普及行動計画に基づき、地域に暮らす人をはじめサロベツにかかわる人へ自然再生事業の取り組みを伝えるとともに、学校教育との連携などを行い、自然再生事業を通した地域づくりを進めます。

3 上サロベツ自然再生と、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、サロベツを思う人などをつなげる地域活動を「サロベツ・エコモー・プロジェクト」と位置づけ、サロベツ・エコモー・プロジェクトを通して「自然再生を伝える」「人や団体のつながりをつくる」「地域への思いを育てる」活動を推進します。

4 サロベツ・エコモー・プロジェクトを推進するため、「エコモー☆サポーター(仮)」を設置します（※改訂に伴い、旧普及活動支援ワーキンググループの名称と役割を変更）。「エコモー☆サポーター(仮)」は、自然再生普及行動計画の 3 つの役割をもとに、活動実施者（チーム★エコモー(仮)）のサポートを行います。また、再生普及部会とも連携し、地域に暮らす人をはじめサロベツにかかわる人に自然再生を伝える活動を行います。

5 サロベツ・エコモー・プロジェクトの活動を行う実施者を「チーム★エコモー(仮)」と呼び、活動実施者同士が協力し合える関係をつくります。
「チーム★エコモー(仮)」のメンバーは、「エコモー☆サポーター(仮)」と連携、協力して自然再生普及活動を行います。また、実施した活動を「サロベツの文化づくりのための 7 つの行動」をもとに振り返り、自然再生とのつながりを自ら評価します。

自然再生普及行動の進め方イメージ図



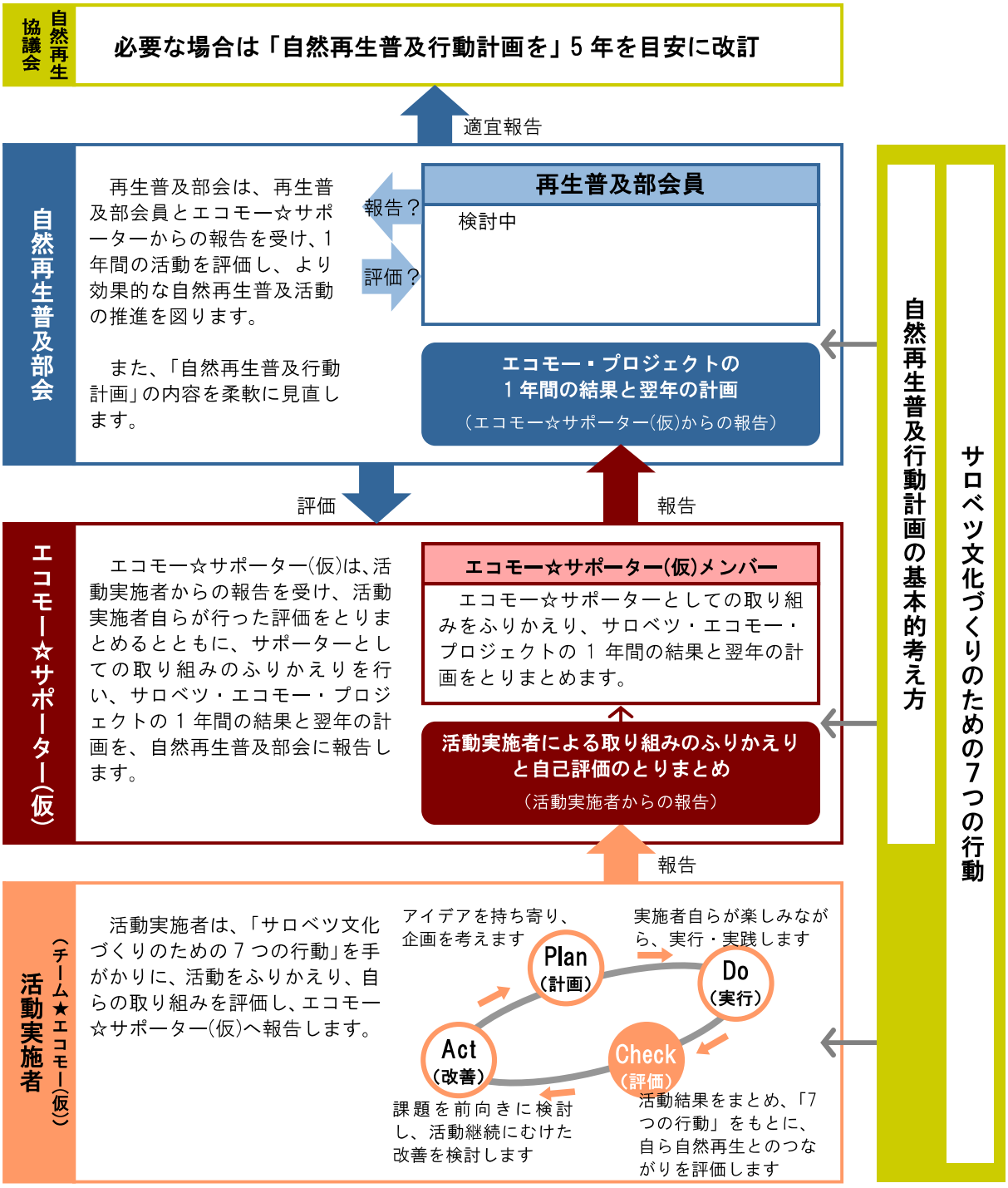
サロベツ・エコモー・プロジェクト：
上サロベツ自然再生と、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、サロベツを思う人などをつなげるプロジェクトです。

（２）自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み

１年間の自然再生普及活動の結果と翌年の計画を次のように評価し、より効果的な活動の推進を図ります。

なお、「自然再生普及行動計画」は、その内容を柔軟に見直し、必要な場合は5年を目安に改訂を行います。

自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み



5．サロベツ文化づくりのための７つの行動

サロベツにかかわるすべての人が、自然再生普及活動を進め、また、活動をふりかえる手がかりとして、「サロベツ文化づくりのための7つの行動」を示します。

（1）サロベツを見つけよう



（1）-1 地域の自然について調べよう・見つけよう

- ●サロベツ湿原の仕組みを調べよう
- ●サロベツに流れる川を調べよう
- ●サロベツに息づく生き物を調べよう
- ●サロベツの景色を調べよう（自然風景、農業風景、陸から、川から、空から）

（1）-2 地域の文化・歴史について調べよう

- ●地元の人の視点でサロベツを見つけよう
- ●外からの視点でサロベツを見つめよう
- ●サロベツのおいしいものを見つけよう
- ●サロベツの癒し・健康効果を見つけよう
- ●歴史を調べよう
- ●古い写真を集めよう

（2）サロベツの話をしよう



- ●町の古老と話そう
- ●町の子ども達と話そう
- ●サロベツを訪れる旅人と話そう

（3）サロベツを楽しもう



- ●自然観察会を開こう
- ●自転車で楽しもう
- ●カヌーで楽しもう
- ●フットパスルートを歩こう
- ●ホーストレッキングを楽しもう
- ●湿原植物を育てよう
- ●湿原植物を食べよう
- ●サロベツを楽しむルートで遊ぼう
- ●地場産のソフトクリームを食べよう、牛乳を飲もう
- ●サロベツの四季を楽しもう
- ●サロベツの香りを楽しもう
- ●サロベツをきれいにしよう

（４）サロベツのことをまとめよう

- サロベツ紹介パンフレットを作ろう
- サロベツの教材や副読本をつくろう
- サロベツガイド専用マニュアルを作ろう
- バスガイドさん用サロベツマニュアルを作ろう
- 解説板を作ろう
- かべ新聞を作ろう
- 兜沼公園や豊富温泉など近くの楽しいもの、面白いことをまとめよう

（５）サロベツのことを伝えよう

- 高層湿原を PR しよう
- ホームページを活用しよう
- 新聞、ラジオなどメディアを活用しよう
- 掲示板で発表しよう
- サロベツのことを自慢しよう

（６）サロベツをまもろう

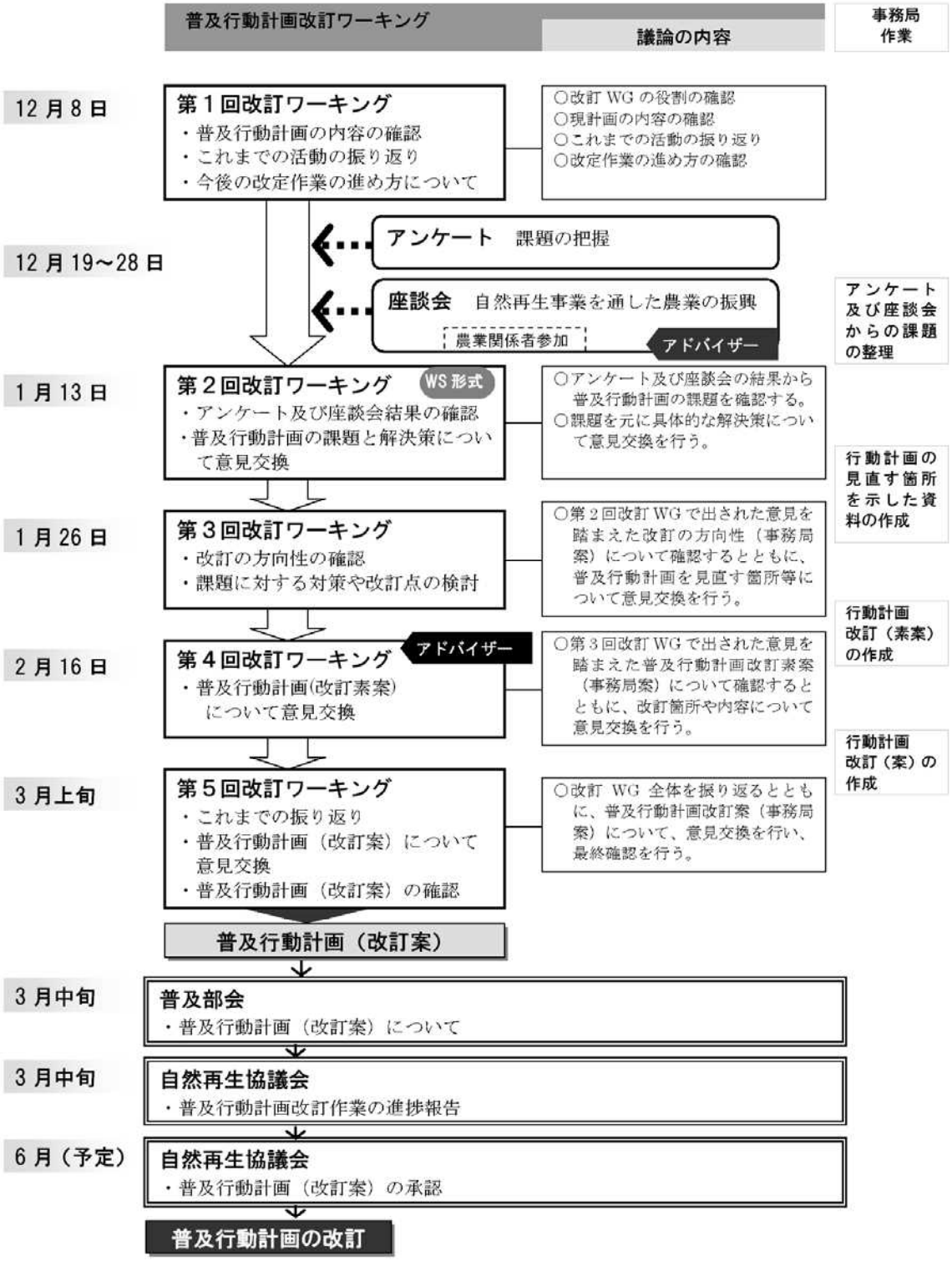
- サロベツの自然、湿原を保全しよう
- 利用の条件を考えよう
- 活用の場の条件を考えよう
- サロベツカントリーコードを作ろう
- ルールを運用する仕組みを考えよう

（７）サロベツでつなげよう

- 親子で参加しよう
- 町のおじいちゃん、おばあちゃんと参加しよう
- 農業青年と活動しよう
- 町民同士で定期的な話し合いの機会を持とう
- サロベツで多くの人と会おう
- サロベツガイド（自然、文化、地域、活動）を育成しよう
- 環境教育指導者を育成しよう
- 講習会、講演会を開こう

資料４

改訂ワーキンググループのスケジュール



(6) 第 5 回 WG

第 5 回 WG は、「普及行動計画改訂(案)の確認」をテーマに、平成 24 年 3 月 6 日に豊富町民センターにて開催された。

出席者、配布資料、議事概要を以下に示す。

表-9.16 第 5 回 WG 出席者

No.	氏名又は団体名(敬称略)	担当者名(敬称略)
1	田中　美佐保	
2	村元　正己	
3	西島 今朝悟	
4	谷垣　重遠	
5	利尻礼文サロベツ国立公園 パークボランティアの会「豊富部会」	佐藤　吉一
6	北海道森林管理局 宗谷森林管理署	流域管理調整官　安藤　健一
7	宗谷総合振興局　保健環境部	環境生活課　自然環境係長　後藤　茂徳
8	北海道開発局　稚内開発建設部	農業開発課　上席農業環境調査専門官　野地　正昭
9	豊富町	商工観光課　主幹兼林業水産係長　吉村　穣滋
10		農政課　農村整備係　佐々木　仁
11	NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	事務局長　嶋崎　暁啓
12	北海道地方環境事務所 稚内自然保護官事務所	自然保護官　中島 信人
13		自然保護官　永野　雄大
14		自然保護官補佐 中野 雄介
15		自然保護官補佐 山上 佳祐





第 5 回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
プログラム

日　時：平成 24 年 3 月 6 日（火）13：00～15：00　（※約 2 時間）
場　所：豊富町民センター　1 階小会議室

テーマ
普及行動計画（改訂案）について

時間	内容	配付資料
13：00～13：10 （10 分）	1. はじめに ・本日の進め方について	
13：10～13：20 （10 分）	2. 普及行動計画(改訂素案)に対する意見の確認 ・第 4 回改訂 WG のふりかえり	資料 1
13：20～13：35 （15 分）	3. 普及行動計画（改訂案)について ・普及行動計画（改訂案)について説明	資料 2
13：35～14：45 （70 分）	4. 意見交換 ・普及行動計画（改訂案)について	
14：45～14：50 （5 分）	5. 今後のスケジュール	資料 3
14：50～15：00 （10 分）	6. 本日のまとめ	

資料 1:第 4 回改訂 WG 議事概要（前項に掲載したので割愛）
資料 2:自然再生普及行動計画(改訂案)
資料 3:今後のスケジュール

第 5 回　上サロベツ自然再生普及行動計画改訂ワーキンググループ
議事概要

(1) 普及行動計画(改訂素案)について説明

・「上サロベツ自然再生普及行動計画【改訂案】」について、第 4 回改訂ワーキンググループの結果を踏まえた修正箇所を説明した。

(2) 普及行動計画(改訂素案)について意見交換

○はじめに

・ 事務局案のとおりで良い。

○経緯

・ 普及活動支援ワーキンググループの活動について、平成 19 年 8 月～現在までに開催されたワーキンググループの回数を、年ごとに記載する。
・ 経緯のページは 1 ページにまとめる。

○自然再生普及行動計画の構成

・ 「サロベツ文化づくりのための 7 つの行動」の説明文については、2 行目「～上サロベツの自然再生とのつながりを感じることができるよう、その手がかりを示しています。」の文を「～上サロベツの自然再生とのつながりを感じられる手がかりを示しています。」と修正する。

○自然再生普及行動計画の基本的考え方

【(1) 自然再生普及行動計画の位置づけと目的】

・ 事務局案のとおりで良い。

【(2) 自然再生普及行動計画の役割】

・ 「1.自然再生を伝える」の 1 行目「サロベツには次代に伝えていくべき、高層湿原などの貴重な自然があり、～」を「サロベツには次代に伝えていくべき、高層湿原などの貴重な自然があります。」と言い切りの形にする。
・ 「1.自然再生を伝える」の 5 行目の「～それらを知ってもらうことが、～」の「それら」が前の文章と繋がっていないため、4 行目で削除している「それらのすばらしさや大切さを知ってもらうことが、湿原の保全や自然再生につながります。」を生かし、5 行目の「それらを知ってもらうことが、はじめの一歩となります。」を削除する。

○自然再生普及行動計画の進め方

【(1) 自然再生普及行動計画の進め方】

・ 「チーム★エコモー(仮)」の「チーム」という言い方にすると、組織に加入するイメージになるため、「エコモー☆メンバー(仮)」」に変更する。
・ 「5」の 1 行目から 2 行目では、主語が不明であるため、「サロベツ・エコモー・プロジェクトで

は、」を主語とする。

- 「5」の 2 行目の文章の「～、活動実施者同士が協力し合える関係をつくります。」という表現では、活動をチームで行うことのように誤解を与えるため、『サロベツ・エコモー・プロジェクトでは、サロベツ・エコモー・プロジェクトの活動を行う実施者を「エコモー☆メンバー(仮)」と呼び、活動実施者同士が自主的に協力し合える関係づくりを推進します。』と修正する。
- 「5」の 3 行目からは、「エコモー☆メンバー(仮)」が実施する活動内容に対して、振り返りや評価を義務化すると誤解を与えるため、削除する。
- P8 の「自然再生普及活動の進め方」を示している図の「プロジェクトの輪を広げる」の下に示している輪の部分が、サロベツにかかわる人とエコモー☆サポーター(仮)のつながりを表しているため、「活動実施者」にかからないように、輪を小さく示し、修正する。

【(2)自然再生普及行動計画の評価・見直しの仕組み】

- 「1」の文章の「～実施します。」という表見では、活動実施者の活動内容を義務化すると誤解を与えるため、自主的に実施してくことを推進するといった書きぶりに変える。なお、具体的な書きぶりは事務局から後日提案する。

○サロベツ文化づくりのための 7 つの行動

- 事務局案のとおりで良い。

(3) 今後のスケジュールについて

- 3 月 8 日に本日意見を頂いた部分を修正し、辻井先生に報告をする。
- 本日のワーキンググループを踏まえた修正は、至急事務局からメール等を使って連絡し、今週中に最終調整を行う。
- 3 月 14 日に行う自然再生協議会では、資料「その他-1」により、改訂作業の進捗状況を報告する予定である。
- 同じく 3 月 14 日に行う再生普及部会では、資料「その他-2」により、「上サロベツ自然再生普及行動計画【改訂案】」を審議していただく予定である。

資料２

上サロベツ
自然再生
普及行動計画

【改訂案】

平成２４年●月

上サロベツ自然再生協議会

上サロベツ自然再生普及行動計画

目　　次

１．はじめに 1

２．経緯 2

３．自然再生普及行動計画の構成 3

４．自然再生普及行動計画の基本的考え方 4
（１）自然再生普及行動計画の位置づけと目的
（２）自然再生普及行動計画の役割

５．自然再生普及活動の進め方 6
（１）自然再生普及活動の進め方
（２）自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み

６．サロベツ文化づくりのための７つの行動 10
（１）サロベツを見つけよう
（２）サロベツの話をしよう
（３）サロベツを楽しもう
（４）サロベツのことをまとめよう
（５）サロベツのことを伝えよう
（６）サロベツをまもろう
（７）サロベツでつなげよう

１．はじめに

~~農業と湿原が共生するサロベツ。~~豊富町の農業と開拓の歴史は、サロベツ原野の広大な湿原~~の自然環境~~と切っても切れない深い関係にあります。明治 36 年（1903 年）に兜沼地区に岐阜団体が入植してから~~今年で 109 年、昭和 36 年（1961 年）にサロベツ原野の農業開発や各種の開発事業に向けた総合調査が始められてから今年で 51 年目を迎えています。~~1 世紀以上が過ぎています。

その間には、~~豊富町~~サロベツ川流域、清明川流域等に入植した先人の方々が目の前に広がる広大な~~自然~~原野の中~~から~~で、生活や人生を切り開いてきた「開拓への思い」、この地域を日本でも指折りの酪農地域として築き上げてきた方々の「安全・安心で、おいしい牛乳を~~届け~~生産しようとする思い」、~~その一方で、開発の足を止め、~~サロベツ湿原の広大な景観や、湿原に~~可憐に~~春から秋にかけて数多く咲く花々、訪れる~~野鳥~~渡り鳥たちを大切に見守り、慈しんで~~ゐて~~きた方々の「サロベツの自然への~~を愛する~~思い」があります~~した~~。

~~この地域には、豊富牛乳や、サロベツ湿原の自然だけではなく、サロベツという地で育まれた大切な「思い」があります。~~私たちは、この思いを引き継ぎ、伝えていくことが大切な役割だと思います。

平成 17 年（2005 年）、「上サロベツ自然再生協議会」が立ち上がり、農業と湿原の共生について地域の多様な主体が参加し活動する場が開かれ、そして平成 18 年（2006 年）に策定された「上サロベツ自然再生全体構想」では、「湿原の自然再生」、「農業の振興」、「地域づくり」の3つの，目標が掲げられました。~~また~~さらに、自然再生の推進に必要なこととして、地域全体での協力した取り組みや環境教育の視点、地域産業の再生・発展のための取り組み、そして、これらの取り組みを持続的なものにし~~上~~サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めることなどが、~~自然再生の推進に必要なことゐして~~示されました。

自然再生の目標達成に向け、サロベツでの農業と湿原の共生を~~学び~~伝え、~~また、~~多くの方が興味を抱き活動できる機会や交流できる場をつくりながら、一緒に~~語り合い~~地域活動に取り組むことで、サロベツで育まれた「思い」を引き継ぎ、~~また~~さらに、私たち自身の「思い」として育んでいくために、自然再生普及行動計画を定めます。

2．経緯

平成 17 年 1 月に上サロベツ自然再生協議会が設立~~され、~~されました。協議会に設置された再生普及部会や行動計画策定ワーキンググループでの検討を経て、平成 19 年 5 月に「上サロベツ自然再生普及行動計画」が策定されました。

その後、この自然再生普及行動計画~~を一つの手引きとして、~~に基づいて、普及活動支援ワーキンググループが設置され、上サロベツの自然再生にかかわる活動を「サロベツ・エコモー・プロジェクト」と位置づけ、自然再生普及活動が行われてきました。

そして、この程「上サロベツ自然再生普及行動計画」が策定後5年目を迎えたことから、これまでの自然再生普及活動を振り返り、より効果的な活動を進めるため、平成 24 年●月に「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂を行いました。

平成 15 年 1 月 1 日　自然再生推進法施行

平成 17 年 1 月 19 日 上サロベツ自然再生協議会設立、再生技術部会・再生普及部会の設置

平成 18 年 2 月　　上サロベツ自然再生全体構想の策定

~~平成 18 年 2 月～平成 19 年 5 月　再生普及部会の進め方、普及行動計画の策定検討~~

~~・再生普及部会の開催（5回）~~

~~・普及行動計画策定ワーキンググループの開催（4回）~~

平成 19 年 5 月 ~~17 日第 7 回上サロベツ自然再生協議会~~

上サロベツ自然再生普及行動計画の策定

平成 19 年 8 月～現在　普及活動支援ワーキンググループの設置・開催

・自然再生普及活動の募集、支援

・活動報告会~~や~~、活動研修会等を~~随時~~実施

平成 20 年 4 月～現在　　サロベツ・エコモー・プロジェクト始動（名称は平成 20 年 12 月に決定）

・平成 20 年　活動の募集、 9 団体 9 活動の実施、活動報告会の開催

・平成 21 年　活動の募集、11 団体 19 活動の実施、活動報告会の開催

・平成 22 年　活動の募集、18 団体 15 活動の実施、活動報告会の開催

・平成 23 年　活動の募集、20 団体 22 活動の実施、活動報告会の開催

平成 23 年 12 月～平成 24 年 3 月　普及行動計画改訂ワーキンググループ設置・開催

・第 1 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 23 年 12 月 8 日）

・第 2 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 24 年 1 月 13 日）

・第 3 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 24 年 1 月 26 日）

・第 4 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 24 年 2 月 16 日）

・第 5 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 24 年 3 月 6 日）

平成 24 年 3 月 14 日 再生普及部会　―上サロベツ自然再生普及行動計画（改訂案）の検討

平成 24 年 6 月●日　自然再生協議会　―上サロベツ自然再生普及行動計画の改訂

3．自然再生普及行動計画の構成

自然再生普及行動計画は、「自然再生普及行動計画の基本的考え方」「自然再生普及行動活動の進め方」、そして、「サロベツ文化づくりのための 7 つの行動」~~から~~で構成されます。

自然再生普及行動計画の構成

上サロベツ自然再生普及行動計画

自然再生普及行動計画の基本的考え方

- 自然再生普及行動計画の位置づけと目的
- 自然再生普及行動計画の役割

上サロベツ自然再生協議会　再生普及部会が自然再生普及活動を推進していくための基本的考え方を示しています。

自然再生普及活動の進め方

- 自然再生普及活動の進め方
- 自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み

上サロベツ自然再生協議会　再生普及部会が推進する自然再生普及活動の進め方を示しています。

サロベツ文化づくりのための７つの行動

サロベツにかかわるすべての人が、~~自然再生普及活動を進め、また、活動を振り返るための~~地域活動を通し、上サロベツの自然再生とのつながりを感じることができるよう、その手がかりを示しています。

4．自然再生普及行動計画の基本的考え方

（1）自然再生普及行動計画の位置づけと目的

平成 18 年 2 月に策定された「上サロベツ自然再生全体構想」には、「湿原の自然再生」、「農業の振興」、「地域づくり」の 3 つの目標が掲げられています。また、自然再生の推進に必要なこととして、地域全体での協力した取り組みや環境教育の視点、地域産業の再生・発展のための取り組み、そして、これらの取り組みを持続的なものにし上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めることなどが示されています。

自然再生普及行動計画は、「上サロベツ自然再生全体構想」に基づき、再生普及部会が、これらを推進することを目的としています。

上サロベツ自然再生全体構想（平成 18 年 2 月策定）

【目標】

湿原の自然再生	農業の振興	地域づくり

【自然再生の推進に必要なこと】※自然再生の普及に関する部分を抜粋

地域住民等多様な主体の参画による自然再生情報の発信とフィードバッ
地域としての取り組み
環境教育の視点
自然環境と調和した地域産業の持続的発展のあり方
地域の視点とグローバルな視点
自然再生への取り組みを持続的なものにする工夫

推進

上サロベツ自然再生普及行動計画

- **自然再生を伝える**
- **人や団体のつながりをつくる**
- **地域への思いを育てる**





（２）自然再生普及行動計画の役割

上サロベツ自然再生は、地域に暮らす人をはじめ、~~上~~サロベツにかかわる人の地道な活動によって支えられています。自然再生普及行動計画は、これらの地道な活動に対して地域全体が協力して支え合い、~~上~~サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めるために、次の 3 つの役割があります。

自然再生普及行動計画の３つの役割

1 自然再生を伝える

~~サロベツ湿原にはすばらしい自然があり、~~サロベツには次代に伝えていくべき、高層湿原などの貴重な自然があり、その背景には農業と湿原の共生や、人々の生活があります。また、このサロベツの自然をこれからも大切にするために、湿原の保全など自然再生事業も進められています。~~それらのすばらしさや大切さを知ってもらうことが、湿原の保全や自然再生につながります。そのためには、自然再生について「伝える」ことが~~それらを知ってもらうことが、はじめの一歩となります。~~サロベツの自然や文化を知り、自然再生事業に触れることで、地域の魅力を発見することもできます。~~

自然再生普及行動計画は、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、そして活動する人達に、~~上~~サロベツの自然再生について伝えることが役割です。

2 人や団体のつながりをつくる

地域づくりは、そこに暮らす人、その土地を愛する人によって育まれます。そのような人たちが一人でも多くなり、つながりを持つことで地域づくりがもっと進んでいきます。

3 人寄れば文殊の知恵。サロベツにかかわる人たちが「楽しい」を共感し、一緒に語り合い、取り組むためのつながりをつくることが大切です。

自然再生普及行動計画は、多くの人が活動できる機会や交流できる場をつくりながら、人と人、団体と団体をつなげることが役割です。

3 地域への思いを育てる

自然再生への取り組みを持続的なものにするためには、地域を愛し、地元に根付いた地道な活動が必要です。そのために、自然再生を伝え、また、人や団体のつながりをつくることで、~~上~~サロベツへの思いの芽を紡ぎ、育てていくことが大切になります。

自然再生普及行動計画は、~~子ども達への~~環境教育や、~~上~~サロベツをフィールドとした地域活動などを通して、地域への愛着を深め、思いを育てることも役割です。

5．自然再生普及活動の進め方

（1）自然再生普及活動の進め方

1 「自然再生を伝える」「人や団体のつながりをつくる」「地域への思いを育てる」の 3 つの役割をもとに、再生普及部会やエコモー☆サポーター(仮)、活動実施者（チーム★エコモー(仮)）が連携して自然再生普及活動を進めます。

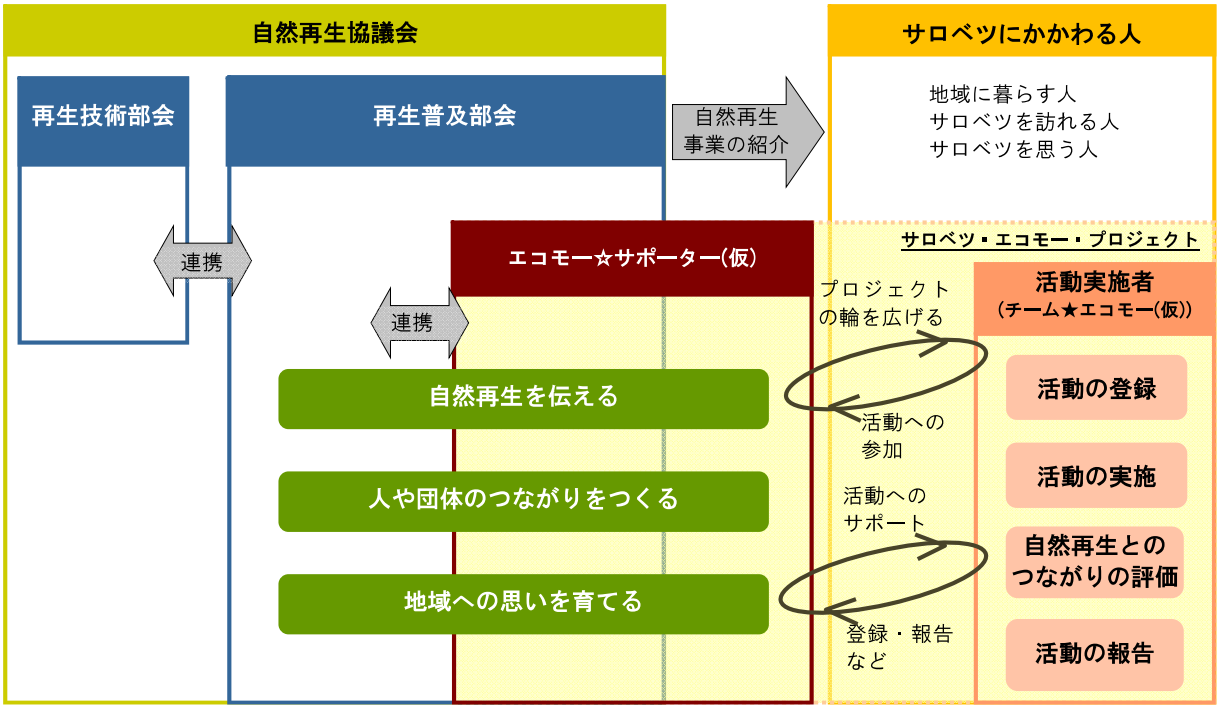
2 再生普及部会は、再生技術部会と~~の~~情報共有や連携を図りながら、自然再生普及行動計画に基づき、地域に暮らす人をはじめサロベツにかかわる人へ自然再生事業の取り組みを伝え~~るとともに、学校教育との連携などを行い、自然再生事業を通した地域づくりを進め~~ます。

3 上サロベツ自然再生と、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、サロベツを思う人などをつなげる地域活動を「サロベツ・エコモー・プロジェクト」と位置づけ、サロベツ・エコモー・プロジェクトを通して「自然再生を伝える」「人や団体のつながりをつくる」「地域への思いを育てる」活動を推進します。

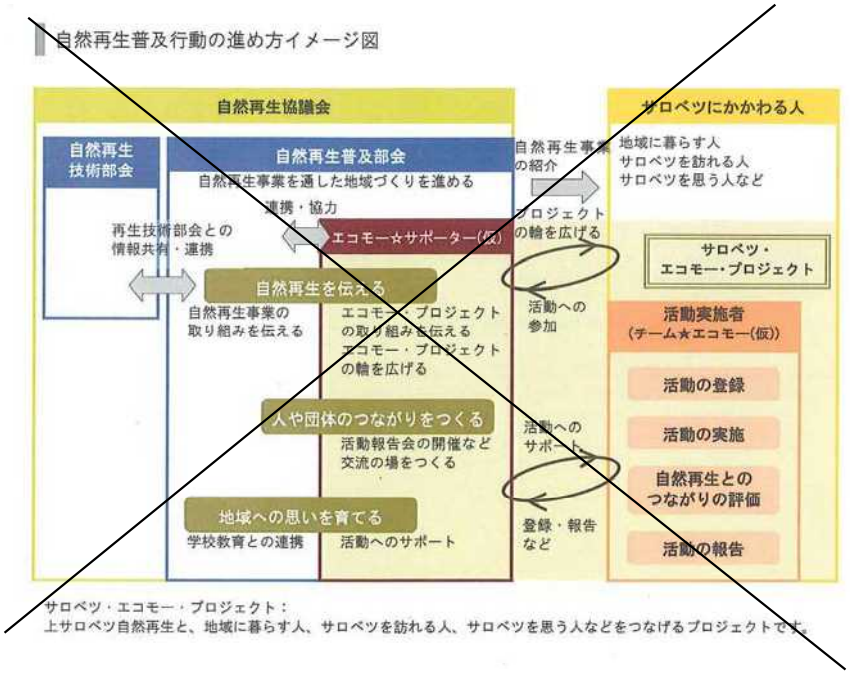
4 サロベツ・エコモー・プロジェクトを推進するため、「エコモー☆サポーター(仮)」を設置します（※改訂に伴い、旧普及活動支援ワーキンググループの名称と役割を変更）。「エコモー☆サポーター(仮)」は、自然再生普及行動計画の 3 つの役割をもとに、活動実施者（チーム★エコモー(仮)）のサポートを行います。また、再生普及部会とも連携し、~~地域に暮らす人をはじめサロベツにかかわる人に~~自然再生事業の取り組みを伝え~~る活動を行い~~ます。

5 サロベツ・エコモー・プロジェクトの活動を行う実施者を「チーム★エコモー(仮)」と呼び、活動実施者同士が協力し合える関係をつくります。
「チーム★エコモー(仮)」のメンバーは、「エコモー☆サポーター(仮)」と連携、協力して~~自然再生普及活動~~地域活動を行います。また、実施した活動を「サロベツ文化づくりのための 7 つの行動」をもとに振り返り、自然再生とのつながりを自ら評価します。

自然再生普及活動の進め方



サロベツ・エコモー・プロジェクト：
上サロベツ自然再生と、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、サロベツを思う人などをつなげるプロジェクトです。



（２）自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み

１年間の自然再生普及活動の結果と翌年の計画を次のように評価し、より効果的な活動の推進を図ります。

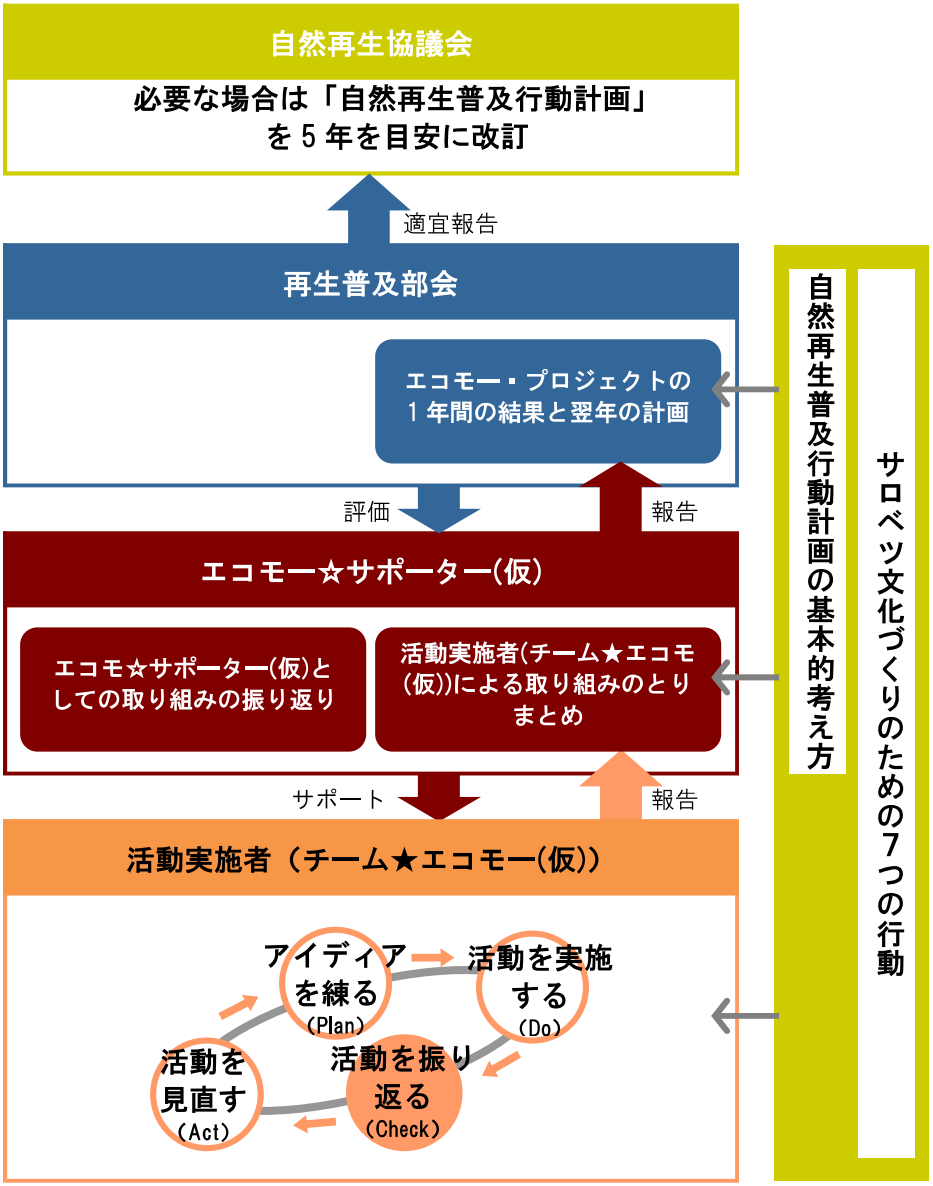
なお、自然再生普及行動計画は、その内容を柔軟に見直し、必要な場合は5年を目安に改訂を行います。

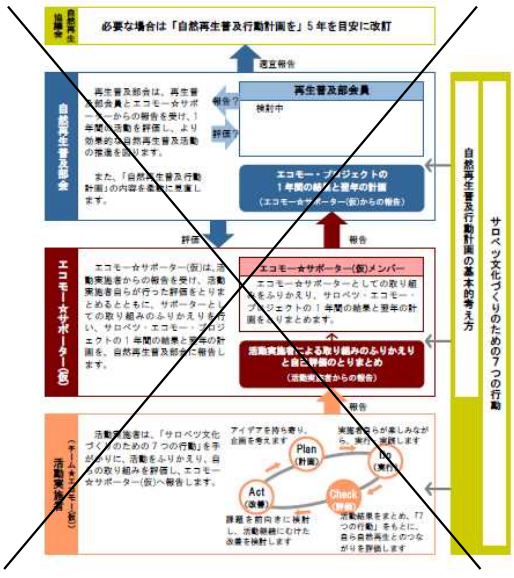
1 活動実施者(チーム★エコモ(仮))は、自らが楽しみながら活動を企画、実施します。また、「サロベツ文化づくりのための７つの行動」をもとに、実施した活動と自然再生とのつながりを自ら評価し、その結果をエコモー☆サポーター(仮)に報告します。

2 エコモー☆サポーター(仮)は、活動実施者(チーム★エコモ(仮))からの報告をとりまとめるとともに、その報告を踏まえ、必要なサポートを行います。
また、エコモー☆サポーター(仮)としての取り組みを振り返り、サロベツ・エコモー・プロジェクトの１年間の結果と翌年の計画を、~~自然~~再生普及部会に報告します。

3 再生普及部会は、自ら部会の取り組みを振り返るとともに、エコモー☆サポーターからの報告を受け、自然再生普及活動の効果や課題等を検証し、より効果的な活動の推進を図ります。また、自然再生普及行動計画の内容を柔軟に見直します。

自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み





６．サロベツ文化づくりのための７つの行動

サロベツにかかわるすべての人が、自然再生普及活動を進め、また、活動をふりかえる手がかりとして、「サロベツ文化づくりのための7つの行動」を示します。

（１）サロベツを見つけよう



（1）-1 地域の自然について調べよう・見つけよう

- ●サロベツ湿原の仕組みを調べよう
- ●サロベツに流れる川を調べよう
- ●サロベツに息づく生き物を調べよう
- ●サロベツの景色を調べよう（自然風景、農業風景、陸から、川から、空から）

（1）-2 地域の文化・歴史について調べよう

- ●地元の人の視点でサロベツを見つけよう
- ●外からの視点でサロベツを見つめよう
- ●サロベツのおいしいものを見つけよう
- ●サロベツの癒し・健康効果を見つけよう
- ●歴史を調べよう
- ●古い写真を集めよう

（２）サロベツの話をしよう



- ●町の古老と話そう
- ●町の子ども達と話そう
- ●サロベツを訪れる旅人と話そう

（３）サロベツを楽しもう



- ●自然観察会を開こう
- ●自転車で楽しもう
- ●カヌーで楽しもう
- ●フットパスルートを歩こう
- ●ホーストレッキングを楽しもう
- ●湿原植物を育てよう
- ●湿原植物を食べよう
- ●サロベツを楽しむルートで遊ぼう
- ●地場産のソフトクリームを食べよう、牛乳を飲もう
- ●サロベツの四季を楽しもう
- ●サロベツの香りを楽しもう
- ●サロベツをきれいにしよう

（４）サロベツのことをまとめよう

- サロベツ紹介パンフレットを作ろう
- サロベツの教材や副読本をつくろう
- サロベツガイド専用マニュアルを作ろう
- バスガイドさん用サロベツマニュアルを作ろう
- 解説板を作ろう
- かべ新聞を作ろう
- 兜沼公園や豊富温泉など近くの楽しいもの、面白いことをまとめよう

（５）サロベツのことを伝えよう

- 高層湿原を PR しよう
- ホームページを活用しよう
- 新聞、ラジオなどメディアを活用しよう
- 掲示板で発表しよう
- サロベツのことを自慢しよう

（６）サロベツをまもろう

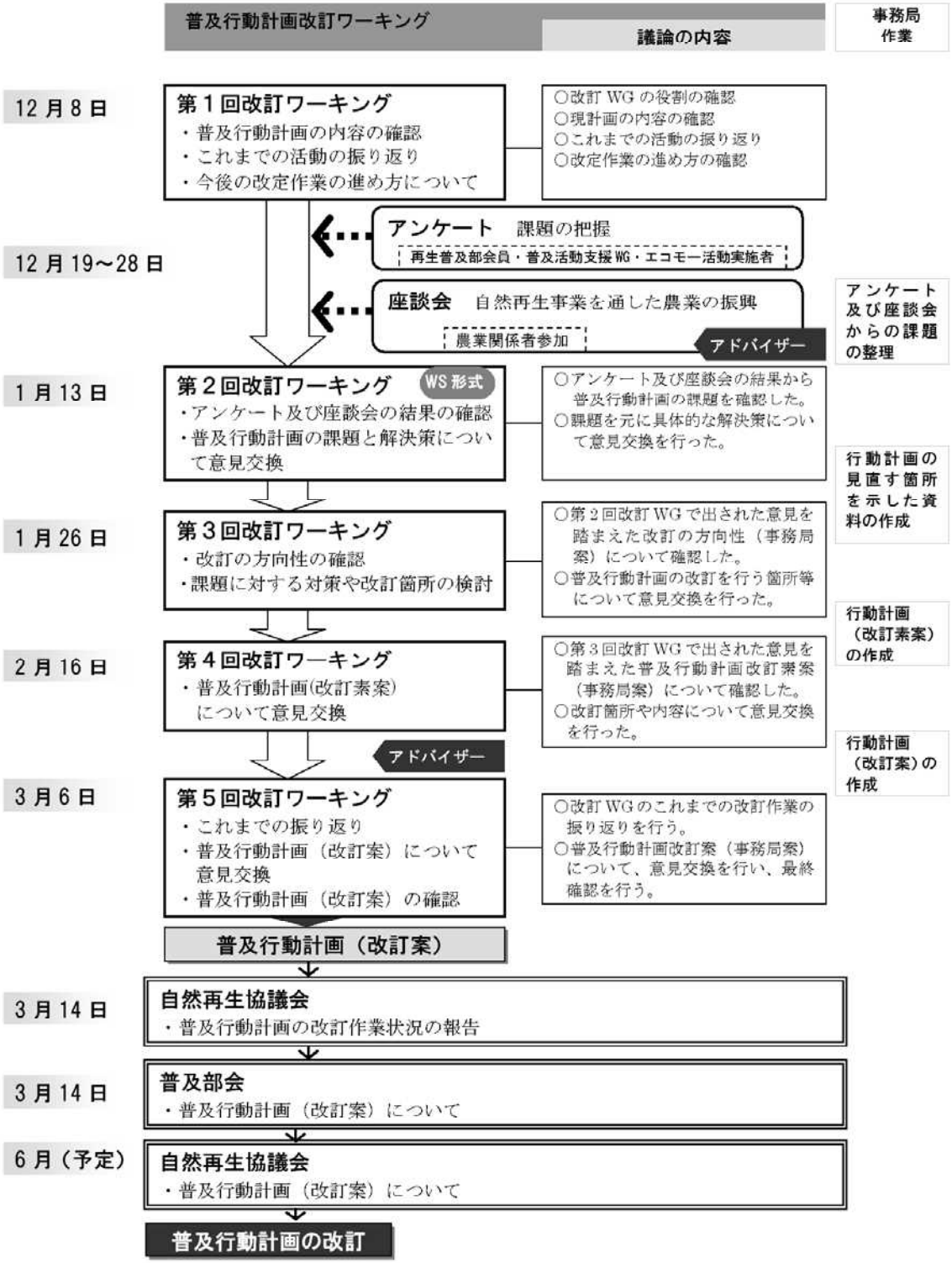
- サロベツの自然、湿原を保全しよう
- 利用の条件を考えよう
- 活用の場の条件を考えよう
- サロベツカントリーコードを作ろう
- ルールを運用する仕組みを考えよう

（７）サロベツでつなげよう

- 親子で参加しよう
- 町のおじいちゃん、おばあちゃんと参加しよう
- 農業青年と活動しよう
- 町民同士で定期的な話し合いの機会を持とう
- サロベツで多くの人と会おう
- サロベツガイド（自然、文化、地域、活動）を育成しよう
- 環境教育指導者を育成しよう
- 講習会、講演会を開こう

資料３

改訂ワーキンググループのスケジュール



(7)「上サロベツ自然再生普及行動計画」【改訂案】

改訂 WG メンバーによる意見交換等に基づき確認された上サロベツ自然再生普及行動計画(改訂案)を以下に示す。

なお、(改訂案)において仮称として記載されている、「エコモー☆サポーター(仮)」(旧普及活動支援ワーキンググループの名称と役割を変更)および「エコモー☆メンバー(仮)」(旧エコモー活動の実施者)は、自然再生協議会の承認により名称変更が確定する。

上サロベツ
自然再生
普及行動計画

【改訂案】

平成２４年●月

上サロベツ自然再生協議会

上サロベツ自然再生普及行動計画

目　　次

１．はじめに 1

２．経緯 2

３．自然再生普及行動計画の構成 3

４．自然再生普及行動計画の基本的考え方 4
（１）自然再生普及行動計画の位置づけと目的
（２）自然再生普及行動計画の役割

５．自然再生普及活動の進め方 6
（１）自然再生普及活動の進め方
（２）自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み

６．サロベツ文化づくりのための７つの行動 10
（１）サロベツを見つけよう
（２）サロベツの話をしよう
（３）サロベツを楽しもう
（４）サロベツのことをまとめよう
（５）サロベツのことを伝えよう
（６）サロベツをまもろう
（７）サロベツでつなげよう

１．はじめに

豊富町の農業と開拓の歴史は、サロベツ原野の広大な湿原と切っても切れない深い関係にあります。明治 36 年（1903 年）に兜沼地区に岐阜団体が入植してから 1 世紀以上が過ぎています。

その間には、サロベツ川流域、清明川流域等に入植した先人の方々が目の前に広がる広大な原野の中で、生活や人生を切り開いてきた「開拓への思い」、この地域を日本でも指折りの酪農地域として築き上げてきた方々の「安全・安心で、おいしい牛乳を生産しようとする思い」、サロベツ湿原の広大な景観や、湿原に春から秋にかけて数多く咲く花々、訪れる渡り鳥たちを大切に見守り、慈しんできた方々の「サロベツの自然への思い」があります。

私たちは、この思いを引き継ぎ、伝えていくことが大切な役割だと思います。

平成 17 年（2005 年）、「上サロベツ自然再生協議会」が立ち上がり、農業と湿原の共生について地域の多様な主体が参加し活動する場が開かれ、そして平成 18 年（2006 年）に策定された「上サロベツ自然再生全体構想」では、「湿原の自然再生」、「農業の振興」、「地域づくり」の3つの，目標が掲げられました。さらに、自然再生の推進に必要なこととして、地域全体での協力した取り組みや環境教育の視点、地域産業の再生・発展のための取り組み、そして、これらの取り組みを持続的なものにしサロベツならではの特徴ある地域づくりを進めることなどが示されました。

自然再生の目標達成に向け、サロベツでの農業と湿原の共生を伝え、多くの方が興味を抱き活動できる機会や交流できる場をつくりながら、一緒に地域活動に取り組むことで、サロベツで育まれた「思い」を引き継ぎ、さらに、私たち自身の「思い」として育んでいくために、自然再生普及行動計画を定めます。

2．経緯

平成17年1月に上サロベツ自然再生協議会が設立されました。協議会に設置された再生普及部会や行動計画策定ワーキンググループでの検討を経て、平成19年5月に「上サロベツ自然再生普及行動計画」が策定されました。

その後、この自然再生普及行動計画に基づいて、普及活動支援ワーキンググループが設置され、上サロベツの自然再生にかかわる活動を「サロベツ・エコモー・プロジェクト」と位置づけ、自然再生普及活動が行われてきました。

そして、この程「上サロベツ自然再生普及行動計画」が策定後5年目を迎えたことから、これまでの自然再生普及活動を振り返り、より効果的な活動を進めるため、平成 24 年●月に「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂を行いました。

平成 15 年 1 月 1 日　　自然再生推進法施行

平成 17 年 1 月 19 日　上サロベツ自然再生協議会設立、再生技術部会・再生普及部会の設置

平成 18 年 2 月 2 日　　上サロベツ自然再生全体構想の策定

平成 19 年 5 月 17 日　上サロベツ自然再生普及行動計画の策定

平成 19 年 8 月～現在　普及活動支援ワーキンググループの設置・開催

- 平成 19 年　第 1～7 回普及活動支援ワーキンググループ、支援活動
- 平成 20 年　第 8～18 回普及活動支援ワーキンググループ、支援活動
- 平成 21 年　第 19～29 回普及活動支援ワーキンググループ、支援活動
- 平成 22 年　第 30～38 回普及活動支援ワーキンググループ、支援活動
- 平成 23 年　第 39～45 回普及活動支援ワーキンググループ、支援活動

平成 20 年 4 月～現在　サロベツ・エコモー・プロジェクト始動（名称は平成 20 年 12 月に決定）

- 平成 20 年　活動の募集、 9 団体 9 活動の実施、活動報告会の開催
- 平成 21 年　活動の募集、11 団体 19 活動の実施、活動報告会の開催、研修会の開催
- 平成 22 年　活動の募集、16 団体 15 活動の実施、活動報告会の開催、研修会の開催
- 平成 23 年　活動の募集、19 団体 22 活動の実施、活動報告会の開催、研修会の開催

平成 23 年 12 月～平成 24 年 3 月　普及行動計画改訂ワーキンググループ設置・開催

- 第 1 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 23 年 12 月 8 日）
- 第 2 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 24 年 1 月 13 日）
- 第 3 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 24 年 1 月 26 日）
- 第 4 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 24 年 2 月 16 日）
- 第 5 回普及行動計画改訂ワーキンググループ（平成 24 年 3 月 6 日）

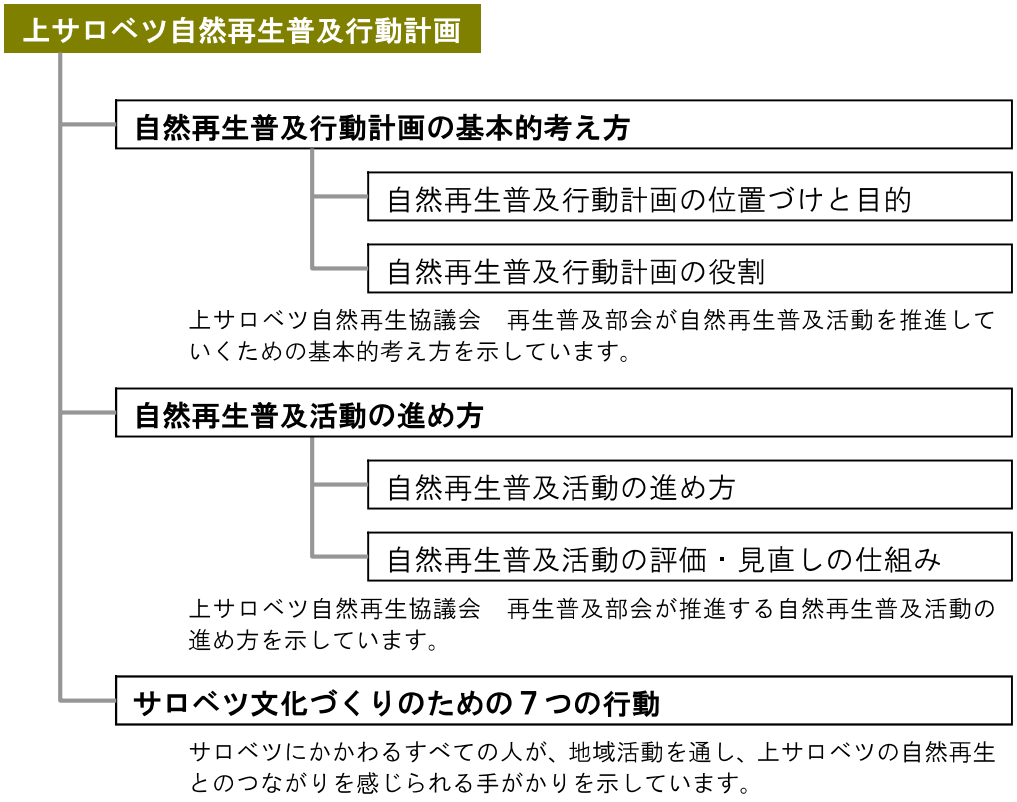
平成 24 年 3 月 14 日　　再生普及部会　上サロベツ自然再生普及行動計画（改訂案)の検討

平成 24 年 6 月●日　　自然再生協議会　上サロベツ自然再生普及行動計画の改訂

3．自然再生普及行動計画の構成

自然再生普及行動計画は、「自然再生普及行動計画の基本的考え方」「自然再生普及行動活動の進め方」、そして、「サロベツ文化づくりのための 7 つの行動」で構成されます。

自然再生普及行動計画の構成



4．自然再生普及行動計画の基本的考え方

（１）自然再生普及行動計画の位置づけと目的

平成 18 年２月に策定された「上サロベツ自然再生全体構想」には、「湿原の自然再生」、「農業の振興」、「地域づくり」の３つの目標が掲げられています。また、自然再生の推進に必要なこととして、地域全体での協力した取り組みや環境教育の視点、地域産業の再生・発展のための取り組み、そして、これらの取り組みを持続的なものにし上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めることなどが示されています。

自然再生普及行動計画は、「上サロベツ自然再生全体構想」に基づき、再生普及部会が、これらを推進することを目的としています。

上サロベツ自然再生全体構想（平成 18 年２月策定）

【目標】

湿原の自然再生	農業の振興	地域づくり

【自然再生の推進に必要なこと】※自然再生の普及に関する部分を抜粋

地域住民等多様な主体の参画による自然再生情報の発信とフィードバッ
地域としての取り組み
環境教育の視点
自然環境と調和した地域産業の持続的発展のあり方
地域の視点とグローバルな視点
自然再生への取り組みを持続的なものにする工夫

推進

上サロベツ自然再生普及行動計画

●自然再生を伝える
●人や団体のつながりをつくる
●地域への思いを育てる





（２）自然再生普及行動計画の役割

上サロベツ自然再生は、地域に暮らす人をはじめ、サロベツにかかわる人の地道な活動によって支えられています。自然再生普及行動計画は、これらの地道な活動に対して地域全体が協力して支え合い、サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めるために、次の３つの役割があります。

自然再生普及行動計画の３つの役割

1 自然再生を伝える

サロベツには次代に伝えていくべき、高層湿原などの貴重な自然があります。また、このサロベツの自然をこれからも大切にするために、湿原の保全など自然再生事業も進められています。それらのすばらしさや大切さを知ってもらうことが、湿原の保全や自然再生につながります。

自然再生普及行動計画は、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、そして活動する人達に、サロベツの自然再生について伝えることが役割です。

2 人や団体のつながりをつくる

地域づくりは、そこに暮らす人、その土地を愛する人によって育まれます。そのような人たちが一人でも多くなり、つながりを持つことで地域づくりがもっと進んでいきます。

3 人寄れば文殊の知恵。サロベツにかかわる人たちが「楽しい」を共感し、一緒に語り合い、取り組むためのつながりをつくることが大切です。

自然再生普及行動計画は、多くの人が活動できる機会や交流できる場をつくりながら、人と人、団体と団体をつなげることが役割です。

3 地域への思いを育てる

自然再生への取り組みを持続的なものにするためには、地域を愛し、地元に根付いた地道な活動が必要です。そのために、自然再生を伝え、また、人や団体のつながりをつくることで、サロベツへの思いの芽を紡ぎ、育てていくことが大切になります。

自然再生普及行動計画は、環境教育や、サロベツをフィールドとした地域活動などを通して、地域への愛着を深め、思いを育てることも役割です。

5．自然再生普及活動の進め方

（1）自然再生普及活動の進め方

1 「自然再生を伝える」「人や団体のつながりをつくる」「地域への思いを育てる」の 3 つの役割をもとに、再生普及部会やエコモー☆サポーター(仮)、活動実施者（エコモー☆メンバー(仮)）が自然再生普及活動等の多様な地域活動を進めます。

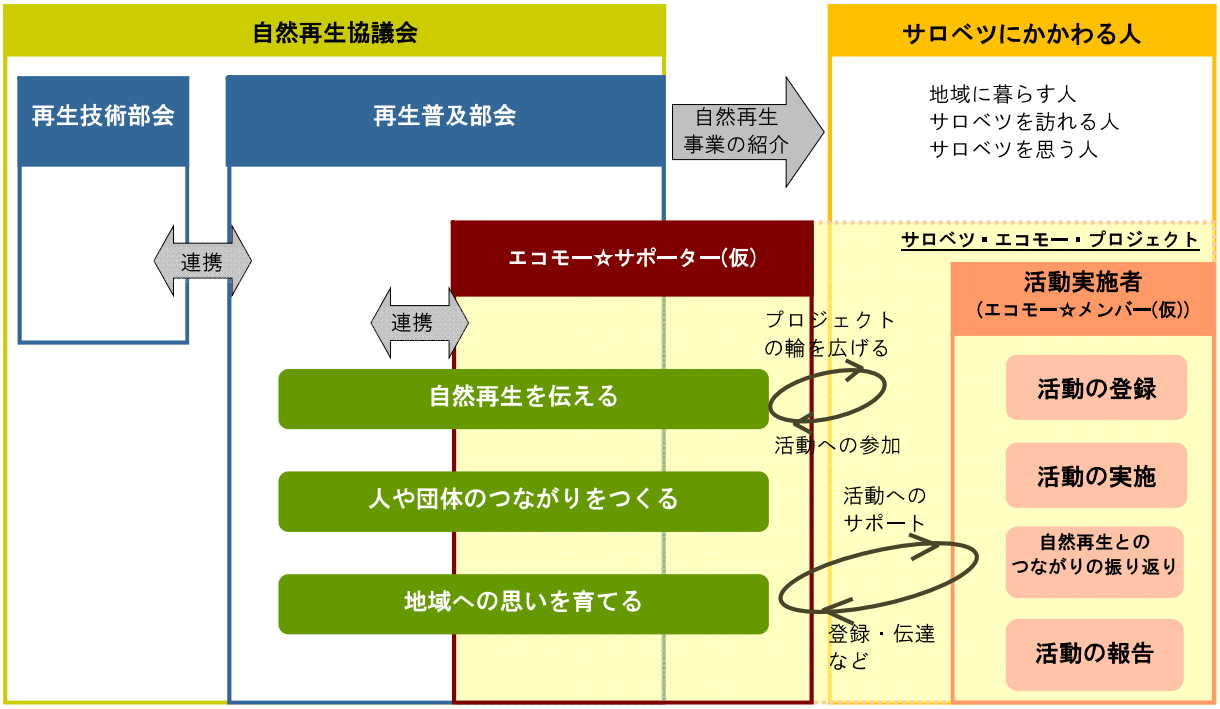
2 再生普及部会は、再生技術部会と情報共有や連携を図りながら、自然再生普及行動計画に基づき、地域に暮らす人をはじめサロベツにかかわる人へ自然再生事業の取り組みを伝えます。

3 上サロベツ自然再生と、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、サロベツを思う人などをつなげる地域活動を「サロベツ・エコモー・プロジェクト」と位置づけ、サロベツ・エコモー・プロジェクトを通して「自然再生を伝える」「人や団体のつながりをつくる」「地域への思いを育てる」活動を推進します。

4 サロベツ・エコモー・プロジェクトを推進するため、「エコモー☆サポーター(仮)」を設置します（※改訂に伴い、旧普及活動支援ワーキンググループの名称と役割を変更）。「エコモー☆サポーター(仮)」は、自然再生普及行動計画の 3 つの役割をもとに、活動実施者（エコモー☆メンバー(仮)）のサポートを行います。また、再生普及部会とも連携し、自然再生事業の取り組みを伝えます。

5 サロベツ・エコモー・プロジェクトでは、サロベツ・エコモー・プロジェクトの活動を行う実施者を「エコモー☆メンバー(仮)」と呼び、活動実施者同士が自主的に協力し合える関係づくりを推進します。

自然再生普及活動の進め方



サロベツ・エコモー・プロジェクト：
上サロベツ自然再生と、地域に暮らす人、サロベツを訪れる人、サロベツを思う人などをつなげるプロジェクトです。

（２）自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み

１年間の自然再生普及活動の結果と翌年の計画を次のように評価し、より効果的な活動の推進を図ります。

なお、自然再生普及行動計画は、その内容を柔軟に見直し、必要な場合は5年を目安に改訂を行います。

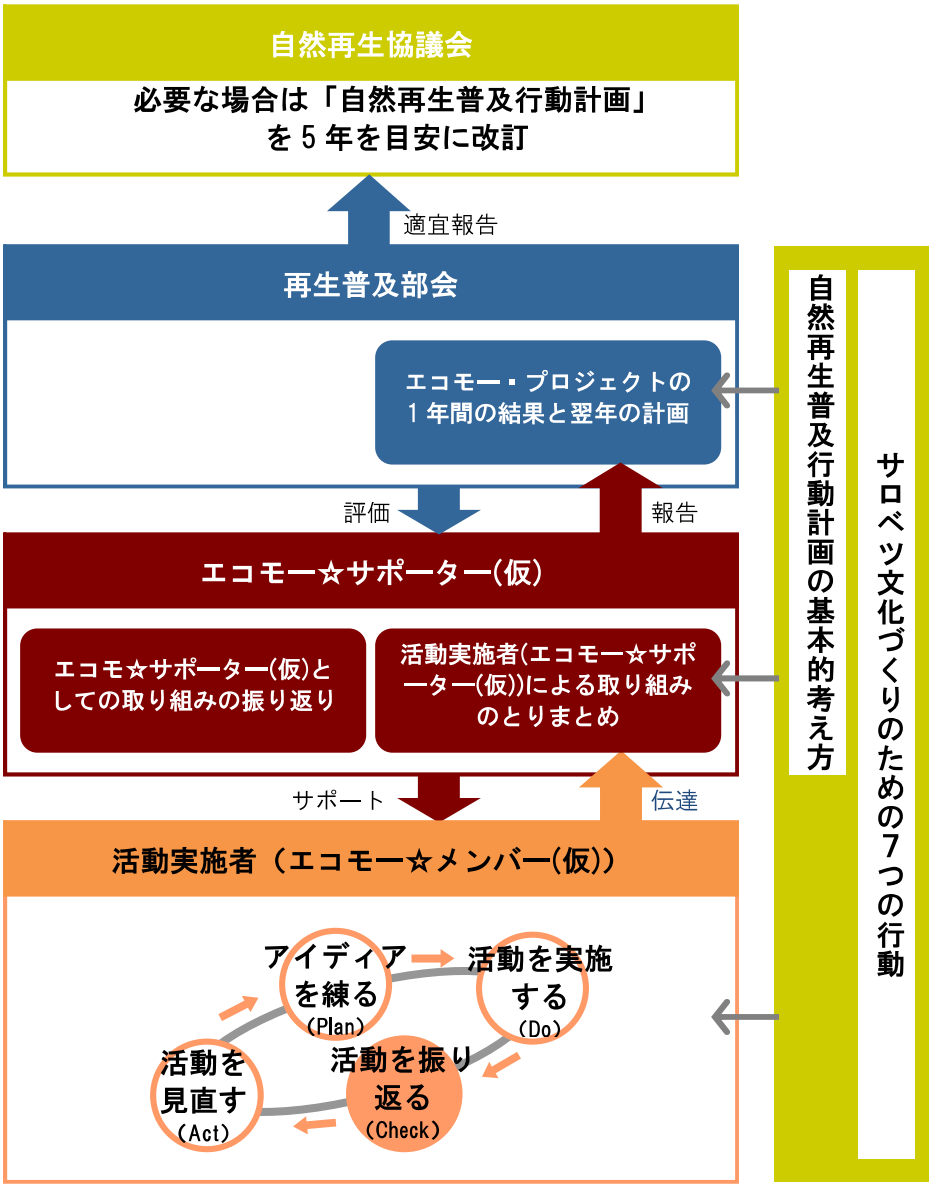
1 サロベツ・エコモー・プロジェクトでは、活動実施者(エコモー☆メンバー(仮))が、自ら楽しみながら活動を企画、実施することを推進します。サロベツ・エコモー・プロジェクトの活動を行う実施者(エコモー☆メンバー(仮))は、「サロベツ文化づくりのための７つの行動」をもとに、実施した活動と自然再生とのつながりを自ら振り返り、その結果をエコモー☆サポーター(仮)に伝えます。

2 エコモー☆サポーター(仮)は、活動実施者(エコモー☆メンバー(仮))から伝えられた~~の~~振り返りの結果をとりまとめるとともに、その結果を踏まえ、必要なサポートを行います。

また、エコモー☆サポーター(仮)としての取り組みを振り返り、サロベツ・エコモー・プロジェクトの１年間の結果と翌年の計画を、再生普及部会に報告します。

3 再生普及部会は、自ら部会の取り組みを振り返るとともに、エコモー☆サポーターからの報告を受け、自然再生普及活動の効果や課題等を検証し、より効果的な活動の推進を図ります。また、自然再生普及行動計画の内容を柔軟に見直します。

自然再生普及活動の評価・見直しの仕組み



６．サロベツ文化づくりのための７つの行動

サロベツにかかわるすべての人が、自然再生普及活動を進め、また、活動をふりかえる手がかりとして、「サロベツ文化づくりのための7つの行動」を示します。

（１）サロベツを見つけよう



（1）-1 地域の自然について調べよう・見つけよう

- ●サロベツ湿原の仕組みを調べよう
- ●サロベツに流れる川を調べよう
- ●サロベツに息づく生き物を調べよう
- ●サロベツの景色を調べよう（自然風景、農業風景、陸から、川から、空から）

（1）-2 地域の文化・歴史について調べよう

- ●地元の人の視点でサロベツを見つけよう
- ●外からの視点でサロベツを見つめよう
- ●サロベツのおいしいものを見つけよう
- ●サロベツの癒し・健康効果を見つけよう
- ●歴史を調べよう
- ●古い写真を集めよう

（２）サロベツの話をしよう



- ●町の古老と話そう
- ●町の子ども達と話そう
- ●サロベツを訪れる旅人と話そう

（３）サロベツを楽しもう



- ●自然観察会を開こう
- ●自転車で楽しもう
- ●カヌーで楽しもう
- ●フットパスルートを歩こう
- ●ホーストレッキングを楽しもう
- ●湿原植物を育てよう
- ●湿原植物を食べよう
- ●サロベツを楽しむルートで遊ぼう
- ●地場産のソフトクリームを食べよう、牛乳を飲もう
- ●サロベツの四季を楽しもう
- ●サロベツの香りを楽しもう
- ●サロベツをきれいにしよう

（4）サロベツのことをまとめよう

- サロベツ紹介パンフレットを作ろう
- サロベツの教材や副読本をつくろう
- サロベツガイド専用マニュアルを作ろう
- バスガイドさん用サロベツマニュアルを作ろう
- 解説板を作ろう
- かべ新聞を作ろう
- 兜沼公園や豊富温泉など近くの楽しいもの、面白いことをまとめよう

（5）サロベツのことを伝えよう

- 高層湿原を PR しよう
- ホームページを活用しよう
- 新聞、ラジオなどメディアを活用しよう
- 掲示板で発表しよう
- サロベツのことを自慢しよう

（6）サロベツをまもろう

- サロベツの自然、湿原を保全しよう
- 利用の条件を考えよう
- 活用の場の条件を考えよう
- サロベツカントリーコードを作ろう
- ルールを運用する仕組みを考えよう

（7）サロベツでつなげよう

- 親子で参加しよう
- 町のおじいちゃん、おばあちゃんと参加しよう
- 農業青年と活動しよう
- 町民同士で定期的な話し合いの機会を持とう
- サロベツで多くの人と会おう
- サロベツガイド（自然、文化、地域、活動）を育成しよう
- 環境教育指導者を育成しよう
- 講習会、講演会を開こう

9.2.2 「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動報告書等の作成・印刷

普及活動支援ワーキンググループにおいて取り組んでいる「サロベツ・エコモー・プロジェクト」について、平成 23 年度の活動報告書電子データおよび既往の報告書電子データの提供を受け、さらに活動実施者に対する追加ヒヤリングを行い、活動報告を編集し報告書を作成・印刷した。また、平成 24 年度の活動募集に向けたパンフレットを作成・印刷した。さらに、平成 17 年度策定した「上サロベツ自然再生全体構想」について、提供された補正情報に基づき、修正及び冊子の増刷を実施した。また、本業務報告書の印刷も行った。印刷内容と部数等は以下に示すとおりである。

表-9.17 印刷物等一覧

項　　目	規　格	部数		備　考
		電子媒体	紙媒体	
自然再生事業地の活用方法の検討及び「上サロベツ自然再生普及及び行動計画」の改訂作業の補助	A4 版 カラー両面印刷 187 ページ	3	20	業務報告書 無線綴じ
ホームページ用データ	CD-ROM	2	-	
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動報告集	B5 版 カラー両面印刷 30 ページ	3	1,000	無線綴じ
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動募集パンフレット	A4 版 カラー両面印刷 4 ページ	3	1,000	活動募集チラシを折り込む
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動応募用紙	A4 版 白黒片面印刷 1 ページ	（上記に含む）	1,000	
「上サロベツ自然再生全体構想」	A4 版 カラー両面印刷 29 ページ	3	500	中綴じ

なお、電子媒体の仕様としては以下の条件等を満足するものとした。

①成果物は、Microsoft 社 WindowsXP 上で表示可能なものとした。

②使用するアプリケーションは、次の通りとした。

・ワープロソフトについては、（Microsoft 社 Word2007 以下）とした。

・表計算については、表計算ソフト（Microsoft 社 Excel2007 以下）で作成した。

・画像については、JPEG 形式とした。

③格納媒体は、CD-R とする。なお、CD-R には、事業年度及び事業名称等を収納ケース及び CD-R 本体にラベルにより付記した。

④格納された電子情報が最新版のウイルスチェックを受けたものとした。

⑤成果物の納品については、環境省が指定するコンピューターにインストールし、調査職員等の立ち会いのもと、正常に動作することを確認した。

⑥成果物納入後に不備が発見された場合は、無償で速やかに必要な措置を講じた。

⑦本業務で得られた成果物の著作権は、ホームページに公開することも含め環境省に帰属する。

「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動報告集

サロベツ・エコモー・プロジェクト活動報告書を作成するに際しては、活動実施者に対して「7 つの行動」分類と「主催者の声」のヒヤリングを実施し、活動報告書に反映させた。ヒヤリング実施日と「7 つの行動」による分類を以下に示す。

作成した活動報告書原稿は、該当する活動実施者に郵送し、内容の確認を依頼し、承認を取り付けた後に印刷を行った。

表-9.18　サロベツ・エコモープロジェクト 2011 ヒヤリング結果

番号	取り組み名	実施者	ヒヤリング日
1	アイヌ文様の刺繍に挑戦！	オバパワー倶楽部	2012年2月6日
2	上サロベツ農業情報マップ	稚内開発建設部　農業開発課	2012年2月9日
3	上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展	稚内開発建設部　農業開発課	2012年2月9日
4	顔出しパネル作成	JA北宗谷青年部	2012年2月10日
5	サロベツ自然語講座	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	2012年2月9日
6	外来種からサロベツを守ろう！	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	2012年2月9日
7	稚咲内砂丘林再生プロジェクト	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	2012年2月9日
8	サロベツ人気UP作戦	オバパワー倶楽部	2012年2月6日
9	わが町再発見！遊覧ヘリ・係留気球で空の旅	サロベツ保全推進協議会（豊富町・幌延町・法昌寺とんこり堂・サロベツ学会・NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク）	2012年2月9日
10	押忍！我ら豊富町『カレー部』！	みさたろとゆかいな仲間たち＆サロベツクッキングクラブ	2012年2月6日
11	サロベツ縄文人の見た風景	ノプの会	2012年2月9日
12	サロベツの歌巡り	ノプの会	2012年2月9日
13	泥炭地での酪農の取り組みを探る	サロベツの今を見直す100の声の会	2012年2月9日
14	サロベツサブレンジャー	北海道大学植物同好会	2012年2月10日
15	サロベツ花札をつくろうin2011	まっちゃん	2012年2月10日
16	サロベツ原野であそぼ！	とんこり堂・法昌寺日曜学校　稲垣順子	2012年2月21日
17	見つけよう！湿原に咲く花・虫・鳥	幌延町立中央保育所　吉原京子	2012年2月9日
18	ポニーの幌馬車・馬橇	東條信雄・恵太	2012年2月20日
19	木道ナイトハイク	環境省稚内自然保護官事務所 ※利尻礼文サロベツPVの会、幌延町教育委員会との共催	2012年2月15日
20	秋の渡り鳥観察会	環境省稚内自然保護官事務所 ※北海道野鳥の会　道北支部、利尻礼文サロベツPVの会と共催	2012年2月15日
21	サロベツ学会　平成23年度総会および報告会、野鳥観察会	サロベツ学会	2012年2月21日
22	サロベツ学会主催市民参加型湿原保全活動（チームサロベツ）	サロベツ学会	2012年2月21日

表-9.19 活動の「7 つの行動」による分類

番号	取り組み名 （実施者）	サロベツを見つけよう	サロベツの話をしよう	サロベツを楽しもう	サロベツのことをまとめよう	サロベツを発信しよう	サロベツの利用ルールを作ろう	サロベツでつなげよう
1	アイヌ文様の刺繍に挑戦！ （オバパワー倶楽部）			○				
2	上サロベツ農業情報マップ （稚内開発建設部 農業開発課）	○			○	○		
3	上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展 （稚内開発建設部 農業開発課）	○			○	○		
4	顔出しパネル作成 （JA北宗谷青年部）			○				
5	サロベツ自然語講座 （NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク）	○	○	○	○	○		○
6	外来種からサロベツを守ろう！ （NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク）	○	○			○		○
7	稚咲内砂丘林再生プロジェクト （NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク）		○			○		○
8	サロベツ人気UP作戦 （オバパワー倶楽部）	○		○				
9	わが町再発見！遊覧ヘリ・係留気球で空の旅 （サロベツ保全推進協議会（豊富町・幌延町・法昌寺とんこり堂・サロベツ学会・NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク））	○	○	○		○		○
10	押忍！我ら豊富町『カレー部』！ （みさたろとゆかいな仲間たち ＆サロベツクッキングクラブ）			○				○
11	サロベツ縄文人の見た風景 （ノプの会）	○						
12	サロベツの歌巡り （ノプの会）		○					○
13	泥炭地での酪農の取り組みを探る （サロベツの今を見直す100の声の会）	○	○	○	○	○	○	○
14	サロベツサブレンジャー （北海道大学植物同好会）			○		○		○
15	サロベツ花札をつくろうin2011 （まっちゃん）			○				○
16	サロベツ原野であそぼ！ （とんこり堂・法昌寺日曜学校　稲垣順子）	○		○		○		
17	見つけよう！湿原に咲く花・虫・鳥 （幌延町立中央保育所　吉原京子）			○				
18	ポニーの帆馬車・馬橇 （東條信雄・恵太）							○
19	木道ナイトハイク （環境省稚内自然保護官事務所 ※利尻礼文サロベツPVの会、幌延町教育委員会との共催）	○	○	○				○
20	秋の渡り鳥観察会 環境省稚内自然保護官事務所 （※北海道野鳥の会　道北支部、利尻礼文サロベツPVの会と共催）	○	○	○		○		○
21	サロベツ学　平成23年度総会および報告会、野鳥観察会（サロベツ学会）			○				○
22	サロベツ学会主催市民参加型湿原保全活動（チームサロベツ）（サロベツ学会）		○		○			○
	合計	11	9	14	5	10	1	14

サロベツ・エコモー・プロジェクト活動報告集(2011)
B5 版カラー両面印刷 30 ページ、1000 部印刷(無線綴じ)



「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動募集パンフレット
A4 版カラー両面印刷 4 ページ、1000 部印刷（活動応募用紙を折込む）



「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動応募用紙
A4 版白黒片面印刷 1 ページ、1000 部印刷

サロベツ・エコモー・プロジェクト

エコモーに応募して、サロベツの環を広げよう！

サロベツ・エコモー・プロジェクト 活動応募用紙

※活動は事後の登録も可能です。

応募の流れ

step.1	step.2	step.3	step.4
応 募	活動内容の紹介	活動実施	活動結果の報告、交流
毎年 12 月末日まで随時受付けています。	受付後、活動内容をウェブサイトに掲載します。	応募年内に実施してください。サポートが必要な際はご相談下さい。	活動報告会で活動結果を報告し、プロジェクトのメンバーと交流できます。

応募していただくと

- サロベツ・エコモー・プロジェクトのロゴが使用できます。
- ホームページで活動をご紹介します。
- 活動研修会に参加できます。
- 活動報告会などを通してサロベツで活動する方々と交流ができます。



キャラクター
エコも～太くん
designed by みさたろ

サロベツ・エコモー・プロジェクト 応募用紙

※連絡先などの個人情報は、当プロジェクトに関わる連絡のみに使用します。

応募方法

以下の応募用紙による郵送、ＦＡＸのほか、ウェブサイトからも直接応募できます。

活動名（アイデア名）	例）サロベツカルタをつくろう	
内 容	例）サロベツに関する天候、動植物、地形、習慣、歴史などを調べてカルタをつくる	
開催時期・回数	例）月１回集まり、１月にカルタ大会を開催する	
応募者のお名前・団体名	団体の場合は担当者のお名前（ ）	実名以外の公表を希望する方はニックネームをご記入下さい
連絡先	住所：〒	TEL： FAX:
	E-mail:	

ウェブサイト➡http://sarobetsu-saisei.jp/ecomo/

詳細はウェブサイト上の「活動のてびき」をご覧ください。また、以下のところでも「活動のてびき」を配布しています。
サロベツ湿原センター、豊富町役場、環境省稚内自然保護官事務所

お問合せ・応募先

サロベツ・エコモー・プロジェクト受付窓口（サロベツ湿原センター内）
〒098-4100　北海道天塩郡豊富町上サロベツ８６６２番地
TEL:0162-82-3232　FAX:0162-82-1009　Mail:ecomo@sarobetsu.or.jp

サロベツの湿原と農業が共生する地域づくりを進めるプロジェクトです。

「上サロベツ自然再生全体構想」

上サロベツ
自然再生全体構想



平成18年２月

上サロベツ自然再生協議会

10.　資料編

10.1　アンケート送付先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
10.2　アンケート送付状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・175
10.3　アンケート用紙(自然再生普及部会員)　・・・・・・・　・・・・・・・・176
10.4　アンケート用紙(普及活動支援 WG メンバー)　・・・・・・・・・・・・・179
10.5　アンケート用紙(サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者)・・・182

10.1 アンケート送付先

上サロベツ自然再生普及行動計画(サロベツ・エコモー・プロジェクト活動を含む)に関するアンケートの送付は、「自然再生普及部会員」22 名、「普及活動支援 WG メンバー」22 名および「サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者」43 名の計 87 名の新旧メンバーを対象に配布した。

表-10.1 アンケート送付先一覧表

	氏名又は団体名(敬称略)	担当者名	エコモー	WG	部会
1	高橋 英紀		○	○	○
2	田中 美佐保		○	○	○
3	西島 今朝悟			○	○
4	村元 正己		○	○	○
5	谷垣 重遠		○	○	○
6	山形 雅弘		○	○	
7	NPO法人 EnVision 環境保全事務所	田中 克佳(WG) 浜 久美子(部会)	○	○	○
8	株式会社 日興ジオテック	常務取締役 山口 利幸		○	○
9	利尻礼文サロベツ国立公園 パークボランティアの会	「豊富部会」担当 佐藤 吉一	○	○	○
10	北海道森林管理局 宗谷森林管理署	流域管理調整官 安藤 健一		○	○
11	宗谷総合振興局 保健環境部	環境生活課 自然環境係	○	○	○
12	北海道開発局 稚内開発建設部	農業開発課 上席農業開発専門官 野地 正	○	○	○
13	北海道地方環境事務所 稚内自然保護官事務所	自然保護官 中島 信人	○	○	○
14	豊富町	商工観光課 主幹兼林業水産係長 吉村 雄治 農政課 農村整備係長 大須賀 清	○	○	○
15	NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	事務局長 嶋崎 暁啓	○	○	○
16	鈴木 秀紀			△	△
17	伊藤 輝之			△	○
18	進藤 哲			△	
19	稲垣 順子(法昌寺とんこり堂)		○	△	○
20	アグリサポート宗谷	斎藤 敬介 共成建設(株)総務部		△	○
21	豊富町商工会青年部	部長 若林 祐史		△	○
22	東條 信郎・恵太		○		
23	稲垣 綏順(サロベツ学会代表)		○	△	○
24	定田 英子	定田 英子	○		
25	村山 良子	村山 良子	○		
26	北大植物同好会	中川 考介	○		
27	稚咲内町内会	内藤 良孝	○		
28	JA北宗谷青年部	部長 田谷 清希	○		
29	サロベツ保全推進協議会	代表 高瀬 清	○		
30	橘 治国		○		○
31	サロベツ農事連絡会議	議長 山本 寿昭			○
32	宗谷建設青年会	会長 篠田 修明 担当 稚内建設会館			○
33	宗友会	石塚建設興業(株) 営業部 吉川 朝一			○
34	NPO法人 地域自然情報ネットワーク	事務局長 井本 郁子			○
35	日比谷総合設備株式会社 北海道事務所	部長 金子 伸紀			○
36	株式会社 ライヴ環境計画	取締役室長 井部 真理子			○
37	エコデミー21	代表 金作 州敏※			△
38	国土交通省 北海道開発局 留萌開発建設部	治水課 河川環境管理官			○
39	豊富町観光協会	会長 高倉 宏 担当:豊富町観光協会 事務所内			○
40	豊富町商工会	会長 細川 正明 担当:豊富町商工会事務所内			○
41	JA北宗谷(北宗谷農業協同組合)=旧豊富町農業協同組合	代表理事組合長 石川 岳志			○
42	岡田 操				○
43	染井 順一郎				△
44	田村 源治				△
45	辻井 達一				○
46	遠島 善吉				△
47	芦田 孝				○
48	井上 和夫				△
49	小山田 潔美				○
50	春日井 純				△
51	山田 雅仁				○
52	渡辺 大介				△
計			22	22	43
合計			87		

注:○印は現会員、△印は元会員、元会員のデータは在籍時の名簿より参照
※平成18年5月現在

10.2 アンケート送付状

上サロベツ自然再生普及行動計画（サロベツ・エコモー・プロジェクト活動を含む）に関するアンケート

ご協力のお願い

各　　位

上サロベツ自然再生事業の普及活動におきましては、日頃よりご協力をいただき誠にありがとうございます。

平成 19 年 5 月に策定された「上サロベツ自然再生普及行動計画」は 5 年を目処に改訂されることとなっており、この程、普及行動計画改訂のためのワーキンググループを組織し、改訂に向けた検討を開始したところでございます。

改訂に向けた検討を行うにあたり、これまでの活動に関する課題や改善点を把握するため、①上サロベツ自然再生協議会自然再生普及部会の皆様、②普及活動支援ワーキンググループの参加者の皆様、③サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者の皆様（いずれも過去に該当していた方を含む）を対象にアンケートを実施させて頂くことにいたしました。

そこで、年末のお忙しいところと存じますが、上サロベツ自然再生事業の普及活動がより効果的に行われるようアンケートにご協力をお願いします。

なお、アンケートは、自然再生普及部会会員用、普及活動支援ＷＧメンバー用、サロベツ・エコモー・プロジェクト実施者用の３種類に分かれています。貴殿が該当するアンケート用紙を同封させていただいておりますので、場合によっては複数のアンケートにご協力をお願いします。

◎ ご記入後、同封の返信用封筒にて、**12 月 28 日(水)**までにご返送ください。

平成 23 年 12 月 19 日

上サロベツ自然再生協議会
普及行動計画改訂ワーキンググループ

◆アンケートに関するお問い合わせ
※連絡先　環境省稚内自然保護官事務所　中島　信人、中野　雄介
〒097-8527　稚内市末広 5-6-1　稚内地方合同庁舎
TEL：0162-33-1100 FAX：33-1101　NOBUTO_NAKAJIMA@env.go.jp
YUSUKE_NAKANO@env.go.jp

10.3　アンケート用紙(自然再生普及部会員用)

上サロベツ自然再生普及行動計画(サロベツ・エコモー・プロジェクト活動を含む)に関するアンケート

平成 19 年 5 月に策定された「上サロベツ自然再生普及行動計画」は 5 年を目処に改訂されることとなっており、今年度、計画の改訂について検討するため、「上サロベツ自然再生普及行動計画」に関して課題や改善点について広く意見を聞くアンケートを実施いたします。上サロベツ自然再生事業の普及活動がより効果的に行われるようアンケートにご協力をお願いします。

問１：「上サロベツ自然再生普及行動計画」は、「湿原の保全」「農業の振興」「地域づくり」の目標を達成するために必要な環境教育と住民参加を促進させることを目的に作成されました。これまで実施してきた「サロベツ・エコモー・プロジェクト」や「普及活動支援ワーキンググループ」の活動は、上記の目的の達成に向けて効果があったと思いますか？

① 十分な効果があった
② 十分ではないが効果はあった
③ あまり効果がなかった
④ 効果がなかった

問２：問１で①②と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。(複数回答可)

① サロベツの自然と触れあう活動が活発に行われているから
② 活動を通じて個人や団体の交流が活発に行われているから
③ サロベツの魅力の発信が活発に行われているから
④ 普及活動を通して自然再生に貢献できているから
⑤ 個人や団体が行う活動への支援ができているから
⑥ その他
（　　）

問３：問１で③④と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。(複数回答可)

① サロベツの自然と触れあう活動が十分に行われていないから
② 活動を通じて個人や団体の交流が十分に行われていないから
③ サロベツの魅力の発信が十分に行われていないから
④ 普及活動を通じて自然再生に貢献していると実感できていないから
⑤ 個人や団体が行う活動への支援が十分でないから
⑥ その他
（　　）

問４：サロベツ・エコモー・プロジェクトについてお聞きします。サロベツ・エコモー・プロジェクトを活性化していくために必要なことはどのようなことだと思いますか？（複数回答可）

④ 広報・情報提供・人手・物品等の「支援」の充実を図る
⑤ 支援ＷＧを介さずに実施者同士が情報交換できる仕組みをつくる
⑥ 支援ＷＧの運営体制を見直す
⑦ 支援ＷＧは「支援」だけでなく自ら積極的に普及活動を行う
⑧ サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによるメリットを創出する
⑨ その他

（　　）

問５：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによるメリットとしてどのようなことが必要だと思いますか？（複数回答可）

① メディアの活用による活動の発信
② すぐれた活動の表彰
③ サロベツ湿原センター等公共施設の利用
④ サロベツ原生花園ビジターセンター跡地など自然再生事業地をフィールドとして活用できる　※自然再生事業地の活用は土地所有者の了解が得られる場所に限ります
⑤ 活動そのものや活動の中で作成した物の地域ブランド化
⑥ その他

（　　）

問６：普及活動支援ＷＧについてお聞きします。普及活動支援ＷＧは活動実施者への支援を十分にできていると思いますか？

④ できている
⑤ あまりできていない
⑥ できていない

問７：<u>問６で②③と回答された方</u>にお聞きします。どのような点で支援できていないと感じますか？（複数回答可）

① メディアを活用した活動の広報
② 的確なアドバイスと情報提供
③ 活動の手伝いなど人手の支援
④ 物品の貸し出しなどの支援
⑤ その他

（　　）

問８：その他、上サロベツ自然再生普及行動計画の改訂に当たってご意見があれば、
自由にご記入ください。

（　　）

ご協力ありがとうございました

10.4 アンケート用紙(普及活動支援ＷＧメンバー用)

上サロベツ自然再生普及行動計画(サロベツ・エコモー・プロジェクト活動を含む)に関するアンケート

平成 19 年 5 月に策定された「上サロベツ自然再生普及行動計画」は 5 年を目処に改訂されることとなっており、今年度、計画の改訂について検討するため、「上サロベツ自然再生普及行動計画」に関して課題や改善点について広く意見を聞くアンケートを実施いたします。上サロベツ自然再生事業の普及活動がより効果的に行われるようアンケートにご協力をお願いします。

問１：普及活動支援ＷＧに参加した理由を教えてください。(複数回答可)

① サロベツの自然に興味があったから
② 多くの人と交流したかったから
③ サロベツの魅力を伝えたかったから
④ 自然再生に興味があったから
⑤ その他
（　　）

問２：普及活動支援ＷＧに参加してよかったと思うところはどんなところですか？(複数回答可)

① サロベツの自然と触れ合うことができた
② 活動を通じていろいろな人と知り合うことができた
③ 自然再生に貢献していると実感できた
④ 特にない
⑤ その他
（　　）

問３：以前、普及活動支援ＷＧに参加していた方にお聞きします。普及活動支援ＷＧをお辞めになった理由を教えてください。

④ 多忙で時間が取れなかったから
⑤ 自然再生に貢献している実感が持てなかったから
⑥ 支援ＷＧ会議に出席することを負担に感じたから
⑦ 活動実施者への支援が十分にできないから
⑧ 支援ＷＧの活動が考えていたものと違ったから
⑨ その他
（　　）

問４：普及活動支援ＷＧの開催について、月１回の開催は妥当だと思いますか？
④ 妥当である
⑤ もっと増やした方がよい
⑥ もっと減らした方がよい

問５：問３で②と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。（複数回答可）
① 議題が多く時間が足りないから
② 活動の支援には迅速な対応が必要だから
③ 密に情報共有を図る必要があるから
④ その他
（ ）

問６：問３で③と回答された方にお聞きします。そのように思われた理由を教えてください。（複数回答可）
① 支援ＷＧを開催するための事前の準備に時間足りないから
② それほど多くの議題がないから
③ 多忙で時間が取れず負担になっているから
④ 必要以上に活動を行っているから
⑤ その他
（ ）

問７：普及活動支援ＷＧは活動実施者への支援を十分にできていると思いますか？
⑦ できている
⑧ あまりできていない
⑨ できていない

問８：問６で②③と回答された方にお聞きします。どのような点で支援できていないと感じますか？（複数回答可）
⑥ メディアを活用した活動の広報
⑦ 的確なアドバイスと情報提供
⑧ 活動の手伝いなど人手の支援
⑨ 物品の貸し出しなどの支援
⑩ その他
（ ）

問９：サロベツ・エコモー・プロジェクトを活性化していくために普及活動支援ＷＧとして必要なことはどのようなことだと思いますか？（複数回答可）

⑩ 広報・情報提供・人手・物品等の「支援」の充実を図る
⑪ 支援ＷＧを介さずに実施者同士が情報交換できる仕組みをつくる
⑫ 支援ＷＧの運営体制を見直す
⑬ 支援ＷＧは「支援」だけでなく自ら積極的に普及活動を行う
⑭ サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによるメリットを創出する
⑮ その他

（　　）

問 10：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによるメリットとしてどのようなことが必要だと思いますか？

⑦ メディアの活用による活動の発信
⑧ すぐれた活動の表彰
⑨ 湿原センター等公共施設の利用
⑩ サロベツ原生花園ビジターセンター跡地など自然再生事業地をフィールドとして活用できる　※自然再生事業地の活用は土地所有者の了解が得られる場所に限ります
⑪ 活動そのものや活動の中で作成した物の地域ブランド化
⑫ その他

（　　）

問 11：その他、上サロベツ自然再生普及行動計画の改訂に当たってご意見があれば、自由にご記入ください。

（　　）

ご協力ありがとうございました

10.5 アンケート用紙　（サロベツ・エコモー・プロジェクト実施者用）

上サロベツ自然再生普及行動計画（サロベツ・エコモー・プロジェクト活動を含む）に関するアンケート

平成 19 年 5 月に策定された「上サロベツ自然再生普及行動計画」は 5 年を目処に改訂されることとなっており、今年度、計画の改訂について検討するため、「上サロベツ自然再生普及行動計画」に関して課題や改善点について広く意見を聞くアンケートを実施いたします。上サロベツ自然再生事業の普及活動がより効果的に行われるようアンケートにご協力をお願いします。

問１：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録しようと思った理由を教えてください。
（複数回答可）

④ サロベツの自然に興味があったから
⑤ 多くの人と交流したかったから
⑥ サロベツの魅力を伝えたかったから
⑦ 自然再生に興味があったから
⑧ 日ごろ行っている活動への支援がほしかったから
⑨ その他
（　　）

問２：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録してよかったと思う点はどんなところですか？
（複数回答可）

④ サロベツの自然と触れ合うことができた
⑤ 活動を通じていろいろな人と知り合うことができた
⑥ 自然再生に貢献していると実感できた
⑦ 活動への支援を受けることができた
⑧ 特にない
⑨ その他
（　　）

問３：今年も含め、過去に活動を登録しなかったことがある方にお聞きします。活動登録をしなかった理由を教えてください。（複数回答可）

⑩ 多忙で活動する時間が取れなかったから
⑪ 活動への支援が十分でなかったから
⑫ 自然再生に貢献している実感が持てなかったから
⑬ 活動登録するのが面倒だったから
⑭ 活動に登録するメリットを感じなかったから
⑮ その他
（　　）

問４：活動を継続していくためにどのような支援があればよいと思いますか？（複数回答可）

④ メディアを活用した活動の広報
⑤ 的確なアドバイスと情報提供
⑥ 活動の手伝いなど人手の支援
⑦ 物品の貸し出しなどの支援
⑧ その他
（　　）

問５：サロベツ・エコモー・プロジェクトに登録することによってどのようなメリットがあればよいと思いますか？（複数回答可）

① メディアの活用による活動の発信
② すぐれた活動の表彰
③ 湿原センター等公共施設の利用
④ サロベツ原生花園ビジターセンター跡地など自然再生事業地をフィールドとして活用できる　※自然再生事業地の活用は土地所有者の了解が得られる場所に限ります
⑤ 活動そのものや活動の中で作成した物の地域ブランド化
⑥ その他
（　　）

問６：「上サロベツ自然再生普及行動計画」では再生普及活動を進めていく活動として「サロベツ文化づくりのための 7 つの行動」を整理しています。あなたがこれまで行った活動は以下のうちどの項目に当てはまると思いますか？（複数回答可）

① サロベツの自然・文化を見つけよう
② サロベツの話をしよう
③ サロベツの自然や文化を楽しもう
④ サロベツについて学び成果をまとめよう
⑤ サロベツを発信しよう
⑥ サロベツの利用ルールを作ろう
⑦ サロベツで人や団体をつなげよう
⑧ その他
（　　）

問７：サロベツ・エコモー・プロジェクトはサロベツの自然再生に貢献していると思いますか？

① 貢献している
② 少しは貢献している
③ あまり貢献していない
④ 貢献していない
⑤ どちらともいえない

問８：その他、上サロベツ自然再生普及行動計画の改訂に当たってご意見があれば、
自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました

リサイクル適正の表示:紙へリサイクル可
本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「A ランク」のみを用いて作成しています。